再生するか!? 崖っぷちのミルコに独占直撃!!

kam ro

紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING M

enterbrain MOOK

2008
127
特別定価 940yen

以下の皆さま方を通して
「ヒールとは何か?」を考えます

亀田興毅

秋山成勲/石井 慧
長州 力/江夏 豊
ミスター高橋
デーモン小暮
天山広吉
やくみつる/梨元 勝
外山恒一/谷津嘉章
ダンプ松本
ターザン山本!と夢香姫



リニューアル第2弾のテーマはこれだ!

悪役(ヒール)はツライで!!


rvddw / JIU-JITSU / KIMONOS / JAPAN / rvddw
RVNY
www.rvddw.com
reversal.dogi. design. works
rvddw
reversal
reversal.dogi.design.works
JIU-JITSU / KIMONOS / JAPAN
RVDDW FINEST
REVERSAL KIMONOS
FLASH VALE RVS
rvddw
reversal96
rvddw
reversal
reversal.dogi.design.works
FLASH SUPERSONIC
DOPE
TECHNIQUES
rvddw
FLASH VALE RVS
Sound of Wrestring?
Future Equipment Series
rvddw
reversal
reversal.dogi.design.works
rvddw
reversal
reversal.dogi.design.works
rvddw
SWEAT!
STRIKE, POUND, SUBMISSION, and rvddw

2008 No.127 CONTENTS

kamipro

表紙写真/吉場正和

今月号の特集は「悪役」です!!

国民的ボクサーからファシストまでを通してこのテーマに取り組む所存でございます。エー、オラ!!

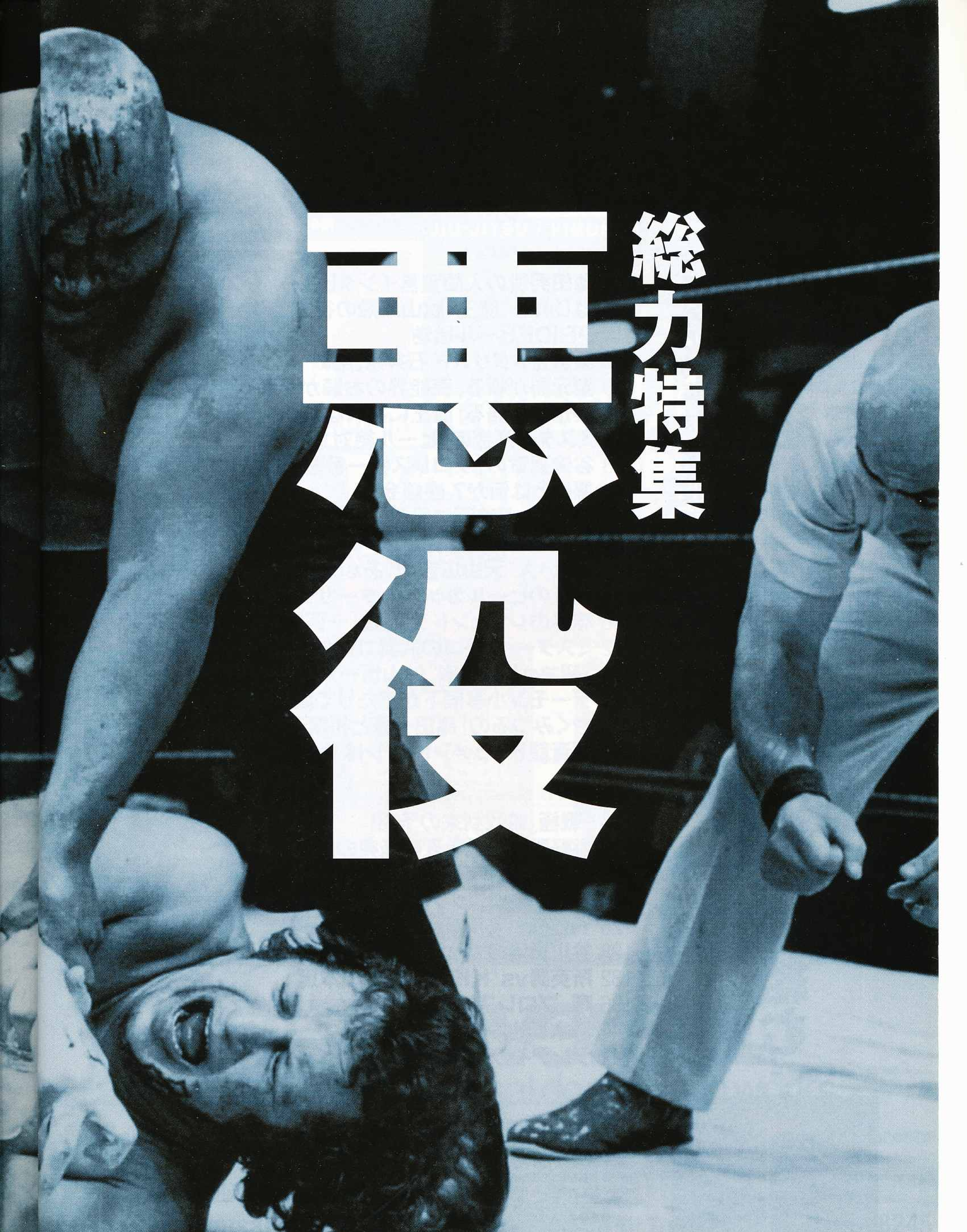
泣く子も黙るコワモテが勢揃い!

What is HEEL!?


kamipro Special



Columns



総力特集 悪役



本誌編集長のジャン斉藤です。

『Kamipro』特集主義第2弾のテーマは「悪役」です。プロレス界の隠語で悪役は「ヒール」と呼ばれ、この呼称は一般世間にも定着しつつあります。プロレス界はベビーフェイス（善玉）がいてヒールがいるという勧善懲悪の図式で長いあいだ成り立ってきました。ところが悪役そのものが持っていた存在意義は昔と比べて変化しつつあります。


いまや悪なのか悪役なのか、悪なのか正義なのかの判別がしづらくなっている。そのような悪役まだら現象は、いまに始まったことではないのでしょうが、従来の悪役の定義は確実に揺らいできています。

また、揺らいでいるのはベビーフェイスのあり方も同様で、彼らはヒールがいないことには拳を振り上げられないが、逆にヒールはベビーフェイスがいなくても笑うことができる。そもそもベビーフェイスはもう必要ないのかもしれません。

それはワイドショーや大衆が正義の代弁者としてヒールに謝罪を求める風潮があり、また、インターネットの発達によって誰しもがヒールをエイヤッと成敗できるから。

いつでも正義の鉄槌を下せるからこそ、存在自体があやふやだからこそ、悪役というものをしっかりと考えたい。亀田興毅のインタビューから始まる特集は、95ページにもわたってお送りいたします。

――なお、今回の悪役特集は、本誌読者アンケートで悪役ナンバーワンに輝いた〝魔王〟こと秋山成勲の9・24『DREAM・6』出場に合わせて企画されたところもあります。ところが、本誌締め切り9月10日の時点で、彼の対戦相手はおろか、大会出場すらも〝正式〟にはアナウンスされておりません。この本が店頭に並ぶ頃、彼はどのような悪役ぶりを、我々に見せつけてくれるのでしょうか――？



プロボクサー／元WBA世界ライトフライ級チャンピオン

亀田興毅

国民的悪役 人間宣言

時代に憎まれた21歳が赤裸々告白!

ヒール特集のトップバッターは、あの亀田興毅だ! 試合をすれば高視聴率で、その豊富な話題性から一時は“亀田ブーム”を巻き起こしたが、そのうちムードは逆転し、バッシングの集中砲火を浴びることに。いまや国民的悪役に位置していると言っても過言ではないのだが……。そうしてヒールと呼ばれることに対して、亀田興毅が偽らざる胸中を明かしてくれた。

聞き手/ジャン斉藤　撮影/吉場正和



日本中から悪役のレッテルを貼られるのって、どんな気分だろうか。

始まりは三兄弟がそろって世界を目指す親子鷹の物語だった。そのうちローブロー疑惑や世界戦の判定騒動から始まった、亀田興毅へのバッシングは、内藤大助戦における弟の暴走によって日本全国を巻き込むものへと発展した。そして最近では所属していた協栄ジム離脱に伴なう新ジム設立の経緯が話題を集めている。

今回の取材をするにあたって、亀田興毅の関連資料を漁ってみた。そうすると、それは一方的な賞賛を彼に浴びせる記事か、もしくは人間性までも斬り捨てる批判記事のどちらかであった。後者は近年とくに増えているが、それらを読みこむうちにそのあいだの姿を知りたくなった。"魔王"秋山成勲は会場のブーイングに不敵な笑みを浮かべた。では、それ以上の罵声を日本中から浴びた21歳の青年の場合は……。

下町の葛飾に位置するジム。取材の支度を終えて待つこと3分弱……、劇場型天才ボクサー、亀田興毅が姿を現わした。

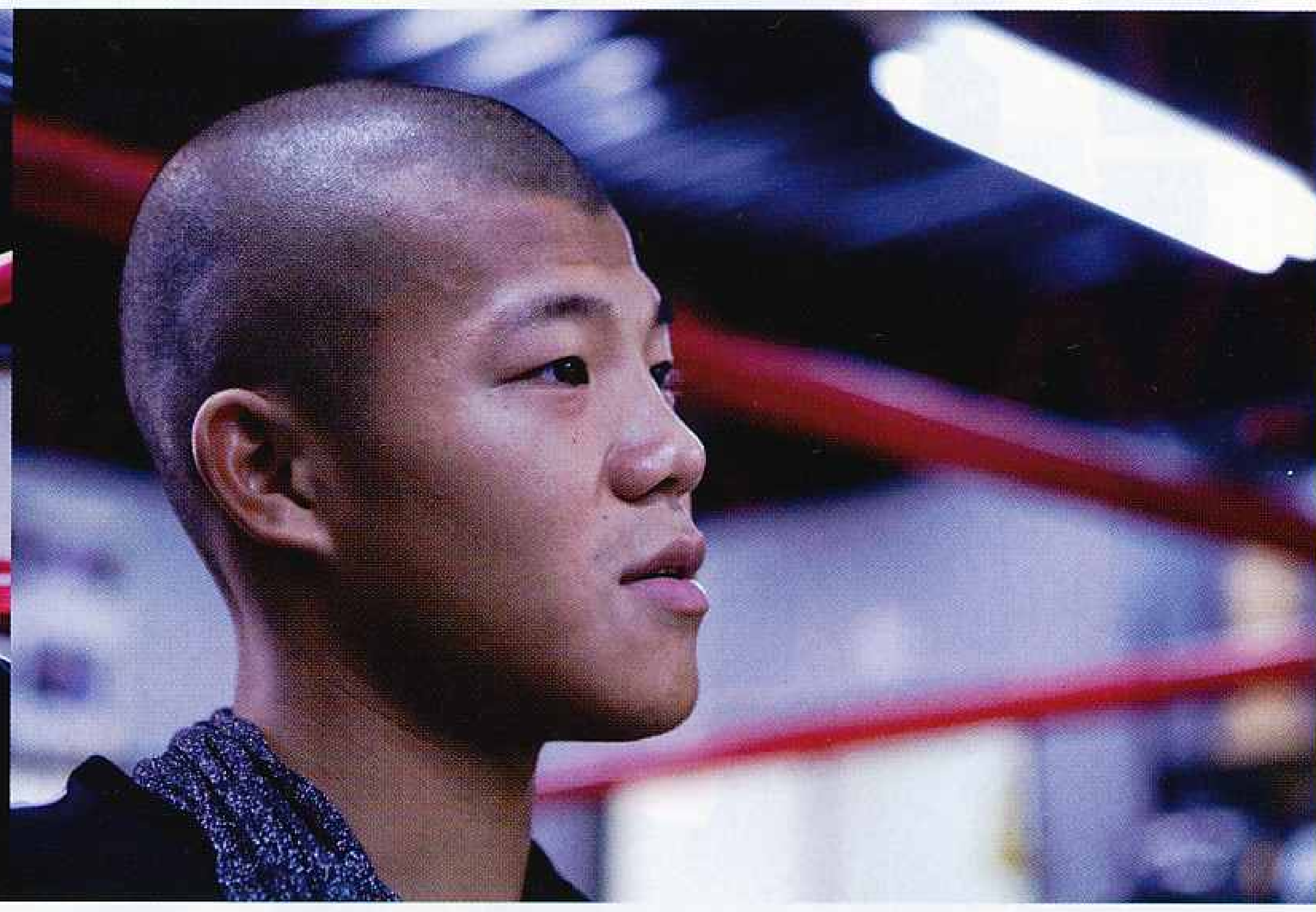
――亀田さん、初めまして。ボクらは『Kamipro』というプロレス・格闘技雑誌の者でして、普段はまあその、ボクシングをほとんど取り扱ってないんです。

亀田 まあ、そやろな。

――ええ（笑）。で、なぜ"ほとんど"という言い方をしたかといえば、本誌が注目しているテーマの一つに"世間と闘う"というのがありまして、それこそ亀田さんなんかは否が応でも世間と向き合っているというイメージがある。こうしてインタビュー取材する機会は初めてなんですが、亀田さんを題材にして誌面を割いたりすることが多いんですね。

ーツって思われてるけど、そういうイメ





オレはべつにいいもんになるつもりもないし、悪もんになるつもりもない

亀田 ただな、オレは世間と向き合ってるんじゃなくて、向き合わされてんねや（ニヤリ）。

――あ、無理強いされてますか。

亀田 うん。もう、よけいなことに神経を使うのがしんどいわ。

――でも、亀田さんが動くと、いつも何かしら波紋が起こるし、世間が騒ぐという印象がありますね。

亀田 うん。いつも何か起こるなあ。コッチも起こそうと思って、起こしてるんとちゃうけどな。

――まあ、無理に起こそうと思っても、ちっとも起きない人もいますし（笑）。亀田さんは、K―1のサダハルンバ谷川さんはご存知ですか？

亀田 ああ、テレビで観たことあるよ。

――先日に行なわれた内藤大助選手の世界戦終了後、リング上に亀田さんが"乱入"しましたけど、あの絶好のタイミングで登場した亀田さんの"嗅覚"は凄いなっていう話をしてるんですよ。

亀田 そんなことないよ。海外のボクシングなんかでは、あたりまえに行なわれてることやけどな。

――ボクシングをビジネスとして、イベントを煽るために。

亀田 うん。まあ、選手が純粋にやったりもするし。でも、日本の場合は、ちょっと考え方が違うんかもわからんしな。

――実際に賛否両論ですよね。

亀田 まあ、そこはいろんな意見があるから。何を言われようがべつに気にせえへんからな。気にしてても仕方がないやんか。常にプラスに考えて、前向きにな。

――とはいっても、世間は亀田さん自体を圧倒的なヒールとしてとらえてるところはありますよね。

亀田 日本というのは、そういうのを決めたがるな。いいもんと、悪もん。オレはべつにいいもんになるつもりもないし、悪もんになるつもりもない。とくに何も意識してない。とりあえず、結果を残すだけ。オレのいまの目標を実行するだけやから。

――なるほど。目標というと、亀田さんは小さい頃からボクシングにどういった目標や夢を持たれていたんですか？ お父さん（亀田史郎）からの影響以外での原風景を知りたいんですけど。

亀田 マイク・タイソンとかオスカー・デラホーヤ。ああいうふうに活躍してて、大金を稼いでる選手のイメージ。やっぱりスポーツ選手って、そういうもんやんか。凄い車に乗ってとか、小さい子どもはそういうのに憧れるわけやんか。だから、テレビに出るときでも何をするときにも、見られる立場やから常にカッコつけて出んと。だからちょっと無理してでもな、カッコつけんとアカン（笑）。

――武士は食わねど……ってヤツですね。

亀田 それは「亀田みたいになったら、ああいう時計をつけれるのか。ああいう車に乗れるのか。ああいう服を着れるのか」というのを見せていきたいしな。そういう夢を持たしてやりたいやんか。一般的にはボクシングって金を稼がれへんスポ

ーッって思われてるけど、そういうイメージや現実も変えていかんと。

──要するに、リング外でもプロであり続けなければならないという意識が根っこにあるわけですね。

亀田 うん。そうそうそう。常にな、そういう意識を持ってるよ。

──先ほど亀田さんは「いいもんでも悪もんでもない」と言われましたけど、世間からヒールのレッテルを貼られるということに関しては率直にどう思われてるんですか？

亀田 それは周りが言うことやから。とりあえず、オレは今回いろんなことがあった中でやっぱり応援してくれる人がおるわけやから、そういう人たちに勝っていくことで恩返ししたいという気持ちやな。へんなイメージばっかりで、悪いイメージで映されるのも、やっぱりうっとうしいからな。そういう応援してくれてる人がかわいそうになってくるやんか。「あんなヤツを応援してんのか！」って見られるの、イヤやし。だから結局は結果がすべてやからな。勝ち続けること。負けたらアカン。

──先日、北京五輪の柔道で金メダルを獲られた石井慧選手がですね、尊敬するのは朝青龍と亀田さんだと言われてたんですよ。テーマとしては〝ヒール柔道〟を掲げてて。

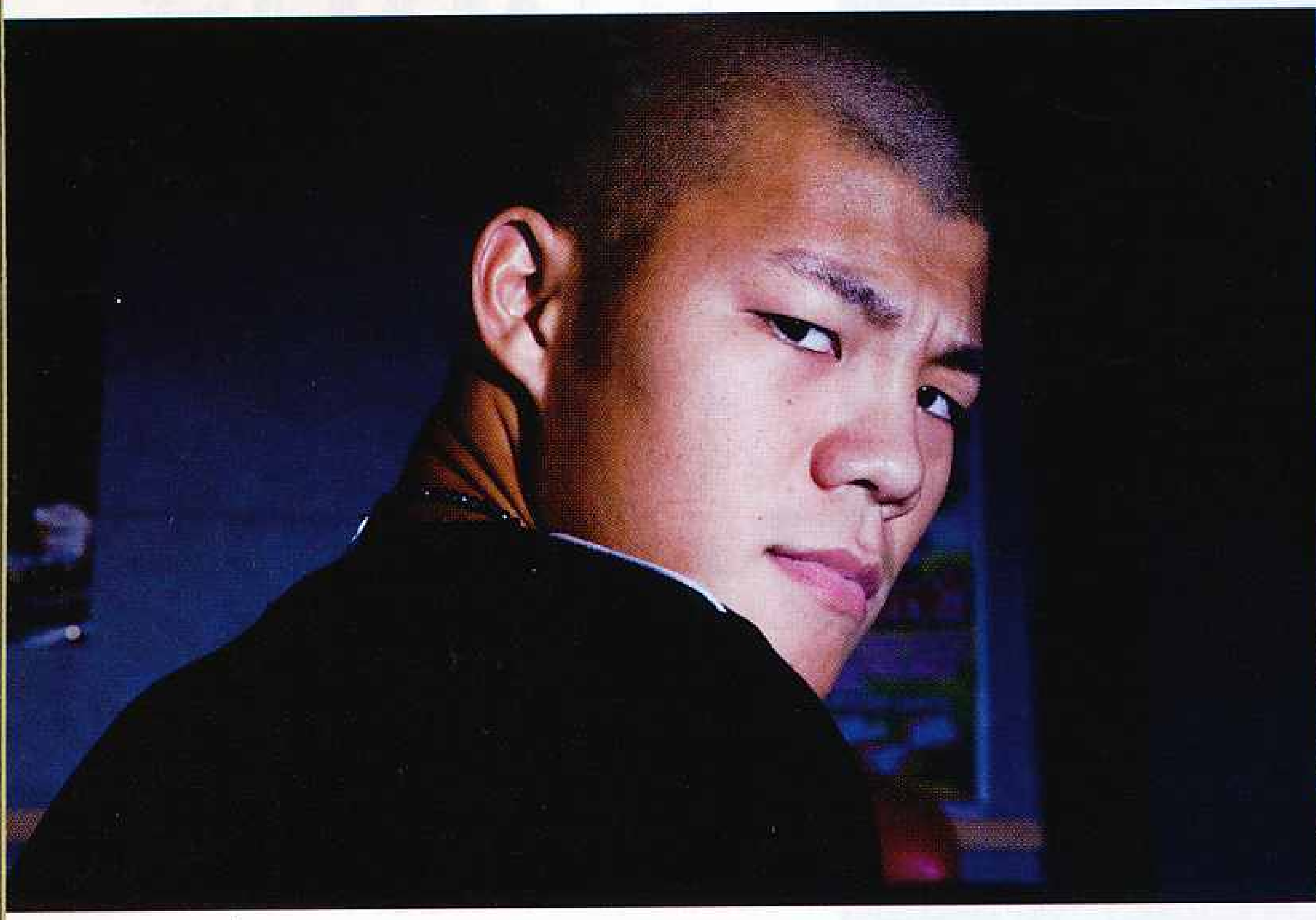
亀田 ……（ヒールは）しんどいで。

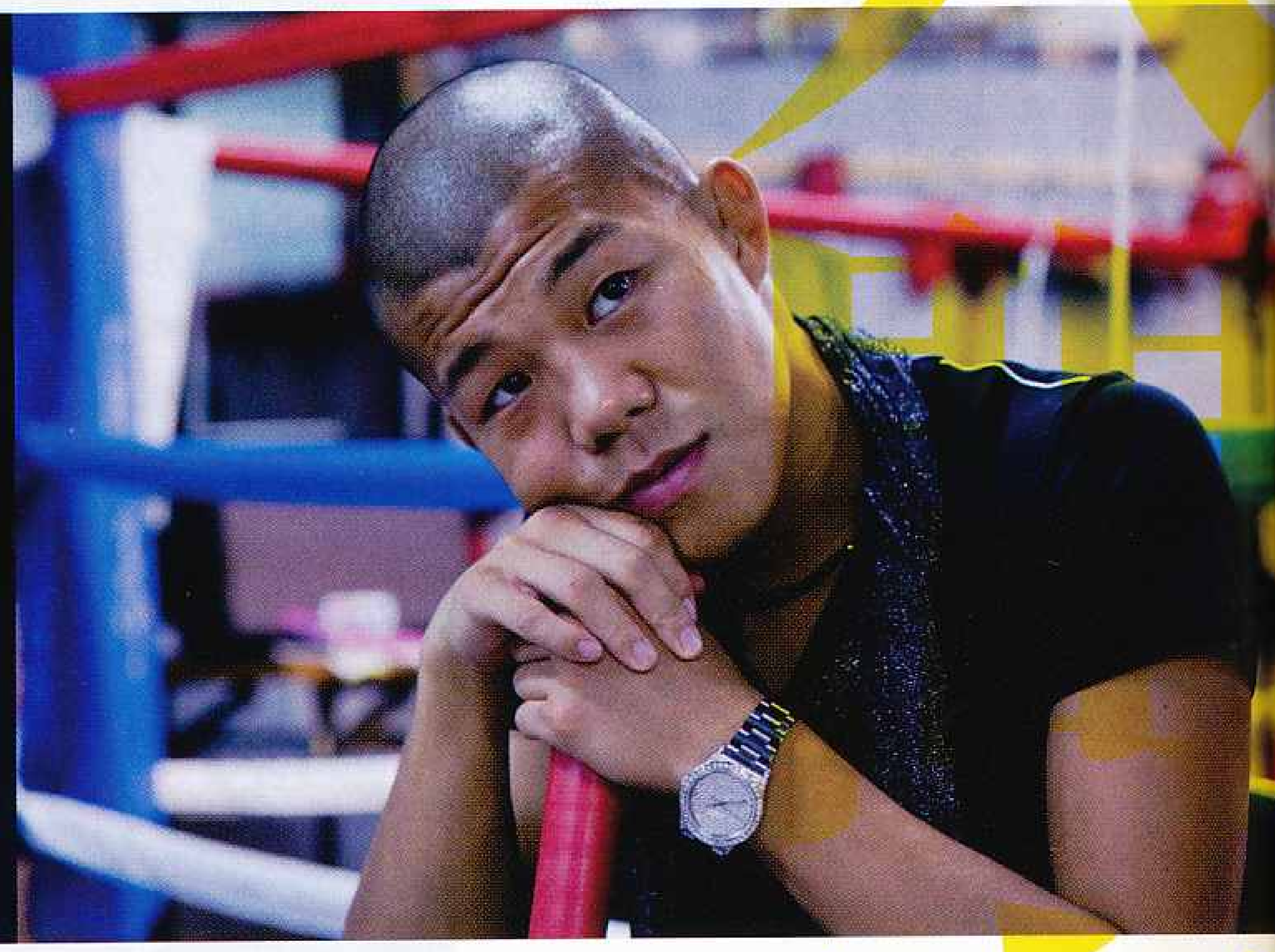
──いやあ、実感がこもってますねぇ。

亀田 そんなん言うてると叩かれるぞ！よけいなこと言わんほうがええで（笑）。

──ダハハハハ。

亀田 朝青龍という名前は出してもええけど、亀田という名前が出さんほうがええと思う。うん。かわいそうや。せっかく金メダルを獲ったのにな。





──けど、石井選手は柔道界の伝統との……。

亀田 （さえぎって）知ってる、知ってる。いつもテレビで観てるからな。周りがなんと言おうが、勝ちにこだわるというのは、ええことやと思うで。だって結果がすべてやもん。結局は金メダルを獲ったという記録が残ったやんか。そうなったら、誰が何を言おうが関係ないよ。実際にな、決勝まで一本で勝ってるし。やっぱり勝つことっていうのは難しいよ。普通に何もせんと勝つっていうのはできへんから。毎日、練習してるから試合で勝てるわけであって。

──でも、亀田さんの話でいうと、いまのボクシング界では、ただ勝つだけではいろんなもの……、ストレートに言うと、莫大なお金や名声なんかは得られないわけですよね？

亀田 そうやなあ。なんにしろ、やっぱり試合を観てもらわなアカンから。アマチュアのスポーツやったら、そんなん気にせんでええけど、こっちはプロやから。プロボクシングでやってるわけやから、もちろん最低限の常識だけは守っといて、プロとして盛り上げるとこは盛り上げていかんとな。

──ここ2〜3年、亀田さんはいろんな騒動の渦中に身を置かれたわけですが、亀田さんを支えるモチベーションは外に向けられていた印象を受けたんですよ。

亀田 そら、いままでと違ったファン層は取り入れていこうという気持ちはあったよ。何もやらんと、いままでと一緒やから。いままでより上にボクシングは行かれへんわけやから。このままだと。ボクシングは腐ってしまうよ。

──そのアプローチに成功したときもあったですし、挫折したり、失敗したり、反省したこともあったわけですよね。

亀田 うん。いろいろなことがあったな。でもな、やっぱり、いままでと何か違うことをしていかんと、人生はたった一回やから。ボクシングができる寿命は短いしな、これからはなんぼでも何か違うことをしていかんと。あとで後悔せんように、引退したときに「あのときこうやったらよかったな……」って後悔せんように、いまできることをやっていきたいから。

──自分が信じた道を突き進む、と。いまの日本の社会って、〝出る杭は打たれる〟的なムードが強いじゃないですか。

亀田 うん。出る杭は打たれるけど、それ以上に飛び出してしもたらええだけの話やから。

──攻めますねぇ。

亀田 ちょっとしか飛び出してないから打たれるわけや。突き抜けたったらええやんか。べつに結果を残していったら認めなしゃあないんやから。最終的にはな、「やっぱりあいつは凄かったんや」って認めなしゃあないんやから。

──そこは闘いだという意識はあるんですか？ 首根っこをつかんでも納得させたいというか。

亀田 確かにパフォーマンスを嫌がる人

いろんなことがあった。人生はたった一回やから、あとで後悔したくない

国民的悪役

もおるし、いろいろな意見があるよ、それは。全員、納得させるのは不可能や。だからってな、普通に「はい、はい！」言うておとなしくして目立てないようにしてるのも、それはそれでまた違うやろ、と。

――亀田さんはそこで妥協や後悔したくないわけですか？

亀田　うん。したくないな。オレにはボクシングしかないしな。うん。ただ、いまのボクシングでみんなが金を稼げんのかっていったら、どうかな？　って。やっぱ、ボクサーみんながお金を稼げるようにしたいやんか。だから努力していかな。

――亀田さんは17歳でプロデビューしてから、ずっとそういう〝ボクシング頭〟なんですか？

亀田　そやな。

――失礼な言い方かもしれませんが、もの凄く疲れないですか？　まだ21歳なのに。

亀田　疲れることは疲れるよ（笑）。しんどいよ。うん。しんどい、しんどい、ホンマに。

――何がそんなにしんどいですか？

亀田　そこは日本人の考え方と合わないいうんかな。

――日本人とは合わない!!（笑）。

亀田　やっぱりここは日本やからな、日本のスタイルに合わしていかなアカンし。そこはうまくミックスしてな、ええように盛り上げてくれたらな。そこはまたいろいろと考えていかなアカンな。

――そういえば、関連書籍でも「昔から周囲と合わないし、嫌われやすかった」という話が出てきますね。

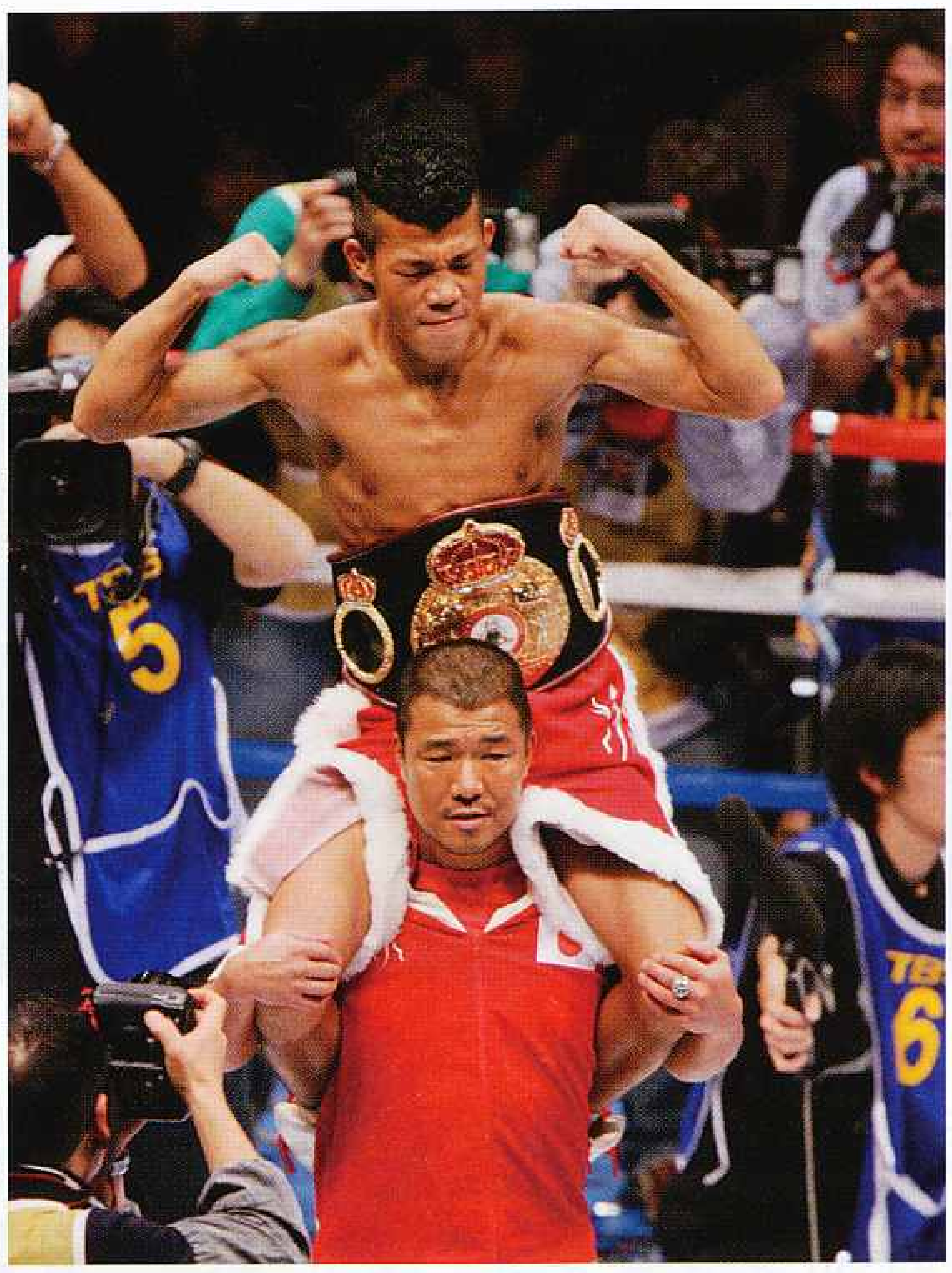
亀田　嫌われてたんかなあ。嫌われてたような気もするなあ。べつに普通のつもりやねんけどな。オレは優等生のつもりやねんで。マジメやで。ボクシングしか知らんからな。

――ほかの世界は知らない。それなのか、亀田さんは「K―1には負けたくない」と、他ジャンルを意識する発言をたびたびされていますよね。

亀田　うん。一般の人はボクシングとK―1の区別も知らん子もおるから。だから、そういうほかの格闘技にも負けんようにしていって。アメリカなんて一試合で20億、30億を稼ぐ世界やからな、もっともっと盛り上げていかなアカンからな。もっともっと一般人も取り入れていって、ボクシングのファンを増やしていかなアカン。いまからすぐにボクシングの人気を上げるのは不可能やから。

――外野から見てると深刻な状況には見えませんが……。

亀田　それは違うで。やっぱり何十年計画というふうにやっていかんと。いまのボクシング全体のことを考えたら、いますぐには無理。



1ラウンドでダウンをするが、ファン・ランダエタを倒してWBA世界ライトフライ級チャンピオンに。ところが判定騒動が勃発。これが大きなきっかけになって、亀田ブームは亀田バッシングに変質していく。

――でも、亀田さんもそうですし、いまのところ内藤選手の試合の視聴率はけっこう高いですよね。やっぱりそれは一過性のものであると？

亀田　そうやな。そうやと思うよ。あと2～3試合したら、視聴率は元には戻ってしまうと思う。いまだけのことやと思うから。だから、動かないといかんな。

――やっぱり視聴率は気になります？

亀田　視聴率はオレが気にすることでもないもんな。あれはテレビ局が気にするだけであって、本来、オレらはそこまで頭が回れへんよ。うん。試合だけ、試合に勝つことだけしか、もう集中できへん。それが終わって、あとで視聴率がついてきたらええけど、そこまでやっぱり気持ちがいけへんな。難しいよ。

――いままでメディアに対してリップサービスなり、派手なパフォーマンスをしてきたわけじゃないですか。お話を聞くと、本来ならば試合に集中したかったところはあるんですか？

亀田　本音は集中したいよ。集中したいよ、そら。でも、こういう時間、マスコミとかおる前ではそれなりにサービスするけど、やっぱり試合に集中せんと足元すくわれる。

――でも、試合に集中してるだけでは、ボクシングは世の中に広がっていかないと思ってるんですよね？

亀田　そやな。だってな、オレがデビューする前ぐらいは、ボクシング人気はなかったから。んで、K―1やらは人気あったやんか。常にゴールデンタイムで放送される。でもボクシングの試合は世界戦でも深夜の放送。それはまだいいよ。放送がないときもある。で、何かできへんのか？　と。

――そんなことをデビュー前から考えていたんですか？

亀田　うん。そら、オレが世界チャンピオンになって金を稼ぎたいわけやから。

――そっか、自分の将来のことですもんね。

亀田　それが仕事やから。ボクシング以外、何もしてないわけやから、オレ。

――ということはですよ、亀田興毅という人間をどうプロデュースしていくのかということをある程度、計算しながらここまでやってきたところがあるわけですね。マスコミに対してはこう振る舞わなければならないとか、どんなアピールしなきゃいけないとか。

亀田　いろいろと、おもしろくな。新聞に一回、取り上げられるにしても普通に、「次の試合、頑張ります！」って言ったって、自分の記事はこんだけや（親指と人差し指を小さく拡げて）。

――プロレスや格闘技の世界でもそこは同じですね。

亀田　新聞というのは見出しが重要やから、ちょっと大きいこと言うたらドンと大きく扱われるし。だから亀田って名前をみんなに知ってもらわんとアカンから。そういう気持ちでな、いままでいろんなことをやってきたよ。デビューしたときからな、人前でしゃべるのは得意じゃないけどな。

――あ、そうなんですか？

人間宣言

いい人はいい人で難しいと思うで。オレは〝普通の人〟が一番いいな

りやねんけどな。オレは優等生のつもり

亀田　うん。オレは人前でしゃべるのは嫌いやから。でも、それでもいろいろやって、次第にようなってきて、いままできたわけやけど。

――じつは、普段の亀田さんはそれほど強気でビッグマウスなキャラクターではないという話もありますね。

亀田　うん、べつに強気なキャラクターちゃうよ。なるべくなら自然体が一番好きやからな。そら、試合のときは相手がおるわけやからな、挑発もするし、メンチもきるし。ただ普段はなあ、そんなんするのしんどいで（笑）。

――しんどいですか（笑）。〝演じる〟という言葉は適切じゃないかもしれないですけども、これまで〝亀田興毅〟を演じてきているところはあったんですよね？

亀田　演じてるというか、まあな、ボクシングで常に何かしようという気持ちはあるよ。それが受け入れられるかどうかは、なんべんも言うようにいろんな見方があるからな。

――なるほど、たとえば、いろんな見方はある中で、亀田さんがピンとくるヒールって誰ですか？

亀田　……誰やろなあ。べつにおらんのちゃうの。朝青龍でもええ人やしなあ。うん。優しいし。

――亀田さんも含めて朝青龍も、これまでの騒ぎのフィルターをかければ、とても優しくは見えない感じはしますね。

亀田　だから、悪いのは全部マスコミやで。うん。

画というふうにやっていかんと。いまの

――マスコミが優しくないフィルターをかけてる、と。

亀田　マスコミの書き方、映し方で変わってくるんやから。朝青龍にしたって、ええような映し方したったら、ええようなキャラクターになるんやから。普段もおもしろいんやから。テレビがかわいらしい映し方したったらええんやから。それをな、なんか怖いとこばっかり、なんか問題を起こしたとこばっかり映すからやな、そうなるだけの話であって。だいたい問題を起こさない人間なんていないよ。

――すると、マスコミが一番のヒールだったりしますか？

亀田　そうやなあ！　マスコミが一番ちゃうか（笑）。



内藤大助戦が実現すれば、世の中も大注目のスーパーマッチだ。いまの総合格闘技やプロレスでここまでの物語性を秘めたカードはパッと思いつかないのが正直なところ。サクvs秋山!?

思ってるんですよね？

――クックックックッ。

亀田　まあ、マスコミもマスコミでええところもあるし。全部、マスコミが悪いわけじゃないから。

――一つだけ言えることは、マスコミの怖さを一番痛感してるのが亀田さんだったりするんですかね。

亀田　そうやな。とくに朝青龍の場合は日本人じゃないからな。「相撲が終わったらモンゴルに帰ろう」いう感覚やからな。たいして気にしてないし、そういう日本の文化も知らんし。オレが一番イヤやん。日本人やねんから。ずっとこの国で生きていくわけやから。

――日本国民を代表して、図らずも亀田さんが憎まれ役を買ってる感じはしますけどね。

亀田　オレが？

――はい。かっこよく言うと、時代に憎まれた男とでもいうか。

亀田　べつに憎まれ役なんか、なりたくないで。

――いや、それは誰もなりたくないんですけど（笑）。

亀田　勝手にとらえられてるだけでな。オレ、憎まれ役のつもりもないし。言われるほうはたまらんで。うん。でも、まあ、いい人にとらえられるのも、またなあ……。

――それはそれで難しいですね（笑）。

亀田　難しいと思うで。しんどいと思うで。常にいい人でおらなアカンもん。

――24時間いい人でいなきゃならないし、

あ、そうなんですか？

――1秒でもダークな面を見せたら……。

亀田　そうそう、ちょっと外でツバを吐いただけでもな、周りは「あれっ？」ってなるやんか。

――じゃあ、どちらかを選べって言われたら、亀田さんはどっちを選びますか？

亀田　オレ？　オレはもう、〝普通の人〟が一番いいな。

――いや、もう〝普通の人〟には戻れないと思いますよ。

亀田　戻れへんことないよ。全然普通やし、オレ。

――ズバリ言うと、並のスポーツ選手だったら去年のバッシングで終わってしまっている。〝普通の人〟に戻ってると思うんですよね。きっと今頃、雑誌やテレビの「あの人はいま」企画で扱われたりして。でも、亀田さんはこうして戻ってきているじゃないですか。

亀田　まあ………、バッシングは昔から何回もやられてるからな。常にバッシングやからな（しみじみと）。

――そこは本当にタフですね。

亀田　タフかなあ……。まあ、親父らもそうやな。家族みんなでやってるからな。最終的に信じられるのは家族だけやから。それでやってきてるから、べつに何を言われようが気にせんとやっていけるけどな。

――ちょっと話は変わるんですけど、プロレス・格闘技界で存在感がある人っていますか？

亀田　それはやっぱり猪木さんやろ。何よりも存在感があるやろ。

――現役選手ではいらっしゃいませんか？　プロとして、こいつには負けたくないなっていう。

亀田　誰やろなあ……。あんま知らんからな。でもまあ、みんな横並び一線やな。

——いまのプロレス・格闘技界に何が足りないかというと、重厚な物語性や強烈な個性なんですね。もっと噛み砕いて言うと、ヒールがいて善玉がいるという刺激的で、おもしろい対立図式が見られないなっていう。

亀田　ええもんと悪もんがおらんねんな。

——その点、いまのボクシングってキャラクターはすこぶる充実してますよね。

亀田　そうは思ってないよ。揃ってんのはフライ級だけちゃうん。

——内藤選手に坂田（健史）選手がいて。

亀田　ボクシングにはいろんな階級があるからな。ほかの階級にも世界チャンピオンがおるし、そこには注目が当たってない。やっぱり全部に当たってないと、同じボクサーとしてイヤだし。みんな平等に世界チャンピオンは世界チャンピオン、同じ扱いになったほうがええやんか。みんな頑張ってるんやから。世界チャンピオンになるんは大変やで。世界チャンピオンになるのがどんだけ難しいか。世界でも評価されるんやから。いまはオレがある階級だけやんか、目立ってるの。だから、オレはボクシング自体をなんとかしたいんや。ボクシング界、いまはそんなに凄いわけでもないよ。

——そうすると、どの階級にも〝亀田興毅〟は必要なのかもしれませんね。

亀田　どの階級にも顔を出そうかなってな（笑）。そしたら、またいろいろ言われるのかもしれんけど。

——確かに亀田さんが〝亀田興毅〟を演じることによって、結果的にボクシングの注目度も上がって、もっと言えば、内藤選手の個性も磨かれていったと思うんですよね。

亀田　オレらはたいして気にしてないけど、向こうは向こうで頑張ったらええし。オレはとりあえず今年、フライ級でベルトを獲って、近い将来、3階級制覇。それが目標やから。それだけ。3階級制覇の道のりに内藤選手がおったら倒すだけやし、オレはこの道を外すことはせんし。このレールの上を進んでいくだけやから。

——内藤選手との試合はもの凄く期待されると思うんですよ。坂田選手よりも、内藤選手との試合のほうが大きな渦が起きそうなムードがありますよね。

亀田　まあな。

——それはどうしてだと思いますか？

亀田　いままであんだけ騒がしたわけやからな。

——大毅選手との試合もそうですし。

そら、自分のイメージは考えるわ……。もうマスコミ恐怖症になってるんよ

亀田　そら、ファンからすれば観たいわな。オレ自身、やりたい気持ちもあるし。でも、これはっかりはそのときの運もあるし、状況とかもあるから実現するかせえへんかもわからんし。そこは難しいからな。

——で、世間はそこにベビーvsヒールの図式を見るというか、内藤さんがベビーフェイスっていうとらえ方をすると思うんですよ。

亀田　ベビーフェイスって、（内藤選手は）オッチャンちゃうん？　ベビーちゃうやんか（笑）。

——え〜、座布団一枚さし上げたいんですけど（笑）、いわゆる善玉っていうことでいえば。

亀田　善玉か。

——世間はそういう見方をするような気がするんですよ。

亀田　そやなあ。そこはイメージやから。どう思われても……な。

——そのイメージの怖さって、痛感してきたわけですよね？

亀田　そやな……。オレらがそこまでなんかしたんかな？　と思うぐらいやもんな。勘違いせんでほしいのは、どうかと思うのはマスコミのやり方やで。隠れて勝手に写真を撮って、取材もせんと勝手に記事を書く。ちゃんと取材しにくればいいやん。おかしいで、マスコミは。ファンがどう思おうがかまわんよ。それはいろんな見方があるから。

——見方で言えば、格闘技界もコアとライトなファンの反応って凄く違うんですよ。

亀田　違うやろうな。ボクシングファンと、ミーハーなファンと、一般層から入ってきたファンと。ボクシングファンはずっとボクシングを観てきてるから、ボクシングが好きな人ばっかりやからな。

——じゃあ、コアなボクシングファンの気持ちを理解できるところがあります？

亀田　そら、気持ちはわかるよ。オレもボクシングが好きやからな。

——さっきと同じ質問になっちゃいますけど、亀田さんのパフォーマンスやキャラクターは、コアなファンからすると非難の対象になってますよね。

亀田　そら出るな。でも、そやからって普通どおりにしてたら、ボクシングはいままでと一緒やもんな。お金にならへん。やっぱり、何か変えていく、そういう努力も必要やと思うで。

——じゃあ、自分の信念を貫けば、ヒールのレッテルを貼られようが気にしないということなんですね。

亀田　うん。気にせえへんよ。

——なんとでも呼んでくれ！　と。

亀田　うん。でも、なるべくは、なるべくイメージええほうで（笑）。

——ダッハッハッハッ。やっぱりイメージを考えちゃいますか？

亀田　そら、考えるわぁ……。なんか、「これやったら、どないしょうかな」とか「これやったら、またなんか言われるんちゃうか」とかな。うん。もうマスコミ恐怖症になってるんよ。マスコミは恐怖やで。何が一番怖いってマスコミが怖いわ。

——どんな対戦相手よりも？

亀田　ま、そんなことないけどな（笑）。そんなん気にしとったら取材もできんやろ。

——ちなみに亀田さんってインターネットはご覧になるんですか？

亀田　インターネットは、よう見るよ。〝インター興毅〟って言われてるくらいやから（笑）。

——イ、インター興毅!?（笑）。

亀田　競馬の馬でおんで。

——あ、そういうことですか。

亀田　いまは何を探してもインターネットで出てくるもんな。凄いな。凄いわ、ホンマ。

——じゃあ、2ちゃんねるなんかも見てたりするんですか？

亀田　あれ、有名やな。たまに見たりする

で。

——あ、見てますか（笑）。

でストレス発散するんですか？

亀田　オレはなんで発散してんねやろな。

もん試食できるやん。あれ、いいな……（し

べて帰ったんやけど。あれ、昼メシ、金い

亀田　オレらはたいして気にしてないけど、向こうは向こうで頑張ったらええし。

けど（笑）、いわゆる善玉っていうことでいえば。

クターは、コアなファンからすると非難の

亀田　あれ、有名やな。たまに見たりする

で。

――あ、見てますか（笑）。

亀田　たまにっていうか、人に聞いたりとかして。おもしろいで、あれな。

――何を書かれるかとか、亀田さんは気になりませんか？

亀田　凄いことを書いてるけど、なんか、そんなに気にならんな。

――要は、知らない人から文句を言われても……っていう感じなんですかね。

亀田　なんか、おもしろいもんな。「何を言うてんねん、コイツ！」みたいな（笑）。けどまあ、そこで文句言うてんのが楽しいんやろな。

――亀田さんとか朝青龍は格好な標的みたいなところがあるんですよね。

亀田　みんな、そこでストレス解消したらいいやん（キッパリ）。

――あ、受けとめますか。

亀田　オレらの文句を適当に言うてストレス発散してんねやったら、それはそれでええ場所やんか。そやろ？

――まあ、ご本人がそう言うのなら（笑）。

亀田　でも、マスコミが雑誌とか新聞にいきすぎたことを書いたら……。やっぱりお金を取ってるわけやから、正しい記事を書かないかんやんか。やっぱりそこをちゃんとしてもらわんと。インターネットはインターネットでべつに全然ええよ。ストレス発散したらええやんか。で、明日の仕事も頑張ってくれればな。

――亀田興毅を明日の活力にしてほしい！と（笑）。

亀田　一日の生活のリズムを作ったらええやんか。仕事をして、2ちゃんねるでストレス発散してな。朝から晩までず～っとやってたら頭も悪なるしな、目も悪なるし。

――大人だなあ。ところで、亀田さんは何でストレス発散するんですか？

亀田　オレはなんで発散してんねやろな。オレも2ちゃんねるで書こうかな？

――そして明日また頑張りますか！（笑）。

亀田　ウソウソウソ。まあでも、甘いもんを食べたりとかするな。

――甘いもの！　それはずいぶんとささやかですねぇ。

亀田　そうそう。いろんなところに食べにいくで。うまいとこあんで。ちょっと前に食べたんがな、ヨーグルトがシャーベットになってんねん。

――そういえば、最新のブログに書いてありましたね。

亀田　あれ、めっちゃうまい!!　オレ、同じ店に二日連続で行ったからな。それとデパートの地下にスーパーあるやん。あれ、試食がいっぱいあるやんか。いろんなもん試食できるやん。あれ、いいな……（しみじみと）。

――ストレス発散は試食巡り、ですか。

亀田　ほんでやな、その試食巡りが楽しいことに最近、気づいたんよ。ちょっとずつ、ちょっとずつ、くれんねや。それがうまいねん！

――はあ（笑）。

亀田　チョロチョロいろんなのを食べていって、味噌汁もくれるしやな、オニギリもくれてやな、ほんでキムチや漬物もあるしやな。

――亀田さん、楽しそうですね……。

亀田　ほんでぇ、そばもあったんよな、わんこそばぐらいの。

――あ、まだ食べるんですか（笑）。

亀田　それを一通り食べて、最後にデザートのパンもあんねんな。それを一通り食べて帰ったんやけど。あれ、昼メシ、金いらんな。

――店員さんは亀田さんって気づきませんか？

亀田　気づくね。気づかれたときだけな、なんか申し訳ないやんか。ほんなら、なんか買わないかんやん。な？　そのまま行かれへんねん。

――それこそイメージの問題ですね。

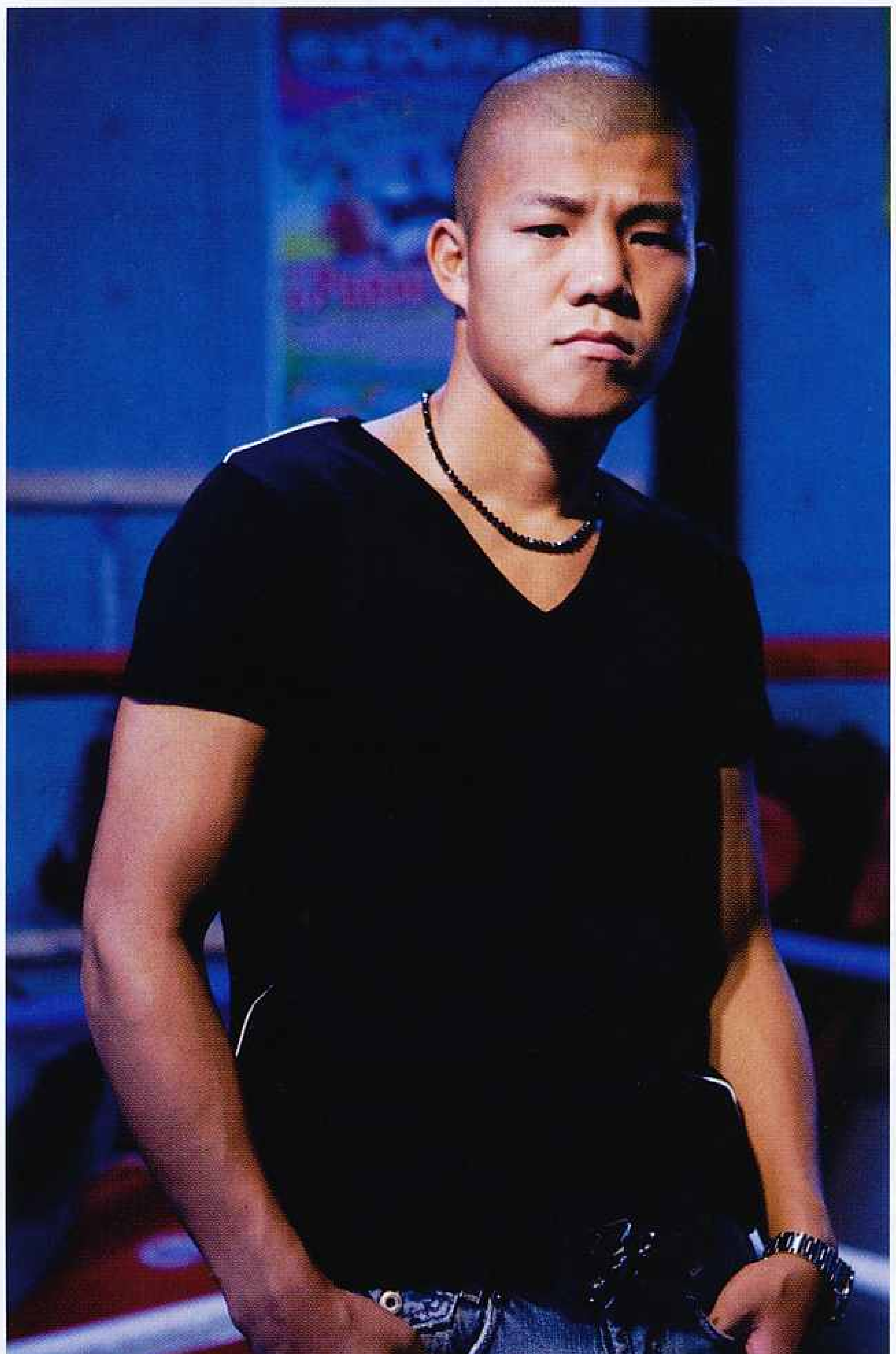
亀田　そうやねん！　でも、やっぱりいらんやんか。買うてまでは。でもやっぱり、「これ、うまいな」と、「これ、うまいわ。おばちゃん、オレ、これ買うわ」って言うて買うねんな。無駄な金を使うてまう。なるべく気づかれんように、ぱっと食べていきたいねんけど、気づかれてまうな～！（この日一番の笑顔で）。

――なんか、普通の人ですねぇ。

亀田　そら、普通の人やて。いいもんも、悪いもんもない。周りが勝手に決めるけど、オレは普通の人やて。だから、普通にボクシングをやるだけや。

――いやあ、それはそれで世の中が許さないと思いますけどねぇ（笑）。今日はありがとうございました！

【08年8月19日／葛飾区・亀田ジムにて収録】



かめだ・こうき■1986年11月17日、大阪府大阪市西成区天下茶屋出身。亀田大毅、亀田和毅は弟。父・史郎からボクシングを教わり、17歳でプロデビュー。00年以降、最も注目と話題を集める日本人ボクサーである。18戦18勝。元WBAライトフライ級チャンピオン。160cm、50kg。

8月31日（メキシコ時間30日）、亀田興毅はメキシコのヌエボ・レオン州モンテレイで元メキシコフライ級王者サルバドール・モンテスを相手にWBAインターコンチネンタルフライ級王座決定戦を行ない、3―0の判定で王座を獲得。年末に噂される内藤大助戦に弾みをつけた。また、試合前日、宿泊先のホテルにて、ロレックス社製の高級腕時計や現金など約220万円相当を盗まれた。

亀田興毅はやはり〝普通の人〟ではない。

イラストレーション／岡村昌明



ねじれる魔王

秋山成勲はどこへ行く——

悪夢のピース、いまだ揃わず——。本稿
の締め切りである9月10日現在、『DRE

もはや言うまでもないことだが、秋山は
韓国で絶大な人気を博している。柔道時

のだが、それゆえに格闘技ファンの注目を
集め、世間の耳目を引く役割を果たしても

秋山。その二つのイメージがかけ離れす
ぎていることが問題なのだ。

いまの秋山は、圧倒的な実力を証明するチャンスから遠ざかっているようにさえ見える

悪夢のピース、いまだ揃わず――。本稿の締め切りである9月10日現在、『DREAM・6』での秋山成勲の対戦カードは、まだ発表されていない。

DREAMのカード発表が遅いのは、言ってしまえばいつものことではある。ただ秋山のカードに関しては、ほかの試合以上に〝すんなりいかない〟雰囲気がある。前回の柴田勝頼戦は大会の11日前に発表。昨年10月の『HERO'S』韓国大会で組まれたデニス・カーン戦は、大会12日前に会見が行なわれている。『やれんのか!』でも、三崎和雄との対戦が決まる前には吉田秀彦戦が取り沙汰された。噂レベルではあるが、最近の秋山に関しては試合のたびに「○○と対戦するオファーを蹴ったらしい」という声を聞く。

いったいなぜ、秋山の試合はすんなり決まらないのか。第一の理由は、秋山の実力に見合う相手がなかなかいないということだろう。ただ、それだけではないはずだ。というよりも〝それだけではないはずだ〟という印象を持たれてしまうこと自体が、秋山をめぐる現状の難しさを表わしていると言えばいいのか。

秋山成勲は、格闘技史上でも類を見ないほどのヒールだった。いや、ヒールだから認めないということではないのだ。僕個人としてはその嫌われ方も含めた秋山のヒールぶりを見つめ、味わいたいと思っている。しかしいまの秋山は、存在の仕方、その構造が複雑になりすぎてしまってはいないか。

もはや言うまでもないことだが、秋山は韓国で絶大な人気を博している。柔道時代に学閥の壁に泣かされたことや桜庭和志戦でのバッシング、そして三崎の〝説教〟などから、韓国での秋山は〝虐げられた悲運のヒーロー〟として認識されているのだ(物おじしないストレートな性格が国民性に合っているという部分も大きいだろう)。CMに出演し、歌手デビューを果たし、北京オリンピックの解説も務め……と、その活躍ぶりはとどまるところを知らない。日本での受け取られ方とは、180度違っている。



キムチ用冷蔵庫のCMモデルとして、韓国でまたまたCMを獲得した魔王。メーカーが採用した理由の一つには「秋山選手の最大の長所は〝アンチファン〟が少なく、嫌いな人と好きな人に大きく分かれることがない点」が挙げられるそうだ。『kamipro』の多くの読者もある意味で秋山が大好きなのだが……。

ここですでに〝ねじれ〟が生じているわけだが、そこだけで収まるものでもない。日本国内においても、秋山の存在には〝ねじれ〟がある。秋山はヒールとして〝誰かコイツをやっつけてくれ〟と思われているのだが、それゆえに格闘技ファンの注目を集め、世間の耳目を引く役割を果たしてもいるのだ。つまり興行と視聴率の絶対的な〝タマ〟。現に『DREAM・5』の地上波中継で瞬間最高視聴率を獲得したのは秋山vs柴田戦だった。好むと好まざるとにかかわらず、格闘技に興味のある者なら誰もが秋山を気にせずにはいられないのである。

となれば、秋山が〝大事にされ〟てもおかしくはない。少なくとも主催者側から提示された対戦相手を、そのまま受けなくてもいいだけの立場にはいるだろう。もちろん秋山サイドからすれば、わざわざリスキーな相手を選ぶ必要などまったくない。慎重に慎重に、リスクと話題性を天秤にかけながら相手を選んでいけばいいのだ。その結果として日本の格闘技ファンから批判の声が上がっても構わない。彼には韓国という強固な〝拠点〟があるのだから。ひとたびファンが否定する側に回った際の迫力には尋常ではないものがある韓国だが、それが〝(とりわけ日本人に)虐げられた悲運のヒーロー〟に対しても機能するかどうか。

もちろん、これは憶測にすぎない。秋山がプロテクトされ、リスキーな相手を避けているという証拠などどこにもない。重要なのは、いまの秋山がそういう印象を持たれやすい状況にあることだ。大会直前まで対戦相手が決まらず「○○戦を蹴ったらしい」と噂される秋山と、ブーイングを飛ばす観客を花道から睨みつけてみせる秋山。その二つのイメージがかけ離れすぎていることが問題なのだ。

ヒールであるためには、圧倒的な実力を持ち、それを観衆の前で証明してみせなくてはいけない。そして実力を証明し続ければ〝あんなヤツ〟という見方が〝やっぱり凄いな〟となる。〝悪玉〟は〝凄玉〟へと変化する前段階とでも言えばいいのだろうか。江川卓しかり落合博満しかり、雑音を結果で封じるのがあらゆるジャンルにおけるヒールのあり方というものだろう。

そして以前の秋山は、〝悪玉〟と〝凄玉〟のあいだにあってそのどちらでもない、従来のヒールなら通りすぎるだけの場所に軸足を置いているように見えた。嫌われ続け、しかし実力を認めさせ続けもする特異な存在。それを我々は〝魔王〟と称していたはずだ。

だが現在の秋山は、まったく別の存在になっている。一方で熱狂的に好かれ、もう一方では徹底的に嫌われ、〝今回は負けるんじゃないか〟とも〝やっぱり凄い〟とも思われることがない。圧倒的な実力を証明するチャンスから遠ざかっているようにさえ見える。それがいまの、幾重にも生じた〝ねじれ〟の向こう側にいる秋山の姿だ。


『DREAM・6』の対戦カードが決定したとき、あるいはその試合が終わったとき、はたして〝魔王〟は再び姿を現わすのか。それともこれから先、我々は〝魔王〟ではない秋山、ねじれた存在の受け止め方を探っていかねばならないのだろうか。

(橋本宗洋)

PRIDEを巨大化させた
ベビーVSヒールという図式



悪役(ヒール)とは何か?



PRIDEは、髙田延彦vsヒクソン・グレイシーという世紀の一戦を行なうため、この世に生を受けたイベントであった。つまりベビーフェイスvsヒールの構図だ。髙田がヒクソンに敗れたあとも、グレイシーをはじめ、プロレス、リングス、K−1、そしてUFCと、常に外敵(ヒール)との対立構造を活かすことでイベントとしての魅力や求心力を増幅させていった。PRIDEのヒールたちはどのような役割を担ったのか、そしてPRIDEは外敵とどのように向かい合ったのか——。

文/大川義之

プロレス&格闘技の興行の歴史は、大まかに言えばヒールとベビーフェイスが作ってきたものである。ベビーフェイスとはつまりホームリングで闘う〝守る者たち〟であり、ヒールとはすなわち、外からの侵入者、つまり〝外敵〟であった。プロのみならず、オリンピックのようなアマチュアスポーツの世界にも〝内と外〟という境界線というファクターは重要な要素であり、地域性という自分と競技者の共通項というフィルターを通して観るから演出もない単なる競技も、より興味深く観ることができるのだ。このように、さまざまなスポーツにおいて地域性や党派性という要素は、競技をより身近に観るためのアクセントと言える。そして日本のマット界において、そうしたアクセントをうまく用いたのがPRIDEであった。

PRIDEの原点はプロレスラーvsグレイシー

90年代初頭に、〝なんでもあり〟の大会で彗星のように現われたグレイシー一族は、洗練された技術体系をもとに、連戦連勝を重ねながらリアルな〝強さ〟を証明し、日本のプロレス&格闘技界に圧倒的な現実を突きつけた。

彼らは日本のプロレス界にとって、いわば巨大な黒船であり、〝侵略者〟であった。強い者だけが生き残る〝なんでもあり〟の世界で強さを証明した〝400戦無敗〟ヒクソン・グレイシーの登場により、当時〝プロレス最強〟を掲げていたプロレスラー・髙田延彦は、そのイメージを守るために、彼と闘わざるをえなくなった。PRIDEはその髙田vsヒクソン戦を実現するためのイベントだったのである。

グレイシーという巨大なる〝外敵〟と〝守る側〟である髙田延彦の闘いは、プロレスファンにとってヒールvsベビーフェイスの構図そのものであった。だが、97年10・11『PRIDE・1』では、〝勧善懲悪〟が通用しない空間の中で、髙田はヒクソンに無残にも完敗してしまう。その残酷な結果は、プロレスファンに絶望感とともに「誰かがグレイシーを倒さねばならない」という〝呪い〟を植えつけたのだった。

PRIDEを巨大化させた ベビーvsヒールという図式



『PRIDE.13』でサクをKOし、一躍、"トップヒール"となったシウバ。現在の人気からは信じられないが、当時は"ブラジルの悪魔"と呼ばれていたのだ。

髙田の敗北により、プロレス&格闘技ファンのあいだに「打倒グレイシー」という共通の至上命題が構築され、グレイシーはプロレス界にとって倒さなければならない最強のヒールとなった。ファンに対して真実味のある勝利への飢餓感を与えたグレイシーは、初期PRIDEが躍進していくうえで、欠かすことのできない〝強烈な対立概念〟であった。

桜庭和志という〝救世主〟の登場

プロレスファンに絶望を与えた『PRIDE・1』からわずか2ヵ月後、マット界には小さな希望が生まれていた。その希望とは、12・21『UFC―J』で、カーウソン・グレイシー柔術のバーリ・トゥード王者、マーカス・〝コナン〟・シウベイラに一本勝ちし、「プロレスラーは本当は強いんです」と言ってのけた桜庭和志であった。

勢いに乗る桜庭はPRIDEに進出し、内容でファンを魅了しながら連戦連勝の快進撃を続けた。桜庭という救世主の登場により、ここにグレイシー一族vs桜庭和志という新たな対立構造が生まれたのである。

その桜庭和志の手による「打倒グレイシー物語」の頂点は、00年5月に開催された『PRIDE GP 2000決勝戦』におけるホイス・グレイシーとの伝説の一戦だった。

大会前にはGPの出場者の一人であるホイス・グレイシーは、自分だけの特別ルール「レフェリーストップなし、15分無制限ラウンド」という前代未聞の要求をつきつけた。自分が負けないためにルール変更を要求したホイスは一気に〝汚いヒール〟となり、この要求を飲んだ桜庭は大ベビーフェイスとなった。

また、PRIDE側もホイス側とのルール交渉の攻防を記者会見で公開し続け、煽り映像などで徹底的にグレイシー陣営をヒールに仕立て上げて対立構造をダイナミックに演出した。PRIDEはプロレス界が得意としてきた〝アングル作り〟のお株を奪うかたちで、ヒールvsベビーフェイスの構図を劇場化することに成功した

のである。そしてホイスvs桜庭の試合は、90分間に数々の名場面を展開した極上の

「打倒グレイシー物語」が終わったあとも、PRIDEには続々と新たな〝外敵〟が襲

でありながら、勝ち続けることでPRID

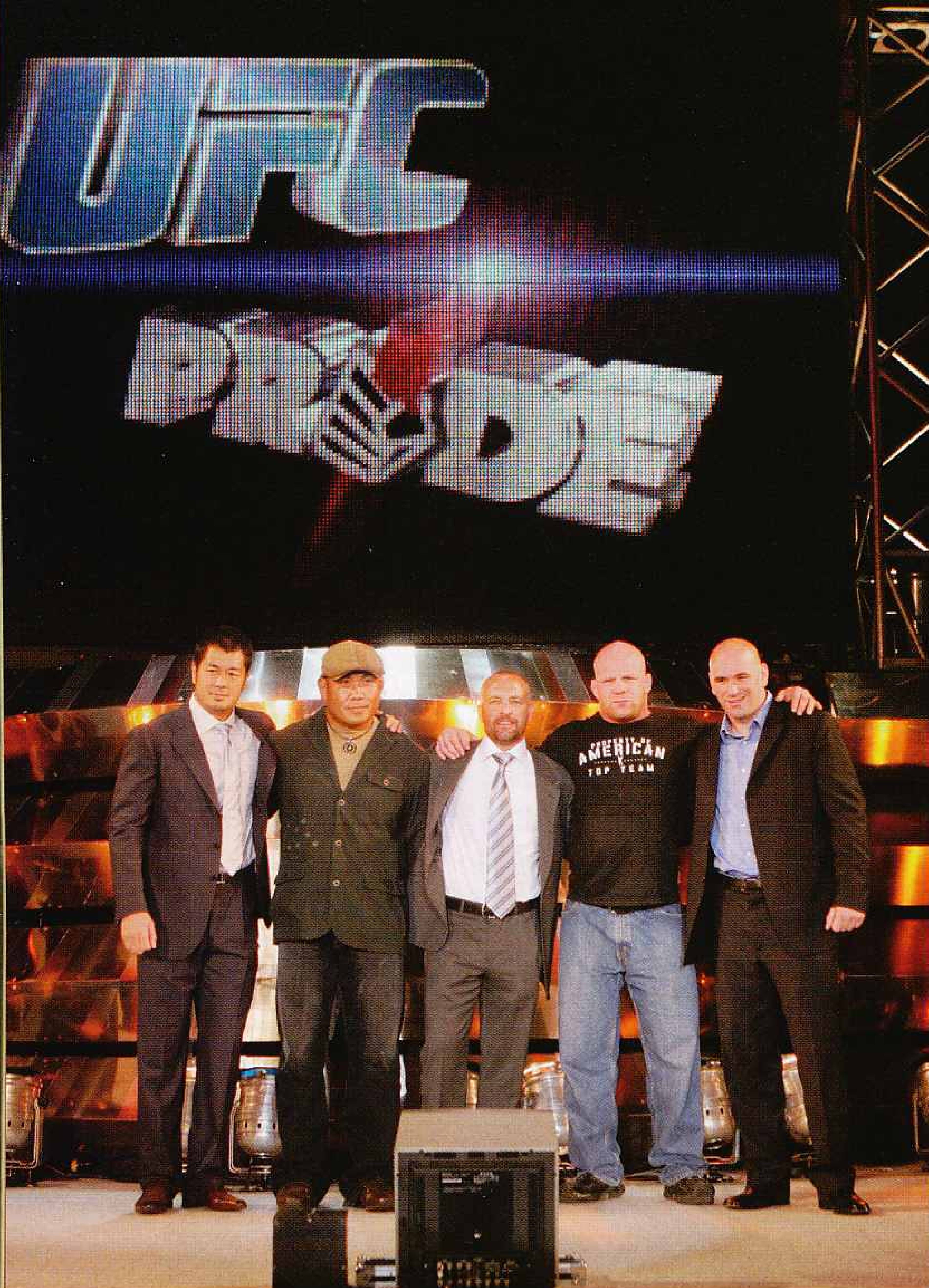
わり、徹底したリング上の勝負論で対抗し

グレイシーという巨大なる〝外敵〟と〝守

う〝呪い〟を植えつけたのだった。

な対立概念〟であった。

イスの構図を劇場化することに成功した



PRIDEにとって最大のヒールとなるかと思われたUFCだったが、ベビーvsヒールの闘いを見せることなく、新生PRIDEを封印してしまった。UFCはヒールでなく単なる敵だったのだ。

のである。そしてホイスvs桜庭の試合は、90分間に数々の名場面を展開した極上の名勝負となり、この大会をきっかけにPRIDE人気が爆発することとなった。

さらに桜庭はヘンゾ、ハイアンを倒し、〝最強のグレイシー〟ヒクソンとの対戦を迫ったが、結局、ヒクソンとの試合が実現せず、桜庭の不戦勝的なかたちで「打倒グレイシー物語」にはピリオドが打たれたのだった。一方のヒクソンは、プロレスファンから桜庭戦から逃げた〝ズルいヒール〟のレッテルを貼られてしまった。

ベビーターンをはたすヒールたち

こうしてPRIDE初期の名アングル「打倒グレイシー物語」が終わったあとも、PRIDEには続々と新たな〝外敵〟が襲来し、〝守る側〟との対立構造は続いていった。

次に桜庭和志の敵となったのは、佐藤大輔制作の煽り映像で〝悪の巣窟〟と称されたシュートボクセのヴァンダレイ・シウバであった。そのシウバは『PRIDE・13』で大ベビーフェイスである桜庭和志を倒すことで、新たなヒールとなる。だが、シウバは桜庭との三度にわたる直接対決で全勝し、さらにリングス出身の田村潔司や金原弘光、そして柔道金メダリストの吉田秀彦、パンクラスの近藤有己といった日本人ファイターを撃破することで、その実力をファンに認めさせた。シウバはヒールでありながら、勝ち続けることでPRIDEの強さの象徴となり、ベビーターンに成功した初めてのケースとなった。

また現在、日本でも絶大な人気を誇るミルコ・クロコップも、PRIDEに登場した当初は、敵対するK―1からの刺客としてヒールの扱いを受けた。だが、そのミルコも華麗なハイキックで次々に相手をなぎ倒し、〝最強皇帝〟エメリヤーエンコ・ヒョードルに果敢に立ち向かう姿が人気を呼び、PRIDEでベビーターンをはたした一人となった。

K―1を仮想敵国として求心力を得たPRIDE

PRIDEは、対立し合う勢力をリング内で闘わせることで大きなうねりを創出させ、団体間における対立構造においても同じ手法を用いた。まずPRIDEが〝仮想敵国〟として狙いを定めたのは、すでに一般層にも絶大な認知度を持っていたK―1だ。PRIDEはK―1の推進する〝モンスター路線〟を徹底的に批判し、「K―1がいるから格闘技がダメになる。勝負論を追求するPRIDEが正しい」と喧伝し、K―1という外敵を意図的にヒール化させることで自らの求心力を増していったのだ。

03年に『PRIDE男祭り』の単独開催を踏み切ってからは、毎年のようにPRIDEとK―1は大晦日の視聴率戦争をヤマ場に、熾烈なつばぜり合いを展開した。K―1が〝谷川黒魔術〟によって〝ザ・ビースト〟ボブ・サップ、大相撲元横綱の曙、そしてタレントのボビー・オロゴンなど、話題先行型のマッチメイクで世間から興味を引こうとしたのに対し、PRIDEはあくまでも〝真剣勝負〟のコンセプトにこだわり、徹底したリング上の勝負論で対抗した。柔道時代からの因縁をPRIDEで決着させた06年の吉田秀彦vs小川直也戦は、その成功例と言えるだろう。PRIDEはK―1という〝ヒール〟の存在があったからこそ、巨大化した部分もあるのだ。

ダナ・ホワイトはヒールなのか？

K―1に対して格闘技界を巻き込んだ対立構造を作って自らの成功につなげたPRIDEは、05年以降、テレビのリアリティショーの成功をきっかけにアメリカで大ブレイクしたUFCにも同じ手法で対抗しようとした。

しかし、そのPRIDEの試みもフジテレビショックや選手のギャランティ高騰などの影響で成功に結びつけることができず、結局、UFCオーナーであるロレンゾ・フェティータに興行権を譲渡するという結果に終わってしまう。

それでもロレンゾがオーナーとなった新生PRIDEには、UFC vs PRIDEの〝格闘技版スーパーボウル〟というプランがあった。選手以上に強烈な個性と生粋のヒール気質を持つダナ・ホワイトが陣頭指揮を執る二大メジャー団体の全面対抗戦は、過激で刺激的な闘いとしてドル箱カードになると思われた。

だが、結局ズッファ社は日本で地上波放送を獲得してPRIDEの活動を再開させることをあきらめ、新生PRIDEの日本事務所を閉鎖し、事実上PRIDEを消滅させてしまった。

対立構造をリング内の闘いに昇華させなかったダナ・ホワイトは、PRIDEファンにとってヒールではなく、闘いの場を奪っただの〝悪人〟でしかなかったのだ。

ヒール上等 語録

幸せな人には負けたくない

●08年2月8日　欧州遠征出発前の成田空港にて

どうだいこのキラー発言！　タレント・東原亜希と結婚して幸せ絶頂だった同階級の井上康生（引退）に対し、こんなによけいで的確な一言を言ってのけていたのだからさすが。

自分はヒールと呼ばれてもいい

●『週刊文春』08年8月7日号より、五輪壮行会での発言

五輪の壮行会で自らヒール宣言する意図はさっぱり不明だが、オーちゃんに師事したり、朝青龍とも交流があるだけに間違ったヒール＝ヒーロー像が確立してる可能性は大。

ウツでも金

●『週刊文春』08年8月7日号より、五輪壮行会での発言

石井自身もかつて強迫性障害だった（？）ゆえのじつにトンチを効かせた発言らしいが、ズバリ言って非常に不謹慎でもあるから、柔道関係者が固くなっても仕方はない。

どうも、飛ぶ鳥を落とす勢いの石井です

●『週刊文春』08年8月7日号より、五輪壮行会での発言

ワオ木さんもビックリのお調子者ぶりに歯止めが効かなくなっていた石井。だが決戦前夜は「電話にも一切出ないで集中」していたナーバスさも持ち合わせていた様子。

生きて日本に帰ることができます

●08年8月15日　北京科技大体育館・金メダル獲得直後

金メダル獲得後は「嬉しいというより、ホッとした」と本音も漏らしていた石井。「負けることは死を意味する」発言をバカ正直に背負っていたとすれば素敵なバカである。

五輪のプレッシャーなんて斉藤先生のプレッシャーに比べたら屁のツッパリにもなりません

●08年8月15日　北京科技大体育館・金メダル獲得直後

斉藤仁代表監督のシュートな指導ぶりがうかがい知れるよけいな一言。「屁のツッパリ～」の意味がわからないテレビ番組もあったようだが、『キン肉マン』の基本ネタだって！

（決勝は）冒険もせず、完全に勝ちにいきました

●08年8月15日　北京科技大体育館・金メダル獲得直後

決勝では一本より、「効果や指導でも勝ちにいく」ガチな姿勢を貫いてみせた石井。試合後は、オーちゃんも「クレバーに攻めろ」とアドバイスしてたことを自慢げに告白！

負けることは死を意味する

●08年7月7日　母校・清風学園での壮行式にて

本気か？　ギャグなのか？　母校でわざわざこんなセリフを吐く石井も素敵なんだが、一部では「グラップラー刃牙」好きの石井がセリフを引用したという"刃牙マニア説"も!?



今後の目標はこの地球上で60億分の1になることです

●08年8月26日　北京五輪日本選手団解団式にて

かなりのPRIDE好きを匂わせる一言。ロシアへの武者修行、ヒョードルとの手合わせも希望する石井。気の早い海外サイトでは石井vs皇帝の大晦日決戦の噂も噴出！

放言三昧!! 柔道王石井慧

悪役（ヒール）とは何か？



新世代のミスター問題児が北京オリンピックで誕生!!
その男の名前は柔道100kg超級の金メダリスト・石井慧。弱冠20歳ながら、「つまらなくても金」とばかりに勝ちにこだわる姿勢。さらに、トンチの効いたおもしろトーク&不用意発言でメディアを席巻中。
朝青龍&亀田兄弟をリスペクトするヒール上等の柔道王の語録をドドンとプレイバック!

構成／真下義之

ヒクソン・グレイシーだとかヒョードルだとか強い選手はまだまだいます

●08年8月16日　中国北京・ジャパンハウス記者会見にて
すわ、総合転向か？　と日本中の格ヲタを瞬間沸騰させたこの発言。実際のところ、石井はアクシス柔術アカデミーにも通う研究熱心な男なのである。ちなみに柔術は茶帯。

僕が休むのは死ぬときです

●08年8月26日　北京五輪日本選手団解団式にて
「ゆっくり休めたか？」の質問に答えて。大阪府茨木市が市民栄誉賞授与を打診しても、「そのために練習を休むくらいならいらない」と辞退する練習の虫だけに本気も本気？

（朝青龍、亀田兄弟を）非常に目標になるし、尊敬しています

●08年8月16日　中国北京・ジャパンハウス記者会見にて
スポーツ界では、いまだにタブー領域にあるヒールな両雄をあえて上げるセンスはやはり底知れない石井。今号インタビューで亀田興毅も「（ヒールは）しんどいで」と返答。

金メダルは小川道場に寄付します。あるいはモハメド・アリのように川に捨てます

●08年8月17日　日本テレビ系列『ズームイン!! SUPER』にて
石井が約束した小川道場への金メダル寄付話が実現!?　オーちゃんもノリノリで受け入れ表明！一方、アリのマネは「多摩川に金メダルのレプリカ」で決行を予告する弱火ぶり。

柔道、サイコー!!

●08年8月15日
北京科技大体育館・金メダル獲得直後
金メダル奪取後、ハッスルポーズをブチかました石井は、今度はあたりかまわず「柔道、サイコー!!」を連発。最近、めっきり使ってない本家"魔王"からキメ言葉も奪取？

僕のほうが握力強かったですね

●08年8月26日　北京五輪日本選手団解団式にて
「オスとしての魅力を感じて」砲丸投げの室伏広治に自ら握手を求めたあと、またまた言わなくていい一言を大サービス。どこまでも不用意な石井劇場はまだまだ終わらない。

（福田首相に）ゆとり教育についてガツンと言いたいですね


●08年8月26日　北京五輪日本選手団解団式にて
福田康夫首相との接見前に。結局、言葉も交わさなかったものの選手団で唯一、首相に握手を求めたあげく「首相は腹黒くないからこそ人気が出ない」とまたも暴言三昧。

自分は侍ですからチャラチャラしたことは嫌いです

●08年8月26日　文部科学大臣への表敬訪問にて
「ほかの選手と写メを撮ったりしたか？」という質問に答えて。アウトロー魂あふれる姿勢はまさにプロ向き！　だが全柔連が取材規制する気持ちも充分理解できるKYぶりだ。

（福田首相と握手して）うすうすこうなると感じていた

●08年9月2日　国士舘大学・金メダル報告会のあとで
この日は斉藤代表監督が不在でまたも大放談復活！　福田首相の退任を予期していた理由を「握手でその人のすべてがわかる」とまで言いだしたエスパー石井の行く道はどっちだ？



ヒールはメディアによって作られている!?

国民的芸能レポーターが大熱弁!!

史上最大の悪はマスコミである!!

――梨元さんはいまのプロレスは、おそらくご覧になってないと思うんですけど。
梨元　うん。とびとびですね。いまって、いろんな流派や団体とかがありますよね。なんだっけ、向井（亜紀）さんの旦那さん。
――髙田（延彦）さんですね。
梨元　そうそう、あの人がやってるもの（＝『ハッスル』）って、ほとんど演出というかドラマみたいな感じですよね？　だから芸能人がやったって全然問題はないよね。それからあの人、大仁田（厚）さんに噛みついてる人からよく電話がありますよ。
――もしかして、セッド・ジニアスさんですか？
梨元　そうそう。それでいろいろ話を聞くと、いまはいかにもショーという感じになってるんで、そのギリギリをどう見せるかが問われるみたいだね。
――そういうエンターテインメント化の流れもあってか、プロレス界に圧倒的なヒールが不足してまして。
梨元　ああ、本気で憎めないってこと？
――そうなんです。ところが芸能界に目を向けると、ヒールと言われる人たちがゴロゴロしてますよね。
梨元　そりゃいますよ！　もう芸能界だけじゃない。政界から何からね。そういう意味でいうとね、もう役人なんて誰でもみんなヒールですよ。
――あ、みんなヒールですか。
梨元　もう官僚というのは全員ワルだと思ったほうがいいですよ。そのほうが間違いない。で、もし違っていたら、あとで謝ればいいんですよ（笑）。
――そういうもんですか（笑）。
梨元　あと（船場）吉兆の女将だってあれはヒールになるわな！　〝ささやきヒール〟と言ったほうがいいんじゃないかっていうね（笑）。それくらいリアルな悪があると、

芸能ジャーナリスト
梨元勝

沢尻エリカ、加護亜依、山本モナ、羽賀研二……。とあるきっかけをもとに、多くの芸能人がバッシングされては〝ヒール〟と化していく傾向が強い昨今。お昼のワイドショーや週刊誌をはじめ、その報道たるや、一度火がついたらなかなか収まらないというケースが多い。が、その報道こそ〝悪〟ではないかとの声も上がっているのは事実。今回は、その真実を解明すべく、なんと大物芸能レポーター・梨元勝氏にご登場いただいた。『kami-pro』に出ていただくなんて、恐縮です!!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／松下ミウ



プロレスのヒールなんて、まだまだかわいいもんですよ。
――船場吉兆の女将と比べると、ヒールのリアリティがないですよね（笑）。
梨元　確かに力道山vsデストロイヤーはおもしろかったですよ。最後は空手チョップで決着がついて。でも、それはテレビが世に広まったときだから興奮して見られたんですよね。もはやいまは相撲だって、もしかしたら八百長かもしれない、と。そういう時代にプロレスの中の悪というのは、世の中の悪に押されちゃってると思うんだ。だから、悪を演じてる部分が見抜かれちゃってる。もっとほかに悪はいっぱいいるよ！　と。
――そうすると、善悪の対立構造はうまく作れないですね。
梨元　芸能界の中で何が一番おもしろいかというと、やっぱりその対立構造があるからなんです。芸能人同士が対立していることがおもしろいんですよ。それは競争というかたちでとらえてくださっていいんですけど、それがだんだんエスカレートしていくわけで。
――そこは〝理想のプロレス〟なのかもしれませんね。
梨元　たとえば和田アキ子と小林幸子の対立だって、なんだかんだ言いながら、みんな惹かれるわけじゃないですか。で、和田

アキ子の場合は敵が多いんだけどね、小柳ルミ子や松田聖子とか。松田聖子なんかは和田アキ子にすり寄っていったけど。でも、たとえば細木数子はそうはいかない。細木さん、何がいけないかって、弱いところだけ攻めるんですよ。

——テレビ局自体も、力が弱い芸能人を攻めますよね。

梨元 おっしゃるとおり。もうテレビ自体がいまや悪役と呼べるくらい問題が多いんだから。ワイドショーだってさ、弱い事務所の芸能人だけを攻めてさ、プロダクションに力があったら問題は取り上げないし、全然攻めないみたいな。SMAPの稲垣吾郎が交通違反なんかで捕まったのに、それを報道しようとしたら「梨元、しゃべんな!」って(テレビ局の)自主規制がかかるわけだから。

——ああ、"稲垣メンバー騒動"ですね(笑)。逆に羽賀研二は事務所がないから、ワイドショーで騒がれたところもある、と。

梨元 そう。羽賀研二は事務所を離れちゃったから、マスコミは「なんでもいいから羽賀研二!」って群がったわけ。羽賀研二だってそりゃ言い分はありますよ。「梨元が羽賀研二を擁護してる」とかいう声があるけど、それはあまりにもさ、大阪の警察の強引さみたいなところがあったわけですよ。それはもうマスコミは、羽賀研二イコール悪という図式にしたいわけだから。あれもかわいそうでしょ。彼よりも大阪府警なんかのほうがよっぽどヒールとして扱うべきですよ。

——むしろ、そっちのほうが断然、悪だ!と(笑)。

梨元 うん、いまや本当の悪が成敗されずにいるのが、いまの世の中だから。

——それならプロレスにヒールが求められないわけですよね。

に期待している。そこが地上波のテレビと

梨元 そう、世の中があまりにも荒みすぎちゃってるから。バタフライナイフで弱い者を刺してるわけでしょ。極悪ですよ、あんなもんは! でも、そしたらさ、ああいうことに対して今度はなんていうの、反動としてオリンピックとかに感動を求めるんだよね。ボクはもう24時間テレビでね、申し訳ないけど、芸能人がマラソンで半分歩いてるのにさ、なんでこんなに感動しちゃうんだろう? って。もう、それはね、ただ泣きたいんですよ。もうそれはね、求めてるんですよ、感動を。泣きたいんですよ!

——こんな荒んだ世の中だから(笑)。で、今回の特集をやるにあたって、いろんな人に話を聞いてるんですけど、みんなが口を揃えて言うのは、マスコミがヒールを作っている、と。

梨元 そうだね。マスコミがヒールを作る、マスコミこそがヒールだというのはあるか

(笑)。



かつて『ハッスル』に参戦した和泉元彌一家も、いわゆるダブルブッキング騒動で世間を騒がせ、"ヒール"的な見方が強まった人物であるが、それを『ハッスル』で消化(?)し、注目を集めたという意味では、マスコミを見事に利用した人かもしれない!

必ずマスコミは作っちゃうんです。決してそうじゃなくても

もしれません。ただね、必ずマスコミは作っちゃうんですよ、決してそうじゃなくても(あっけらかんと)。

——あ、決してそうじゃなくても、作りますか(笑)。

梨元 さっきの話じゃないけど、対立構造はおもしろいでしょ。そうなると善と悪に分けないといけないから、亀田とか朝青龍はヒールにしたほうがウケやすい。で、二人とも最初はマスコミのその狙いがわからなかったでしょ?

——そう報じられることによって、マスコミに不信感を抱いたでしょうね。

梨元 で、それに気がついてからは、朝青龍なんかもうマスコミを利用しようとしてるふしがあるんです。ヒールとして扱われてた人間がコロッと変わってさ、急に愛想よくなったら「さすがは横綱、朝青龍!」とかなるわけじゃない。キャラとして悪役を通しておいて、ここぞというタイミングでガラッと変える。これもマスコミの利用法だし、それができるかどうかでしょうね。

——マスコミをうまくコントロールすることが問われてくる、と。

梨元 よく「マスコミは調子のいいときばっかり……」なんて声がある。これは申し訳ないけど、マスコミは事件やニュースがあったらみんなでワッと群がるわけですよ。でも、10年後に北島康介のところに誰が行くのか? ってことなんですよねぇ。

——群がるわけがないですよね(笑)。

梨元 いまはワーと騒ぐけど、それっきりなんですから。だから、マスコミをへんにあてにするよりは、うまく利用するってこ

梨元 おっしゃるとおりです。大衆も潜在

とをしないとね。僕なんかもワイドショーなんかをやってると、テレビとしょっちゅうぶつかってさ。でも、テレビという媒体から離れちゃうと、それはそれで大変なんですよね。

——梨元さんもぶつかりすぎて、いまはレギュラー番組がなくなってしまって。

梨元 でも、いまおかげさまで『梨元チャンネル』というのを作らせて、自分から発信できるメディアを持っているから。そこでインタビューして「テレビ局さん、もしほしけりゃどうぞ。加護ちゃんの独占インタビュー、ほしけりゃどうぞ」と。「どうですか、やりますか、やらないなら携帯の『梨元・芸能!裏チャンネル』でやりますし、ほかに流しちゃいますよ」って。

——ああ、メディアを持つことで、テレビ局と駆け引きができるわけですね。

梨元 そうすると羽賀研二のところに取材に行っても、羽賀研二が「僕が弱いから取材に来るんですか、ジャニーズは強いから行かないんですか?」って言われたときに説明できないじゃない。でも、オレは『梨元チャンネル』でテレビを利用している、と。テレビがダメだったらそれは『東京スポーツ』から何から、なんでもあるぞ、と。だから好きに言ってくれ。このスタンスを羽賀研二なんかはわかってくれましたよね。だから、いまや地上波はもはや利用するだけのものでしかないですよ。テレビと一緒に何かを作ろうということは絶対にない!

——そこまで言いきりますか!

梨元 いま僕は自分の携帯サイトとウェブで勝負できるし、BSとか新たなメディアもできれば、批判しながら記事も読める、

ないわけですよね。

に期待している。そこが地上波のテレビと同じ失敗を繰り返したらダメだから、いままでの反省材料を活かしてやっていけば、今度は地上波をヒールとして扱うことができるわけですよ。

――つまり、地上波とBSの対立構造ができるわけですね。

梨元 そういう対峙の仕方。それは週刊誌、活字の世界も同じですよ。たとえば、女性誌。ジャニーズを持ち上げるマスコミもいれば、逆にアンチもいたりするわけだから。で、やっぱりそれもお互いに競争し合うほうがおもしろいよね。

――女性誌は活字不況の中で健闘しているそうですし。

梨元 『文春』、『新潮』、ともに権力に対して批判する。それはいいと。ただ、残念なことに権力にべったりの雑誌もあるから大変なんだよね。

――だから、反権力が光らないというのがあるんですかね。

梨元 『週刊現代』があれだけタブーに挑戦しても、いまやタブーを守る相手がいないから話題にならないんですよ。昔、僕なんか『ヤングレディ』という女性誌やってるときは、やり方がメチャクチャだから「ギャングレディだ」って言われてて。もうなんでもかんでもやっちゃうんですよ。芸能人が六本木で一緒に歩いてたら「よし、婚約でいけ!」とか

――んなムチャな(笑)。

梨元 「腕組んでました!」「よし、結婚だ!」「手つないでました」「よし、妊娠だ!」って。もう、そういう時代だったんですよ(笑)。

――おおらかですねぇ。

梨元 で、そのときは『週刊明星』と『週刊平凡』があって、あっちが善玉なんだよ。『ヤングレディ』にこんなこと書いてあったけど、事実は違います!」ってやってくる。だから、俺たちもへんな言い方ですけど、「大丈夫だよ、あとで『週刊明星』と『週刊平凡』がちゃんと否定してくれるから」って感じでやってたんだよ。

――なんて持ちつ持たれつな関係なんですか(笑)。

梨元 で、いまはいかに書かれないようにしようかっていう対応が出てくるわけ。つまり、事実はともかく、書かれてしまったら負けの時代なんですよ。山城新伍さんが言ってたけど、バレたら俺の負け、書かれなかったら俺の勝ちだって。だから、最近は書かせないようにうまく自主規制させてる。

――圧力をかければいいってもんじゃないですし。

梨元 圧力をかけずに自主規制させる時代ですよ。『文春』なんかも芸能人のことをいろいろ書いていても、対談のオファーするとすぐOKなんだって。

――『週刊文春』って、目下の敵があっさりインタビュー取材を受けてますね。島田紳助にしても和田アキ子にしても。

梨元 そこは『文春』が利用されてるところもあるし、芸能人を利用してる面もあるってことですね。

――そうやってワイドショーやマスコミがヒールを作ることもありますけど、大衆もそれを求めてるところはありますよね。

どんなレッテルを貼られようが マスコミを利用すればいいんです

あてにするよりは、うまく利用するってこ

梨元 おっしゃるとおりです。大衆も潜在意識の中で期待してるところはある。わかりやすい象徴がほしいんですよ。たとえば歌舞伎にしたって、(市川)海老蔵がいまいなかったら盛り上がらないし、見向きもしない。卓球だって福原愛ちゃんがいないと始まらない。競馬の騎手だったら武豊。それがヒールであれ、ヒーローであれ、世間にそのジャンルをわかりやすく伝える象徴になるんですよ。

――そこはプロレス・格闘技界にも通じる部分ですね。

梨元 だからこそ、どんなレッテルを貼られようがマスコミをうまく利用すればいいんです。だけど、そういう人たちが言うのは、マスコミは持ち上げといて、最後に足を引っぱる、と。それはもうそういう図式なんだろうね。

――そこは致し方ないと?(笑)。

梨元 そうなってるみたい(笑)。だから、和田アキ子なんかうまいこと言うんですよ。「絶対に1位にならない」って。それは1位になったら絶対に引きずり下ろされるから。

――大衆って、祭り上げられたものを見ると、手のひらを返したいムードになるもんですし。

梨元 政治家なんかも典型じゃないですか。福田(康夫)総理でもそうですし。何を言われても平気だったのは小泉(純一郎)さんぐらいでしたよ。もう安倍さんなんて、それだけで悩んでるんだから。でも、世の中が全員、自分を見てるわけじゃないのに、そう思うわけじゃないですか。それって錯覚もいいとこでね。

――気にするなと?

梨元 そう思って、ボクたちは書いてるんだから。ガーッとね(笑)。

――そうは言いましても(笑)。

梨元 まあ、いまや受ける側が記事を選択

で勝負できるし、BSとか新たなメディアもできれば、批判しながら記事も読める、と。いまは昔みたいに書いてあるからすべて本当だというわけでもないし。だからといって、ボクたちはそこに甘えちゃいけないけども(笑)、マスコミっていうのはどうしてもセンセーショナルに走りがちなんですよ。つまり、マンネリがイヤなんですよね。だから、悪役でありヒールを作っちゃうわけだけど、それにうまく乗って稼ぐ人もいるわけですから。ぜひ稼いでもらいたい!

――ヒールのレッテルを貼られようが、うまく利用してくれってことですね。

梨元 ま、勝手な言い分ですけどね(笑)。恐縮です!

――では、次ページでは、芸能界におけるヒール、またはマスコミをうまく利用した人物について、実例を挙げながら解説していただきたいと思います!

【08年8月26日/オフィス梨元にて収録】

というわけで、本誌が〝ヒール〟としてその魅力をさんざん特集しまくっている魔王だが、ヨソがあまりにもベビーフェイスとして扱う中、本誌は魔王のため、そして格闘技というジャンルを盛り上げるために、あえて泥をかぶっているのだ!(適当)。



なしもと・まさる■1944年12月1日、東京都出身。67年、講談社に入社し、『ヤングレディ』を制作。その後、テレビ朝日の『アフタヌーンショー』でテレビデビューすると、局を問わず幅広い番組で活躍。その情報量と取材力の凄さに「芸能ジャーナリスト=梨元勝」という印象を日本国民に定着させた。最近は、テレビからケータイサイト『梨元・芸能!裏チャンネル』やHP『梨元勝の恐縮です!』へと主軸を移し、テレビ番組では放送されない貴重な情報を提供している。合い言葉は「恐縮です!!」。

梨元勝が斬る！ 10人のお騒がせ芸能人

前ページでは、「マスコミ＝ヒール論」をたっぷり語っていただいたが、このページではマスコミによって作り上げられた〝ヒール〟、そしてそれを利用した人物も含めて、またもや梨元氏に斬ってもらった。世間を揺るがしたアノ人を、梨元氏はこう分析する！

聞き手／ジャン斉藤





松田聖子

郷ひろみとの交際、神田正輝との結婚＆離婚、元恋人・ジェフの暴露本出版騒動、歯科医・波多野浩之との結婚＆離婚と、常にスキャンダルの中心にいる筋金入りのお騒がせ者。何かの騒動が起こるタイミングで新曲が発表されるなど、スキャンダルと歌手活動が絶妙なコンビネーションを見せていることにも注目したい人物だ。

★

梨元「『スキャンダルなくして聖子なし、聖子なくしてスキャンダルなし』ってね！　最初にアメリカ行ったときにジェフって男と付き合って、彼が本まで出して大騒ぎになるわけだから。でも最初、彼女はその現実に打ちひしがれるわけだけど、それを逆転していくわけですよ！　で、彼女は歌がうまいですからね。その歌の強さによって彼女はスキャンダルを超えるし、スキャンダルを包み込めるというか。だから、いまや聖子をプロデュースできるのは自分自身しかいないよね。レコード会社も事務所も太刀打ちできない。

それで言うと、波多野浩之という元・旦那がいるんだけど、彼女は彼との離婚自体を利用したんですよね。すれ違いが破局の原因で、べつに憎悪はないんだけど、それを発表したのがたしか12月の初め。なんでそのタイミングで発表をしたのかっていうと、ディナーショーのチケットがその年だけソールドアウトがなかったんですよ！　で、それを発表した途端に全部ソールドアウト!!　これはね、いろんなスキャンダルを越えてきたことの賜物です！」

加護亜依

00年、モーニング娘。としてデビューして以降、辻希美とともに、小さくて天真爛漫なキャラで一躍人気者となったが、モー娘。卒業後、06年に写真週刊誌『FRIDAY』にて未成年での喫煙が報道されると、一気に芸能界引退話まで持ち上がる。無事復帰の道を歩む現在、08年8月には自身の体験を記した『加護亜依 LIVE ～未成年白書～』を発売。喫煙騒動での挫折についても記しており、話題となった。

★

梨元「僕は加護のことは最初全然知らなくて会ったんだけど、けっこうかわいそうな子なんだなって。彼女、年下の兄弟は全員お父さん違うんだよね。で、一人、障害のある弟さんがいて。それを一時期は全部彼女が面倒みてたわけだからさ。ただ、やっぱりタバコの問題は絶対にあるんですよ。でも、それを越えるときに、リストカット含めて、その自分と向き合わなければいけない、逃げちゃダメなんだっていうのに気づいたところが凄いというか。だからマスコミに対してもそうだけど、自分は自分と対峙して越えなきゃいけないということに気づいたんだよね」





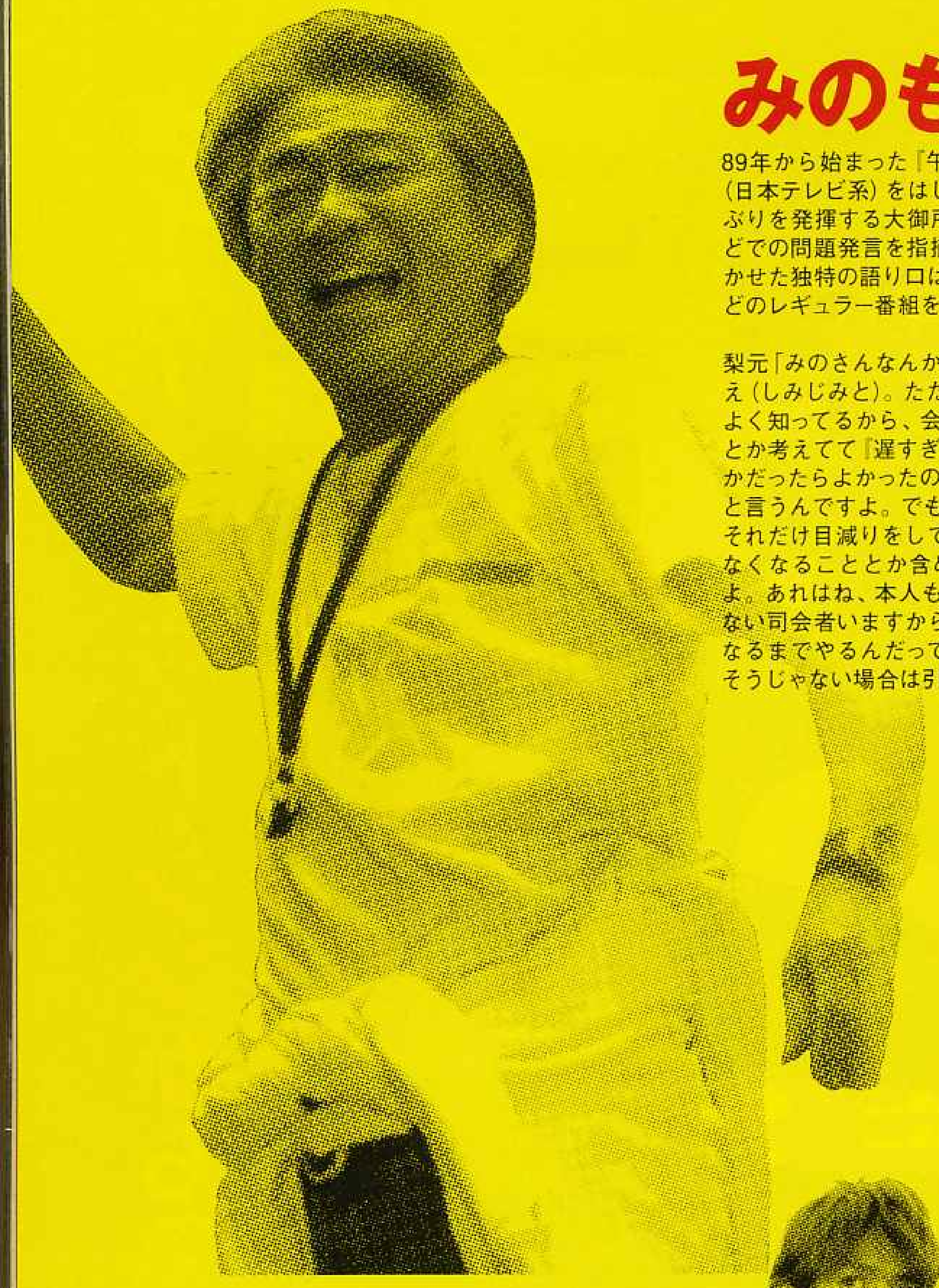
勝新太郎

60年以降、多大なる人気を博したスクリーンの中の大スターで、プロレスラーにも見まがうトンパチぶりはあまりに有名である。90年、ホノルル空港で下着の中にマリファマとコカインを入れていたことで現行犯逮捕。このときの「もうパンツ穿かない」という名言が話題を呼んだ。

★

梨元「彼はテレビというよりも映画の中にいた人で、それを活字に書かれてたような人だから。それで、活字には敏感なんですよ。『東スポ』に自分のことが書かれてたのを読んで一人で怒ってたりしていたんですから。なんか違うんだったらテレビで『違う！』って言えばいいじゃないですか、って言うと、『いや、『東スポ』に否定させないと意味がない』って言うんですよ。おもしろい人でねえ！　活字で書いた一行は凄く影響がある時代で、麻薬事件のときなんかも、勝新さんは『あの人自体が麻薬的な魅力がある人だから』と言ったレポーターがいたという記事を読んだらしくて、『こいつに会いたいんだけど』って言うような感じだったね」





みのもんた

89年から始まった『午後は○○おもいッきりテレビ』（日本テレビ系）をはじめ、数々のテレビ番組で名司会ぶりを発揮する大御所。『みのもんたの朝ズバッ!』などでの問題発言を指摘されることも多いが、タメを効かせた独特の語り口は魅力の一つで、数えきれないほどのレギュラー番組を抱えていることでも有名。

★

梨元「みのさんなんかもテレビの使い方はうまいよねえ（しみじみと）。ただ、僕はみのさんのことは昔からよく知ってるから、会うとさ、みのさんも自分の年齢とか考えてて『遅すぎた』と。もっとこれが10年前とかだったらよかったのにって。それで、『あと2年だな』と言うんですよ。でもね、僕はあと1年だと思ってる。それだけ目減りをしているし、新番組やったって続かなくなることとか含めて先が見えてると思うんですよ。あれはね、本人も見えてるからやれるの。見えてない司会者いますからね。まあ、吉本みたいにゼロになるまでやるんだっていうんだったら話は別だけど、そうじゃない場合は引き際が重要ですよ」



野村沙知代

99年、浅香光代との抗争、いわゆる「ミッチー・サッチー騒動」に端を発し、元フィギュアスケートの渡部絵美や、料理人・神田川俊郎、細木数子などを巻き込んで、連日ワイドショーを賑わせた。しかし01年、脱税疑惑で逮捕され、この騒動は終焉を迎えることに。

★

梨元「これはうまく書かないといけないんけど、野村沙知代もヒールだよね。ま、これは最初は本人も気づいてなかったけど、そのうちマスコミを利用しようとして気づいて、それが裏目に出たんじゃない？　だって、脱税までいったんだからね。『いける！』と思って平気で一線を越えちゃったけど、結局、最後は東京拘置所からさ、頭ボッサボサで出てくる写真が撮られちゃうわけだからさ。だから、やっぱり最終的に税金問題みたいなことになっちゃうと、これは問題だよねえ」



和田アキ子

まさに芸能界の"番長"的な存在であり、最近は『アッコにおまかせ！』（TBS系）など公での発言が注目を集める。また、紅白歌合戦での小林幸子との衣装を巡る"対立"など、自身も騒動に巻き込まれる場合もあるが、最近は外野からご意見するパターンがほとんど。このところ、何か騒動が起こるとアッコのところにコメントを求めに行くという場面が多く見られる。

★

梨元「和田アキ子は"ご意見番"という感じで発言が注目されるけども、ご意見番というのはね、強いところにご意見するのがご意見番なんですよ！　彼女は加護のリストカットなんかを『売名行為だ』とか言ったけど、彼女がいけないのはさ、自分の事務所のあびる優が万引きしたのに、そこは擁護したわけじゃない。それはね、ちょっと違うなって。で、ヒールという意味ではマスコミもいけない。記者たちは自分たちの言えない部分を和田アキ子に言わせてるわけじゃない。そこに二段階の悪があるよね。だから、『そうですよね』ってうなずいてるマスコミもいるけど、僕からしたら『自分のところで書けよ！』っていうことですよ!!」



木村拓哉

イケメン＝キムタクを長年定着させている国民的ベビーフェイス。キムタクが出演するドラマはいつも高視聴率、さらに女性誌『anan』の好きな男ランキングでも常に上位に君臨している。00年、工藤静香と結婚するも人気は衰えず。ただ、その人気の高さゆえに、ひょんなことから大ヒールに転じる可能性も秘めていなくはないのか？

★

梨元「キムタクなんかは迷いがあるかもしれないですよね。ちょっと前のロングインタビューで載ってたけど、工藤静香とできちゃった結婚したあと、キムタクのところに来た取材陣の目が『これでキムタクは終わりだ』って目をしてたって感じたらしいんですよ。でも、そんなこと誰も思ってない。マスコミが知りたかったのは、いつ出産するのかとかでしょ？　ただ、彼がそういうふうに見えたというのはやっぱり疑心暗鬼なんだろうね。そうすると、テレビを利用しているかどうかというのはちょっとわからないけど、意外と、草彅（剛）なんかのほうが利用できてるんじゃないかって話なんですよね」

写真提供／ロイター＝共同通信社



細木数子

『ズバリ言うわよ！』（TBS系）をはじめとするテレビ番組から、一気に人気に火がついた。タレントのモンキッキーのように、番組内で強引に改名を勧めることでも話題に。また、ゲストに対する厳しい叱咤が、一部での細木批判へとつながっていたりもする。

★

梨元「細木数子は賛否分かれるというかね。だって、信頼して見てる人もいっぱいいるんでしょ？　反対に、違うという人もいるし。でも、超能力というのは難しいんですよね。彼女の場合、六星占術だからまた違うけど。そうすると、今度は江原啓之とかなんかは一番わからないよね。人あたりはいいけど、怪しいですよ。ヒールの問題点といったら、まさにああいう真実がわからない場合が困るよね。テレビを利用しているという意味での問題点でもあるかもしれないし」



梨元勝

ワイドショーには欠かせない人物として、かつてはあらゆる放送局に登場していた芸能レポーターの代名詞。ただ、あまりにも芸能界に精通しているがゆえに、視聴者からは過激な情報を期待される一方で、テレビ局からは"取り扱い注意人物"というレッテルを貼られている感も。だが、あえてここで自分をヒールと言いきるあたりは、さすがなのです!!

★

梨元「あとは、まあ、最後の悪として自分だね（笑）。これはもう本当に勝手なことばっかり言ってるからさ。それはぜひ自己批判としてね入れたいね。僕が思い描いているような、そんな理想なんて現実にはないんだから。で、一応、言わなきゃいけないから言うけど、『おまえ、タレントと癒着してないか』とかいうと、『ときどきあります』と答えないといけないだろうし。もう数々ありますよ。『情報をとるためには！』とかあるじゃないですか。そういう部分も含めて、僕は悪です！　恐縮です!!」

山城新伍

「チョメチョメ」などの名言や、大物芸能人を標的にした歯に衣着せぬ発言が注目を集めた。元妻である女優の花園ひろみとは二度結婚し、二度離婚するという遍歴を持ち、また女性関係自体もゆるゆるであることから、スキャンダラスな記事が出回ったことも多数。

★


梨元「ヒールというか、マスコミを利用した人だったら、やっぱりうまいのは山城新伍だよね。40代のときに不倫で若い女の子とフォーカスされちゃったんだけど、発売日の前の日に記者会見に出て、ゲーテの詩を引用してこう言うんですよ。『ゲーテ曰く、20代の恋は幻想、30代の恋は浮気』とか言うわけ。で、『40代に達して、初めて真のプラトニックな恋愛を知る。だから俺は何もない！』って!!　これはうまいよね！　そういう不倫の言い訳ってね、森本レオなんかも『異文化交流』とか言ったんだから。ああいううまさもあるよね」



衝撃の本誌初登場!

長州力 ヒールを語る

タイガー・ジェット・シンから亀田、朝青龍、秋山成勲まで



悪役とは何か？

長州が〝魔王になりきれなかった男たち〟をついに語った！

「小川、北尾という〝特別な存在〟を誰も活かしきれなかったよな」

あの長州力がついに本誌初登場！　長州といえば、82年に「かませ犬」発言で藤波辰巳に噛みつき、維新軍として反体制、つまりヒール側につきながら、アンチヒーローとしてベビーフェイスを超える人気を博した先駆者。90年代、新日本プロレスの現場監督に就任してからは、UWFインターをはじめとした他団体を〝外敵〟のヒールとして新日本に参戦させ、興行的繁栄をもたらし、平成・新日本の黄金期を築いた立役者でもあった。そんなプレイヤーとしても、プロデューサーとしても、ヒールという存在の意味を皮膚感覚で知りつくした長州が、ついにロングインタビューで『kamipro』初登場。典型的ヒールであるタイガー・ジェット・シンから、自らの〝天敵〟でもあった小川直也、北尾光司。さらには亀田興毅、朝青龍、そして秋山成勲まで、80分にわたって語りまくった！　読めコラッ、タココラッ！

聞き手／金沢克彦　撮影／菊池茂夫　構成／堀江ガンツ

長州　金沢、今日はG1の話か？

——いや、『ヒールとは何か？』という特集の一環で、長州さんから見たヒールというものを……。

長州　（さえぎって）ああ、俺にはわからない！

——いや、感覚で答えていただければいいんですけども。「ヒール」って言葉を聞いたとき、まず何を思い浮かべますか？

長州　悪いヤツ？

——まあ、そのとおりですね（笑）。レスラーでいえば、誰がパッと浮かびますか？

長州　シンとか？

——やっぱりタイガー・ジェット・シンですか。

長州　そうじゃないの？

——まあ、典型的なヒールですよね。長州さん自身も海外遠征に行ったときにはヒールという立場になったわけですよね？

長州　海外は海外で、沸かせるための役割というか、そういうスタイルだからな。でも、あんまりヒールっていうのを意識したことはないね。やっぱり内面から出るほうが大きかったよね。

——でも、海外から帰ってきたあと、長州さんは反体制という立場をとったわけですよね？

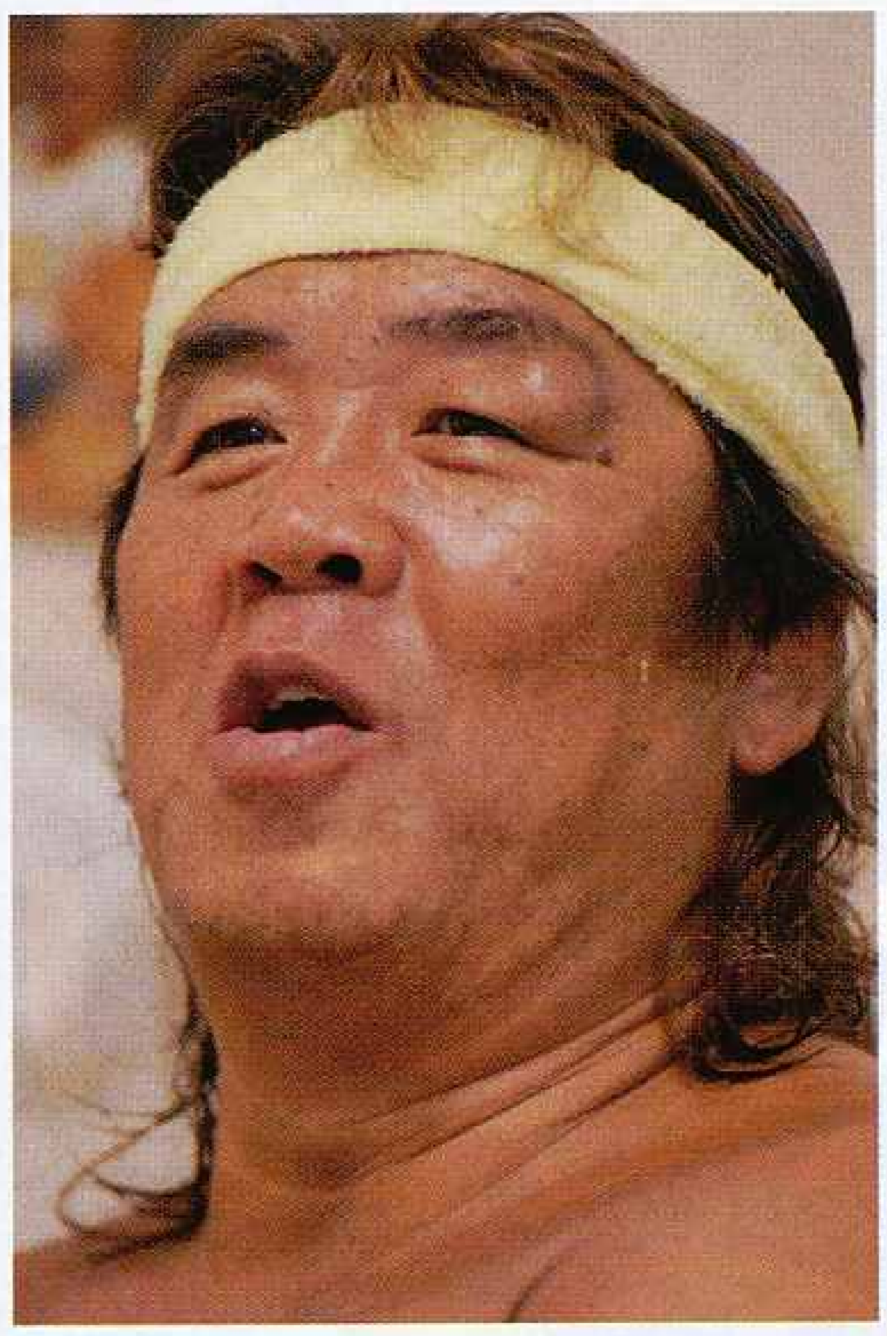
長州　反体制側をとったというか、それも一つのわかりやすさだからね。その時代にインパクトがあったものであって。日本人vs外国人という図式が少しずつ崩れてきてて、やっぱり感情を出しやすいのは日本人対決だったっていうか、そういう部分じゃないの？

——日本人vs日本人という対立構造を作った、と。

長州　うん。

——そのあといろいろ新日本プロレスでもブロンド・アウトローズや、反選手会同盟（平成維震軍）、nWoとか反体制がいろいろ出てきましたよね。







PRIDEを〝U〟と同じように叩きにいったのが間違いだったよな

長州　反体制というか、そのときにインパクトがあったということですよ。

——じゃあ、いま新日本のリングでは真壁（刀義）をはじめとしたGBHが完全にヒールという位置づけでやってますよね。彼らなんかを見てどう思いますか？

長州　真壁たちも頑張ってますよね。いまのファンにわかりやすい図式で。

——今回、G1で真壁は決勝までいったんですけど、やっぱり試合にセコンドが介入したり、凶器を使ったりしたんですよ。

長州　ああ……またやったんだ。

——やりましたね、決勝戦でも。

長州　まあ、それは現場と上のほうの見方も違うだろうし……。でも、G1は特別だからな。こんな大きな試合でそういうものは必要ない（キッパリ）。

——あの反則については「普段やってることを押し通したんだからいい」という考え方と、「やっぱりG1の決勝でそれはいけないだろう」という両極端に評価が分かれてるんですけどね。

長州　まあ、それによってファンが喜んで盛り上がってく部分では、どうなんだろうなあ？　俺としてはあまりいいサビじゃないなと思うんだけどね。

——盛り上げるやり方としても違うのではないか、と。たとえば90年代に長州さんが現場監督でやっていた時代だったら、G1でのセコンド介入とかはありえないですか？

長州　ありえない。うん、間違いなくない。

——それは絶対許さない。

長州　うん。許さないですよ。

——でも、いまはそれが行なわれているというのは、時代の変化なんでしょうね。

長州　うん、そうだと思うよ。

——それは結局、ファンがよしとするかしないか。

長州　だから、何を思ってG1のときに、そういう受け入れられるかわからないようなサビを入れるのか。それが俺にはちょっと理解しにくいというだけですよ。

——真壁自身というかGBH自体は評価してるわけですよね？

長州　ああ、頑張ってやってるんじゃない？　新日本の興行の一つの軸にはなってますよね。

——長州さん自身は維新軍として反体制でやっていたとき、それが一番インパクトを出せる手段だと考えたと思うんですが。

長州　金沢おまえ、そんな話、何十年しゃべってんだよ！

——いや、あらためてうかがいたいんですけど、藤波辰巳に対する「かませ犬」という言葉は、頭の中にあったものが突然出てきたんですか？

長州　うん、そうだよ（面倒くさそうに）。

——でもあの瞬間、出し方を失敗したらマズかったですよね？

長州　なんの出し方の失敗だよ。

——あのタイミングで長州さんが自分を主張しなければ、またお客さんがそれに対

して反応を示さなければ、マズかったです

さんあったよね。口に出してああだこう

ったからね、俺が退いたって、そんなに問

を間違えたのはPRIDEなりK－1と

“現場監督” 長州力 外敵闘争記



VS 北尾光司

元横綱として期待されながら、ふてぶてしい態度がファンからの反感を買い、リング上では大ヒールとなってしまった北尾。そんな北尾を長州は自らパートナーになるなどサポートするが、巡業欠場を申し出た北尾を現場監督として一喝すると、北尾は長州に対し暴言を吐き、それが引き金となり、新日本マットから離脱。



VS UWFインター

95年にUインターの経営悪化が引き金となって、対抗戦が実現。長州は「ドーム押さえちゃえ！」の名言を合図に東京ドームでの全面対抗戦をプロデュース。Uインターを“外敵”“ヒール”として迎え撃ったこの企画は、興行的に大ヒットとなり、90年代の新日本帝国はより強固なものとなった。



VS 大仁田厚

90年代、新日本の対局である“邪道プロレス”を旗印に社会現象を巻き起こしていた大仁田厚。しかし、対極だからこそ絡んだときに巨大なインパクトが発生し、パイプイス片手にタバコを吸いながら入場してくる大仁田は、大ヒールとして新日ファンに迎え入れられた。そのヒール人気は、長州の現役復帰戦となる、2000年7月31日、横浜アリーナ大会で頂点を迎えるが、当時の新日本には小川直也という最大の外敵がいたため、それ以上のインパクトは与えられなかった。



VS 小川直也

'99年1月4日、東京ドームでの破壊王戦でガチンコ暴走により、新日本プロレス史上最大級の外敵ヒールとして巨大化した小川。01年5月5日、福岡ドームで確執のあった長州とタッグでの直接対決が実現。長州は用心棒的に中西学を従え、プロレスの枠ギリギリの闘いとなるが、小川を制裁することはできず、この後、小川は新日本からフェードアウト。翌年から主戦場をZERO-ONEに移すこととなる。

長州力、ヒールを語る

して反応を示さなければ、マズかったですよね？

長州　違いますよ。やっぱりね、プロレスラーはみんな一人一人違うんですよ。だから自分がどこでどういう具合に爆発するかって、組み立てて爆発するのか、組み立てないで瞬間的に爆発するのか。でも、組み立てて爆発したヤツっていうのは、もう先が見えてるんだよ。組み立てなくてそのときの感情が爆発したら、それがインパクトになるんじゃないの？

――長州さんは組み立てないで、爆発したわけですね。

長州　組み立ててそんなことやってたら、いまごろ俺なんてない。そのときで終わってますよ。そういうものの感情がリングの中でレスラーとして何年もやってて、悔しいなって思いがあれば、そういう言葉や行動に表われる。それができるかどうかが、そいつの器量でもあるし、個性でもあるだろうし。

――そういうものを一番学んだのは猪木さんからですかね？

長州　おまえ、何十年もこれしゃべってるよ（あきれたように）。

――『kamipro』では初めてなんで、読者には新鮮だと思いますんで。

長州　まあ、猪木さんから学ぶことはたくさんあったよね。口に出してああだこうだって言わなくても、自分で感じることはたくさんあったよ。

――リング上の部分っていうのは、言葉ではなかなか言えないものですかね。

長州　言ってできるようなプロレスはおもしろくないでしょ。だから、なかなかリング上で何かが起きるっていうことはなくなってきたというか。難しいよな、プロレスは。難しい！

――いまでも「難しいな」っていうのは常に思ってるわけですか？

長州　いまは難しいとか、そういうのは考えないよ。こんな状況になっちゃえば。

――プロレスという仕事に対してのストレスって、いまはないですか？

長州　苦しさはあるけど、それがストレスなのかどうなのかわかんないよな。

――長州さんが一時期現役を退いたことを含めて、新日本の現場監督時代にリング上の選手をいろいろ動かしていくという中でのストレスというのはなかったですか、「なんでできないんだろう？」とか。

長州　そういうのは感じなかったね。

――それは闘魂三銃士をはじめ、粒が揃っていたからですか？

長州　それもあるね。やっぱり蝶野や橋本や（武藤）敬司の個性やインパクトもあったからね、俺が退いたって、そんなに問題はないなとは思ったんだけどね。

――たとえばその中に、劇薬を投入するようなかたちで、UWFインターとの闘いがありましたよね。

長州　だから、そういう（闘魂三銃士のような）個性が集まってるから、そういったところとやってもおもしろいっていうのがあるし。インパクトがあるだろうな、っていうのは読めるよね。どことどういう具合にやれば間違いないっていうのは。

――インパクトある対立の図式ができるということですね。このときのUインターというのは、新日本のリングにおいて、「ヒール」というくくりでは言えないことですか？

長州　だからそのときはUインターのインパクトが強かったっていうことですよ。Uインターの打ち出してるカラーと、新日本のカラーがぶつかってどうなるかっていうのは、やっぱりファンは興味があったっていう。いまは反対にそういうのがないっていうか。

――対立構造として強大なものがなくなっちゃった時代ですかね。

長州　まあ、それは世間がワッと思うようなところとバッと絡むっていうのはおもしろい図式なんだろうけど。たぶんそれを間違えたのはPRIDEなりK―1とやったことだろうと思うよね、その図式を間違えたのは。

――間違えたっていうのは？

長州　それ（PRIDEやK―1）をUみたいなかたちで叩きにいったっていう。

――誤算だったということですか？

長州　うん、ちょっと見方が違うんじゃないかな、と。

――展望が甘かったんですかね？

長州　それは俺にはわからない。（あの当時は）俺が率いてた立場じゃないから。

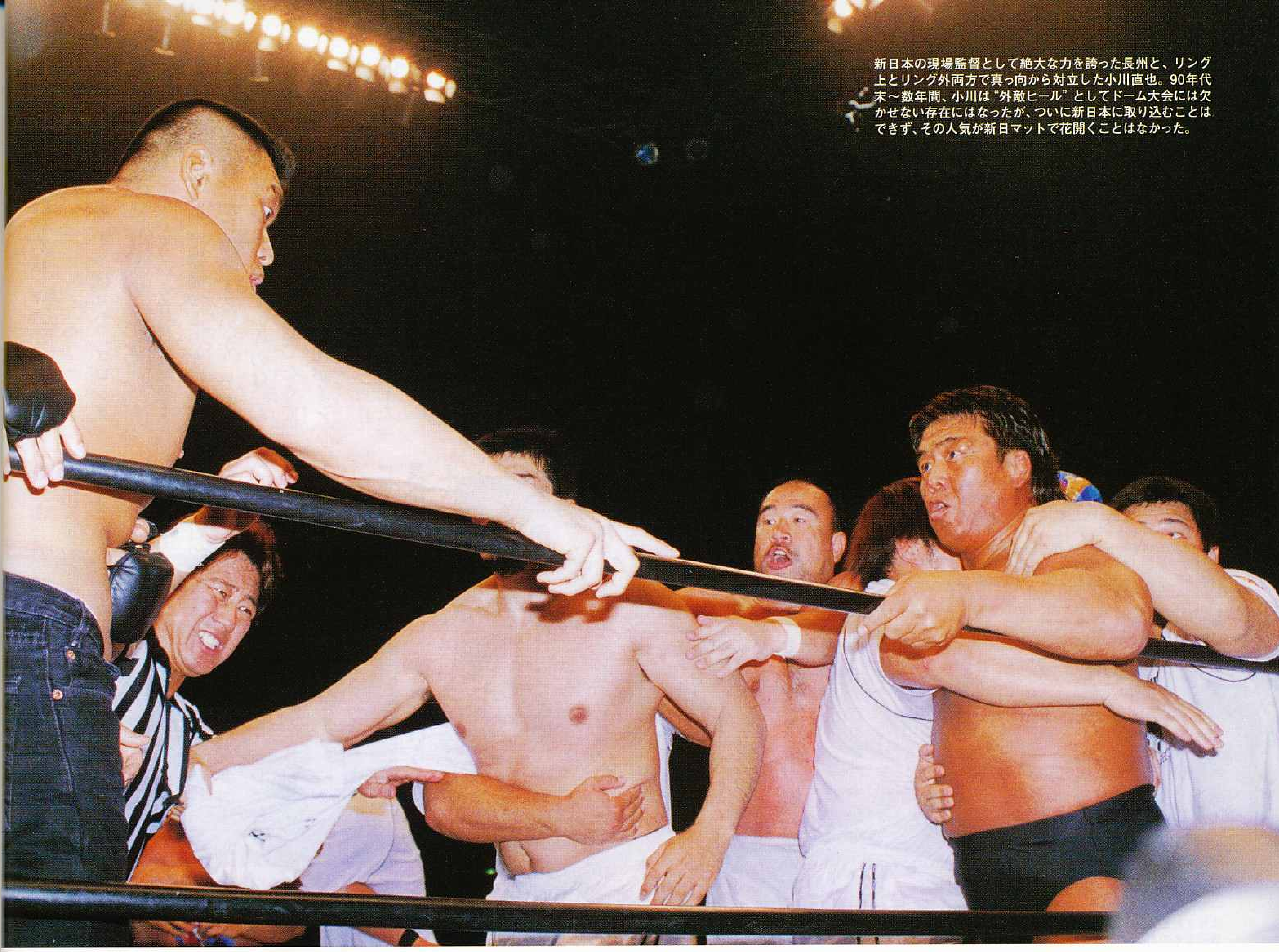
――ただ、もし長州さんが全体的に率いてる立場であれば、PRIDE、K―1と交わることはなかった。

長州　ない（キッパリ）。100パーセントないだろうね。

――そこは絶対に区分けしたっていう。

長州　区分けってことじゃないけど、そういうもんじゃないからね。だいたい、いくら新日本に選手がたくさんいるっていったって、K―1とかPRIDEの素材は世界中にいるわけだ。じゃあ、どこで終わるんだっていう部分まで考えてなかったんじゃない？

――まあ、たとえ一人倒したところで、PRIDEファイターは無数にいるわけですからね。Uインター以外だと、WARと



新日本の現場監督として絶大な力を誇った長州と、リング上とリング外両方で真っ向から対立した小川直也。90年代末〜数年間、小川は"外敵ヒール"としてドーム大会には欠かせない存在にはなったが、ついに新日本に取り込むことはできず、その人気が新日マットで花開くことはなかった。

の対抗戦もありましたよね？

長州　WARってなんだっけ？

――天龍さんのところです。しばらく対抗戦がありましたよね。

長州　やってたっけ？

――越中さんの平成維震軍の対決から始まって、全面戦争的にかなり続いてましたけど……。

長州　そうだったか。

――印象にないですか？

長州　ないない。源ちゃん（天龍）とやったのは覚えてるけどね。それはvs全日本という意識が大きかったな。

――あと、90年代の後半に出てきた小川直也選手だけは新日本にとって大きな存在だったと思うんですよ。

長州　うん。あのインパクトを新日本がうまく吸収できれば、もっとかたちは違っただろうね。あの起きたことのインパクトを新日本がうまく使いこなせていれば、いまとはちょっと違っただろうし、小川自体も変わってたんじゃないかと思うけどね。

――もしかしたら、小川が新日本のトップに立っていたこともありますかね？

長州　それはわからないけど、そういう要素はいっぱい持ってたよね。

――それが99年1月4日の橋本戦のインパクトを契機に、小川は新日本のリングで間違いなく強大なヒールになったと思うんですよね。特別な存在になってしまったというか。

長州　だからその特別な存在を誰も活かしきれなかった。猪木さんだって、いまこういう状態ということを考えれば、結局、活かしきれなかったんだろうし。

――小川という存在を活かしきれなかったことが、新日本にとっても、小川にとっても、もったいない、惜しいなという。

長州　みんな糸が切れて、結ぶところがどこもないっていうか。

――その前の北尾（光司）選手の場合はどうですかね？

長州　だから全部一緒。活かしきれずに、みんな糸が切れた凧になっちゃったというか。やっぱり難しいですよ。いまは個々では頑張ってやってるんだろうけど、みんな糸の切れた凧みたいで、各自がプラプラ〜ッと飛んでる状態で、なかなかどことどういう具合に糸を結べばいいかっていうのは、難しい時代ですよね。（簡単に）結べるところっていうのは、たぶんあまりインパクトもないんだろうし。「まさか！」っていうのはなかなかない。その「まさか！」っていうところと、もし結べた場合は、じゃあどういう具合にそれを料理するかっていうのは、また大変だし。

――いまUインターや小川ぐらいのインパクトを出すのは、至難の業でしょうね。

長州　だから新日本であろうが、どこの団体であろうが、そういうものがなくて興行をやってくっていうのはしんどいよね。飽きられたのかどうかわかんないけど。

――いま武藤さんが新日本にも上がって、IWGPのベルトも腰に巻いていますけど。こういう状態っていうのはどうとらえていますか？

長州　わからない。それは現場じゃなくてもっと上（の判断）だよ。

――先日、猪木さんにインタビューをしたら「苦しまぎれだろ。まあ、そう言っちゃ夢がないけど」と言ってましたけどね（笑）。

長州　まあ、苦しまぎれってことはないだろうけど、すんなり結べた凧っていうのは、そんなに長くやっていけるってことはないし。あっても、それが興行になるかっ

長州力 ヒールを語る

小川なんかも活かしきれずに、みんな糸が切れた凧みたいにプラプラしてる

ていったら難しいよね。

——対立構造として、ファンにどれだけインパクトがあって、どれだけ関心を示すかってことですよね。たとえば、ボクシングの内藤大助と亀田兄弟の構図は、世間でもの凄く盛り上がってますよね。完全にベビーフェイスとヒールに分かれて。でも、これってプロレスの世界じゃないかって、いつも思うんですけど。

長州　それは観る側の考えであって。まあ、期待感が大きくなればいいだろうし。逆に「あんな生意気なの観やしねえ」っていうのもいるだろうし。亀田がお仕置きを食らうところを観たいっていうヤツもいるだろうしね。

——長州さんは亀田兄弟をどんなふうに見てますか？

長州　どうなのか俺もよくわかんないんだよ。関西人はわかんないもんね。

——関西人はわかりませんか（笑）。

長州　しゃべり方が独特だから。それを違和感持って聞く人間は、そういう違和感を持つだろうし。まあ、週刊誌とかテレビで叩かれてるのは、やっぱり態度が悪いとか、そういうとこじゃないの？　でも、話題になるってことはインパクトがあるってことだろうし。

——正直言って、長州さんも亀田を見て「このガキ、生意気だなあ」とか思いませんか？

長州　環境的なものもあるのかもわかんないけど、彼らはあれが精一杯なんじゃないの？　あらたまって自分を変えて接すると、よけいなんかわけのわかんないボロが出るんじゃない？　だから、あのままでいくのが彼らしいし、一番ウソがなくて、わかりやすいよね。

——逆にその不遜なキャラクターが受け入れられている部分もありますよね。

長州　そこに違和感があるのが、いまの社会であり、違和感があるからこそ、注目されるんだろうし。

——朝青龍はどうですか？　朝青龍もテレビや週刊誌でもの凄く叩かれていますけど。

長州　それは『週プロ』と『ゴング』みたいなもんだよ。

——どういうことですか？

長州　マスコミは自分たちが生きてくために、一生懸命少しでも尾ひれをつけて書くっていう。相撲界は相撲界の厳しいルールもあるだろうし、そこからちょっとでもはみ出したら、マスコミはおおげさに書くだろうし。

——そんな朝青龍を見て、ちょっと気の毒だなと思ったりもしますか？

長州　ああ、それはあるね。叩かれるっていうか、つまんない話題が多すぎる。そのつまんないことを作ってるのは、たぶん横綱自身じゃないような気がするんだよ。その言動なりの一部分を、おもしろおかしく書く、書き手側が作ってるんじゃないかっていうところがあるけどね。

——つまり、粗探しですよね。

長州　そうだよ。それをテレビなりマスコミがやってれば、見る側はおもしろく読むから、また購買力が上がるだろうし。書き手側は少しでも部数を増やそうと思ったら、なんだって書いちゃおう、みたいなものがあるんだろうな。

——記者につきまとわれて、ちょっと「うるさい！」とか言っただけで、もう大騒ぎですもんね。同じようなことを昔の長州さんがされてたら大変でしたよね（笑）。

長州　そうかもわかんないな。

——昔の長州さんは記者が寄ってくるだけで嫌でしたか？

長州　そんなことないよ。記者と一番飯食ってたの、たぶん俺じゃないかなと思うしな。いまは反対にね、誰がどこのマスコミかわからないから、ある部分では楽かもわかんないな。

——いまは記者に囲まれても、ほとんど顔がわからないんじゃないですか？

長州　もう、まったくわからない。

——昔のマスコミでいうと、一番ムカついたのは、やっぱりターザン山本でしたか？

長州　いや、そういうのも、もうないよ。

——あ、もういいですか⁉

長州　うん。

——でも、ターザン山本がリキプロ道場に来ても取材は受けませんよね？

長州　来るなんてこと、ありえないじゃん！

——いや、わかんないですよ。

長州　だからそういうのをまたしゃべると、ああだこうだ書かれるから、触れないほうがいいんだよ。

——でも、一時期は間違いなくカリカリしてましたよね？

長州　そんなこととしゃべりたいとも思わないよ。

——あの人はヒールではないですか？

長州　知らない（素っ気なく）。

——もう記憶から消えましたか？

長州　おまえがしゃべったからよみがえったじゃねえか！

——あ、消えてたのが（笑）。対マスコミという部分では、長州さん自身が変わってきちゃいましたね。

長州　あんまり対応しようと思わないな。

——逆に言えば、昔はマスコミに対して躍起になってた部分はありますか？

長州　いまもなくはないけど、「もういいや」って感じだよ。

——現場監督をやっていた頃の長州さんは、当時のマスコミから見ればヒールであって、一番怖い存在であって、近づけない存在であって、行けば怒られるという、そういう認識のもとでみんな取材してたんですよ。そういう意識はいつから変わりましたか？　いまは、ある程度持ちつ持たれつというか……。

長州　（さえぎって）持ちつ持たれつはないよ。まったくない！

——新日本の現場監督時代はありませんでしたか？

長州　少し気を使ってた部分はあるけど、ほとんどないね。いま思えば建前的なものかなっていう感じだよ。

——その建前っていうのは、敵に回すよりはよく書いてくれたほうがいいぐらいの考えですか？

長州　それはいまの話だよな。この状況の中でも、新日本の選手はみんな頑張ってるし、少しでも取り上げてくれればっていうのは。

——昔は「マスコミは『東スポ』だけあればいい」と言ってましたよね？

長州　いまでも変わんないよ。変わんないけど、いまは『東スポ』だって1面に載ることもないしね。



長州力 ヒールを語る

――じゃあ、マスコミに対する考えもガラッと変わっちゃいましたか。

長州 変わったっていうか、触らないよね。べつに『ロックアップ』やるのに記者会見を開くわけでもないし。

――今後の話でいうと、たとえば大きなサプライズとして、長州さんが猪木さんと絡むことはありえませんか？

長州 ないだろうな。まあ、でもこの業界の中の動きっていうのはわからないからね。誰が明るいとこ歩いて、誰が暗いとこ歩いてるのかっていうのは、まったくわからないからな。

――猪木さんに話を聞くと、ことあるごとに必ず「長州」「藤波」っていう名前を出すんですよ。

長州 やっぱり、その時代が凄かったってことでしょう。いいも悪いも、業界で上に立った選手は、ほとんど新日本（出身）の選手でしょ？　あれだけの選手が上から下まで猪木さんの神輿を担いだわけだから、そりゃ凄いですよ。そう考えると、もったいないことしたな、とは思うよね。

――猪木さんはもったいないことをしましたか。

長州 もったいないでしょ。馬場さんも亡くなっちゃったし、こんな状況の中で何かをできるのは、あの人ぐらいしかいないでしょ。でも、その機も逃しちゃって……。逃したかどうかはわかんないけど、みんな出ていってバラバラになったわけだから。（前田）日明だろうが、俺だろうが、高田だろうが、藤波だろうが……みんな元は新日本の選手だろ。

――武藤敬司もそうですよね。

長州 橋本もそうだし、船木もタイガー（佐山）もそう。あれだけの選手がみんな出ていったんだから。



ちょうしゅう・りき■レスリングでミュンヘン五輪出場後、73年、新日本プロレス入門。82年、藤波に反旗を翻し維震軍を結成し人気爆発。84年にジャパンプロレスを旗揚げ。新日本復帰後、90年代は現場監督として手腕を振るう。03年にはWJプロレスを旗揚げしたが、05年、新日本に再復帰した。184cm、120kg。

――じゃあ、最初に長州さんは「ヒールはタイガー・ジェット・シン」と言いましたけど、長州さんにとって最大のヒールは猪木さんなんじゃないですか？

長州 それはマスコミのこじつけだよ。

――僕のこじつけですけどね。

長州 やっぱりプロレスだったら、ヒールはシンじゃないの？

――プロレスならシンで、人間的には猪木さんなんじゃないですか？

長州 それは違うんじゃない？

――では、いまでも猪木さんの影響力はあると思いますか？

長州 あるかないか、俺にはわからない。いまは会うこともないし、たまにテレビで見かけると「あ、元気なんだ」って思うくらいだよ。

――「元気ですか――ッ！」って言ってますからね（笑）。

長州 あと、いま猪木さんのモノマネやってるのがいるじゃん。「よく似てるな」って思うぐらいだよ。

――アントキの猪木ですね（笑）。では、ちょっと話を変えて、いま総合格闘技でもの凄くヒール扱いされているのが、秋山成勲選手なんですよ。

長州 俺は全然わからない。

――彼の試合は全然観てませんか？

長州 いや、観たことはあるよ。

――このあいだは柴田勝頼とやったんですけど。

長州 それは観てない。桜庭とやったのは観たけど。

――桜庭戦は秋山選手がヒール扱いされるきっかけになった試合でしたけど、どう思いましたか？

長州 俺はそれ（クリームを故意に塗ったこと）が事実なのか、事実じゃないのかはわからないけど、事実だとしたら、そういうのは必要だったのかな、というのはあるな。

――そんなことをしなくても秋山は強い、という。

長州 観ていて「強いな」という感じはしたけどね。

――彼も、ああいうことがあってブーイングを浴びるようになってからは、自分からヒール的に扱われるような方向に、あえて行っているようにも見えるんですけど。

長州 それはまったくわからない。彼と接したこともないし。

――たとえば、彼をプロレスのリングに上げたいとか思ったりしませんか？

長州 いや、向こうの世界で頑張ってくれたらいいと思うよね。プロレスに来たところで、彼がプロレスをこなせるかっていったら、これもまた違うだろうし。それより向こうでまだまだ頑張って、いい成績を残せるよう、頑張ってほしいよね。

――でも、プロレス界にとっても、あれだけ憎まれるようなヒールっていうのは、必要ですよね。

長州 いや、あんまり日本ではヒールとかベビーフェイスって関係ないんじゃないの？　そういう分け方をしたら、プロレスはおもしろくないよ。底力があるヤツは、どう思われようが、自分を打ち出していけばいいんだろうし。日本でやっていくなら、ヒールやベビーフェイスにこだわる必要はないし。いまは、みんなベビーフェイスであって、みんなヒールだよ。

――周りが決めつけるものを超えた個性を打ち出せるかどうかですか。

長州 ああ、たぶんそうだと思うよ。

――じゃあ、今日の結論としては、「ヒールとはタイガー・ジャット・シンである」ということでよろしいんでしょうか？

長州 うん。

――シンこそがヒールである、と。


長州 だからベビーフェイスかヒールか区別しろって言うから。ヒールは誰かっていったらシンだよ！

――あきらかにヒールとして区別できるのが、シン（笑）。

長州 シンだよ。それでいいよ。

――長々と話してきましたけど、やっぱり「ヒールはシンである」ということで（笑）。ありがとうございました。

【08年8月19日／都内・リキプロ道場にて収録】



ミスター高橋
ヒール絶対肯定論

タイガー・ジェット・シンやアンドレ・ザ・ジャイアントといった昭和の新日本プロレスで大暴れしたヒールレスラーたちと、あるときはレフェリーとして、またあるときはマッチメイカーとして接してきたのが、『kamipro』へは、ひさびさの登場となる〝ピーター〟ことミスター高橋だ。業界を揺るがした、あの〝高橋本〟の出版から約7年、ピーターが語る〝ヒール絶対肯定論〟とは!?

聞き手&撮影／堀江ガンツ

ヒールを語る

（佐山）もそう、あれだけの選手が……出ていったんだから。

長州　あと、いま猪木さんのモノマネやっ

――たとえば、彼をプロレスのリングに上

巡業が終わって会社に帰ってくるとかなりの数の脅迫状が来てました

——今回はタイガー・ジェット・シンをはじめ、多くのヒールレスラーに接してきた高橋さんのヒール論を聞かせていただければと思っています。

高橋　よろしくお願いします。

——やはりプロレスの興行においてヒールというのは不可欠な存在ですか?

高橋　そうですね。ところがその不可欠なヒールがいまいないじゃないですか。本当にいいヒールっていうのは少ないよね?

——残念ながらそうですね。

高橋　新日本プロレス最初の頃のヒールっていうと、キラー・カール・クラップっていうのがいて。彼なんかも当時としては一生懸命やっててくれたヒールなんだけど、タイガー・ジェット・シンが来てからはすっかり影が薄くなったんだよね。

——そういった魅力的なヒールを作り上げるのもマッチメイカーとか団体側の重要な仕事という部分はありますか?

高橋　いや、タイガーの場合は、あそこまでは期待してなかった。ホントの掘り出しものだと思うんですよ。

タイガー・ジェット・シンには、たぶん日本のプロレス関係者じゃ僕が一番最初に会ってると思うんだけど。

——へぇ～、そうなんですか。

高橋　彼が初めて新日本に来るっていうことで、僕が羽田空港まで迎えに出たんですね。ただ、写真は持ってるんだけど会ったことない。全然わからないんですよ。それらしき人物が出てきたんだけど、あまりにも紳士なんですよ。キチンとスーツを着て。猪木さんには「ちょっと狂ってるから気をつけろよ」って言われたから。

——「ちょっと狂ってるから」っていう忠告も凄いですね(笑)。

高橋　だから「こんな紳士じゃないよなあ」って思ってたんですよ。「でもデカいし、どう見てもプロレスラーだよな」と思って、おそるおそる声をかけたら「そうだ、タイガー・ジェット・シンだ」って、名刺を出すんですよ!

——インドの狂える虎が名刺を差し出しましたか(笑)。

高橋　あとにも先にもね、初対面のレスラーに名刺もらったのはタイガー・ジェット・シンしかいない。話し方も穏やかだしね。「へぇ～、ヒールだって聞いたけど、これでヒールできるのかなあ?」って思って心配だったぐらいだから。

——「こんな生真面目な男にヒールができるのか」っていう感じですか。

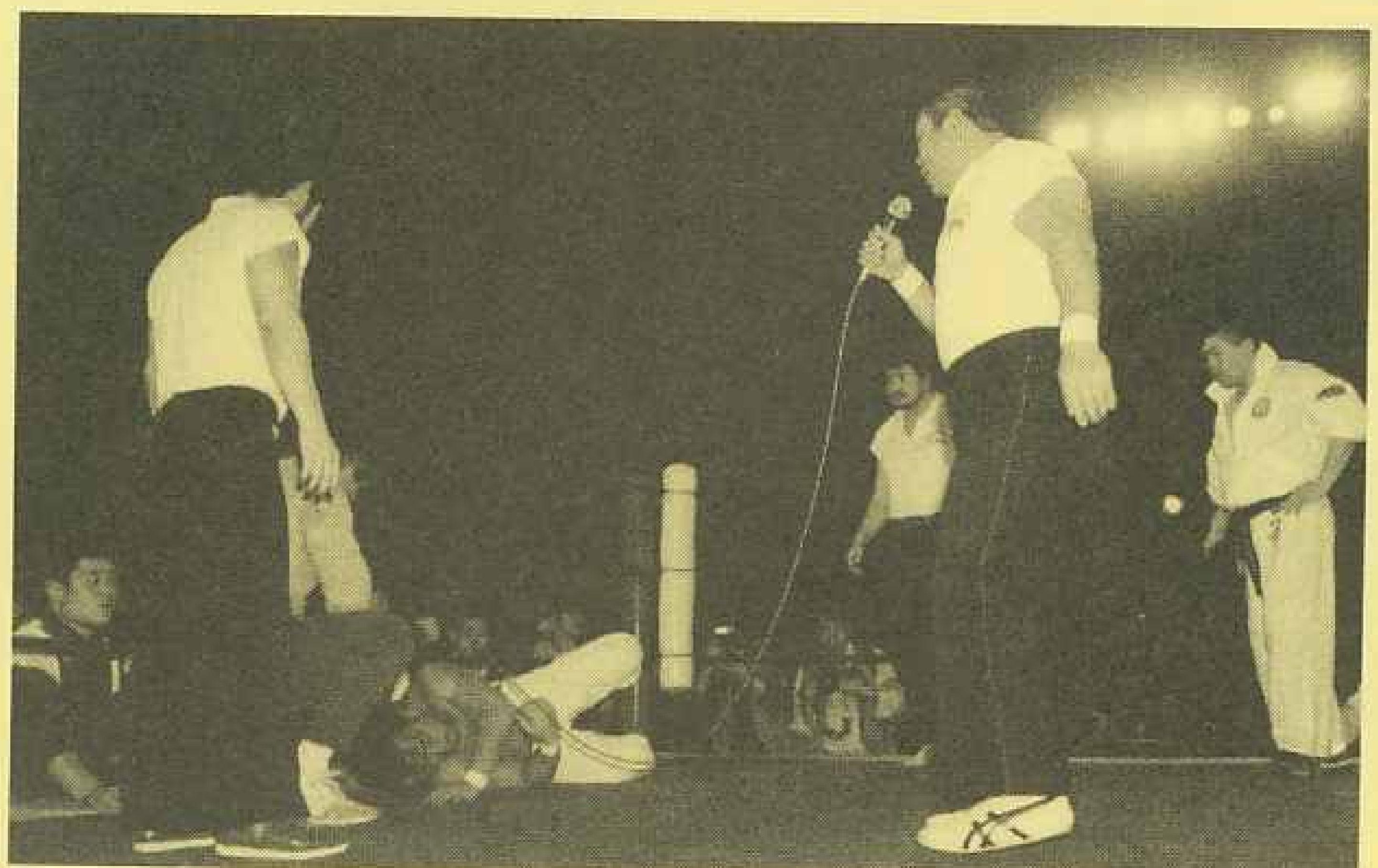
高橋　そうそう。ところがリングに上がったらもうとんでもない！　紳士の部分なんて「どっかに忘れてきちゃったの?」っていうぐらいもの凄かったんだよね。

——そのシンの登場で新日本プロレスは興行的にも一気に上昇したと思うんですが。

高橋　そうだったですね。彼が来る前はそんなにお客さんも入ってなかったし、「この先どうなるんだろう?」と思ってみんなで心配してたんですけどね。タイガー・ジェット・シンが来てからはもの凄い勢いでチケットが売れるようになってね。

——やはり大衆というのは「ヒールがやられるところが見たい」、「ヒールにエースが勝つところが見たい」っていうのが基本になるんですかね。

高橋　必ずしもヒールがやられるところというよりも、ヒールは悪ければ悪いほど試合っていうのはおもしろくなるよね。僕もまがりなりにも小説を書いてるけれども、自分で読み返しても、登場する悪いヤツがいかに悪いかでおもしろみが違ってくるんだよね。プロレスも同じで、中途半端な悪いヤツだとちっともおもしろくないからね。



新日本プロレス時代は審判部長やガイジンレスラーの世話係を務めながら83年8月から88年3月までの約5年間、マッチメイカーとしても活躍した高橋氏。当時は観客をよりヒートさせるためレフェリングもヒールに徹することを心がけていたという。

——シンはその部分で飛び抜けていた、と。

高橋　半端じゃなかったよね。リングの中では。

——高橋さんの著書の中では、猪木さんとシンの3人で、いろいろと話し合って売り出し方とかを考えていたというような話も書かれていましたよね。

高橋　そうですね。彼のリングネームは来日前からタイガー・ジェット・シンだったわけですよ。猪木さんがひらめいたのは、もう絶滅してしまった動物で、かつて最強の猛獣だったって言われてる〝サーベルタイガー〟って知ってるかな?　あそこからヒントを得たんですね。

——そこからサーベルを持たせてとか考えたわけですね。

もちろんシンというのは素材もよかったと思うんですけど、あれが全国を巻き込むようなヒールになるには、いろんな悪いことをしなくちゃそこまでいかなかったと思いますし、それこそシリーズごとに手を変え品を変えっていうふうに猪木さんとかと考えていたんじゃないですか。

高橋　もちろん。でも会社側から指示しても、それを演じきれるだけのヒールっていうのはなかなかいないですよ。

もちろん演技力もあるし。それと同時にヒールをやっていくっていうのは怖いんですよ、やっぱり。半端じゃなく度胸がなきゃできない。闘ってる選手同士はちっとも危険は感じないし怖くはないわけですよ。だけれども、お客さんも全部敵なわけだよね。

——リングを降りても油断はできないわけですよね

高橋　そうです。試合が終わって街に出たって、街にも敵がいるわけですよ。興奮したヤツが何してくるかわからない。そういう危険も全部承知の上でやっていく、その度胸っていうのはね、誰にでもあるもんじゃないと思う。

——なるほど。

高橋　それにレフェリーもヒールじゃないと試合っておもしろくないんだよね。ベビーフェイスのレフェリーの試合なんてちっともおもしろくない。だから僕はジェット・シンと一緒にヒールのレフェリーをやってたよね。その頃なんかひと巡業して帰って来ると会社にかなりの数の手紙が来てましたよ。

——それはどういった内容の手紙なんですか?

高橋　ファンレターじゃなく、ただの脅迫状ですよ。「おまえみたいなヤツは……」っていうね、カミソリ入ってたりね、へんな薬が入ってて、「これ飲みゃ楽に死ねるから」とか書いてあってね。もの凄い数だったですよ。そういう意味では、僕なんかもそうだったけど、ヒールっていうのは人生の悲哀っていうのを嫌っていうほど感じさせられるよね。ホントは誰だってカッコいい役をやりたいんだよ。

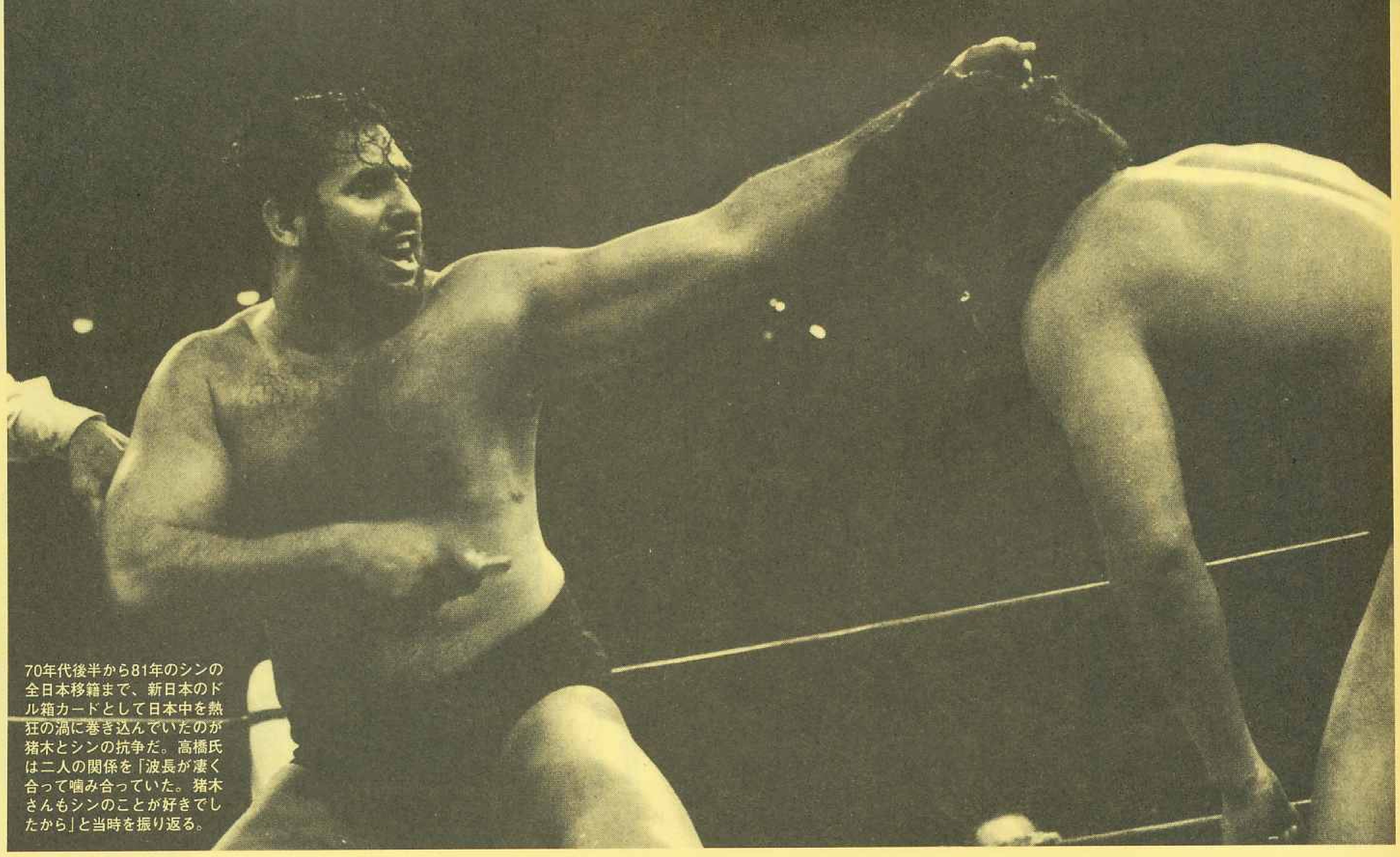
——そりゃそうですよね(笑)。

高橋　花道通ってリングに上がるまでだって、ブーイングで上がるのと拍手喝采で上がってくのとでは全然違うでしょ。それだけじゃないけども、どっちがいいかっていったら、や

つぱり……わかるよね?

日して日本にいるあいだはベビーフ

——そうだったんですか。



70年代後半から81年のシンの全日本移籍まで、新日本のドル箱カードとして日本中を熱狂の渦に巻き込んでいたのが猪木とシンの抗争だ。高橋氏は二人の関係を「波長が凄く合って噛み合っていた。猪木さんもシンのことが好きでしたから」と当時を振り返る。

シンが素顔をさらけ出せたのは僕と一緒のときぐらいじゃないかな

っぱり……わかるよね？

――はい（笑）。

高橋　それでもヒールをやってのけるだけのものっていうのは誰でも持ってるもんじゃないと思う。だからね、いまヒールがいないっていうのはさ、それをやりきれるだけの人がいないんだと思いますよ。

――プロフェッショナルとして、そういったものをすべて引き受けられるような選手がいなくなったというか。

高橋　それにガイジン選手って新日本に限らず、ここ最近はあまり来てないじゃないですか。僕が辞める頃にはジェット・シンも移籍してしまって。あの頃から新日本にホントのヒールっていうのがいなくなっちゃったよね。ガイジン選手が来てもカッコいい選手ばっかりで。

――そうですね。とくにWWEの選手やスタン・ハンセンなんかも普通に人気のあるガイジン選手ですからね。

高橋　ハンセンや（アンドレ・ザ・）ジャイアントだってヒールはヒールだけど、ジェット・シンとはスタイルが違うでしょ。ファンに徹底的に憎まれたってわけではない。でも当時、タイガー・ジェット・シンが外に出て「握手してください」って来たヤツは誰一人いませんからね。怖くて誰も近寄れない。遠巻きに見るのが精一杯で。

――シンの場合はホントに何をされるかわからないという恐怖感がありましたからね。実際、シンなんかは来日して日本にいるあいだはベビーフェイスの顔を見せないっていうぐらいの覚悟があったと思うんですが。

高橋　そうですね。ジェット・シンの場合は、僕と一緒にいるあいだぐらいだけじゃないですか、ホントの素顔の自分をさらけ出せたのは。あとはいつでも演じきってなきゃいけなかった。つらかったと思うよ、窮屈だったと思う。

――よく、控室とかでも記者が襲われたりしたって言いますからね。だから同じ業界の人間でも「シンだけはヤバい」っていう。

高橋　そのぐらい徹底してましたよね。

――狂ってるっていうわけじゃなくて、それだけプロレスラー、タイガー・ジェット・シンになりきっていたと。

高橋　そうそう。狂った虎を演じきってたから。

――そこまでできる人って……。

高橋　（さえぎって）いないですね。僕の知る限りだと、ジェット・シンの前はフレッド・ブラッシーぐらいのもんですかね。

――ブラッシーも死ぬまでヒールを貫きましたけど、ホントは人格者だと言いますよね。

高橋　そうですね。彼とは亡くなるまで友だちだったですけどね。年齢もけっこう違うんだけど、どういうわけか仲がよかったんだよね。電話ではちょいちょい話したりしてましたけどね。

――そうだったんですか。

高橋　力道山時代に彼の試合を観てショック死した人たちがけっこういたんですよね。5人とか6人いたと聞いてるけど。

――当時の新聞にも載ったんですよね。

高橋　ちょうどテレビがモノクロからカラーに変わった頃だったんで、なおさら流血シーンは凄かったんだと思うんですけどね。でもやっぱり、それが強烈な印象に残ってるんで、フレディーのところへは何かにつけてその質問があるわけですよ。「あのときはどうでしたか？」と。そうすると、いわゆるヒールの顔になっちゃうわけですよ。「たった5～6人しか死んでねえのか、オレは100人殺す予定だったんだ！」ってなことを平気で言うわけだよね。でも、そのインタビューを終えて僕と二人になると、やっぱり寂しい顔をちょっと見せたりして、心の中で手を合わせてるような感じでしたから。

――そういう顔を見せるのは、高橋さんや奥さんだけだったんでしょうね。

高橋　だったと思いますよ。フレッド・ブラッシーっていうのは凄い律儀な男でね。彼がアメリカで自叙伝を出したでしょ。あれでニューヨークからライターさんが日本に来て、僕もインタビューされたんです。それで、アメリカの本屋さんに並ぶ前に僕のところに送ってくれたんですよ。でも、それを見たらサインが入ってないんです。で、僕はすぐに電話を入れて、「本はとりあえずありがとう。だけれどもサインが入ってないじゃないか」ということを言ったわけ。そ

したら「ピーターとオレのあいだでサインなんかいらないと思ったよ」、「やっぱりサインがなきゃ」、「わかった、サイン入れてもう1冊送るよ」ってやりとりをしてね。その電話を切って、その晩に『マンデー・ナイトロ』に出演して、それを境に具合悪くなっちゃって、そのまま入院したんですよ。入院をして、そのまんまなんですけどね。

——退院することなく亡くなってしまった、と。

高橋　そうなんです。で、手術もしましたが、死ぬ二日前ですよ。うわごとのように奥さんに「ピーターとの約束が残ってる。サインを入れた本を送らなきゃならん」と言って、もうペンを持つ力もそんなにないんだけど、奥さんに押さえてもらって書いてるの。それで「ピーター、いつも思い出してるよ」ってサインを入れて、日にちまで入れて送ってくれたの。それが几帳面な字なんですよ。キチッと全然崩れていない。それが絶筆になってるんですけど、その翌日に亡くなったんです。

——へぇ～、それは凄い話ですね。

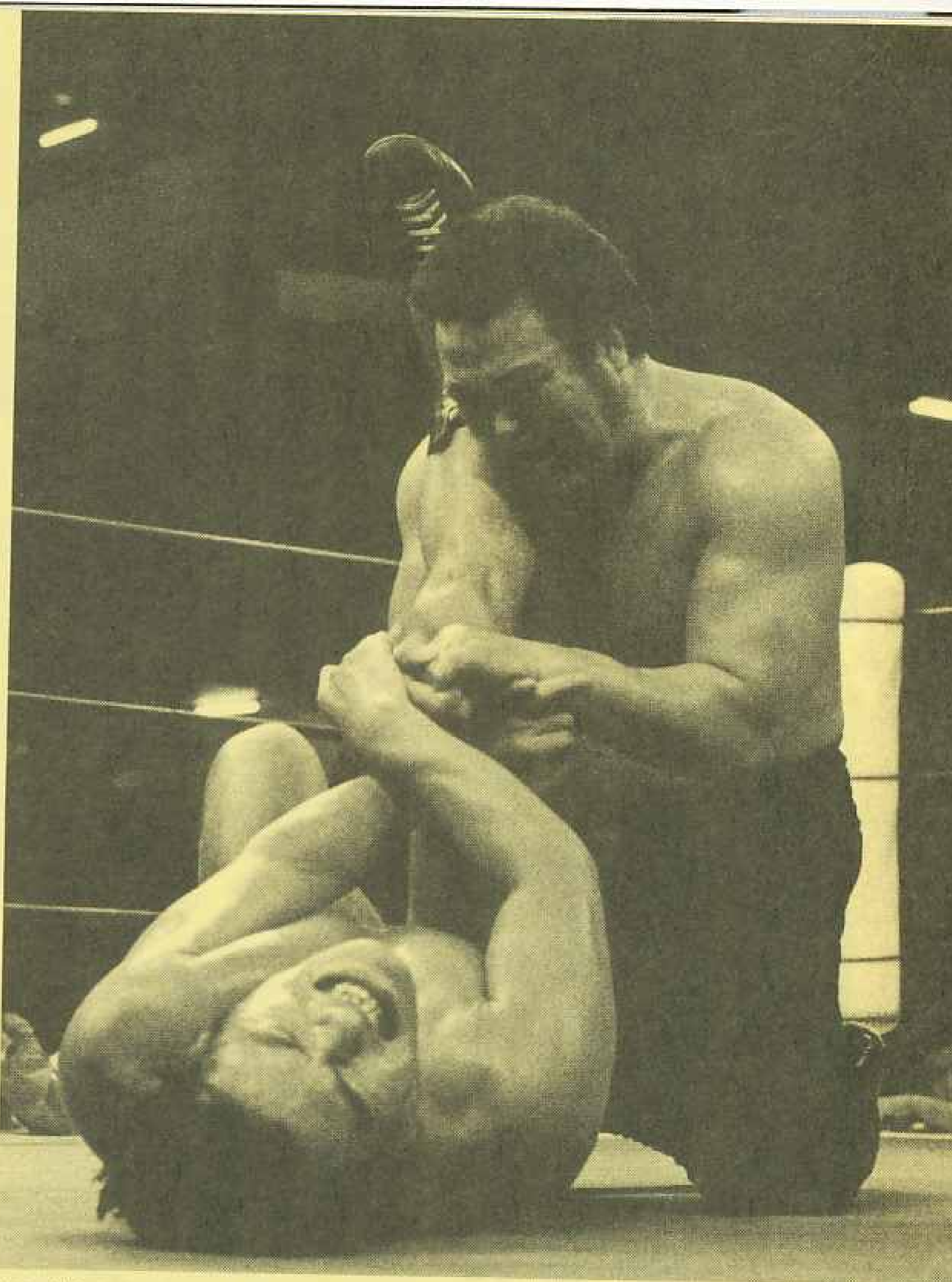
高橋　奥さんの話を聞くと、死の世界をさまよってるような、そんな感じのとき、うわごとで思い出して、「ピーターとの約束がある」って言ってたみたいで。僕にしては本当の宝物だよね。

——ただ貴重っていうことだけじゃなく、そういう思いとか友情とか込みですからね。

高橋　そうですね。彼の場合はリングに上がると凄いヒールじゃないですか。一方で、もの凄いイタズラ好きなんですよ。控室にいても、ほかのガイジン選手がドキドキしてるぐらいの凄いイタズラ好きで。

——そうだったんですか（笑）。

高橋　僕もかなりやられましたし。でも、家庭に入るとまったくそういう姿はないっていうんですよ。だから僕がその話を奥さんにすると、「え



リング上ではヒールを演じながらも、実生活では人格者として知られるラッシャー木村。そんな人柄もあってか、現役引退時に所属していたノアの三沢社長は、ラッシャーに終身名誉選手会長という称号を与えている。

っ、そういう姿を私には見せたことはない。いつも静かで、黙ってロッキングチェアに座って本を読んでるか、庭で日光浴してる。無口だし」って。「えーっ、無口？」ってこっちも驚いてね（笑）。僕といると、「少し黙っててよ」ってぐらいしゃべりっぱなしでしたから。

——ブラッシーはモハメド・アリのモチーフになったって言われてるぐらいですからね。やっぱりそういう意味ではヒールのほうがプロ意識が高いっていう部分は感じますか？

高橋　そうですね。

——ヒールのほうが人格者が多いみたいなこともよく言われますけど。

高橋　僕が見た限りではそうですね。ガイジンでもベビーフェイスやってる人っていうのは、リングを降りると女ったらしだったり（笑）。リングの中と本物の自分が区別つかなくなっちゃうんだろうね。

——なるほど（笑）。当時の新日本プロレスでいうとラッシャー木村さんなんかも、あんなもの静かな人が大悪党をやってたわけですからね。

高橋　そうですね。僕が接してきた日本人のレスラーの中で木村さんほどの人格者はちょっといないと思いますね。素晴らしい人ですよ。

——木村さんは何があっても自分の中で耐えて、人の悪口を言わない人だったみたいですね。

高橋　そうですね。で、木村さんは相撲から来てるでしょ。あの当時は相撲から来た人ってけっこういてね。相撲の木村さんを知ってる人から聞いても、「あのまま相撲の社会にいたって木村さんはかなり出世したと思

僕が接してきた日本人レスラーの中で木村さんほどの人格者はいない

う」ってみんな口を揃えて言うしね。いま相撲の世界で品格ってよく言われるじゃないですか。そういう部分で木村さんは問題なしだなと思いますけどね。品格の塊みたいな人ですから。

——そんな人が自宅の犬がノイローゼになっちゃうぐらいの被害を受けるわけですからね。まあ、生真面目だからこそ、そこまでヒールになりきれたっていう部分もあるんでしょうけど。

高橋　そういう面もあるかもしれないですね。

——実際、それぐらいファンを本気にさせるものが当時の新日本にあったっていうことですよね。

高橋　そうですね。やっぱり木村さんにあれだけのヒールを演じさせた猪木さんの力というのも凄いと思うんですよ。あれは相手が猪木さんじゃなかったら、木村さんもあそこまでやりきれたかなとは思いますけどね。

——なるほど。それもまた相互作用で、ヒールもベビーもどんどん上がっていくってことですね。

高橋　そうですね。そのへんがプロレスの難しさというか、奥の深さでもあるでしょうね。

——ジェット・シン以降で、これはっていうヒールは高橋さんの中ではいます？

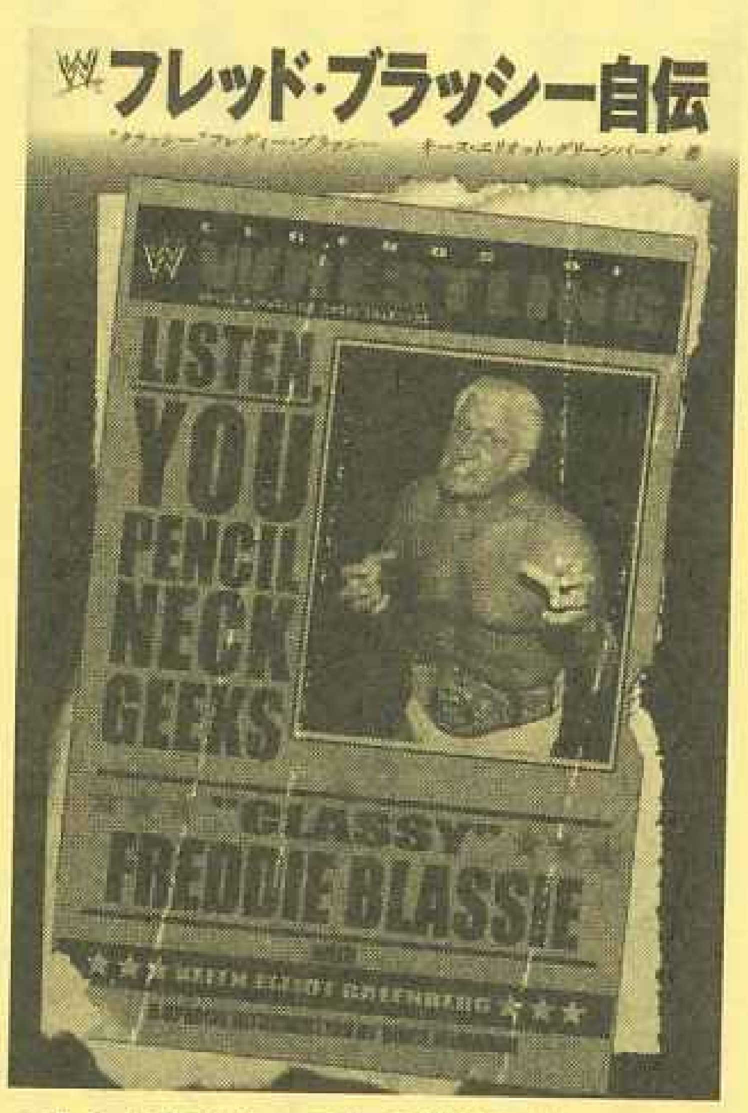
高橋　思い出さないよね。いなかったって言ってもいいんじゃないかな。

——それは時代なんですかね。

高橋　いや、時代じゃないよ。いつの時代にもヒールっていうのは絶対に必要なんだよ、プロレスには。いまだってそうだよ。ヒールが必要なんですよ。いないからプロレスの内容がおもしろくないっていうふうにも言えると思うのね。全部が全部そうだとは言えないけど。だからジェット・シン以降誰もいなかったっていうのは、やっぱりプロレスをおもしろくなくしてしまった部分があるんじゃないかな。

——それはあるかもしれませんね。

高橋　猪木さんが議員になってセミリタイアしちゃったでしょ。あの頃からプロレスの客足はちょっとずつ落ちていきましたんでね。それで猪木さんの引退とともにガクンときたでしょ。新日本の場合は。それ以前にシンがいなくなってちょっと客足が



こちらが亡くなってから約半年後の03年12月に出版されたブラッシー自伝の日本語版（エンタープレイン刊。原書は生前の03年5月に出版）。高橋氏の証言やビンス・マクマホンの前書き、ミヤコ夫人との2ショットなど見どころ満載。稀代のヒールの生き様を見よ！

本を出して後悔？　よくそんなこと言うねえ。バカじゃないの、あんた？

落ちたところはありますし。だからいかにヒールが大切かっていうのは思いますね。

——シンみたいなホントのプロフェッショナルなヒールはまた出てくるんでしょうかね。

高橋　どうなんだろうね？　シンみたいな選手が、あと何年経ったら出てくるのか、猪木さんのような人もそう簡単に出てこないんじゃないかなと思うんだけど。両方とも同じような人が突然現われたらいまのプロレス界を一気に立て直しちゃうんじゃないですかね。でも僕は猪木さんならヒールができると思うんですよ。

——猪木さんがヒールに!?

高橋　そう。いまの新日本プロレスに猪木さんがヒールになって乗り込んで、ジェット・シンの上を行くようなもの凄いヒールになって、いまいる選手を徹底的に痛めつけて叩きのめしたら凄いなと思うんだけどね。

——それは刺激的ですね（笑）。

高橋　蝶野（正洋）あたりがベビーフェイスに転向して、いい人になっちゃったりね。それで猪木さんとの抗争を始めたら、新日本は立て直せるんじゃないかな。

——高橋さんがマッチメイカーだったらそういうことをやっていたと？

高橋　やりたいね（笑）。猪木さんなら絶対にもの凄いヒールできると思う。

——確かにそうですね、あの狂気で"狂える闘魂"って感じで。

高橋　狂える闘魂……いいですねえ！　だって僕が猪木さんと一緒にリングに上がってたときだって、猪木さんのあの怒りまくった顔を見てると、レフェリーやってる僕まですくみ上がったことありますから。それぐらい怖かったですから、あの鋭い眼光。「あれ、この人ストーリー忘れて本気になっちゃったのかな？」とか「ちょっと距離を置かないと俺もぶっ飛ばされちゃう」と本気で思ったから（笑）。

——高橋さんがそう思うぐらいなんですから、観客はみんなそう思いますよね。ヒールというと、高橋さんは約7年前に『流血の魔術　最強の演技』という本を出版されて、プロレス業界からヒール視されたじゃないですか。

高橋　あ、そうですか？　ちょっとわからないけど。

——いろいろ叩かれたりもしましたけど、そういう部分で後悔とかもありました？

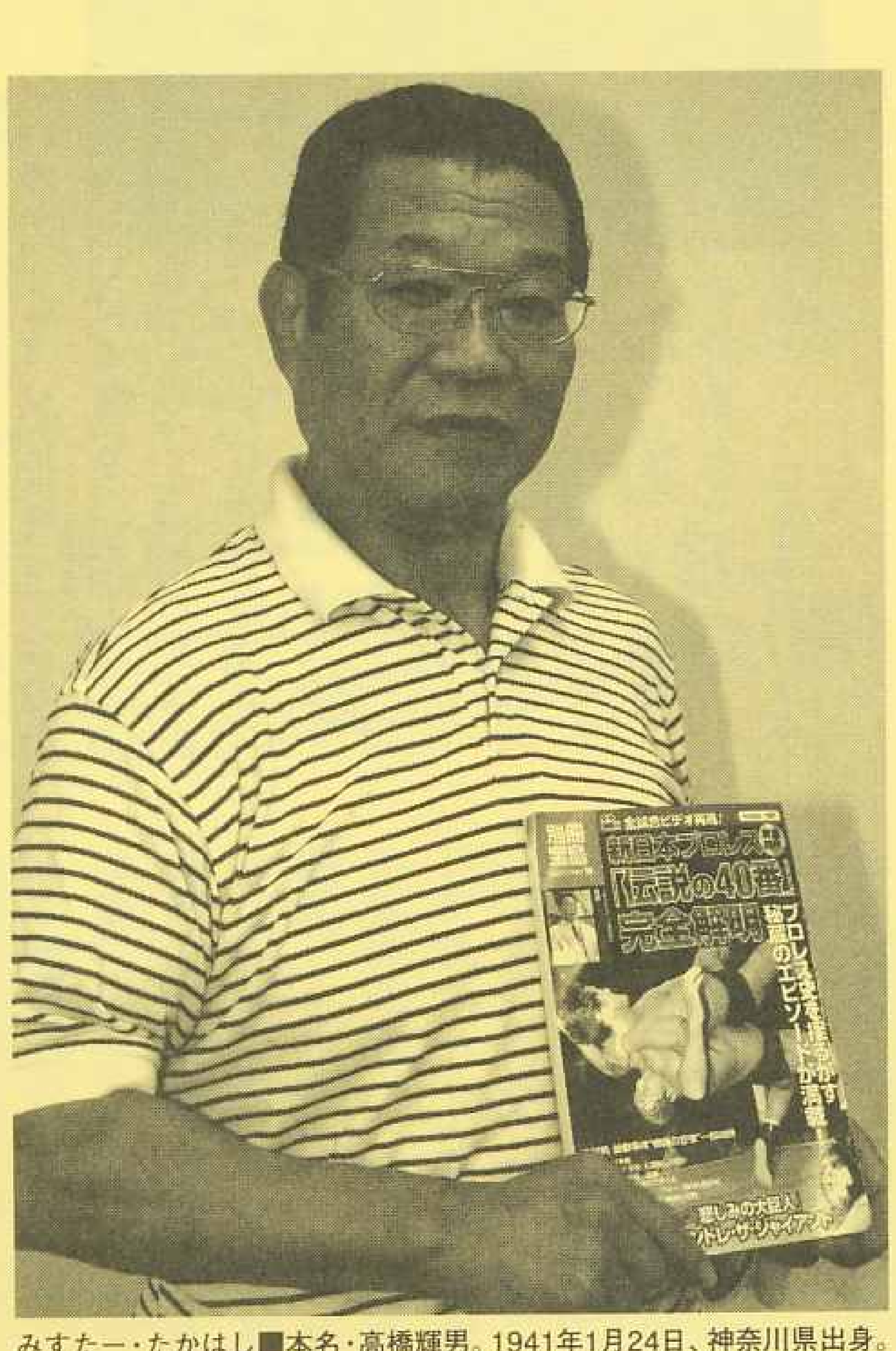
高橋　後悔なんて、よくそんなこと言うねえ。バカじゃないの、あんた？

——すみません。でも、そういうふうに言われたこととかないですか？

高橋　あるわけがない！　まあ、出した当初はね、そういうふうに思った業界の人もいるかもしれないけど、時間が経てば、僕がその中で書いてることをだんだん理解してきてるんじゃないかな。もう少し時間が経てば、そう思ってもらえると思ってますよ。

——そうですか。

高橋　それに、あの本を出したからプロレス界がお客さんの入り悪くなったわけじゃなくて、どんどん悪くなってきてるから、このままじゃダメですよということで、僕は提言した本だと思ってるんですね。ＷＷＥのようにキチンとカミングアウトしてやったほうが、いまのファンは安心して楽しんでくれますよ、と。真剣勝負でもないのに真剣勝負だって言い張ってると、そういうのはもうわかってるんだから。真剣勝負ではなく嘘だってなると、なんの業界だって通用しないじゃないですか。



みすたー・たかはし■本名・高橋輝男。1941年1月24日、神奈川県出身。元・新日本プロレス審判部長。98年のレフェリー引退後は高校の体育教師や小説家として活躍。01年12月に出版した新日本のケーフェイ話を赤裸々に明かした『流血の魔術 最強の演技——すべてのプロレスはショーである』（講談社）は業界に大きな波紋を投げかけた。近著は『新日本プロレス黄金時代「伝説の40番」完全解明』（宝島社）。

——ましてや、いまの時代だったらなおさら通用しないですよね。

高橋　そう。「プロレスにはちゃんと脚本があるんだ」って言っちゃってもかまわないはずだし、「ショーだ」って言っても恥ずかしいことじゃないんですよ。試合前に観客に台本の中身を教えるわけでもなんでもないんですから。「はたして今日はどんな凄いものを見せてくれるんだろうか？」ってみんな期待して観に来るじゃないですか。

——髙田さんも自伝を出して、いまはハッスルでこれが正しいかたちと信じてやって、ファンからも支持を得ていますしね。

高橋　あ、そう。だけど、やっぱり新日本プロレスは猪木さんのＤＮＡを引継いであのままの内容のプロレスを僕はやってほしいと思ってるんですよ。かたや西口プロレスだとか『マッスル』だとか、『ハッスル』もそうなんですかね？　ああいう演劇系だとかお笑い系だとか、いくつかのジャンルがプロレスの中に出てきたって僕はちっともおかしいことじゃないと思う。ファンは自分の好きなものをチョイスして、そこを観に行けばそれでいいんですから。

——高橋さんは西口プロレスもご存知なんですね（笑）。

高橋　去年、西口プロレスを初めて観に行ったんですけど、ホントに楽しかった！　腹の底から笑えたんでね。あんなに大笑いしたのは何年ぶりだっていうぐらいの。

——そんなに（笑）。

高橋　ああいうスタイルはあっても全然かまわないと思います。ただやっぱり、いつまでも「プロレスは八百長だ」なんて言わせないようにしていかないと。「真剣勝負だ」って嘘をつくから「八百長だ」って言われるんだから。最初から「ショーです」って言ったらそんなこと言われないわけですよ。

——まあ、そうですよね。

高橋　そんなことは言わせないようにしていかなきゃ。そして、もっと若い年代に興味持ってもらえるような内容に変えていかないと……。でもそうしていくうえで、やっぱり僕はヒールとベビーフェイスの対立というのが基本にあるべきだと思います。

——どんな映画でも主人公と悪役っていうのがないとつまんないですからね。

高橋　そういうことですよね。そういう意味では、徹底的に悪いヤツが出てこないかなあと思ってるんだけど。さっき僕が言ったフレッド・ブラッシーなんかもね、アメリカで観客に何回身体をナイフで切られたかわからないって言ってましたからね。でもそんなことにビビらないで翌日にはヒールやるんだから、たいした度胸だと思いますよ。

——腹が据わったホントのヒールこそがプロレス界をよみがえらせるということですかね。

高橋　そういうことだと思います。

——今日はありがとうございました。

【08年9月3日／『kamipro』編集部にて収録】



マット界の異端児が言っちゃった！

プロレス業界、一番悪いのは……おまえだ!!

幻の金メダリストにしてアウトロー評論家

谷津嘉章

プロレス界のヒールを語らせるなら、この男しかいない! 本誌ご意見番にして、その存在自体がアウトローとも言える谷津嘉章だ。かつてレスリングの五輪代表にもなり、海外修行を経て新日本プロレスでデビュー。その後は全日本、SWSなど日本の主要団体を渡り歩いてきたプロレス界の裏も表も知る谷津に独自のヒール論を語ってもらった!

聞き手／阿修羅チョロ

悪役とは何か?

谷津　で、今日のテーマはなんだっけ?

——今回は『kami・pro』のご意見番の谷津さんにアウトローというかヒールについて、たっぷりと語ってもらえればと思っています。

谷津　そりゃ、また壮大なテーマだな（笑）。

——谷津さんもヒールとして活躍されていた時期もありますし、存在自体が、ある意味アウトローと言えると思いまして。

谷津　そう言われると光栄と言っていいのか、ちょっと皮肉ってるのかわかんないけどな（笑）。まあでも、ヒールの条件を言うと、たとえばボクシング界、たとえば相撲界、俺はプロレス界の住人だけども、そんな中で元気な業界の中のアウトローの仕方と、まったく元気がない業界の中ではアウトローとヒーローの本質的な意味も違ってくるんだよな。そもそもヒーローとアウトローっていうのは紙一重の部分があるからな。

——そういうところはあるでしょうね。

谷津　そういう意味では、相撲の朝青龍やボクシングの亀田兄弟とかはいろんな話題があったから盛り上がってきたって側面はあるかもしれないけど、相撲界やボクシング界と違って、プロレス界っていうのはハッキリ言って業界自体がアウトローみたいなもんだからな（笑）。

——業界自体がアウトロー（笑）。

谷津　そうそう。聖域の中のアウトローって目立つんだけど、いまのプロレス界はヒールやベビーうんぬんよりも存在自体が世間に届いてないって難しさもあるよな。

——残念ながらそれは言えるかもしれませんね。

谷津　まあでも、そこで語れるのは俺しかいないだろ? そんなことないか（笑）。

——谷津さんしかいないと思います（笑）。

谷津　まあ、そういう意味では、プロレスっていうものをもう一度、世間様に認めてもらうには、馳（浩）みたいなのが大臣になって松浪健四郎と国会議事堂の前のロータリーで異種格闘技戦をやるとかしないと世間には届かない。

——そうかもしれないですね。

谷津　まあでも、プロレス界が世間で認められていないという現状でヒールだなんだって語っても、それはヒールって言うよりも変人になっちゃうんじゃないか（笑）。「何やってんの、おまえ! そんなワルぶったって誰も興味もたねえよ!」っていう。それにね、ヒールやアウトローをやるにしても、お金が絡むアウトローと、まったく根っからの生まれつきのアウトローは違うと思うんだよ。

——ギミックで作られたアウトローと天然のアウトローというのも、また違うでしょうね。

谷津　そういうこと。天然と養殖物とは違うと思うんだよな。

——プロレスの場合はほかのジャンルと違って、ギミックとしてヒールを演じる場合が多々ありますよね。

谷津　だから、プロレスの場合はヒールだとかアウトローっていったら豪快なイメージがあるからな。だから、逆に反面、異端児っていうか、クソ真面目とか、公的な人間が悪いことしないと「エッ、アイツがそんな悪いことしたの?」って、なんないと思うんだよな。

相撲やボクシングと違ってプロレス界は業界自体がアウトローだよな

——いまはヒールでも「じつはいい人」ってファンも知った上で楽しむ人が多いですからね。

谷津　そうだろ。だけど、そういう意味では相撲界やボクシング界は、いろんな意味で見てもプロレスほどのいいかげんさはないわけだよ。ボクシングにはコミッションがしっかりあるわけだし、相撲だって相撲協会があるんだからな。

——そこはプロレス界にはない部分ですよね。

谷津　やっぱり、プロスポーツの世界では八百長とかそういうことをよく言われるけど、それは許されない世界なんだよな。ボクシングっていうのはとくに。

——まあ、そうですよね。

谷津　一応、最近は亀田の活躍もあってエンターテイナーとして確立されてきたけどな。だけど、それはあくまでもエンターテイナーの域であって、実戦の部分では、まだ賛否両論があって、要するに亀田のお兄ちゃんが試合後リングに上がって「チャンピオンに挑戦だ」とかやっても、三面記事でお茶の間に取り上げられるような状況でしょ。

——お茶の間にもしっかり話題は届いてますからね。

谷津　それに比べて、プロレスはどうかっていったら、「そんなこと、プロレスではあたりまえだ」ってなっち

ゃうわけだから。

——シチュエーション的には、プロレス界ではああいった乱入劇は毎日のように起こりますからね。

谷津 だから、いまのプロレスでヒールだとか、アウトローを語るっていうのは難しいと思うよなぁ。……ちょっと現実的すぎるか？（笑）。

——現実的ですけど、それが現状でもありますからね。それこそ、猪木さんや馬場さんの時代だったら、また違ったんでしょうけども。

谷津 そうそう。あの頃のプロレス界は、まだそういうヒールだとかアウトローっていうのを語れるシチュエーションにあったんだよな。

——総合格闘技界でいうと、いまだったら〝ヌルヌル事件〟を起こした秋山（成勲）選手とかがヒール的存在として注目されているわけですが。

谷津 まあそうなんだけど、俺から言わせれば、まだ秋山君はそこまで成りきってないんだよね。

——本人はどちらかというと、ヒールという意識はないらしく、自分のことを「マイケル・ジャクソン」って言ってるぐらいですから（笑）。

谷津 あ、そう。いまどきマイケル・ジャクソンもねえだろって思うんだけどな（笑）。

——まあ、そうなんですけどね（笑）。

谷津 猪木さんみたいに、逆転の発想でファンのニーズを受け入れるっていうこともときには必要だったりするんだよ。だいたい、ブーイングされるっていうことは目立ってるってことでしょ。よくも悪くもプロの世界は目立ったもん勝ちってところがあるからな。

——確かにプロの世界は目立ってナンボの部分はありますよね。

谷津 そういう意味では、秋山はどっちかっていったら天然物のような気がするけど、ヒールになりきってやったほうが業界発展のためになると思うんだけど、まだできないんだよな。そこをわかってほしいよな。

——やはり、総合格闘技の世界にもヒールは必要だと思います？

谷津 絶ッ対必要！（キッパリ）。山本ＫＩＤ（徳郁）なんかも「俺は神の子」なんて言うのは現代人には、ある意味ヒールとしてウケると思うけどな。そういうことを大胆に、なんのためらいもなく言ってのけるってところがＫＩＤは凄いよな。ちょっと〝ＫＹ〟ってところもあるけど（笑）。



やつ・よしあき■1956年7月19日、群馬県出身。レスリング五輪出場の実績を持ち、その後は新日本、全日本、SWSなど、さまざまな団体で活躍。ヒールとしてはド派手なコスチュームの津谷章嘉の顔も持つ。186cm、110kg。

——ＫＩＤさんも最近はマリファナ疑惑報道やケガでの長期欠場もあって大変みたいですけどね。

谷津 彼なんかも天然養殖だと思うんだけど、マリファナ云々までいっちゃうとな、リアルアウトローになっちゃうからな（笑）。最近は相撲取りでもそういうのがいたでしょ？

——ロシアの力士が大麻で解雇されましたね。

谷津 そうなっちゃったら、さすがに相撲界でもシャレにならないからな。文部科学省の傘下に入ってるわけだから。まあでも、なんでもかんでも容認するのはおかしいと思うけど、そういう破天荒なヤツがプロレスやっても全然おかしくないと思うんだよな。……実際にいたけど（笑）。

——プロレス界は業界自体がアウトローってことですからね（笑）。

俺なんかの場合は ヒールというよりも、むしろ変人だろうな（笑）

谷津 ホントそうだよな。でも残念ながら、いまのプロレス界はみんなＪＩＳの規格マークに入ってるようなヤツばっかりだからさ（笑）。

——アハハハハハ！

谷津 本来、ヒールとかアウトローっていうのは規格外じゃないとな。世間様から見たら、決して容認はできることじゃないけど、そういうヤツがいてこそのプロレス界だと思うし。どっちかというと、いまのプロレス界っていうのは世間のサラリーマンと一緒で、規則で縛られちゃってるところがあるよな。

——サラリーマンレスラーなんて、よく言われたりもしますからね。

谷津 そういう意味では、俺なんかが思うのは、餌づけされてないヤツがホントのヒールとかアウトローだと思うんだよ。ただ、いまのプロレス界には悲しいかな、餌づけされてない人間ってなかなかいないんだよな。ヒールの要素を持った人間でも、年齢が増してくれば自己責任も生まれてくるわけでしょ。

——それこそ、結婚して子どもも生まれてきたりしますからね。

谷津 そういうのもあって、歳を重ねるとともに、だんだんと優等生になってきちゃうんだよな。だから、一貫してヒールやアウトローを貫き通すには、よっぽど天然じゃなくちゃできないよな。

——ちなみに、谷津さん自身はどうなんですか？ ヒールとしては津谷章嘉という顔も持っていましたが。

谷津 あったなぁ、そんなのも（苦笑）。まあ、俺なんかはアウトローというより変人だろうな（笑）。

——谷津さんは変人でしたか（笑）。

谷津 まあ、変人だとは思うけど、自分しか信じられるものはないからな。そういう意味では、まだまだヒールだとかアウトローというにはスケールが小さいですよ。結局は自己満足の世界だから、他人を見てれば影響されちゃうところがあるし、見ないようにしてるけども。まあでも、ここまで来ちゃうと、上のほうの人間から「こうしろ」とか「ああしろ」って言われても言うこと聞きたくないし、いまさら組織に入るのは無理だろうしな。

——そうでしょうね。

谷津 一瞬ならできるけど、それを5年も10年も続けられるかっていったら、それは無理な話だよな。

——そういうのもあってか、アウトローと言われるような人たちは一度は組織から飛び出しますよね。

谷津 そうだろ。やっぱり、プロレスラーっていうのは根本的に自由人だからな。建前論でアウトローのかたちをしてる人間もいるけども、実質、スピリットからいったら、やっぱり真のアウトローとは違うんだよな。そういう意味では、いまのプロレスラーはおぼっちゃまくんみたいなもんだと思うよ（笑）。

——いまのプロレスラーはおぼっちゃまくん（笑）。

谷津 ホントそう思うよ。

——そんな谷津さんから見た、プロレス&格闘技界のヒールのベスト10を教えていただければと思うんですが、いかがでしょうか？

谷津 う～ん、それもまた難しい質問だよな（苦笑）。まあでも、当たり障りがない答えをしても『ｋａｍｉｐｒｏ』的にはノーサンキューなわけだろ？（笑）。

——はい（笑）。多少、当たり障りがある答えでお願いします！

次のページで谷津の選ぶマット界のヒールベスト10を発表！
1位はなんと……!?

悪役とは何か？

存在自体がアウトロー



谷津嘉章が独断と偏見で選ぶ プロレス界“ヒール”ベスト10

このページでは谷津嘉章が選んだマット界のヒール・ベスト10を一気に発表！ ぶっちゃけ、選ばれても、あまり嬉しくないランキングのような気もしますが、そんなことは気にせずにいきますよ！ マット界の酸いも甘いも知りつくした谷津が選んだベストヒールは誰だ!?

構成／阿修羅チョロ



1位 力道山

あんなに破天荒に生きたプロレスラーはいないだろ

俺なんかは直接の接点はないけど、やっぱり1位は文句なしで力道山先生だろうな。だって、いままでのプロレス界であんなに破天荒に生きてた人はいないからな。時代の背景もあるけど、あれだけお金を動かしてきた人はいないし、あれだけ自由奔放にやった人もいないし、あれだけロマンを追った人もいないし、あれだけマイペースな人もいない（笑）。

それに生い立ちも凄いでしょ。なかば亡命して日本に来てるわけだから。そんな人は、いままでのプロレス界では一人もいないでしょ。

まあでも、いまのプロレス界と違って、力道山や馬場さん、猪木さんの時代のプロレス界っていうのは、ヒーローだったり、逆にアンチ・ヒーローっていうのが生まれる土壌にあったんだよな。いまはその土壌がないから比べるのもどうかと思うけども。当時はまだ社会的にプロレスっていうのは認知されてたからな。

まあ、そんな話を言っちゃうと極論になっちゃうけど、間違いなく力道山は英雄であり、本物のアウトローでもあったと思うよ。



2位 アントニオ猪木

正義の味方だけど、チョイ悪オヤジでもある（笑）

力道山とは、だいぶ差は開いちゃうけど、2位は猪木さんだな。猪木さんはもちろんスーパーヒーローでもあったと思うんだけど、存在的には異端児っていうかアウトローだと思うよ。

要するに正義の味方ではあるけど、どっかでチョイ悪オヤジみたいな感じでな（笑）。だからこそ魅力的だったのかもしれないけどな。

一方、猪木さんのライバルの馬場さんっていう存在はどうだったかっていうと、ヒールやアウトローではなかったと思う。逆に言うと、俺なんかはプロレス界のコミッショナーになるべき人じゃなかったかなと思ってたんだよな。それぐらい馬場さんは内外ともに顔は広かったし、人望も厚い人だったからね。

奥さんの元子さんをヒールと見てる人も多いかもしれないけど、馬場さんは恐妻家で尻に敷かれているように見せて、じつは亭主関白だったから。元子さんに好きなことを自由にやらせて、何かあったときだけ自分が出て行くって感じで寛大な人だったから。そういう意味では二人ともヒールっていう範疇ではないわな。



3位 ヒロ・マツダ

力道山とケンカして日本を捨てたっていうのは凄いよ

3位は意外と思うかもしれないけど、ヒロ・マツダさんかな。マツダさんは力道山と意見が合わなくて海外へ飛び出しちゃったという部分でアウトローでもあり、異端児だよね。かなり偏屈でもあったしな（笑）。

マツダさんにはプロレスのベーシックな部分を教えてもらった、ある意味、プロレスの先生でもあるんだけど、それ以外にもいろんなことを学ばせてもらったからな。

会う前も、あの力道山とケンカして日本を捨てたって聞いて、ただモンじゃないとは思っていたけど、ホントに生き様がアウトローって感じの人だったな。普通は海外遠征に行って、いくら向こうでブレイクしても日本に帰ってくることを考えちゃうんだよ。

どっちかっていうと俺なんかもそういうところがあったけど、マツダさんは「日本はもう捨てた」って言ってて、実際その言葉どおり帰ってこなかったでしょ。もう亡くなっちゃったけど、向こうに骨を埋めたってことは、そりゃあ完璧なアウトローと言えるだろうな。

4位 アンドレ・ザ・ジャイアント



ピュアで楽天家でもあり、一方で凄く孤独でもあった

ガイジンで本物のヒールといえば、やっぱりアンドレ・ザ・ジャイアントだろうな。アイツは存在自体が大きいというハンディキャップがあったり、いろんなコンプレックスを持ちながらも、凄くピュアで楽天家でもあり、一方ではモノ凄い破天荒だった。だけど、実際は孤独で、寂しさもあったんだと思うけど、宵越しの金を持たずにポンポンポンポンいろんな人におごってたんだよね。

最終的には寂しい死に方をしちゃったけど、そこも含めて、アンドレの生き方っていうのはホントにスケールの大きいアウトローだったと思うよ。

5位 ブルーザー・ブロディ



気むずかしい男だったけど、頭が凄くよかった

ガイジンではブロディなんかも本物のヒールだったと思う。最後は殺されたっていう部分も含めて、アウトローだったと言えると思うしな。

リング上では言うことを聞かないし、気むずかしいし、闘う側としてはイヤな相手ではあったけど、やっぱり頭が凄くよかった。パートナーのスタン・ハンセンはせこいところがあったから、アウトローとは言えないけどな（笑）。あと、ブロディは友だちもあんまりいなくて一匹狼的なところもあったけど、一方で凄く家族思いだった。アウトローには、そういうタイプが多いんだよな。

6位 ローラン・ボック



とにかくマイペースで凄く変わったレスラーだったな

もう一人ガイジンを挙げるとしたらローラン・ボックかな。アイツは凄く変わったプロレスラーだったな。とにかくマイペースで、リング上でもリングを降りても、言うことは聞かないし、ホントに自分の好きなようにしかやらなかったから。

そういう選手っていうのは扱いづらいし、だんだん使われなくなってくるんだけど、ボックは何も考えずに好き勝手やってるようでいて、自分の見せ方とか実力っていうのを認めさせる術を持っていたんだろうな。どこまで計算してたかはわからないけど、いいヒールだったんだと思うよ。

7位 グレート小鹿



レスラーというよりも商売人としてアウトロー（笑）

グレート小鹿さんなんかも凄いアウトローでしょ。プロレスラーとしては大熊（元司）さんと極道コンビとしてやってたけども、レスラーというよりも商売人的に見てアウトローというか（笑）。

小鹿さんはチャンコ屋をはじめ、いろんなビジネスをやったり、プロモーターとしても活躍してるけども、昔からいろんな揉め事が多い人でもあるからな（笑）。ただ、世渡りがうまいから、最終的には「頼むよ！」の世界で帳尻を合わせるんだよな。スケールの大きい小さいは抜きにして、生き様からいったら間違いなくアウトローだよな。

8位 ザ・グレート・カブキ

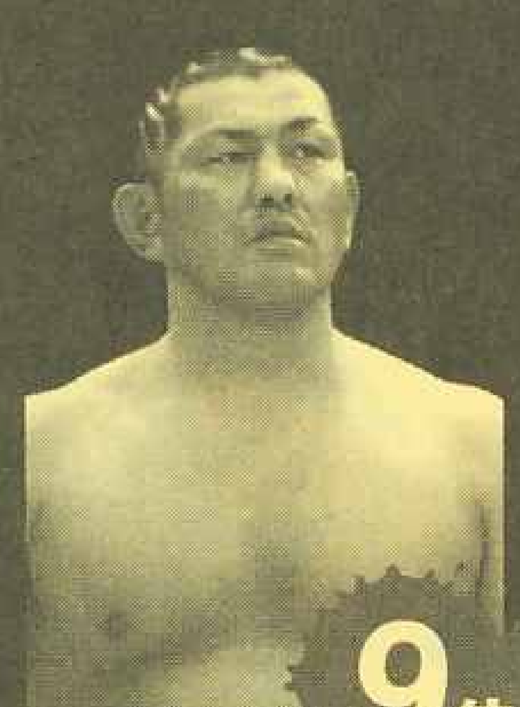


凄く器用で自己責任をまっとうしてる人だね

カブキさんなんかも独立独歩で生きてるアウトローって感じがするね。同じ団体にいたときは、あんまり仲良くもなかったけど、「どうしてるのかな？」ってなんとなく気になる存在なんだよな。

カブキさんは凄く器用だし、自分をちゃんと持ってるし、自己責任を自分でまっとうしてるからね。やっぱり、アウトローっていうのは何かあったら自分で尻を拭わなくちゃいけないんだよ。そういう意味でカブキさんはプロレス界でいろいろありながらも、恨みつらみは言わず、結局は自分の好きなことやって食ってるんだから凄いなって思うよ。

9位 鈴木みのる

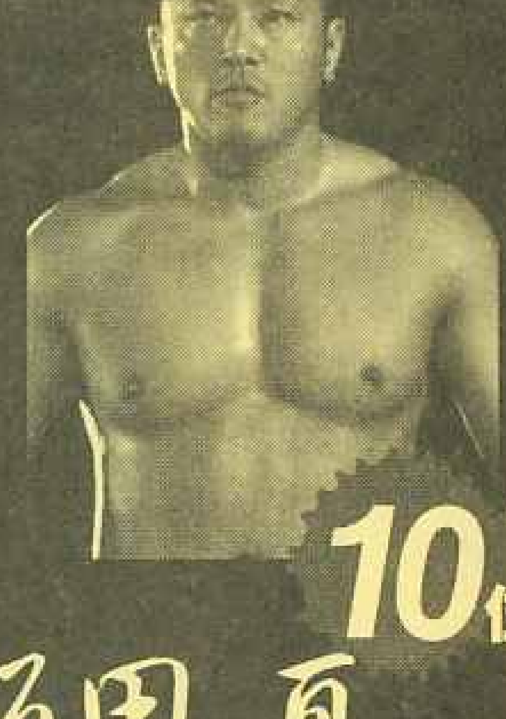


マジメにヒールをやってるって意味で評価できる

これは「業界的に」という但し書きがつくけど、鈴木みのるなんかも、いいヒールというかアウトローなんじゃないかと思うよ。キャラとして見たらアウトローだと思うけど、それを実践してマジメにやってるって意味では評価できるよな。

もう一人、「業界的に」と言えば藤原喜明もそうだな。やっぱり、アウトローとかヒールの定義っていうのは、俺から言わせてもらえば常にハッピーエンドの人生じゃダメなんだよ。そういう意味では組長もガンになっちゃったけど、それを乗り越えるアウトローっぷりを見せてほしいよな。

10位 坂田 亘



プロレス界の救世主になる可能性を持ってると思う

可能性を感じるって意味では、やっぱり小池栄子と結婚した坂田（亘）君なんかはいいと思うよ。

プロレス界が世間から注目されなくなってるいま、そういうきっかけを持ってるっていうのは非常に大きいと思うし、彼の言動もヒールっぽいところがあるでしょ。そういう意味では、逆タマ的な現象を逆手に取って「何が悪いんだ！」って開き直って、藤原紀香と結婚した陣内（智則）みたいにやっていけば、プロレス界の救世主になる可能性もあると思うよ。試合？　一回も観たことないんだけど、俺ぐらいになるとわかるんだよ（笑）。

番外編 『kamipro』



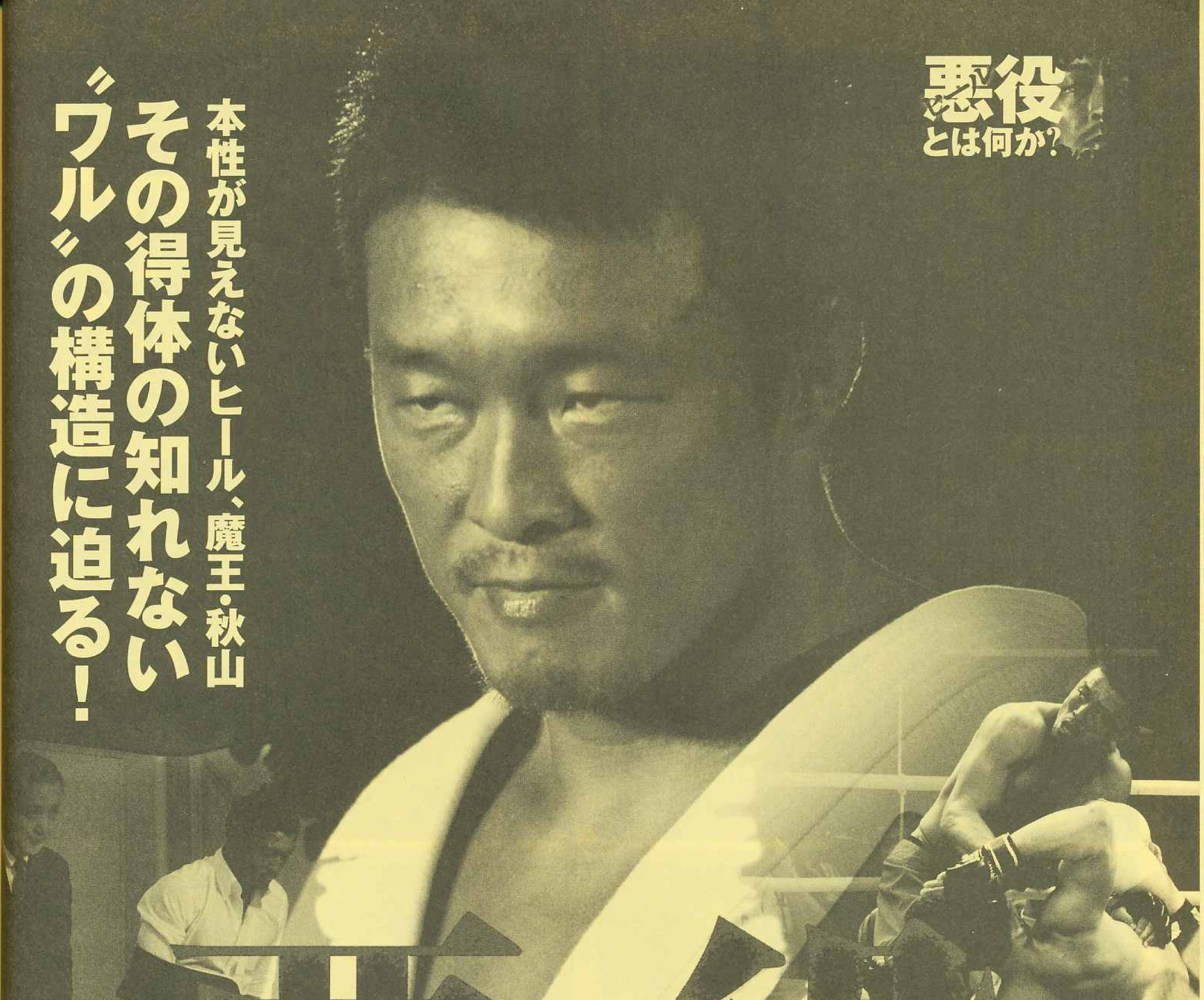
結論としては御社が一番のアウトローだろ（笑）

ここまでいろいろと名前を挙げてきたけども、結論としては御社が一番のアウトローなんじゃない？　ここ数年、プロレス界が落ちてきて、それこそ総合格闘技に押されてる部分もあるけども、そこの部分を育て上げてしまった『ｋａｍｉｐｒｏ』も業界的にはヒールかもしれないよな（笑）。

まあでも、プロレスっていうのは絶対廃れないジャンルだと思うし、また一風変わったオリジナリティを持ったレスラーが出てきてリーダーシップをとっていくと思うよ。それに期待するしかないんじゃない？　まあ、そんなところだな。

本性が見えないヒール、魔王・秋山

その得体の知れない“ワル”の構造に迫る!



悪役座談会

亀田一家に朝青龍、そしてダナに魔王・秋山……ついでにサダハルンバ。いずれもヒールとして広く浸透している存在だ。対立構造を盛り上げ、大衆を熱狂させる、このヒールという“極上のスパイス”の魅力とはいったいなんなのか? 話はヒールの在り方から善玉論にまで発展! マット界専門誌のヒール(?)『kamipro』が“ワル”を気どって語り倒します!

試合写真/乾晋也、山口比佐夫、Josh Hedges(UFC)

――今回はヒール特集ということで、「ヒールとは何か？」について語っていきたいと思います！

ガンツ それについては、今号で長州力御大がちゃんと答えを出してくれてますよ。「（タイガー・ジェット・）シンでいいよ」って（笑）。

斉藤 ああ、早くも結論が出た（笑）。

ガンツ ヒール＝シン。反論の余地が一切ない、シンプルでズバリな答え（笑）。

井上 でも、悪と悪役って違うよね。

ガンツ まあ、「悪」という役を演じてる、もしくは買って出てる人と、元から悪い人は違いますよね。

――先天的に悪なのか、後天的に悪役を選んだのかっていう。だから今回いろんな方に取材するにあたって、「ヒール」とか「悪役」の企画です、とはなかなかストレートには言えないんですよ。「アウトロー」とか違う表現を使ったりして。

井上 アウトローならちょっとカッコいいじゃん、と（笑）。

斉藤 最初はそう伝えておいて、取材現場で「今回、アウトローというか……（小声になって）ヒールというものを……」みたいに語尾を濁しながら（笑）。

ガンツ 取材申請書も「アウトローとは何か（仮）」とか遠回しになっていたり。

――本人は自覚がないのに「ヒール」って言われても、ちっとも嬉しくないですもんね。

ガンツ ただ、大前提として興行においてヒールは必要不可欠というか、もともとスポーツやエンターテインメントの多くは、「ベビー vs ヒール」という構図で成り立っている場合が多いですよね。スポーツにおける「ホーム vs アウェー」は、そのまま「ヒール vs ベビー」だし、映画でも勧善懲悪劇というのは、文字どおり悪役が存在するわけだから。そしてプロレス界は、「ベビー vs ヒール」が、あらゆる興行の基本だとわかっているからこそ、「ヒール」という存在をあえて作り出したんだろうしね。

――日本におけるプロレスは最初期の力道山の頃からアメリカという敵を設定した勧善懲悪劇でしたから。

ガンツ それが一番簡単で普遍的だから。要は大衆は悪いヤツがやられるところを見たいんだし。それはワイドショーなんかでも一緒でしょ。いま、芸能人でも企業の社長なんかでも、不祥事があると謝罪会見を開かされて、記者に徹底的に糾弾されるところをテレビで放送してるけど、あれなんかまさに「ヒールがやられるところを見てる」っていうことだと思うから。

斉藤 ただ、最近は悪と悪役の境界線が曖昧ですね。シンは悪役を超えて瞬間的にホンモノの悪になるっていう幻想はありましたが、そもそも昔のプロレスって悪役そのものが悪と思われてたわけじゃないですか。

――ある意味、いい時代ですよね。ヒールがまんまヒールとして機能していたわけですから。

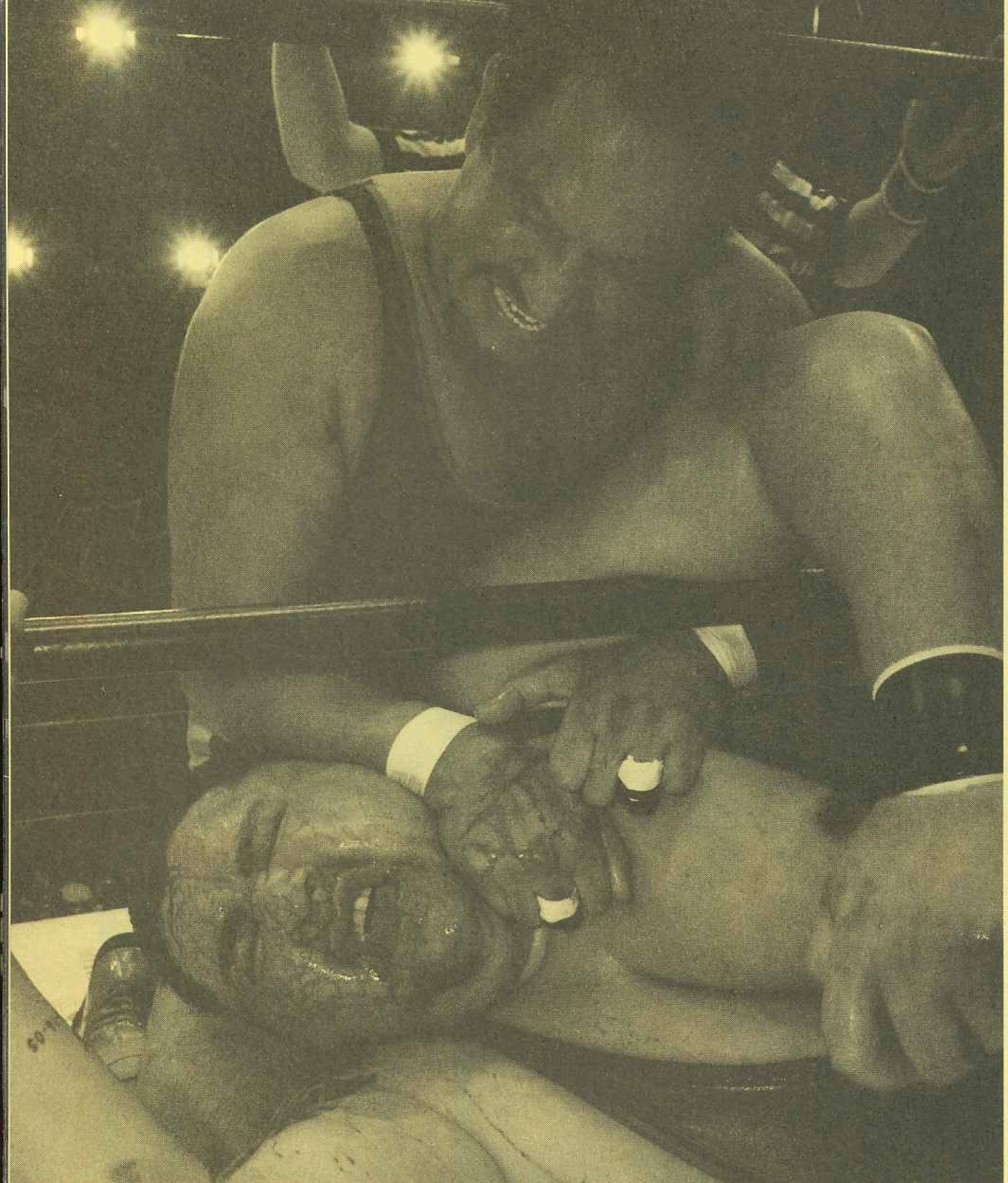
ガンツ 悪役も絶対に善の部分は見せないようにして。リング上だけじゃなく、ホントに悪いヤツなんだっていうことをプロとして貫いていたよね。

斉藤 だからこそ、ファンも本気で怒ったりブーイングしたり。有名な話だとラッシャー木村が国際軍団として新日に参戦したときに、自宅に熱狂的な猪木ファンが嫌がらせで物を投げたりして……。

井上 飼い犬がノイローゼになったって話ね。

斉藤 あれは悲しい気分にさせるエピソードですねぇ。

ガンツ ラッシャー木村は悪いことはしてるけど、子ども心にもいい人感が滲み出てる感じがしたけどね。



日本マット界で30年以上にわたり活躍、現在は『ハッスル』を主戦場とする"ヒールの代名詞"タイガー・ジェット・シン。ちなみにトロントで事業に大成功、現在は漫画のような大豪邸に住む実業家の一面も併わせ持つ。まさに憎まれっ子、世にはばかる？

昔は悪役そのものが悪だったが 最近はその境界線が曖昧になっている

座談会出席者

井上崇宏
有限会社ベールワンズ総帥。本誌好評企画・変態座談会の一員にして"座談会の鬼"の異名を誇り鈴木みのるばりにあっちこっちの席に出没する。

ジャン斉藤
本誌編集長。"雀鬼"桜井章一の内弟子を経て『kamipro』入り。永久電機など、アントニオ猪木の怪しげな事業の調査をライフワークとする。

堀江ガンツ
本誌編集部。ちっちゃな頃から熱狂的プロレスファンでならし、『週刊プロレス』の『プレッシャー』会員という恥ずかしい過去を持つ。変態座談会主宰者。

［司会］真下義之
本誌編集部。某世界的アーティストの内弟子を経て『kamipro』入り。『kamipro.com』のポッドキャスト『mimipro』では"笑い屋"として活躍中。



UFC以外のMMAイベントに対する痛烈批判の数々と、MMAの"首都"を日本からアメリカに移転した男としてヒールっぷりを発揮するダナ・ホワイト。その存在感はまさにMMA版ビンス・マクマホンだ!

大衆をエキサイトさせるためには ヒールはある程度金持ちじゃないと

それでも、ヒールはそういう目に遭う宿命にあるという。

斉藤 いまヒールといえば秋山成勲や亀田興毅ですけど、悪がそのまま悪役になったり、悪役をやってるうちに悪になったりとか、もしくは悪と悪役が〝まだら化〟しているから観客もどう捉えていいのかわからないんですね。

ガンツ いまは情報過多でいろんなものが透けて見える時代だから、プロレス的な「悪〝役〟」という意味でのヒールは、成り立ちにくいよね。

――ネットなんかで、〝じつはいい人〟というのがすぐに透けて見えちゃいますから。

ガンツ だから、そういう意味では悪を悪役に仕立てるっていうのがヒールを作る手っとり早い方法なのかもしれない。

井上 それに、いまは善玉と悪役のポジションすらもあやふやじゃない? 昔は実社会でも正義と悪がもっとはっきりしていて。

ガンツ たぶん昔の悪役は「私は悪という人生を歩むことに決めました、ファンが話しかけてきたら殴ります、それは私が悪だから」っていう心構えがあったんでしょうね。任侠の世界に入るのと同じように。娑婆との縁を切るみたいな。

斉藤 亀田の場合はそこに迷いがあるんでしょうね。

ガンツ 秋山にしても亀田にしてもヒールのつもりはないでしょう。「俺、スーパースターのつもりなのにどういうこと?」みたいな。

斉藤 いや、亀田は悪役的ギミックを演じる気はあったんだけど、あまりにもバッシングを受けたんで「そんなつもりじゃなかったんやけどな……」っていうのがあって。

――ちなみに読者から「あなたが一番〝ヒール〟だと思う存在は?」というテーマでアンケートを集めたところ、ダントツで〝魔王〟が1位という、非常にらしい結果が出たんですが。

井上 秋山がトップっていうのは格闘技雑誌だからだよね。

ガンツ それ以外に挙がってる名前も妥当な線かな。

井上 このメンツを見てると全体的にみんな金持ちだよね。そこがたぶん一般大衆をエキサイトさせる部分なんだと思うよ。

ガンツ うまいことやって金つかみやがって、みたいな。

井上 ある程度金持ちじゃないとなかなかヒールな存在にはならないんじゃないかな。亀田もTBSのゴールデンで放送されるような存在じゃなかったら、「ああいうタイプってボクサーにいそうじゃん」みたいに普通にスルーされそうだし。

ガンツ でも、リストの中にターザンと夢香という無職カップルも入ってたりしますけど(笑)。

井上 それは例外、っていうか論外だね(笑)。やっぱりいまってネットが出現してあらゆる情報が氾濫した

古今東西のヒールが大集合! 『Kamipro Hand』アンケート結果発表!

(アンケート期間8/22~9/4)

Q マット界に関わらず世間一般を含めて、あなたが一番〝ヒール〟だと思う存在は?

秋山成勲――292票
理由▼あれだけブーイングをあびる選手はいませんし▼ヒールではなくただの悪。人間的にどうかと思う点が多過ぎる▼日韓をズル賢く渡り歩いているから▼何でも一流にこなし、それでいて謙虚さがまったく感じられず自信満々だから▼秋山はある意味期待のできるヒールでマット界には必要。

ダナ・ホワイト――60票
理由▼そりゃ我らが誇りを粉々に砕いてくれたダナがダントツです!!▼キャラ立ちが素晴らしく、毒づきながら正論を吐く様はまさにリアル高田総統▼ジャイアンよりもジャイアンだから。

朝青龍――58票
理由▼憎たらしいくらいに強いから▼秋山成勲よりもナチュラルに存在そのものが悪▼その図太さがまさに歴代屈指のアウトロー横綱!

谷川貞治	43票
亀田一家	42票
福田康夫	40票
星野仙一	30票
金正日	28票
ジョージ・W・ブッシュ	26票
TBS	19票
GBH	18票
前田日明	15票
石井彗/アントニオ猪木	14票
タイガー・ジェット・シン	13票
北京五輪で審判に暴行したキューバのテコンドー選手	12票
渡辺恒雄/伊良部秀輝	11票
小泉純一郎	10票
山本〝KID〟徳郁/田村潔司	9票
小川直也/ロレンゾ・フェティータ	8票
オサマ・ビン・ラディン/上田馬之助	7票
ドン・キング/アメリカ	6票
週刊現代/加護亜依	5票
ボブ・サップ	4票
セーム・シュルト	3票

以下、1票(順不同)▼ミルコ・クロコップ/大仁田厚/マイク・タイソン/クイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソン/永田裕志/北尾光司/細木数子/アルカイダ/金平会長/島田裕二/江頭2:50/石原真理子/島田紳助/北の湖/プーチン首相/角田信朗/麻原彰晃/篠原信一/イチロー/アブドーラ・ザ・ブッチャー/沢尻エリカ/ジャイアント馬場/小沢一郎/ターザン山本!/夢香 ほか

からなのか、どんな分野でも価値観
斉藤 お金か……生々しいですね。
斉藤 ターザンのことはさておき、――そういうところはありますね。
をクリアするのは難しいですよ!

秋山には韓国という"ホーム"があるから日本で倒されても戻って復活してくる

からなのか、どんな分野でも価値観が多様化してる中で、ヒールがベビー扱いされたり、逆にベビーがヒール扱いされたりする部分があったりするよね。最近だと秋葉原通り魔事件も「犯人の気持ちがわかる」とか言いだすヤツもいて、完全なる悪を支持する側もいるわけだし。でも、唯一昔と変わらない万人が共通の価値観を持ってるものがお金なわけで。だから、大衆は悪いことして金も持ってるヤツに対しては容赦ないっていうか、一斉蜂起して潰しにかかるよね。

ガンツ それこそホリエモンとか。

井上 そうそう。金持ってるヤツってのが一番ヒールになりやすい。ちょっとでも失点があれば、マスメディアはすぐにそいつをヒールに仕立て上げちゃう。でも、それが大衆が一番受け入れやすい情報なんだから優先順位としては当然の話で。

斉藤 谷川さんの批判のされ方も「格闘技を金儲けの道具にするなんてとんでもない!」っていうところはありますからね。でも、極論すればなんの仕事をしたって金銭は発生するわけですし、谷川さんが金儲けだけを狙ってるふしは捨てがたいのですが(笑)、そこで感情的になるってことは、やっぱりお金の匂いに敏感なんでしょうね。

井上 初期の『ハッスル』も存在自体がプロレス界にとってヒールだったもんね。

ガンツ あとはSWSとか。

斉藤 お金か……生々しいですね。でも、それが正解なのかも(笑)。

井上 でもマスメディアはあらゆる事象を叩く際に、お金っていうキーワードは絶対出さないし、一般大衆も絶対ストレートには出さない。で、お金以外の直接的な正義でもって叩く。

――そう考えるとSWSに天龍が移籍したときの『週刊プロレス』の「義理人情よりプロはお金であることが証明された」って表紙は衝撃的でしたよね。まさにターザンの手のひら返しの真骨頂って感じで(笑)。

井上「お金に執着してるのはおまえだろうが!」っていう(笑)。だからターザンってやっぱりマスメディア向きじゃないんだよね。独自性のあるこのジャンル内でしか通用しない論調っていうか、まあインターネット以前だから通用したのか、画一化された価値観をさんざん叩き込まれた義務教育から明けて間もなかったからなのか、我々当時のプロレスファンもすっかり乗せられて(笑)。

――おもしろいけど業界誌の編集長としたら、とんでもない。

斉藤 ターザンのことはさておき、このアンケートだと秋山が唯一ヒールとしてなかなか本性が見えないっていう部分で、得体の知れなさを感じるんですよ。

井上 この業界内で、ちょっと昔のヒールといえば北尾光司だったけど、ヤツの振る舞いや長州に言ったとされる民族差別的な発言って、単純に無知な幼児タイプというか。秋山の場合はある意味大人の社会性を持ち合わせてると思うんだけど、その価値観だったり思考パターンだったりが完全に多数派とは相容れない部分があって、常に文化摩擦みたいな衝突を起こしちゃうっていう。



01年の『INOKI BOM-BA-YE』の高額出場オファーを蹴ったことから、師匠・猪木に銭ゲバ呼ばわりされた小川。その銭ゲバキャラをモチーフに、『ハッスル』のリングでは"セレブ小川"としてヒールターンしたことも。

――ていうところはありますね。

井上 朝青龍の場合は単純に外国人だから文化の違いで納得できる部分も多々あるけど。

ガンツ だから格闘技界にいままでにいないタイプなんですよね。こっちが応援しようにも、応えてくれそうもないし(笑)。

井上 北尾なんかは高田延彦にハイキックでKOされた時点でまるでそっち系の施術を受けたみたいにすっかり人格が矯正されちゃったところがあったけど(笑)、秋山は三崎和雄のサッカーボールキックでもどうにもならなかったもんね。

ガンツ へっちゃらでしたもんね。だからこそ、いまでもヒールとしての鮮度を保っているというか。逆に言うと、亀田の話題が一段落したのって、頭丸めて謝罪会見を1時間以上やったのがきっかけだよね、めった打ちに制裁されて。「はい、悪は滅びました」っていう退治された感があった。その点、いつまで経っても秋山って倒れてくれないっていうか。

井上 おそらく秋山には韓国という"ホーム"があるからだよ。「こっちじゃマイケル・ジャクソンなんだぜ」っていう部分が。

――在日4世の秋山は韓国で大人気ですからね。コマーシャルにもバンバン出演してて。

斉藤 だから、秋山成勲の"本体"って、きっと日本にいないんですよね。何度も何度も倒しても、『ドラクエ』のボスキャラみたいに形態を変えて復活してくる感じだし、そのうえ難易度でいえば、『悪魔城ドラキュラ』や『魔界村』クラスですからね。これをクリアするのは難しいですよ!

井上 そう、いつでも日本人の手の届かないところへ行けるんだから。

斉藤 たぶん日本で倒されたとしても、また韓国に戻って復活してきますよ。ホームとアウェーを往復することで、何度でもリセット可能って感じで。

井上 俺、亀田興毅が謝罪会見やったときにちょうど『HERO'S』の取材で韓国に行ってたんだけど、海外にいるとそういう情報が耳に入ってきてもどうでもいいんだよね。「きのうまで一緒になって盛り上がってたけど、なんとローカルな話題だこと」みたいな(笑)。ちょっとお隣の国に移動しただけで、そんな意識になっちゃうんだもん。

斉藤 ひとたび喧騒から離れると。

井上 そうそう。もしかしたら秋山もその感覚があるのかも。「どうでもいいじゃん」みたいな感じで韓国で息抜きしてるというか。亀田一家だってよくメキシコを行き来するしね。調べたら、「ヒールは海外がお好き」っていうデータが出るかもしれない(笑)。

斉藤 なんにしろ、こういうヒールと呼ばれる存在がいなかったらそれはそれで寂しくなるでしょうね。

井上 まあ、悪がいないと善もなんなのかわかんないし。

ガンツ それは神話の時代から変わらない気がしますね。桃太郎にしても「人々を苦しめる鬼を退治してほしい」って頼まれてベビーになるわけですし。

井上 でも、人々を苦しめたなんて人間側の都合でしかない可能性もあるじゃん。もしかしたら鬼は鬼ヶ島

ヒールの在り方に関してはもっとプロレスから学んだほうがいい

でひっそり暮らしてたかもしれないよ、なんも悪いことしてないのに。

斉藤　鬼目線からすると、桃太郎って鬼の楽園を荒らしてるだけなんですよね。人間側から書いた物語だから、桃太郎がベビーだけど。

井上　そうそう。あれ侵略戦争だよね。だから現代だったらあの作品は完全に鬼が主役ですよ。映画になったら、絶対に鬼目線で作るでしょ。鬼側からしたら桃太郎なんかトップヒールだよ。桃から生まれたなんて、超怖いし（笑）。

斉藤　だいたい、キジとイヌとサルの手下にするのに報酬は、キビダンゴだけですよ？　それで桃太郎本人は財宝を手にしてるんですからね。サダハルンバ以下の悪党ですよ（笑）。

ガンツ　そういう反対側から見たらベビーとヒールが逆転するって、格闘技の世界でもありますよね。たとえばサクなんて、〝グレイシーハンター〟として大ベビーフェイスになりましたけど、グレイシーが好きな格闘技ファンは「あんなふざけた闘い方しやがって」って、桜庭が大嫌い、つまりヒール視しているという。つまり〝鬼側の視点〟から見れば、サクもヒールなんですよね。

井上　PRIDEのブレイクも、グレイシーというヒールを倒すという構図から始まったけど、それも別角度で見たら桃太郎の鬼退治的でもあったわけね。

ガンツ　だから秋にDREAMの韓国大会が噂されてますけど、ここで秋山vs日本人戦があったらおもしろいですよね。秋山が大ヒーローとして君臨してる世界。つまり桃太郎vs鬼が、鬼側の視点になる世界なわけだから。

井上　韓国っていまだにワンサイドに乗る世界って感じするよね。

――あらゆる事象の騒ぎ方にはそんな感じはしますね。

井上　それはある意味幸せというか。それがなぜなのかは知らないけど、そういう意味で昔はみんなもっと〝無知〟だったんだよ。無知だったから国民的スターなんて人も存在したし、もっと世界がロマンチックに見えた。

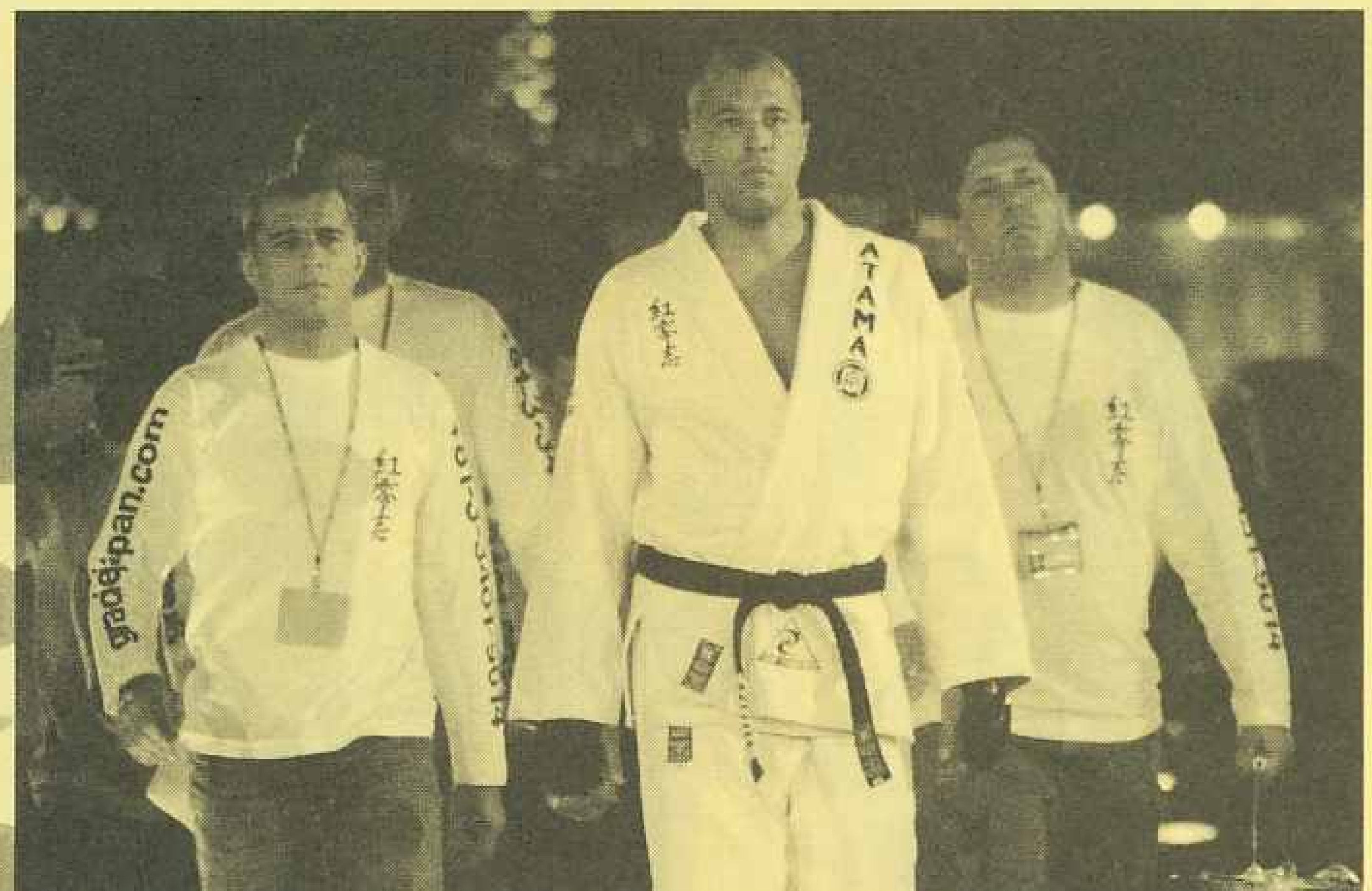
斉藤　全身全霊を懸けて乗れるわけですからね。迷いなく。

井上　そうそう。だから偉大なスターもヒールも無知から生まれるもんだよね。オウムだってわかんないよ。いまだったら個々のレベルにしろ、オウム支持って声もあるかもしれない。

――あのときでさえあったわけですからね。

ガンツ　そこまではいかなくても、たぶんエンターテインメントの世界だと、もうアンチヒーローみたいなヒーローばっかりで。いまやってる映画なんかも、『ダークナイト』とか、そんなのばっかり。『スーパーマン』みたいなのんきな映画はヒットしないですよ。

――必ずヒーローが苦悩しないとヒットしないんですよね。能天気なヤツはいない。



PRIDEブレイクのきっかけとなった桜庭vsグレイシー一族の抗争劇。とくに00年の『PRIDE GP』におけるホイスとの60分以上にわたる伝説の死闘では、ホイス陣営が戦前からルールにクレームをつけるなどゴネたため、そのヒールっぷりが沸騰!

井上　しかし俺、ここ数年実社会で完全なるベビーフェイスに会ったことないんだよなあ。

斉藤　ちなみに井上さんにとってのベビーフェイスってなんですか？　桜庭和志とか？

井上　ノーコメント。

斉藤　ダッハッハッハ。まあ、一つだけ言えることは。ベビーは不在でも、ヒールは成り立ちますよね。

ガンツ　秋山なんかはまさにそうですよ。ただ、日本ではこんなにヒールとして突出してるのに、会場の煽りVTRと『kam・ipro』以外ではヒール扱いされてないっていうのが凄いですよね。ファンがあれだけブーイングしてるのに、雑誌とかテレビでは、全然ヒールじゃないんだもん。あれは不思議。

――この情報化社会に大衆の声と完全に引き裂かれている異様な状況で。

斉藤　たまにニュースや雑誌なんかで「秋山はじつは好青年！」という記事が出ますけど、そりゃ取材で会えば挨拶ぐらい誰でもするはずなんですが（笑）。

井上　いいところ見つけたって、そこかって（笑）。

ガンツ　その「秋山はヒールじゃありません」みたいな暗黙のルール的なものを、みんなで守らなきゃみたいなのは不思議だよね。おもいきりオフィシャル側なのに、おかまいなしに暴走してる佐藤大輔も凄いんだけど（笑）。

斉藤　でも、これって周りから見ると、「秋山は金持ってるから『kamipro』が叩いてる」とか思われるんですかね？

井上　そんなことはないでしょ（笑）。

ガンツ　全然叩いてないもんね。ヒールの魅力を語ってるだけなんだけど。ただ、秋山のヒール性って、ただヌルヌル事件を起こしたっていうことだけじゃないから、世間に届かせにくいっていうのはあるよね。

斉藤　たぶん世間からすると、わかりづらいですね。会場ではブーイング、テレビではヒーローとして扱おうとする。そこがねじれて意味がわからない気持ち悪さがある。そのムードがヒールに見えてしまう大きな要素としてあるんじゃないかと思うんです。秋山はもともと悪の素質があるんでしょうけど、いま秋山を悪と感じさせているのは、その周辺環境のせいは多分にあるはずですよ。簡単に言ってしまうと「プロテクトしている」んじゃないかとか。

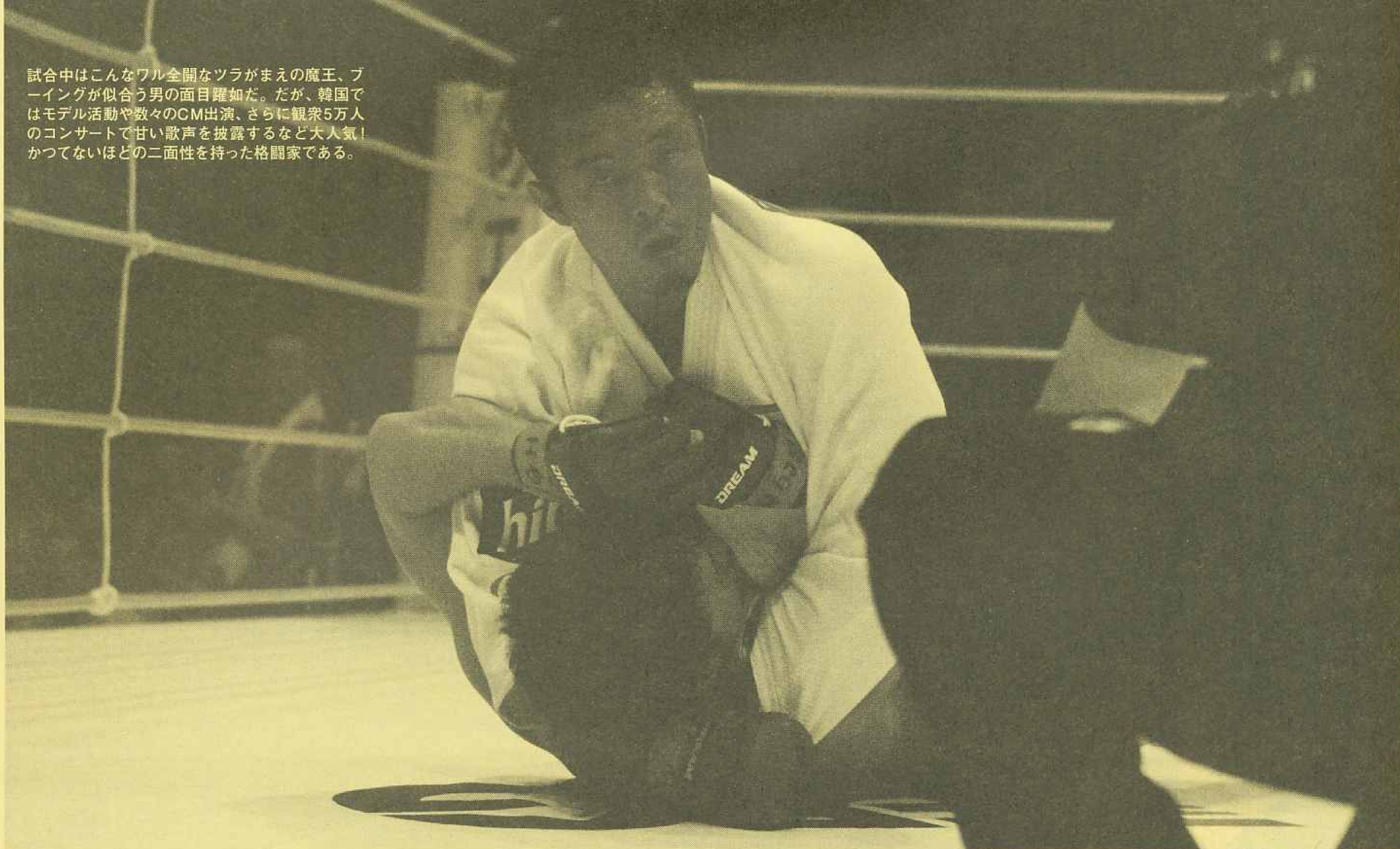
ガンツ　ヒールの在り方に関してはもっとプロレスから学んだほうがいいと思うんだよね。昔、ジャンボ鶴田がブーイング浴びてたときがあったじゃない？　で、ジャンボが開き直ってヒールになったら、あっという間に人気が出たもんね。

――ああ、善戦マン的なイメージから、一気に自己を怪物化させたあのヒールターンは見事でしたね。

ガンツ　たぶん「ジャンボはウチのエースだから」って、ずっとチャンピオンのまま勝てる外国人と防衛戦やらせてたら一向に人気出なかっただろうと思うな。〝強いヒール〟ジャンボだからこそ、大ベビーフェイスに返り咲いたんだから。秋山だって、あれだけ強いんだから、もっと〝強いヒール〟を極めれば、一周して人気者になる可能性もあると思うんだけどな。いまのまんま、嫌われてるのにベビー気どりだと、いつまで経ってもヒールだろうけど。

――いまは秋山の周りで役者になる選手が弱いんですかね。

ガンツ　天龍になる人がいないっていうか、秋山に真正面からケンカを売る強い選手が出てきてほしいよね。



試合中はこんなワル全開なツラがまえの魔王、ブーイングが似合う男の面目躍如だ。だが、韓国ではモデル活動や数々のCM出演、さらに観衆5万人のコンサートで甘い歌声を披露するなど大人気！ かつてないほどの二面性を持った格闘家である。

いまこそヒールとして、悪役として人生を送るような人に出てきてほしい

斉藤　なかなか試合が決まらないのも、秋山ってDREAMには出なくてもべつに困らないからだと思うんですよね。自分を英雄として扱ってくれる韓国という強い後ろ盾があるわけですから。

ガンツ　そうやってるうちに、日本から秋山がいなくなったら寂しいよね。韓国MMA市場がもっと大きくなって「もう日本じゃなくていいじゃん、バイバイ」ってなったら「秋山、帰ってきて！」ってなるよ。最終的に鬼を退治できなかった桃太郎なんて、物語にならないからね（笑）。

斉藤　秋山以外でこれからヒールとして可能性がある人っています？

――突出した異端児という意味で、青木真也がキャラ的にはヒールのほうが似合うんじゃないかって声がありますけど。

ガンツ　むしろ青木は大ベビーになれると思うんだよね。いまヒール的に映ってるのって、要は古い格闘マニアたちが「俺たちに挨拶がない」みたいな感じでしょ。「だからこいつ認めない」みたいな単純構造で。そんなの飛び越えちゃえばいいわけだから。

斉藤　ウチでやった青木vs宇野戦のマスコミ・関係者アンケートも「宇野くんは挨拶してくれたから」みたいな感じなんですね。青木真也は、まず〝大御所〟の皆さんへの挨拶から始めたほうがいいのかもしれません（笑）。

――ヒョードルって強いし、お金も絶対持ってるけどヒールではないですよね。

井上　ヒョードルはなんとなく取り巻きに搾取されてる感じがいいんじゃないの？（笑）。まあ、それ以前に悪いことしてないし。

ガンツ　ヒョードルって、ほかのトップ選手と違ってヒョードル信者みたいなファンがいないタイプじゃないですか。だから、アンチも生まれにくくて、すなわちヒールになりにくいんじゃないかな。

――その感情を移入させない感じってなんなんですかね？

斉藤　要するにスキがないということじゃないですか。ヒールってスキがないとダメですよね、こっちが突っ込みを入れやすいというか。そういう点じゃあ、夢香なんてスキだらけですけど……。

井上　夢香はワルだよね（笑）。

ガンツ　誰もうらやましいと思ってないのに「うらやましいでしょ？」ってアピールしてるところがイライラするんだよね。ああいう嫌味とか皮肉が通じないヤツって手強い。

斉藤　そこは秋山と一緒だ（笑）。関係者に「マイケル秋山」って呼ばれてまんざらでもなかったっていう話を聞くかぎりは。

井上　ターザンも「貧乏だ、貧乏だ」っていうわりには、『ターザンカフェ』だけで20万だかもらってるんでしょ？　それはそれでなんかカチンとくるよね（笑）。

ガンツ　それを言うなら歌さん（ターザンの元マネージャー・歌枕力）なんてあの打ち込みだけで20万もらってたっていうのも凄い。

――しかも誤植や打ち間違いがハンパなかったという（笑）。

ガンツ　歌さん、凄いよ。ターザンワールドからフェードアウトしたのにまだヒールなんだから。

井上　いやいや俺、ここの編集部に来なきゃ歌さんのことなんか思い出さないよ（笑）。

ガンツ　素晴らしい根っからのヒールだよね。たとえ鬼ヶ島でも嫌われてるんじゃないの？（笑）。

――じゃあ最強のヒールは歌さんということで？

ガンツ　そのオチはマズイですね（笑）。話を無理矢理戻すと、いまこそヒールとして、悪役として人生を送るっていうような人に出てきてほしいね。

斉藤　格闘技の場合だと旬が短いから、その瞬間だけでも。ちょっと話はずれるかもしれないですが、その点、長いこと自分を貫いている田村潔司は凄いですよね。ブレない。

ガンツ　〝俺流〟でなびかないよね。

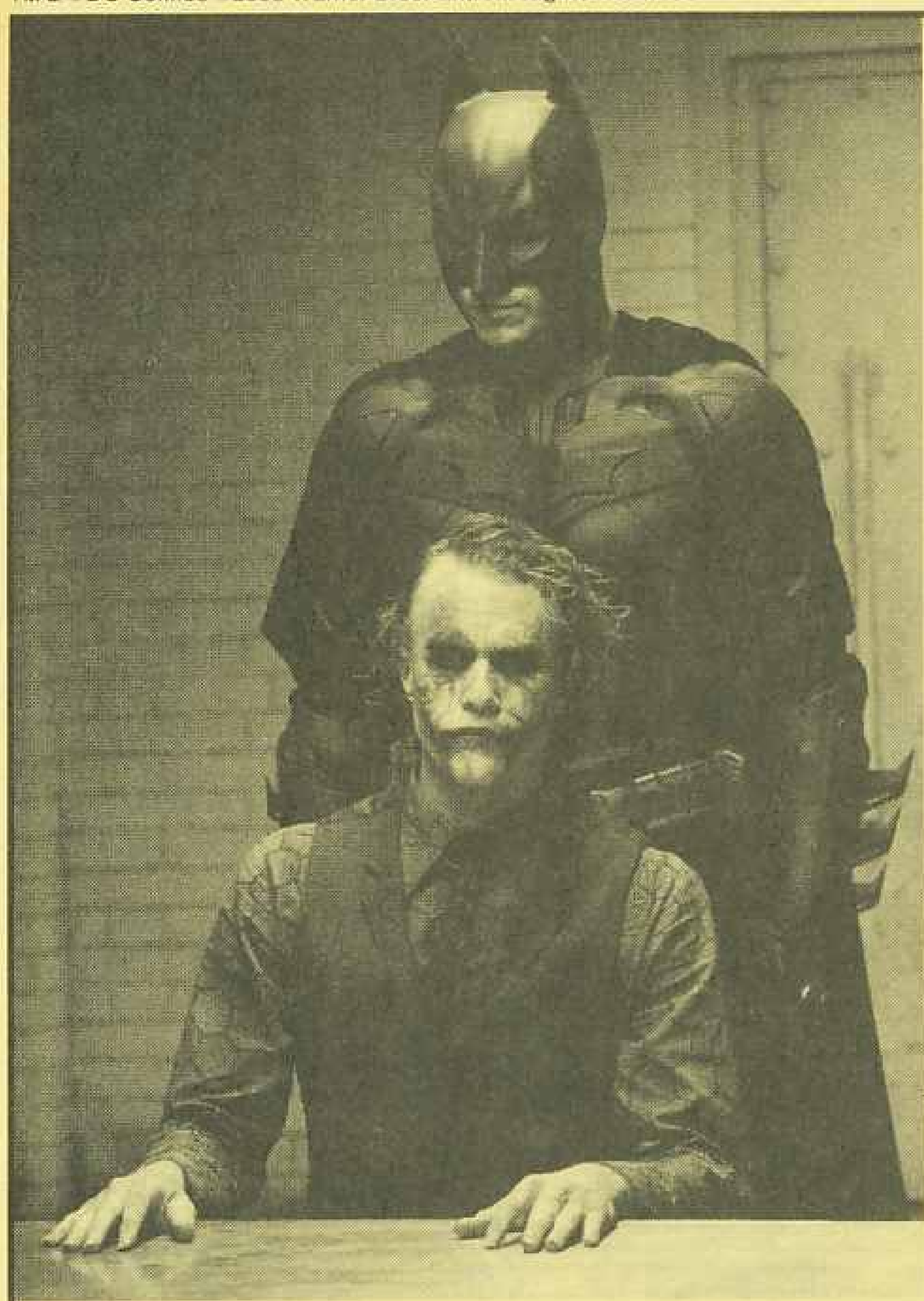
斉藤　固定ファンがあれだけいるのもうなずけますよね。……そういう意味では歌さんも〝俺流〟としてブレてないのか（笑）。

井上　（ターザンの住んでる）立石のU-FILE CAMPだよ。俺らもずっと歌さんをファイリングしてね、ずっとムカついて（笑）。

斉藤　Uは歌さんだ！　そして悪は歌さんだ！　と。

ガンツ　結局、歌さんオチなのか（笑）。

【08年9月2日／『kamipro』編集部にて収録】



ワーナー映画／『ダークナイト』全国公開中。原題／『THE DARK KNIGHT』、監督:クリストファー・ノーラン、出演／クリスチャン・ベール、ヒース・レジャー、アーロン・エッカートほか。故ヒース・レジャー演じる、ジョーカーの狂気あふれる演技に圧倒される『ダークナイト』は、まさに現代アメリカの渾沌とした世相を浮き彫りにしたシリーズ最高傑作だ。

ヒーロー超大国・アメリカ

変貌するヒール像とは？

『スター・ウォーズ』のダース・ベイダーから、『ダークナイト』のジョーカーまで。じつに魅惑的な映画大国・アメリカの“ヒール”たち。だが、ここ最近のアメリカ映画はヒール、それに対峙するヒーロー像が揺らぎ始めている。現代の世相を映し出すハリウッドにおける“正義”と“悪”にいま、何が起こっているのか？

文／高橋ターヤン　構成／真下義之

世界にはヒールがあふれている。

日本では神話の時代からスサノオノミコトに倒されたヤマタノオロチ、中央政府に反旗を翻して日本中から恐れられながらも、いまだに神として畏敬の念をもって崇められている平将門、仏教徒数万人を焼き殺して日本史上最大級のジェノサイドを決行した織田信長などが時代の節目に登場している。

中国ではさらにスケールの大きなヒールが存在しており、40万人という捕虜を一夜にして虐殺するなど、世界史上類を見ない苛烈な決断を次々と行なった秦の始皇帝、三国時代に強圧的な政治手法で漢帝国を滅亡させた曹操（これは11月公開の映画『レッドクリフ』に詳しい）、そして中国史上最強の悪女・西太后など百花繚乱状態である。

またヨーロッパに目を移すとヨーロッパ最強の侵略者カエサル、放蕩皇帝カリギュラとネロ、フランス軍を率いてヨーロッパ制圧を行なったナポレオンなど強烈なヒールが目白押しとなっている。

そんな彼らに共通するのは、ヒーローたちを凌駕してしまうほどの強烈な個性と、圧倒的な力（権力・武力）を持っている魅力的な存在という点だ。

これはヒールを倒したヒーローよりも禍々しき魅力にあふれた彼らヒールが、現在に至るまで愛憎半ばするさまざまな切り口で語り続けられているのを見ても明らかだろう。

そこで現在の政治・経済・軍事・文化の中心であるアメリカではヒールとはどのような扱いになっているのだろうか？

アメリカでは歴史の浅いぶん、なおさらヒーローを強く求める風潮がある。しかし建国から日が浅く、神話も幻想も少ないアメリカでは、自分の強さを仮託する対象としてのヒーローの存在は、映画という文化においてなおさら顕著に表われている。

そして作り出されたヒーローは、映画の中で多くのアメリカ人の願望をかなえ続けてきた。そしてヒーローがある陰には、同じ数だけのヒールも創出されてきたのだ。そんなヒールと呼ばれるキャラクターに対して、アメリカ人はどんな考えを持っているのか？

2003年に行なわれたアメリカの映画関係者が選ぶ映画のヒール100選という企画で、第1位に選ばれたのが『羊たちの沈黙』のハンニバル・レクター。以下、『サイコ』のノーマン・ベイツ、『スター・ウォーズ』のダース・ベイダーなど、映画ファンにはおなじみのキャラクターが続くが、どれも主人公を脅かす存在としてだけでなく、そこからさらに一歩突き抜けた個性を持った面々であることがわかるだろう。

しかし多くのハリウッド映画はヒーローをパワフルに描こうとするあまり、必要以上にヒールを弱くしてしまう傾向がある。これではヒーローの相対的な価値は上がっているとは言えまい。

しかしそんなヒーロー大好きなアメリカで、最近は単なるヒーローではなく陰を持ったヒーロー、いわゆるダークヒーロー物が人気を博していることは注目に値するだろう。

たとえば近年のアメリカでの映画興行成績を塗り替える勢いで大ヒット街道を驀進している『ダークナイト』。進むも地獄、退くも地獄な冥府魔道を突き進むバットマンの姿は、ジョーカーとトゥーフェイスというシリーズ最大のヒールを登場させることにより、その陰影はより一層引き立っている。

また『アメリカン・ギャングスター』、『スウィーニー・トッド　フリート街の悪魔の理髪師』、『ノーカントリー』、『ランボー　最後の戦場』といったダークヒーローが主人公の映画が多数公開され、賞レースを賑わせたり、予想を上回る大ヒットを記録しているのだ。いったいアメリカで何が変わってきたのだろうか？


これは泥沼の様相を呈してきた対テロ戦争、拡大し続ける社会格差、そしてサブプライムローンの破綻に端を発した底の見えない不況によってお先真っ暗なアメリカの社会が、明朗快活・勧善懲悪なスーパーヒーローを求めていないことの証左だろう。

主人公たちのダークな一面を強調する『バットマン』や『デアデビル』などのアメコミ発の変態的ダークヒーロー（一般人が全身タイツを着て夜な夜な悪人と素手で戦うなんて変態以外の何者でもない）は、これまで知名度に反して多くのアメリカ人にその真の内容が伝わっていなかったのだが、暗い世相を反映してか、ここにきて本格的にヒールの魅力を知ったアメリカ人たちに猛烈に支持されだしているのだ。

しかしヒールというものを突き詰めて考えると、もっとも基本的なヒールとは外敵である。ヒールは自分たちのコミュニティへの乱入者であり、自分たちの常識や正義といった価値観を脅かす存在なのだ。そういう意味ではネイティブ・アメリカン以外のすべてのアメリカ人はアメリカという土地に対するヒールであると言っても過言ではない。

そして現在、アメリカ合衆国は自身の価値観に基づく正義を振りかざし、世界各地の紛争に首を突っ込んで蛇蝎のごとく嫌われつつ、しかし世界でもっとも発展した国として世界の羨望を一身に受けている。

世界のヒーローたらんとしてきたアメリカが、世界史上最強のヒールはアメリカ自身であることに気づいていないのは皮肉なことであると言えよう。



「悪役」という人生を生きるということ

ヒールの悲哀とは何か？

一口に「ヒール」と言っても、おおまかに言って二つのタイプに分かれる。一つは、自分の意思に反して、観客や大衆に嫌われてヒール化していく者。もう一つは、自ら嫌われ役を選び、「悪」という人生を歩む覚悟を決めた、プロフェッショナルなヒールだ。いずれにしてもヒールという人生には悲哀が存在する。ここではそんなヒールの生き様に迫ってみよう。

日本中の憎悪を一身に集めた女が激白!
これがプロフェッショナル・ヒールの生きざまだ!!

「悪役として生きていくなら それまでの自分は すべて捨てろ!」

女子プロレス史上最凶悪ヒール

ダンプ松本

(極悪同盟)

80年代半ば、スーパーアイドルタッグ、クラッシュギャルズを相手に悪の限りをつくし、女子プロレスブームを巻き起こしたダンプ松本。リング上に限らず、人目がつくところではすべて悪役であることを貫いたことで、世間を巻き込むほどの大ヒールとなったダンプに、プロフェッショナルなヒールの哲学を聞いてみた。この極悪人生、マジだぜ!

聞き手/堀江ガンツ

——今号はヒール特集なんですけど、日本のプロレスラーでホントにヒールをまっとうして頂点を極めたのはやっぱりダンプ松本だろう、ということで、全盛期のヒール実情をうかがってきたいと思います!

ダンプ うん、それはいいんだけどさ。最初にちょっと言っておきたいことがあんのよ。

——なんですか?

ダンプ 『kamipro』って前に一度インタビュー受けたとき、写真は間違えられるわ、「これは書くな」って言ったこと書くわで、ヒドい目に遭ったんだよね。

——えっ……たしか以前は、ウチの阿修羅チョロが担当しましたけど、そんなことがありましたか……。

ダンプ だから、今日は何もしゃべらないつもりで来たの。

——いや、ちょっとそれは勘弁してください。あとでチョロをフォークで突き刺すなり、竹刀で叩くなり、なんなりと痛めつけてかまいませんので。

ダンプ まあ、ちゃんとやってくればいいんだけどね。

——それは失礼しました。では、よろしくお願いします! ダンプさんってもともとはビューティ・ペアに憧れてプロレスラーになったわけですよね?

ダンプ そう、ジャッキー(佐藤)さんに憧れてね。

——もちろん、ジャッキーさんみたいな正統派のプロレスラーになりたかったわけですよね?

ダンプ うん。入ったばかりの頃は会社からも「ベビーフェイスにいくように」って言われてたんだけどね。



クラッシュより年賀状多かったからね「死ね」って書いてある年賀状だけど

ジャンボ宮本っていう、身体の大きなベビーフェイスの先輩がいたんだけど、「宮本みたいになれ」って言われてて、逆に（長与）千種が「悪役になれ」って言われてたの。

——へぇ、そうなんですか！

ダンプ　でも、私はベビーフェイスは嫌だったし、千種も悪役が嫌だったから、「私が悪役にいきます」って自分で選んだの。

——なんで、自分から悪役を選んだんですか？

ダンプ　私も昔から（女子）プロレスを観てたから、ベビーフェイスっていうのは、やっぱり顔やスタイルが良くないと売ってもらえないというか、上にあがれないってわかってたの。で、私は身長も低いし、太ってるし、痩せるのは絶対に無理だから。それに同期に（ライオネス）飛鳥がいたでしょ？

——飛鳥さんは入門当時からベビーフェイスのエース候補生だったんですよね。

ダンプ　だから、同じ路線で飛鳥の上に行くのは無理だろうなって。でも、悪役なら実力でのし上がれると思って、自分から悪役を選んだの。

——なるほど。ダンプさんの世代以降もベビーかヒールか、だいたい自分で選べたんですか？



ダンプ　自分で選べたね。

——じゃあ、泣く泣く悪役をやらされたような人はいなかったんですか？

ダンプ　アジャ（・コング）は泣いてたみたいよ。千種に憧れて入ってきたのに、「悪役やれ」って言われて泣いてたって。でも、「おまえはどう考えたって悪役だろ。ふざけんな」って感じだけどね（笑）。

——アジャさんの場合「悪役やれ」って言った人のほうが正しい感じがしますね（笑）。

ダンプ　あとは悪役が嫌なんじゃないけど、ブルちゃん（ブル中野）なんかは、半ハゲにするのが嫌で嫌でずっと泣いてたけどね。

——ああ、半分頭を剃ってたのは、極悪同盟時代のブルさんのトレードマークでしたけど、あれは嫌々だったんですか。

ダンプ　うん。でも極悪で、私のパートナーとしてやっていくなら、それぐらいはやらないと。

——そのへんは、プロとしてヒールをやっていく上での通過儀礼というか。

ダンプ　そうだね。だからブルちゃんが半ハゲが嫌で泣いてたとき、同期の小松美加が「自分が半ハゲになるんで、極悪に入れてください」って言ってきたの。それでブルちゃんに「どうする？　あんたがやらないなら、小松を入れるよ」って言ったら「切る」って言うから、「じゃあ、今日から半ハゲにしな」って、その場でバリカン使って切ったんだけどね。

——有無も言わさず、その場で半ハゲですか！

ダンプ　うん。迷っちゃったら、また嫌になるでしょ？　だから、もうその場で。刈られながらずっと泣いてたけどね。まだ17歳だったから。

——ホントに仏門に入るときに頭を剃るのと同じように、悪役になるということは、娑婆との縁を切るみたいなところがあったんですね。

ダンプ　そうだよ。これから悪役として生きていかなくちゃいけないんだから。それまでの自分は捨てなきゃ。でも、半ハゲにして良かったと思うよ。あれがなかったら、その後のブルちゃんはなかったと思うし。

——あの半刈りは確かにインパクトありましたよ。ダンプさんも、そういう世間一般的な価値観とは別の世界に行こうっていうような、決意の瞬間というのはありました？

ダンプ　私の場合は極悪同盟を作ったときだね。それまでデビル軍団にいたんだけど、デビル（雅美）さんが、勝手に軍団解散して、ベビーフェイスに行っちゃったんで、そのときデビルさんを超えようと思って金髪にしたの。あれも会社から止められたんだけどね。

——なんで止められたんですか？

ダンプ　当時、日本人で金髪にしてたのって、上田馬之助さんぐらいしかいなかったの。

——ああ、確かにプロレスに限らず、あらゆるジャンルでも、金髪ってほとんどいませんでしたよね。

ダンプ　だから会社からも「みっともないし、目立つからやめろ」って言われたの。でも、その「目立つ」っていう言葉に逆にピンときて、「ダメだ」って言われたその日に、ホテルで自分で金髪にしたよ。

——なるほど。まさに「目立つ」のが狙いだったわけですね。

ダンプ　金髪にしたら「おまえ、ダメだって言ったのに！」って言われたけどね（笑）。

——でも、極悪同盟は悪役としてのインパクトがもの凄かったがゆえに、その反動で、私生活にも被害が及んだんじゃないですか？

ダンプ　もう大変だったね。極悪は外に出たら、何をされるかわからないから、昼飯も食べにいけなくて、それで弁当が出るようになったんだから。

——おちおち、外にごはんも食べにいけない、と。

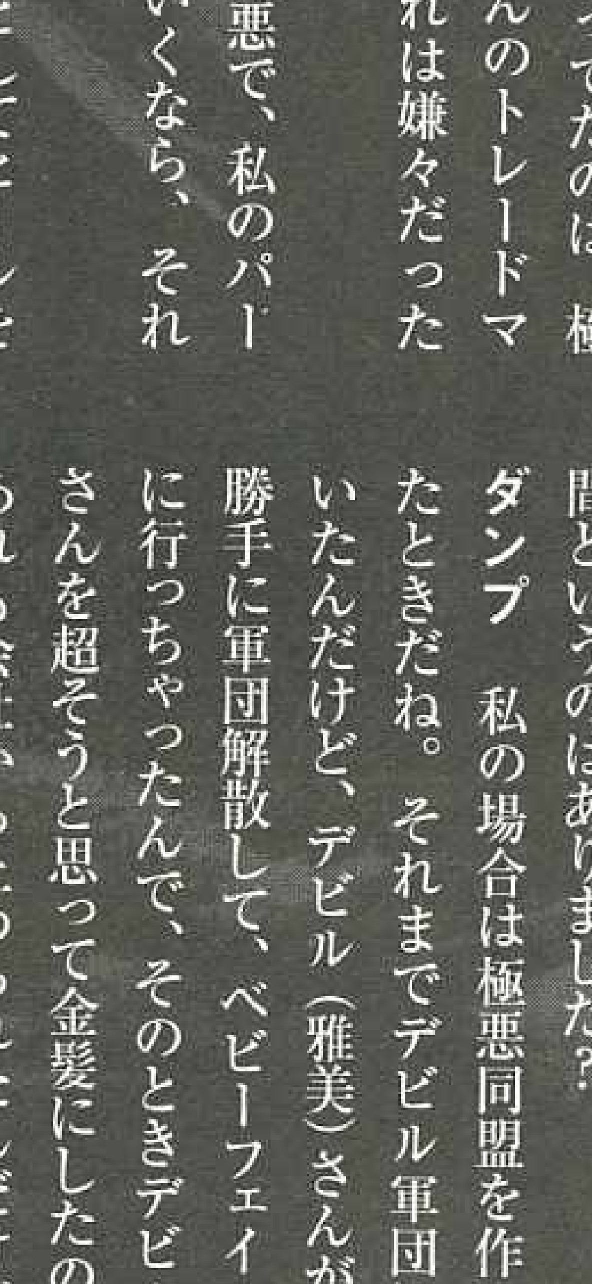
ダンプ　旅（巡業）に出ても、ベビーフェイスは観光とか行ってても、ウチらは体育館から出られなかったから。あとは買ったばっかりの車を10円玉でギーッて傷つけられたりとかね。それでバイクに乗ったらタイヤをパンクさせられるし、自転車に乗ったら盗まれるし、しょうがないから（家から会社まで）近いのにタクシー通いしてたよ。

——乗り物は必ずイタズラされてたわけですね。

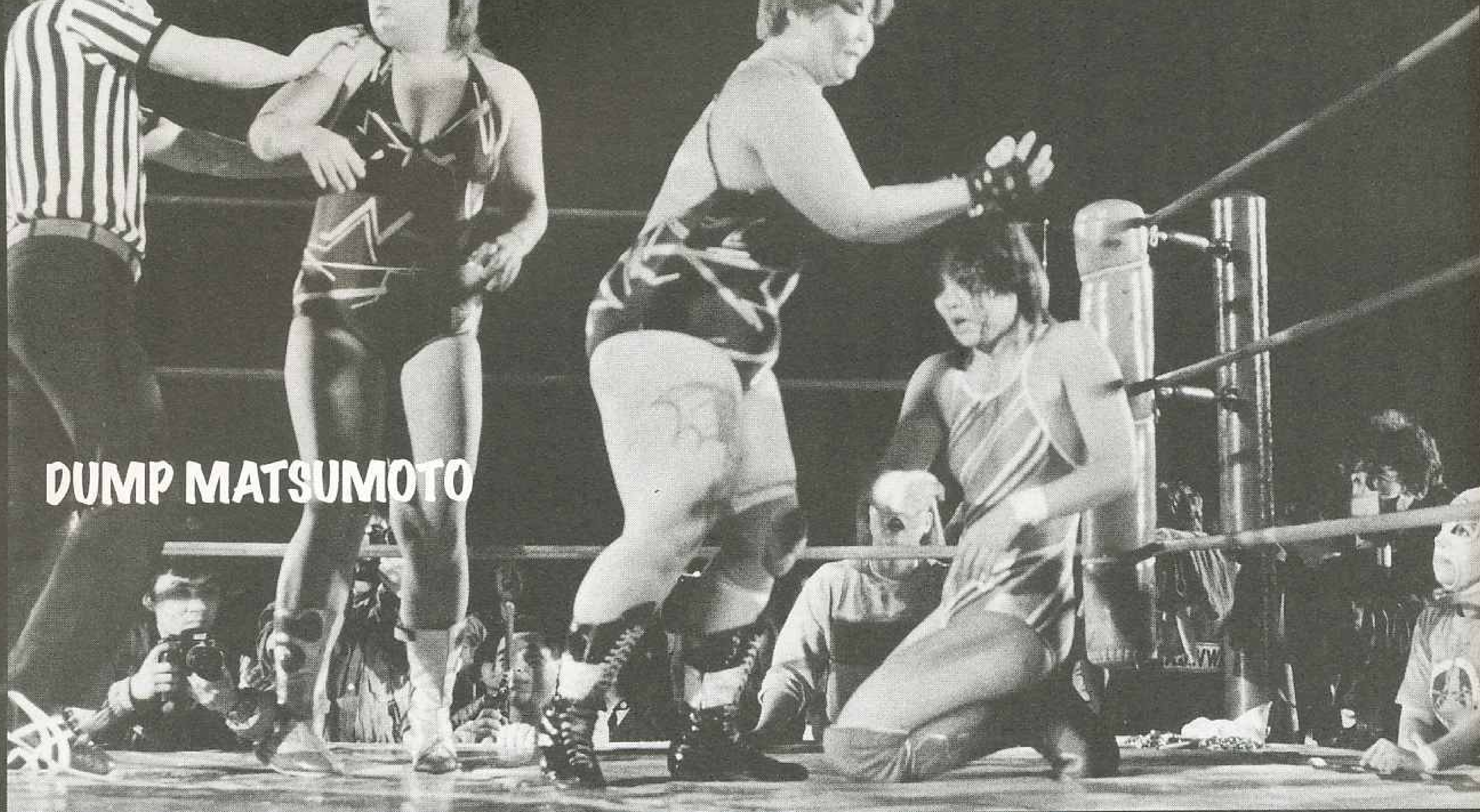
ダンプ　もうハンパじゃなかったよ。年賀状だって、いっぱいもらった人は会社からご褒美で1万円もらえたの。人気の証拠だってことで。それも自分がトップだったよ。クラッシュより

ダンプ松本
写真間違い事件とは何か？

本誌86号で、掟ポルシェさんを聞き手に迎えて行なわれたダンプインタビュー。しかし、掲載後、ダンプのほうから「使ってた写真、あれ私じゃないよ」というクレームが入ったのだ。それが右の写真なのだが、どう見てもダンプ……と思いきや、よく見ると当時、ダンプの"影武者"としてクラッシュをかく乱していた影かほるだったのだ! その後、訂正記事を出したのだが、ダンプに曰く、本文の中でも「書かないでね」と言っておいていたことが書かれていたとのこと。さすが阿修羅チョロ仕事なのであった。



クレーン・ユウはファンにプレゼントもらったりするから極悪を追放したの



反則、凶器攻撃のオンパレードで、クラッシュを血だるまにし、少女ファンを中心とした観客の憎悪を一身に集めたダンプ。ヒールを貫くために私生活でも「悪」に徹したが、左のクレーン・ユウは、リング外で「悪」になりきれず、極悪同盟を追放されたという。すげえ!

多かったの。「死ね」っていうのがたくさん来るから。

――年賀状で「死ね」ですか（笑）。

ダンプ　うん、"死ね年賀状"でいつも一番だった。それで毎回、1万円もらって「悪いねえ」って感じで。あとはファンレターでも、毎回、カミソリ入れてきたりとかさ。おかげでカミソリ買ったことないよ。

――むだ毛のお手入れし放題でしたか（笑）。

ダンプ　うん。

――要はファンにしてみたら、「こんな悪いことやってるヤツらだから、痛い目に遭わなきゃダメだ」っていうことで、それだけファンを本気にさせた証拠なんでしょうね。

ダンプ　だから女の子とか、子どもに「死ね！」って言われるんじゃなく、大人のオジサンたちに本気で文句言われると嬉しかったね。

――子ども騙しじゃないというか、大人を本気にさせてこそ、本物だということで。

ダンプ　うん、そうだね。

――じゃあ、普段の振る舞いも、絶対にいい人なところを見せないようにしてたんですか？

ダンプ　見せない。たとえ実家に帰っても見せなかったから。

――実家でも「ダンプ松本」を貫きましたか！

ダンプ　実家に帰ると近所の人が「写真撮ってくれ」とか、「サインしてくれ」って色紙持って来るのよ。で、訪ねてこられると、お母さんとか玄関に出ちゃうでしょ。「自分は絶対に出ないから」って言ってるのに、何回も来るから、自分が玄関まで行って、色紙を投げつけて「二度と来るな！」って怒鳴りつけてたからね。お母さんが次の日、お酒持って謝りに行ってたけど。

――ダハハハハ！　そこまで徹底してましたか。

ダンプ　そうじゃないと、「ダンプは実家に帰ったら優しい」とか「リングを降りたら優しい」って思われちゃうから、それだけは絶対にしなかった。

――ヒールのイメージを守るためには、そこまでしなければならないわけですね。

ダンプ　でも、（パートナーの）クレーン・ユウは極悪で人気が出てきたときに、嬉しくてファンに手を振ったりとかしちゃうのよ。それで「こいつはダメだ。もういらないから」って、ブルちゃんに替えたんだけどね。

――ああ、確かにダンプさんがクレーン・ユウを血だるまにして極悪を追放するっていう、制裁マッチがありましたよね。あれは子ども心に「完全にマジでしょ！」って思ってましたけど、やっぱりリアルに追放だったんですね。

ダンプ　そう、追放。そのままレフェリーになっちゃった（笑）。やっぱり、ユウさんが手を振っちゃったら「極悪同盟もホントは優しいんだ」とか思われちゃうでしょ。何回も注意したんだけどね。それでもプレゼントもらったりしてたのよ。「ものをもらったら、その場で投げ捨てて、踏みつけろ！」って言ってるのにもらっちゃうから「この子はダメだな。プロ意識がない」と思って。そういう人が一人でもいると、ウチらも一緒にダメになっちゃうでしょ。そしたら切り捨てないと。

――それがヒールの掟なんですね。じゃあ、ダンプさんは他人の目があるところでは、全身ダンプ松本になりきってたわけですね。

ダンプ　そうそう。だから、メイクしてないときは、必ずサングラスして、素顔は見せなかったしね。

――こう言っちゃなんですけど、じつは若い頃のダンプさんってかわいらしい顔してたじゃないですか。

ダンプ　いまはへんみたいじゃない。

――いやいや、そういう意味ではないですけども（笑）。いまの柳原可奈子みたいな感じじゃないですか。

ダンプ　そうかなあ？　ブルちゃんだって、かわいいよ。

――ブルさんもきれいですよね。それでダンプさんは、素顔を出さなかったからこそ、有名な「タコヤキラーメン」のCMでちょっとだけ素顔を出したとき、猛烈にインパクトありましたよね。

ダンプ　まずいラーメンで、すぐなくなっちゃったけどね（笑）。

――商品はあっという間に消えたのに、CMはいまだに印象に残ってるから凄いですよ。

ダンプ　うん。「『マジだぜ』って言ってくれ」って、いまだに言われるもん。

――あと、素顔といえば、バラエティ番組に出たりすると、悪役の素の部分をわざと出させようとする出演者たちっていたじゃないですか。

ダンプ　そうそう、笑わせようとするんだよね。それを処理するのが大変だった。会社から「しゃべっちゃいけない」って言われてたから。しゃべっていいのは「うるせー」とか「バカ」

とか「コノヤロー！」とか、5個ぐらいしかなかったから。

—トークでボロが出ないように発言制限がありましたか（笑）。

ダンプ　そう。（片岡）鶴太郎さんとか笑わせようとするんだよね。それを笑わないように笑わないように、ほかのこと考えたりして。ブルちゃんがたまに笑っちゃったりするんだけど、そのときはおもいっきりビンタして、またシリアスな空気に戻したりしてね。

—悪を貫くのも大変ですね。

ダンプ　大変だよ。会場で入場するとき、後ろから殴ってきたり、蹴ってきたりする客もいたしね。何されるかわからないから。それで、ブルちゃんがヌンチャクで客を殴って警察沙汰になりそうだったこともあったけど、向こうから手を出してきたってことで平気だった。

—ヌンチャクは正当防衛（笑）。

ダンプ　だってお酒のワンカップを投げつけられたりとか、身体に熱湯が入ったカップヌードルかけられたりとかしたんだよ。ひどいだろ？

—ひどいですね！

ダンプ　それで受け身取ったらヌルヌルで気持ち悪いんだから！　卵とかもよく投げられてて、自分たちに当てようとするんだけど、逆にクラッシュに当たっちゃうことがあって、投げるのをやめたみたい。あとはあの頃、紙テープをぶつけられることが多かったね。

—応援の紙テープを投げてるふりして、わざとぶつけてましたか。

ダンプ　そうそう、こっちを狙ってきて。それがあまりにもひどいからっていうんで、会社が鎧を作ってくれたの。

—ダハハハハ！　一時期、鎧兜を着て入場してましたけど、あれはそのためなんですか！

ダンプ　そう。ニューヨークのマジソン・スクエア・ガーデンでWWF（現WWE）に出たときも着たよ。「客に刺されるかもしれないから」って。

—ホントに身体を守るために鎧を身に着けていた、と。凄いですねえ。ケガの話でいうと、凶器攻撃なんかも、ちょっとやりすぎじゃないかってぐらいやってましたよね。腕にハサミを突き刺したり。

ダンプ　いまも腕にフォークで刺された痕が残ってるよ。大森（ゆかり）にフォークを奪われて、逆に腕に突き刺されたら、そのまま刺さっちゃってさ、自分で抜いたんだけど。そのお返しで、ハサミで刺したんだけどね。あのフォークで刺されたのが、一番痛かった。

—そりゃ痛いでしょう。なぜ、あそこまでやってたんですか？　テンションが上がっちゃったんですか？

ダンプ　まあ、相手に刺されて、頭にきちゃったんだろうね。そんな感じで流血が多かったからさ、テレビ放送でも夜7時からやってたほうは、ほとんど極悪の試合はカットされてたしね。その代わり、日曜日の午後にやってたほうでは流れてたけど。

—いまより放送コードが甘い当時でも、極悪は放送禁止。

ダンプ　凶器攻撃もね「あれだけはやめてくれ」って言われたの。ドス。

—ドスをリングに持ち込みましたか！（笑）。

ダンプ　べつに相手に突き刺すわけじゃないけど、フカシで持っていって、コーナー（ターンバックル）に突き刺しておいたんだけど「それだけは絶対にやめてくれ」ってテレビ局に言われてカットされたの。刃物はダメなんだって。

—映画でも本物は使っちゃいけませんから、当然ですね（笑）。

ダンプ　あと「ニワトリの首を切りたいんだけど」って言ったらテレビ局に「それもやめろ」って言われて。

—動物殺しちゃダメでしょ！（笑）。

ダンプ　でも、料理するときだって、締めて殺して食べるんだから、いいじゃんって思ったんだけどね。結局ダメで、もう羽根もむしられてるチキンを記者会見のときに持っていって、ナイフで切り裂いたんだけど。あとで、ちゃんと洗って後輩が食べたよ。

—そういえば、長与千種さんとの2度にわたる髪切りマッチも、2回目はノーテレビだったんですよね。

DUMP MATSUMOTO

千種との髪切りマッチ後は ホテルにも戻れなかった 反則に怒った会場警備員に 殴られたりもしたからね

ダンプ　そうだったっけ？

—そうですよ。1回目があまりにも凄惨すぎて、その反響も凄くて、2回目はビデオ発売だったんですよ。

ダンプ　そうそう、確かに1回目は凄かった！　あれはひどかったね。大阪でやったんだけど、ホテルに泊まれなかったもんね。

—それは、怒った千種ファンが待ち構えてるからですか？

ダンプ　もうバスにも乗れないの。バスの周りに600人ぐらい集まって、バスも倒されそうになっちゃったりして、これは危険だってことで、別の車で裏口から脱出して。急きょ、極悪だけホテルもキャンセルして、絶対にみんなが来ないような高級ホテルに泊めてもらったのを覚えてる。「よかったねえ！」ってみんなで喜んだけどね（笑）。

—でも、命が危なくなるぐらい、観客をヒートさせたってことですよね。反則し放題の上、アイドルを血だらけにして、髪まで切っちゃうんだから、いまでは考えられないですよ！

ダンプ　あのあと、警備員に殴られたからね。

—えっ？　ダンプさんが警備員に殴られたんですか？

ダンプ　そう。警備員までウチらの反則に怒ってて、控室に戻るときに殴ってきたの。

—ファンから選手を守るはずの警備員が、レスラーに殴りかかるってわけわからないですよ！（笑）。

ダンプ　突然、殴ってくるから「なんだ！」って言ったら「おまえが悪いんだろ！」って言ったんだよ、あいつ。

—そりゃ、ヒールだから悪いことしますよね（笑）。

ダンプ　頭にきたから、あとで「全員並べろ！」って、警備員を全員並ばせたんだけど、そいつは逃げたみたいで、いなかったね。だから「二度とそこの警備会社は使うな」って言って。1回目の髪切りはそれぐらい凄かったね。

—大人を本気にさせるどころか、警備員まで本気にさせちゃってたんですか。ホントにプロフェッショナルなヒールだったと思いますよ。

ダンプ　みんな極悪が本気で嫌いだったからね。

—そうやって、ヒールで頂点を極めたダンプさんですけど、引退するのがかなり早かったですよね。あれは、なぜいち早く引退したんですか？

ダンプ　あのときはね、芸能に入るのがもう決まってたの。あと、一番最初に引退したほうがみんな騒ぐだろうなって思って、それでだね。

—そのへんもビジネスとして、ちゃんと考えてのことだったんですね。

ダンプ　そう、ちゃんと考えてね。で、会社に「辞めさせてくれ」って言いに行ったんだけど、「いや、あと1年ぐらいはやってくれ」って言われて、辞めさせてくれないのよ。それでもずっと「辞めさせてくれ」って言い続けたんだけど、何回言ってもダメだから、取材があるたびに「引退するから」って自分で言っちゃって。雑誌とか新聞に「ダンプ引退！」って書かれて、ようやく会社も認めざるをえなくなったんだよね。

—既成事実を作られちゃったから、会社としても、もう逆に引退でビジ



ネスするしかなくなったわけですね。

ダンプ　それで、最初は飛鳥も一緒に引退するはずだったんだけどね。飛鳥と自分と大森で、桃色豚隊（ピンクトントン）になるはずだったの。

――え⁉　桃色豚隊って3人だったんですか？

ダンプ　うん。それで3人で歌を出すはずだったの。

――確かに極悪のダンプと、クラッシュの飛鳥が一緒にユニット組んだほうがインパクトはありましたよね。

ダンプ　でも、飛鳥が「赤いベルトを獲ってないから、もうちょっとやる」って言ってね、それで大森と二人になったの。

――やっぱり、女子プロレスラーになったからには、（WWWA王者の）赤いベルトを巻きたいっていうのがあるんですね。ダンプさんは、そういう気持ちはなかったんですか？

ダンプ　当時は悪役は巻いちゃいけないっていう、暗黙の掟みたいなことがあったからね。

――女子プロレスの頂点である赤いベルトを巻くのは、ベビーフェイスのトップでなきゃダメだ、という。

ダンプ　（全日本女子プロレス大賞の）MVPも獲っちゃいけなかったのよ。あれは投票で決まるんだけど、ダントツで私が1位だったの。でも、コミッショナーが来て「悪役が獲ったらおかしいんで、給料上げてあげるから、それで許してくれ」って言われて、千種がMVPになったはずだよ。

――それで譲ったんですか。

ダンプ　うん。給料上げてもらったほうがいいじゃん。どうせ悪役はベルトとか、そういう賞には縁がないんだから。でも、自分が引退したあと、ブルちゃんは赤いベルト獲ってるんだよね。急に方針が変わりやがって、なんなんだよって感じでしょ？

――ダンプさんがいなくなって、絶対にヒールの自分以外は見せないっていうようなヒールは終わっちゃったんでしょうね、きっと。そしてブルさんは、同じことをやってたらダンプさんより上に行けないから、実力あるヒールみたいな感じにシフトチェンジして。

ダンプ　うん、そうだろうね。

――だからダンプさんがリング上で笑顔を見せたり、ベビーフェイスと握手したりしたのって、引退のときだけですよね？

ダンプ　そうだね、引退式のときだけだね。ファンの要望で「千種と組んでくれ」っていうことで、最後だけ千種と組んでね。あれ飛鳥が怒ってたんだよ。「なんで千種なんだよ！」って（笑）。

――飛鳥さんは、自分が最後にダンプさんと組みたかったんですか⁉

ダンプ　そう。辞めてから聞いた話だけど、やっぱり一番目立つじゃない。だから髪切りだって、飛鳥は自分がやれると思ってたんだって。そしたらダンプvs千種が決まっちゃって、「じゃあ、飛鳥はユウとやればいいじゃん」って言われたらしいよ。なんだよそれって感じだったみたいだけど。

――飛鳥さんは飛鳥さんで、プロとしてのジェラシーがあったんですね。まあ、当然ですよね。あの髪切り以上にインパクトのある試合って、いろいろやりましたけど結局なかったですもんね。

ダンプ　うん、あれが一番だね。

――ダンプさんは、最後に千種さんと組むというのは、どんな気持ちだったんですか？

ダンプ　自分は嫌だったのよ。引退式のときは「ベビーやってくれ」って言われたんだけど、それでも嫌で「最後まで悪役で引退したい」って言ったんだけど、「最後に5分だけでいいから」って言われて、しょうがないから、最後に5分間だけ千種と組んだんだけどね。

――なるほど。最後の5分間以外は、ホントにヒールを貫き通したわけですね。

ダンプ　現役の頃は、どうしたら憎まれるかっていうことしか考えてなかったからね。

――それこそが、プロとしての自分の役目というか。

ダンプ　そうそう。泣いてる客、本気で怒ってる客を見たら、その日は成功。女の子のファンなんて、毎日泣かさないと。中途ハンパじゃダメだよ。

――ヒールになるっていうのは、そういうことなんですね。

ダンプ　そう。覚悟決めてヒールになったんだから、それを貫かなきゃ。

――プロですねえ。今日はダンプさんがヒールとして成功した秘密がわかったような気がします。ありがとうございました！

【08年8月25日／都内・某所にて収録】



悪役とは何か?

「ヒールのときは家で溜まったストレスを試合で発散してました!」

“いい人”天山広吉が語る

ああ、憧れの極悪ヒール

「“いい人”がヒールを語るぞ、オエッ!!」(天山マイクアピール調)。狼群団にnWoにTEAM2000にGBH……。長らくヒール街道を歩んできたにも関わらず、どうしても“いい人”オーラをぬぐえかなった天山広吉。そんな“悪役になりたくてもなりきれなかった男”が語るヒール論に耳を傾けろ、オエッ!!

聞き手/真下義之　撮影/乾晋也　試合写真/平工幸雄

天山　コンコン（ドアをノックする音）、失礼しま～す。

——んあ～！　今日も礼儀正しいですね、天山さん。今回はヒール特集ということでお話をお聞きしたいと思います！

天山　ヒールかぁ。具体的にどんな話をすればいいんでしょうね。

——天山さんには〝ヒールになりきれなかった男〟として、ヒールの難しさみたいなものをうかがいたいな、と（笑）。

天山　なりきれなかった……。なるほど（少し残念そうに）。まあ、でも根本的に自分はベビーフェイスよりヒールのほうが好きだったんですけどね。

——じゃあ、自分的にはヒールがジャストフィットだと？

天山　そうですね。若い頃の海外修行時もずっとヒールでしたし。やっぱり見た目的に「ヒールしかないな」って自覚もありましたし（笑）。

——海外では日本人がヒールで試合をして観客からひどい目に遭ったなんて話をたまに聞きますけど、そういうご経験は？

天山　いや、ナイフを向けられたりとかはなかったですね。ただ、向こうは毎日同じ会場で試合をしたりするんで、狙われないように気をつけてましたけど。

——常日頃、用心はしていた、と。

天山　でも、一度だけエライ目に遭ってね。自分はキャンピングカーで生活をしてたんですけど、ドイツからフランスのほうへ試合に行ったとき、貴重品をなぜか置きっぱなしにしてしまったんですよ。そしたら次の日に全部なくなってたんですよ！　ホンマ、クレジットカードとか全部やられて、何十万という損害ですから！

——でも、それはヒールというより、ただ天山さんがウッカリしてただけじゃ？

天山　……確かに関係ないなぁ。人間としてそんなとこに置いとくほうが悪いですかね。

——ダハハハハ！　盗難話はともかく、GBHを始めるときはヒールとして「腹を据えてやらんと！」って気持ちはありました？

天山　それはもちろん！　自分の確固たるチームを作りたいというのと、「ヒールを徹底して極めるぞ！」って。

——設立会見では「まさに凶悪、という一言につきる超一流のヒール軍団を作る」とか「超極悪ユニットを目指す」とか威勢のいい言葉を連発されてましたけど。GBHの人選はどういう基準だったんですか？

天山　当時は真壁（刀義）や矢野（通）、越中詩郎も中途半端というか、くすぶってたんですよ。そういう連中に「中途半端にしてんな！」「俺がまとめてやるからガッチリいこうぜ！」みたいなデッカイ気持ちでね。

——それが結果的には……。

天山　まんまと裏切られましたねぇ。よけいなことしなければよかったかなぁ。アイツらのためにチームを作ってやったのになぁ。

——天山さんがいないいまのほうがガッチリいってますよね（笑）。でも、GBHのリーダーともなると食事とかも「ついてこい！　俺がおごるからなんでも食え！」みたいな先輩風を吹かしてたんですか？

天山　う～ん。いや、あんまり……行かなかったかな。

——あ、そういうことはとくにしませんでしたか。でもやっぱりかわいがってた選手もいるわけですよね？

天山　そうですね。いや、いなかったかなぁ……（と小さな声で）。

——ダハハハハ！　そっちもとくにいませんでしたか。

天山　かわいがるっていうか。だってね！　GBHはみんながみんな「俺が俺が！」って感じでアクの強い連中だったんで、それをまとめるのもなかなかシンドかったんです。……というか、みんながみんな揃ってB型だったんですよ。

——GBHはB型集団でしたか。確かにB型は個性が強いというか、言うこと聞かないイメージがありますけど。

天山　真壁も、越中も、矢野もそう。自分はいままでB型とうまくいった試しがないんで、「これはヤバいな」っていうのがありましたね。

——ちなみに天山さんは？

天山　あ、自分はO型ですね。

——そうなると、相性的にはO型がB型に合わせるって感じで。

天山　そうなんですよ！　とはいえ「血液型なんか関係ない！」と気にしないようにしてたんだけど、現実的には「あれ、ちょっと違うな？」っていうのがドンドン出てきて。

——いま、GBHはリング上で凶器を使ったり乱入を繰り返したりと悪の限りをつくしてますけど、天山さんも当初はあのぐらいのことをやってやろうって気持ちはあったんですか？

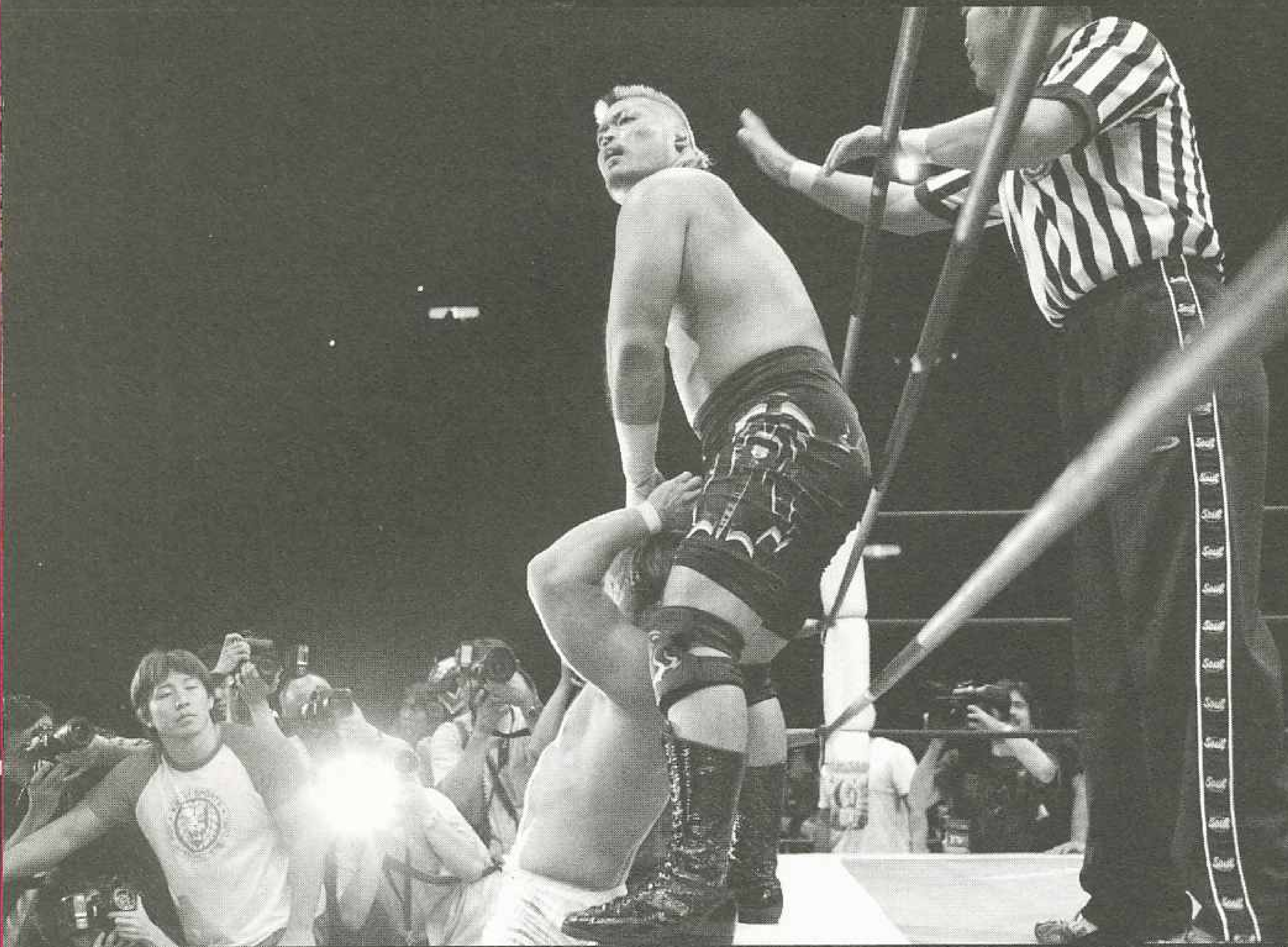
天山　う～ん。「悪いことを徹底的にやらなきゃいけない」っていう反面、正直「やっぱりちょっと違うんじゃないかな」っていう葛藤はありましたね。

——全然、極悪ヒールじゃないですよ、それ！

天山　イスやらチェーンやらで試合を壊すのは、自分が思ってる方向じゃないんじゃないかなって。

——やってる最中から、そんな迷いがありましたか（笑）。

天山　根本的にGBHっていうのは、たまたまチームが一緒っていうだけで、コンセプトとして「みんな好きなように暴れろ」みたいなところはあったんで。でも、自分的には「限界があるだろ？」みたいな（笑）。



うわーん、うわーん、天山が悪いことしてるよ～（涙）。GBH時代、棚橋弘至をヒールらしく絞首刑で攻めるたてる天山。きっと頑張って偽悪者を演じていたのだろう。ちなみにこの時点でベビーの棚橋が、現在ナルシストキャラでヒール人気を獲得しているのはなんとも皮肉。

GBHは揃いも揃ってB型の集団。だからまとめるのはシンドかった……

ヒールのときにファン対応を冷たくしたら蝶野さんに注意されました（笑）

—ダハハハハ！

天山　まぁねぇ。結局まとめきれずに自分がケガしたことで、そのままフェードアウトっていう感じで。

—ぶっちゃけ、観てる側としては天山さんって「正直、ヒールは向いてないんじゃないかな」っていう部分はあるんですけど。

天山　そうっすかねぇ。まあ、自分的には控室のインタビューで凄んだり吠えたりするのはけっこう好きだったですけど。

—あ、新日本ヒール伝統のオラオラ調はお気に入りでしたか（笑）。プロレスのヒールって、それこそ新宿伊勢丹前で猪木さんを襲撃しちゃうタイガー・ジェット・シンみたいな狂気性がありますけど。

天山　やっぱりリング内だけじゃなく、そういうやり方もすればよかったかなって。自分はちょっとスケールが小さかったっていうか……。

—長州さんはそんなGBH時代の天山さんを「吠えたって客には届いてない」「アイツの試合には生活感が見える」って罵倒してましたが。

天山　ヒドイなぁ！　どっから生活感が出るんですかねえ。どこをどう見て生活感なんでしょうね。リング上で家庭的なことしました？

—ダハハハハ！

天山　まあ、あの人からしたら、もの足りなかったのかなって。ただ、確かに自分には「帰れ」コールとかもなかったし。やればやるほど、ヒールに対する戸惑いというか葛藤は出てきましたね……。

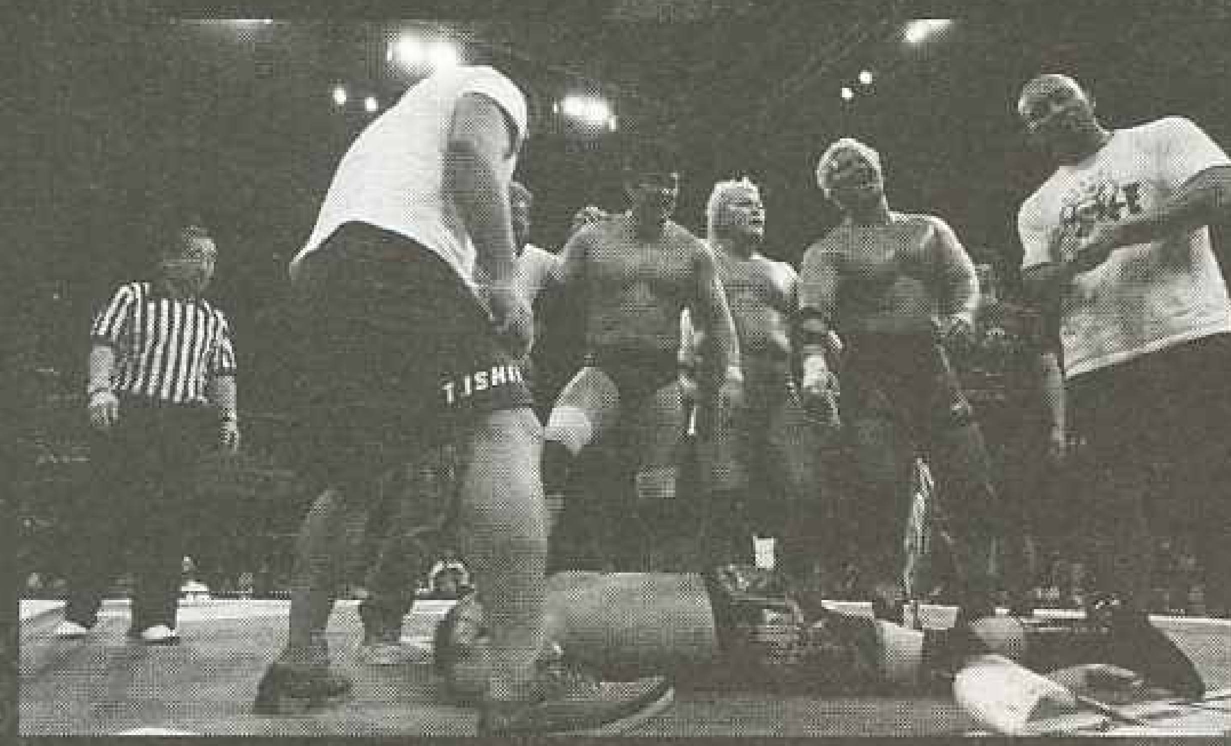
—ちなみにヒールをやっていくうえで、日常生活の振る舞いとかで意識したところは？

天山　ああ、ありましたね。基本的に狼群団として蝶野さんと組んでいた時代から、ヒールのときは普段からあんまりサインもしなかったり、ファンと一緒に写真を撮ったりもなかったんですよ。

—あ、そうなんですか！

天山　GBHになるまで、ちょこちょこ本隊に戻ったりもしてましたけど、そういうふうに心がけてましたね。サインに来ても「あっち行け、コラ！」みたいな感じで。

—そんな局面ではヒール魂を存分に発揮してましたか。



GBHを追放された天山は今年3月に飯塚と友情タッグ結成。しかし、蜜月は長続きせず、4月には飯塚がGBHに寝返る裏切り行為！　お人好しであるがゆえに貧乏クジを引いてしまう天山、こんなところからも性格的にヒールが向いてないのがビシビシと伝わってくるのであった。



今年の新日の"おもしろさ"の原動力ともなった天山vs飯塚の因縁の抗争劇は、7.6後楽園大会でのランバージャックデスマッチでオーラス！　近年まれに見るヒールvsベビーの構図に場内はおおいに盛り上がった。たとえ見た目はヒールでもやっぱり"いい人"天山はナチュラル・ボーン・ベビー？

天山　自分も若いしイケイケだったんで、「うるせー、コノヤロー！」みたいな感じでけっこうやってたんですよ。でも、たまに蝶野さんに注意されるんですよ。

—え、どういうふうにですか？

天山　「ちょっとおまえ……、常識的に考えろ！」って（笑）。

—ヒールも常識を考える、と（笑）。

天山　「え、あれ？　こんなんマズかったかな」って。近寄り難いっていうか、そういう感じにしてたんですけど。蝶野さんからは「そこまですんな！」って。やっぱり蝶野さんも常識的な面がある方なんで、「しょうがない」とは思ったんですけど。

—なるほど。ちなみに今回の本誌では、各界のヒールを取り上げるんですが、例の〝ヌルヌル事件〟からヒールのイメージが定着した秋山成勲選手にはどういう印象を持ってますか？

天山　う～ん、どうなんですかね？　自分なんかは、けっこうオイルとかいつも塗ってるんで。

—ダハハハハ！

天山　ガンガン塗ってますから（笑）。だからちょっとかわいそうだなって部分もありましたけど。でも、目的が違いますしね。

—プロレスラーは筋肉をきれいに見せるために塗るわけですもんね。

天山　そうですね、見た目のために。まあ、塗ったのも偶然か故意かっていうのは本人にしかわかんないですからね。まあ、故意だとしたら悪いヤツですよね。気持ちはわからないでもないですけど。ルールがあるんだから、それは従わないと。ちなみにあとはどんな人が出るんですか？

—ボクシングの亀田興毅さんにもインタビューしてます。

天山　あ～！　あれこそ最高のヒールじゃないですか！　あれだけやることなすこと世間に憎まれていいイメージがないっていうのは、ヒールとしては素晴らしいですよ。

—ヒールになりきれなかった男も大絶賛、と（笑）。それと天山さんといえばマット界きっての恐妻家で有名なんですけど、ヒールのときは家庭ではどういった感じなんですか？

天山　（表情を曇らせて）いろんな部分で……厳しいですよね。リングで悪いことしても、家では普通ですから。ぶっちゃけ家でいろんなストレスが溜まって、それをリングで吐き出すみたいなパターンも多かったですね。

—し、試合が家庭のストレス発散!?

天山　ええ。

—以前、お話を聞いたときに奥さん

無理しなくてもええんちゃう？　天山とヒールの相性

若手時代からお人好しであるがゆえに周囲からイジられ続けた〝愛されキャラ〟天山。最初のヒール転向は海外修行から凱旋帰国した95年。蝶野正洋の狼群団に加入し、一気にトップレスラーの仲間入り。その後もnWoジャパンにTEAM2000と、「アイム、チョーノ！」の横で天山は常に「オエッ！」と叫び散らしていた。しかし、蝶野の洗練された都会のヒールぶりとは裏腹に、大きなツノ&大きな顔で、どこかしら愛敬のあった天山からは自然と〝いい人〟オーラが醸し出されていたものだ。

その後、天山はIWGP王座戴冠やG1制覇など着々と結果を残していく。実績なら同世代の誰よりも立派なのにいまいち突き抜けられないのは、プロとしてのアクよりも持ち前の〝いい人〟オーラが勝っていたからか。

この殻を破らんとばかりに天山は06年10月に極悪ヒールユニットGBHを結成。だが、やはりヒールとして適性がなかったのか、最終的に追い出されてしまう始末。日本マット史上、ここまで悪役になりきれないレスラーがいただろうか？

しかし、ここ最近は〝素〟に近いお人好しキャラで、ヒドい目に遭うことによって大きな注目を集めた天山。この勢いを保つためにも、天山にはこれからも〝いい人〟オーラ全開でどんどんヒドい目に遭っていただきたいものである、オエッ!!



かつて本誌『プロレス探検隊』にGBHとして登場した天山。そのときも「憎まれてなんぼ」と言いつつ、水をこぼすと「あ、すいません……」と謝るなどいい人っぷりを発揮。

悪さを徹底しなきゃダメだったのに自分はヒールとして中途半端でした

に「喉を絞められた」とか「ニードロップを食らった」とか言ってましたけど。

天山 ありましたねえ……（シミジミと）。原因はいろいろあるんですが、月イチくらいでけっこう派手なケンカをしてますね。まあ、だいたいは自分が悪いんですけど。

——どういうときにケンカになるんですか？

天山 自分、金銭的にちょっとルーズなところがありまして（笑）。そこを「ふざけんな！」みたいな感じで嫁が詰め寄る、と。

——家計を守る奥さんとしては許せないでしょうね。

天山 まぁ、それでも自分は当然、手は出せませんし。自分がシカトして黙ってると、さらに向こうはエスカレートしてガンガン蹴りやらパンチやら。挙句のはてには押し潰してくるんですよ！

——はぁ〜、リング上さながらですね。

天山 最近、息子もちょっとママの真似して（笑）。ホンマに家庭内で居場所がないっていうか。

——もしかして、身の危険を感じたこともありますか？

天山 （真剣な表情で）3〜4回ありますね、あるときは台所でイスに座ってたらうしろからガッとタオルで首を絞められて。ウッと思ったら、ガーンと押し倒されて。

——タオルで首締め！ それは立派なヒール殺法で（笑）。

天山 で、こっちが「やれるもんならやってみろ！」みたいに開き直ってたら上からボコッてきて。でも、パンチはそんなに効かないんですよ。

——まあ、それは頑丈がウリのレスラーですもんね。

天山 「屁でもねえよ！」と。そしたら今度は何をするのかと思ったら、ニードロップを首もとにおもいきりグサッと。

——首を痛めている天山さんの弱点を的確に！



てんざん・ひろよし■1971年3月23日、京都府京都市出身。91年に松田納戦（現エル・サムライ）でデビュー。G1CLIMAXを3度制覇、IWGPヘビー級王者にも4度戴冠するなど新日本のトップレスラーとして活躍。ちなみに首のケガは今年のG1で負傷したもので、夫婦ゲンカによるものではない。念のため。183cm、115kg。

天山 さらに上からグーッと体重を乗っけてきて。で、自分も首が悪いからシャレになんないと思って「おい、よせ！ よせ！」って。こんなんで試合に出れなくなったら……。

——恥ずかしくて原因は言えないですよね。

天山 でも、向こうはやめないんですよ！ 自分はもう観念して落ちそうな手前でタップしたんです。

——元IWGPヘビー級王者が台所でタップ（笑）。

天山 そのときの女房の目は完全にイッてましたね。

——身近にそんな最強ヒールがいましたか。そういったうっぷんをGBHとして晴らしていた、と。

天山 ええ。もういまはホントにGBHっていうか、飯塚高史がね……ハッキリ白黒つけて葬り去ったつもりだったんですけど、G1に泥を塗るようなことやったりね、あまりにも無法地帯っていうか。

——かつては天山さんがそれをやろうとしてたわけですけど（笑）。

天山 （聞かずに）自分が作った反面、自分で落とし前をつけないと。飯塚は抹殺しなきゃ気が済まない！ いままでのレスラー生活の中でも、こんなに感情的になったことってなかったですから（鼻息荒く）。

——ただ、飯塚さんも以前は天山さん同様に"いい人"なイメージが強かったですよね。それがいまではあんな大変身を遂げて、ヒールの適性があったんですかね？

天山 あの〜。昔、自分が新弟子のときに長州さんの付き人をやってたんですけど、その前は飯塚がやってたんですよ。で、長州さんの世話がいろいろ大変で、自分は失敗ばっかりしてたんですね。

——ええ、「ガウンを着せろ」っていう意味で長州さんが腕を出したら、思わず握手しちゃったりとか（笑）。

天山 そうですねぇ。それで飯塚からいろいろ注意されたりしたんですけど、けっこうリング上とは違う怖い面が垣間見えましたね。最初は「ちゃんと真面目にやれよ」みたいな感じで。で、こっちも「はい、すいません！」って謝ってたんですが。失敗が積み重なったときに、飯塚がだんだんヒートアップしてきて、ホテルの廊下でいきなり自分の頭を押さえつけたんですよ。「何回言ったらわかるんだよ！」みたいな感じで、ガンガンガンガン壁に打ちつけて。

——ダハハハハ！ "いい人"飯塚さんも天山さんに対してだけはひどくなれるのかもしれない（笑）。

天山 飯塚にGBH、ホンマに最悪な集団ですよ。ただ、その一方で自分の場合は、ちょっとヒールとしては中途半端だったよね。もっともっと悪いことを徹底しなきゃダメだったな、っていうのはいま考えるとありますね。

——なるほど。いまはこういう流れですけど、もう一回ヒールをやってみたいっていうのはあります？

天山 もうヒールっていうのは自分の中では考えてないですね。ただ試合の中でちょっと悪いことをしたいなっていうか。やられたらやり返す、「目には目を」っていうのはありますけど。

——天山さんにはこれからはヒールではなく"いい人"キャラを極めてほしいですね！

天山 まぁ、どうでも"いい人"にならないように頑張ります（笑）。

——わかりました。今日はありがとうございました！

【08年8月29日／都内・新日本プロレス事務所にて収録】

――山本さん、なぜか2号連続の登場になりますが、今回は恋人の夢香さん同伴で、よろしくお願いします！

ターザン　今回はなんなんだよ！　またボロクソやられるのか？

――いや、春に『生前追悼本』を出して、山本さんのプチブレイクが起こりましたけど、それも一段落ついてきたんで、そろそろ燃料投下しとこうかな、と。

ターザン　一段落はついたけど、**ネットでのバッシングが延々と続いてるじゃない！**

――延々というか「永遠と」というか（笑）。夢香さんは、2ちゃんねるや『芸能カフェ』でボロクソ書かれてることについて、どうなんですか？

夢香　やっぱり、**なんでそんなこと言われなきゃいけないの？**っていうのはありますね。

ターザン　そういうことを言うからまた、いちいち人の神経を逆なでして返り血を浴びるんだよ！

――毎度、火に油を注いでますよね（笑）。

ターザン　みんな何が気に入らないのか……。**やっぱり、ボクが夢香ちゃんと付き合ってることへのジェラシー**なのかねえ？

――いや、断じてジェラシーではないと思います（笑）。

ターザン　あれ愉快犯なの？　知能犯なの？

夢香　「犯」ってほどでもないと思うよ。だって**向こうは向こうで好きに騒いでるだけ**で、直接被害があるわけじゃないから。

ターザン　精神的に被害はあるよ！

――山本さんはバッシングには慣れてますけど、ネットにはまったく慣れてないですからね（笑）。

夢香　ターちゃんは自分のことを言われるのは慣れてるけど、私のこと言われ

プロレスネット史上最狂のヒールコンビついに見参!!

“人生のホームレス”

ターザン山本！＆“その彼女”古関夢香

悪役とは何か？

おい、谷川！俺の彼女、34歳!!

“和製オードリー・ヘプバーン”本誌初登場!!



るとダメみたいですね。

――例の法政大学卒業疑惑ですか（笑）。

ターザンワールドのスーパーヒロイン

れるのは慣れてるけど、私のこと言われ

ターザンワールドのスーパーヒロイン

古関夢香が嫌われる理由

先月、ひさびさに本誌に登場すると、各方面でいい意味でも悪い意味でも大反響を巻き起こしたターザン山本。今回はその28歳下の恋人として、ごく一部で話題沸騰中の夢香姫を従えて登場だ！ この夢香姫、ウェブサイト『ターザンカフェ』で「夢香日記」を毎日更新しているが、自意識過剰、上から目線の内容が読者の反感を買い、『2ちゃんねる』のターザンスレ等で数カ月にわたり炎上中。まさにプロレスネット史上最狂のヒールコンビとなっているのだ。10月には〝歳の差カップル本〟も出版するというこの二人を直撃。ターザンワールドのスーパーヒロインが、なぜネットで嫌われるのか、これを読めばたぶんわかります！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也

るとダメみたいですね。

——例の法政大学卒業疑惑ですか（笑）。

夢香　そういうのとか。

ターザン　**あれホントに卒業証書あるの？**

夢香　あるよ。あたりまえじゃん。

——山本さんも疑ってましたか（笑）。

ターザン　彼（ガンツ）が出したほうがいいって言うんだよ。

夢香　えぇ〜っ？

——あれはもう卒業証書を出さないと信用しないってモードに入ってるんで、あるなら出したほうがいいですよ。

夢香　え!?　っていうことは、まだその話題が続いてるんですか？

——まだ続いてます。というか疑惑はますます深まるばかりです（笑）。

ターザン　**じゃあもう出しちゃおうよ！**

——出しちゃいましょう！　ホントにあるなら（笑）。

夢香　**いや……もっと引っぱれるね、これは。**

——なぜ引っぱる（笑）。これでますますグレーからクロに近くなりますね。で、ホントのホントに法政大学は卒業したんですか？

夢香　卒業しましたよ！

——では、ここで弁解の場を設けますので、どうぞ！

夢香　まあ……日記に書いたとおりですよね。夜通って、あと夏休みのあいだとかチョコチョコ通って。

——じゃあ、二部ということですね？

夢香　はい。

ターザン　何年行ったの？

夢香　5年。最後の年は卒業論文まで書いて合格もらったんだけど……。

ターザン　何書いたの？

夢香　**「日本国憲法における天皇制」**。

ターザン　えーっ!?

夢香　法学部だから天皇制について。

ターザン　経済学部とか法学部とか言ってたよね？

夢香　最初、会社が証券会社だったから経済学部に入って、そのあと会社辞めちゃって必要なくなったから、今度は法学部に移ったんです。経済学部に2〜3年いたから、だからトータルで8年ぐらい在籍してるの。

ターザン　授業料はどうしたの？

夢香　払ってたよ。

——でも、けっこうな金額いっちゃいますよね。年間100万円以上じゃないですか？

夢香　いや、1年で10万円ぐらい。

——えぇ〜〜〜、そんな安いんですか!?

夢香　安かったの。

ターザン　いつ卒業したの？

夢香　だから2006年だよ。**ちゃんと家に卒業証書送られてきました。**

——手渡しではなく、郵送ですか……。

夢香　でも、べつに私が大学出てようが関係ないじゃないですか。

ターザン　いや、**関係あるよ！**

夢香　だってそれで偽って就職したとかじゃないのに。

そのヒールっぷり北斗晶を超えた!?



——でも、山本さん自身は大学卒業してませんよね（笑）。

ターザン　してないね。

夢香　5年間通って単位ゼロだって。

——夢香さんどうなんですか、苦労して二部を卒業された人からすると、何もせず学生結婚して、奥さんの実家でセックスばっかりしてた人は。

夢香　そうなんですか？　それは初めて聞いたけど。

ターザン　とくに朝がひどかったねえ。

——朝からヤリまくってたんですか？

ターザン　**若いときは朝からヤリますよ！　激しく！**

——周りの家族はたまってたもんじゃないですね。

ターザン　ほかの部屋が襖一枚で隔てられてて、丸聞こえなんだよね。よく彼女の家族は怒らなかったと思って。

——内心カンカンだったと思います（笑）。で、いまは夢香さんのご両親がカンカンなんですか？

夢香　カンカンっていうか娘を盗られた、みたいな感じで。

ターザン　お父さんは焼鳥屋で成功してね、一代で築いた人なんで。僕はもうフ

ーテンの寅さんみたいなもんだからね。

――〝寅さんカップル〟ですね（笑）。

ターザン　無責任きわまりない人生でさ、テキ屋みたいな男でしょ？　嘘八百言ってさあ、ガマの油売ってるようなもんですよ！

――じゃあ、かつての『週プロ』読者は、ガマの油売りに騙されてたわけですか（笑）。

ターザン　**そう！　稀代の詐欺師ですよ！**

――で、夢香さんは詐欺師に引っかかっちゃったんですか？

夢香　そう、最近気づいた（夢香スマイル）。

――そういった**詐欺に引っかかりやすいタイプなんじゃないですか？**

夢香　ノセられちゃったんだよね……。

――でも、よくそういうものに引っかかりますね。『週プロ』編集長時代とか全盛期だったらわかりますけど、いまや小銭王子を自称してるぐらいお金がないわけですよね？

ターザン　ないよ！　衣食住ゼロ円生活の縄文人だよ！

夢香　縄文人なのにAV持ってるじゃん！



糖尿病のため、取材中にお腹を出してインスリンの注射を打つターザンと、そんなこと気にもせずワインに手を伸ばす夢香姫。糖尿病をものともせず、二人でトンカツ屋にもよく行くらしい。

――文明の利器はAVだけ。とんでもない縄文人ですね（笑）。

ターザン　AVの一番いいところだけを編集したビデオを元塾生が送ってくれるわけですよ！　それがもう11本もあって、**それを観ながらヌクわけですよお！**　凄いよ！

――持つべきものは塾生ですねえ。でも、いまは二人しか残ってない、と（笑）。

ターザン（無視して）その中でも黒人のやつと女性同士のレズが一番おもしろかったねえ。でも、あれ観てたらさあ、もっと日本の女の人は迫力ある声出すとか、暴れるとかしてほしいねえ。**僕の理想はアニマルセックス**ですよぉぉぉ！

――と、言ってますけど、こんなオ〇ニーばかりしてる62歳が彼氏でいいんですか？

夢香　**それぐらいしか楽しみがなさそうだから。**それを奪うわけにはいかないなって。

ターザン　楽しみじゃなくて習慣だよね。**ラジオ体操みたいなもんだよ。**

――オ〇ニーはラジオ体操！　さすが「毎日が夏休み」と言われてるだけのことはありますね（笑）。

ターザン　稀代の自由男ですよ、俺は！

――自由男というより自慰男のような……（笑）。でも、彼女がいるのになんで一人でそんなことばっかりしてるんですか？

ターザン　いやあ、もう凄いデフレセックスだから！

――あ、そうなんですか。だからか、歳の差カップル本を出すまでのビジネスの恋人関係なんじゃないかって噂もあるんですけどね。

ターザン　それは……**そうだねえ。**

――そうなんですか！（笑）。

夢香　でも、そういうメリットがないと、ほかに付き合うメリットないもんね。

――メリットがあるかどうかで付き合ってるんですか!?

夢香　**生身のこの人間だけだったらたいしてメリットがない**から。だいたいデートっていったら近所のジョナサンとかやるき茶屋とかでしょ。で、いつもワリカンで。

ターザン　昔は腐るほどお金があったのに、どこにいったんだろうね……（遠い目で）。

夢香　そうやって不利になると昔話ばっかりするの。

――逆に山本さんは、そんなデフレセックス状態で夢香さんと付き合うことに、どんなメリットを見いだしてるんですか？

ターザン　そんなもん60歳超えて若い女の子と恋人関係になるなんて、生きがいとしてこれ以上のことはないでしょ！　**世の60歳以上は俺に憧れるんじゃないの？**　だから、彼女と付き合うことで、俺はギリギリのところで世の60歳以上の人たちを逆転してるんだよね。

――じゃあ、これで夢香さんに捨てられたら、ギリギリでなんとか保ってたものが崖から落ちるわけですか？

ターザン　もう自殺ですよ！

――そのときはまた〝完全追悼本〟を出させていただきます（笑）。

ターザン　だって、もう何もなくなるんだから、一巻の終わりでしょ？

――夢香さん、責任重大ですねえ。

夢香　そうだよね、人の命を預かってるみたいな感じだよね。

ターザン　でも平気で「先が短い」とか言うんだよ。

夢香　だってターちゃんがまだ40代とかで、**この先何十年も一緒にいると思ったら、暑苦しくていられないですよね。**せいぜい生きても10年、20年ぐらいだったら、まあ（夢香スマイル）。

――山本さんはホームレスになってもいいですけど、糖尿病が悪化して、手足の切断とかは避けてほしいですね。

ターザン　俺が両足切ってしまったらさあ、こんな悲惨なことはないもんねえ。毎日ギャーギャー言ってさあ、ぶうたれると思うよ。

夢香　そうなったら、そのへんに置いてきてあげるよ。

――夢香さんはそういう山本さんを介護するっていう気は？

夢香　ないですね。**嫌ですよ、そんなの。遺産でもあるんだったらするけど。**

ターザン　介護なんてするわけないよ、そんなもん！　サッサとどっか行っちゃいますよ。

――でも、世間一般としたら、そこまでしてこそ歳の差カップルが美談になるんじゃないですか？

ターザン　そんな美談、大嘘ですよ！

夢香　**全部他人事ですから**（夢香スマイル）。

――さすが夢香さん。ネット上でターザン山本！のヒール人気を上回ってるだけのことはありますね（笑）。

ターザン　でも、女の人がヒール人気なんて普通ないでしょ。

――男女問わず、あそこまでのヒール人気はなかなかないですね（笑）。夢香さん的には、こういう状況をどう思ってるんですか？　山本さんと日記を始めたことで、容姿から人間性からすべてボロクソに書かれたりしてるわけじゃないですか。

夢香　だってターちゃん、なんとかしてくれるんでしょ？

ターザン　いや、なんとかならないよね……。

――なりませんか（笑）。

夢香　あ、そう……じゃあ騙されたってことね。

――このあいだ山本さんは「夢香ちゃんはノイローゼですよ！」って言ってましたけど、そんな感じでもないですね。

夢香　**あ、今度は私、ノイローゼの役をやればいいの？**（シレーッと）。

――でも普通、文章を書く人は読者からの「おもしろかったです」という反響を支えに頑張るわけじゃないですか。でも、夢香日記は正反対の反応が毎日届くわけで、それでも日記を書き続ける原動力はなんなんですか？

夢香　あんまり外の反響っていうのは気にしてないんですよね。ネットも見ないし。いまは書くこと自体が楽しいし、



これまで世の男性を魅了してきた、魅惑の夢香スマイルを浮かべながらインタビューに答える夢香姫。傍らにある白ワインのグラスが、セレブリティな彼女のイメージにピッタリだ。

ターちゃんの介護？　嫌ですよ。遺産でもあるならするけど（夢香）

私は『マイ・フェア・レディ』のオードリーってことね（夢香）

ターちゃんとのやりとりで溜まった**ストレスを日記に全部書くことで解消できるの**が一番ですね。

―ストレス解消でしたか……。最近の日記を読んでると、夢香さんが文章を書くのに飽きたというか、かなり苦痛になってるように感じる表記が多々見受けられるんですけど。

夢香　文章が苦痛なんじゃなくて、**ターちゃんとの付き合いが苦痛**になってるの。

―付き合いが苦痛！　恋人との共著を執筆中とは思えない発言ですね（笑）。で、夢香さんはいま女流作家を目指してるんですか？

夢香　目指してるっていうか……なんなんでしょうね？

―いや、知りませんけど（笑）。とりあえずいまの職業は、物書き見習いみたいなもんですか？

夢香　**そんな感じだよね。**

―現在、収入はないんですか？

夢香　ないですね。（ターザンに向かって）面倒見てよ。

―ちなみに、どうやって生活してるんですか？

ターザン　彼女は**実家だからさ、部屋代払わなくていい**じゃない。

―やはり家にお金入れてませんでしたか（笑）。じゃあ、いまは蓄えで暮らしてるんですか？

夢香　そんな感じで。あとたまにターちゃんの競馬が当たると、ちょっとお小遣いもらったりとか。

―収入のあてが競馬っていうのも凄いですね（笑）。

ターザン　ボクは究極の貧乏生活をしてるわけだよね。たとえば今日なんかは現金で使ったのはノトヤのおはぎ280円だけだし、普段は米を炊いて、サツマイモをふかしたヤツと一緒に食べたりしてるわけですよ。

―縄文人というか、弥生人ぐらいの生活ですね（笑）。

ターザン　まったく贅沢をしてないから、**それが糖尿病にいいん**ですよ。

―夢香さんは山本さんに手料理をプレゼントしたりとか、そういうのは一切ないんですか？

夢香　ないですね。



ターザン　やったことないよ、この人！

―やらない主義なんですか？

夢香　やりたくないですね。**まあ、面倒くさいし**。そうなると普通のカップルっていうか、つくす側に回っちゃうから。

―ちなみにご実家で料理をしたりとかいうのもないんですか？

夢香　**ないです。**

―ありませんか（笑）。家業の焼鳥屋さんを手伝ったりとかは？

夢香　やらないですね。

―あ、それもやらない。

ターザン　俺言ったんだよ。夢香ちゃん、**こんなにかわいいんだから、**「こせ喜小町」として看板娘をやればいいわけですよ！　それで適当に金持ちと結婚したらいいんだよ。

夢香　これ絶対書いてくださいね、ターちゃんが言ったから結婚するからね。

ターザン　旦那さんがお父さんの跡を継いで**シコシコ仕込みをやればいいんです**よ。で、彼女は店内で「いらっしゃいませ！」とか言ってたら、これもう朝の連続テレビドラマになりますよ。何も好き好んで文章書く必要ないわけですよ！

―でも、あえてそういう人生を選んだのは、普通の生活がおもしろくないからなんですか？

夢香　**まあ、そうだよね。言い換えたら暇つぶし**みたいなね。

―暇つぶしでしたか！

夢香　でも、いまターちゃんがそこまで言ってくれたら、気が楽になりましたね。これを踏み台にして次にいければばって。

こせき・ゆめか■自称・夢香姫。1974年2月13日生まれ。B型。本人曰く法政大学法学部卒業。07年、自己啓発セミナー仲間でもある、ターザンギャルドを運営する山崎会計事務所の山崎夫妻の紹介で、ターザンと出会い、「ひとこと塾」に通い始め、あっと言う間に幹事長に就任。08年4月より『ターザンカフェ』内で夢香日記をスタート。ネット上でヒール人気が爆発。実家は新小岩で焼鳥屋「こせ喜」を経営。



たーざん・やまもと■1946年4月26日生まれ。『週刊プロレス』編集長として80年代末から90年代半ばにかけて、プロレス界に絶大なる影響力を持つ。しかし、96年に『週プロ』編集長の座を追われると、妻子にも逃げられ、どん底にたたき落とされる。それで01年に私塾「一揆塾」を立ち上げるが、現在は休止状態となっている。

ターザン　だからいつ逃げてくのかなって想像してるの、俺。

―逃げられ慣れてますからね（笑）。

ターザン　そうそう。「またかー」みたいなね（笑）。

―夢香さんは今後のことは考えてるんですか？

夢香　とりあえず収入がなくなっちゃったから、そこをなんとかしないと。8月いっぱいは原稿書きだから、それが終わったら就職活動をする予定です。

―ずっと無職でいるわけにいかないでしょうからね。

夢香　ターちゃんが（派遣先に）お弁当持ってくるから悪いんだよ！

―例の「恋人弁当」ですね（笑）。やっぱり、あれが仕事を辞める一つの原因ではあるんですか？

夢香　あれで相当、私の見られ方が変わりましたね。**仕事はちゃんとやるんだけど、**周りにへんなのがいる、みたいな。

―やっぱり山本さんと日記が大きな原因だったんですね（笑）。

ターザン　こういうときこそ谷川（貞治）が彼女の就職を世話してくれないかなと思ったんだけど、**谷川の野郎、全然役に立たねえよ！**

―そんな都合のいいこと考えてましたか！

ターザン　谷川もこういうときに恩返しすればいいんだよ。もう彼女は一般的な就職はできないわけですよ。で、谷川はテレビ局とかマスコミをいっぱい知ってるわけじゃない。

―「一般的な就職はできない」って、何か問題があるんですか？

ターザン　いやいや、たとえばいままで彼女は金融関係に勤めてたけど、**そういう仕事は退屈でダメなんだよな。**

夢香　**うん。**

ターザン　もっと刺激のあるおもしろい仕事をしたいわけですよ。

―派遣の仕事が退屈だから、マスコミに就職希望ですか（笑）。実際、谷川さんに頼んだことあるんですか？

ターザン　言ったよ！　でも、彼は忙しいから全然連絡が来ないんだよ。だから今度、記者会見行って直談判しようと思って。**「谷川、なんで俺の彼女の就職世話しないんだ、探せ！」**って怒るんだよ。

―とんでもなく非常識かつ、ずうずうしいですね（笑）。

ターザン　いいんだよ！　**俺は彼の恩人なんだから。**「それぐらいしないと、バチが当たるぞ！」と言いたいね。

―では、そんな山本さんと夢香さんの共著が、どんな本になるか期待しておりますので。で、ホントに出版されるんですよね？

ターザン　ちゃんと10月に出ますよ！　これによって、彼女がどうやってブレイクしていくかっていうのが楽しみだね。映画でいうとさ『マイ・フェア・レディ』みたいなもんだよ。

―どういうことですか？

ターザン　あの映画は、貧しく汚い娘役のオードリー・ヘプバーンが、学者の先生に特訓させられて上流階級に通用する淑女になっていくわけ。俺はその先生ですよ！

夢香　**じゃあ、私はオードリー・ヘプバーン？**

ターザン　そうですよぉぉぉ！

―（無表情で）さて、いいオチがついたところで、お開きにしたいと思います。また、どこかでお会いしましょう！

【08年8月18日／都内・リビングバー新宿にて収録】

kamipro books

驚ガク! 衝ゲキ!! kamipro booksシリーズ!
死闘インタビューの歴史的目撃者になれ!!

吉田豪のセメント!!
スーパースター列伝 パート1



吉田豪インタビュー11連発!!
インタビュー本の最濃傑作!

★ストロング小林★阿修羅原★康芳夫★倉持隆夫★サムソン・クツワダ★猪木快守★イーデス・ハンソン★田中健一★小川宏★鶴見五郎★田代まさし

日本最強のプロレス本・芸能本収集家であるプロインタビュアーの吉田豪が、『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビューの一部を完全徹底再録!! "プロレス"という4文字に魅せられた人々に"下調べの鬼"が挑む、時間無制限オールセメントマッチを堪能せよ!

B6変型判　344ページ
定価=1,890円（本体1,800円+税）

プロレス狂の詩
夕焼地獄流離篇



プロレス狂がシビれる
凄玉たちのインタビュー集!

★ジェラルド・ゴルドー★後藤達俊★小畑千代★ザ・グレート・サスケ×韮澤潤一郎★中島らも★大槻ケンヂ★シーザー武士★ダニー・ホッジ★高山善廣×金原弘光★真樹日佐夫×三池崇史

プロレス狂の胸躍る詩が聞こえてくる——!! メインストリームからはみ出さずにはいられなかったプロレスラーたちや格闘家、リング内外の裏表を凝視してきた関係者たちへのインタビューにより、プロレスへの「誇り」や「哀しみ」が交錯する、濃厚な内容テンコ盛りの一冊!

B6変型判　304ページ
定価=1,890円（本体1,800円+税）

生前追悼 ターザン山本!



え、ターザンが死んだ!?
90年代プロレスを徹底検証!

★浅草キッド★いしかわじゅん★堀辺正史★更級四郎★松本晴夫★杉山頴男★谷川貞治★山口日昇★金沢克彦★市瀬英俊★小島和宏★菊地成孔★Oka-Chang★古関夢香 ほか

『週刊プロレス』編集長として辣腕を振るい、90年代プロレスブームの火付け人となったターザン山本さん。この"追悼本"には、山本さんをよく知る関係者、知人、恋人らが登場。山本さんの人生を通して、90年代プロレスブーム、はたまたプロレスという生き様を振り返る!

B6変型判　304ページ
定価=1,470円（本体1,400円+税）

U.W.F.変態新書



ダメな大人たちへ捧げる
"変態"とUWFの晩餐!

★UWF★前田日明★船木誠勝★高田延彦★桜庭和志★ターザン山本★キン肉マン★PRIDE★プロレス★変態とは何か?（菊地成孔スペシャルインタビュー）★変態解説

プロレス界における一大ムーブメントとなったUWF。本書はそのUWFによって人生を学び、人生を狂わされた変態的プロレスファンたちが、革命集団UWFの逸話を神話へと昇華させんとする、妄想的かつ変態的な試みの一冊。30歳を超えたダメな大人たちは迷わずマストバイ!「プロレス・格闘マスコミ 変態の系図」も掲載!

B6変型版 296ページ
定価=1,680円（本隊1,600円+税）

紙の破壊王
ぼくらが愛した橋本真也 爆勝証言集



破壊王の三回忌追善本!!
泣けて笑えるエピソード満載!!

★破壊王ファミリー★天山広吉★西村修★山田千景（獣神サンダー・ライガー夫人）★馳浩★藤波辰爾★田中秀和（リングアナウンサー）★ケビン・ランデルマン★三浦大輔（横浜ベイスターズ投手）★折鶴兄弟 ほか

07年7月11日に三回忌を迎えた"破壊王"橋本真也の泣けて笑える追悼本! 橋本真也の原点である新日本プロレスの選手や関係者が故人を偲んで語った豪胆な"破壊王"らしいエピソードが盛りだくさん! みのもけんじ書き下ろし『紙のプロレス・スターウォーズ』も収録!

B6変型判　304ページ
定価=1,890円（本体1,800円+税）

紙の破壊王
ぼくらが愛した橋本真也



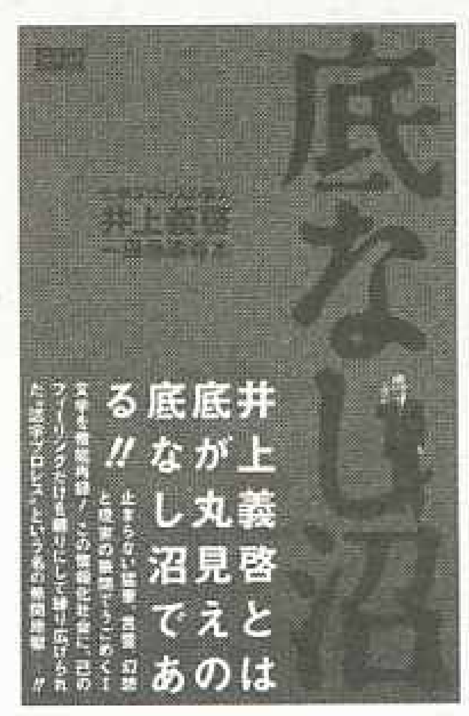
惜しまれつつ急逝した
"愛すべき馬鹿"のすべて!

★小川直也★哀川翔★アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ★船木誠勝★ドン荒川★武藤敬司★佐々木健介★安田忠夫★勝俣州和★橋本かずみ★破壊王爆笑名言★破壊王人生相談★破壊王エピソードコラム ほか

05年7月11日に急逝した"破壊王"橋本真也。誰からも愛された"最後のトンパチレスラー"の魅力満載の追悼本。『紙のプロレスRADICAL』収録の各著名人との対談や本人インタビューの再録、さらに故人と関係の深い方々へのインタビューなど、読めばますます破壊王が好きになる!

B6変型判　304ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

底なし沼
活字プロレスの哲人 井上義啓 一周忌追善本



井上義啓とは底が丸見えの
底なし沼である——!!

★『週刊ファイト』&『SRS・DX』激筆再録★『猪木は死ぬか』、『不在証明あるいは猪木へのレクイエム』★新間寿★佐藤正行★夢枕獏★ターザン山本&吉田豪★『kamipro』ラスト喫茶店トーク ほか

"活字プロレスの父"井上義啓氏の一周忌追悼本!!『kamipro』や『週刊ファイト』に連載された井上氏の名物コーナーから、ゆかりのある方々の氏を偲ぶインタビュー、さらにはフランスでの人生最後の旅模様を振り返るエピソードも収録! "底なし沼的"な井上ワールドに浸れ!

B6変型判　312ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

殺し
活字プロレスの哲人 井上義啓 追悼本



"殺し"文句が心を打つ!
井上義啓 追悼本!!

★喫茶店トーク傑作選★井上小説傑作選★I語録★井上義啓とは何か?／アントニオ猪木／水道橋博士／金沢克彦／松島弥生（井上義啓・姪）／ほか★『kamipro』未公開"喫茶店トーク"

多くの"プロレス者"に影響を与えた"I編集長"こと井上義啓氏の追悼本!! 幻の喫茶店トークから涙なくしては読めない病床のエピソードまで……。プロレスという"底が丸見えの底なし沼"に浸かり続けた男の凄みを感じろ!! "井上プロレス"は不滅ですよ!!（ドンッ）。

B6変型判　304ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表) [通信販売のお問い合わせ先]http://www.enterbrain.co.jp/




『kamipro』
ヒール特集、
インタビュー交代の
お知らせをいたします。
不快なカップル、
ターザン山本！＆夢香に
代わりまして、
流浪のサウスポー、
江夏！　背番号26！

悪役（ヒール）とは何か？

球界を代表する稀代の大投手・江夏豊。

――プロの選手なら……っていうことで

江夏　やっぱりね、いくらプロとはいえ、スター戦で9連続三振取ったときに、最後



“優勝請負人”と呼ばれた球界のレジェンドが語る

一匹狼の流儀

20世紀最高の投手

江夏豊

ヒール特集に球界から数々の伝説を築いた名選手が登場!
「自分を通すためにはそれ以上に結果を残さなければならない」を信念に、
観る者を魅了する記録と記憶に残る活躍を収めた男・江夏豊。
権威を振りかざすものに対して無骨なまでに反発した「孤高の一匹狼」の、
その波瀾万丈な野球人生で身につけた極上の哲学を聞け!

聞き手/ジャン斉藤　撮影/菊地茂夫　試合写真/乾普也

球界を代表する稀代の大投手・江夏豊。1967年のデビューから6年連続最多奪三振のタイトルに輝き、70年のオールスター戦では前人未踏の9者連続三振を達成。73年に日本プロ野球史上初の延長戦ノーヒットノーランを、自らのサヨナラホームランで飾ったシーンは、いまも球界屈指の名場面として語り継がれている。また、日本におけるリリーフ投手のパイオニアとしてさまざまな球団を渡り歩き、「優勝請負人」の名をほしいままにした。

しかし、その野球人生は決して平坦なものではなく、「孤高の一匹狼」と称されるように、反骨精神旺盛ゆえの不遜な言動が取り沙汰されることも少なくなかった。〝20世紀最高の投手〟の誉れ高くも、どこかダーティなイメージがつきまとう江夏が独自の〝流儀〟を語ってくれた!!

——今日は、伝説のピッチャーにお会いできて光栄です!

江夏 とりあえず座って座って。ここは自分の家でもないんだしさ。

——では、さっそくおうかがいします。

江夏 オッケー、オッケー。

——それで江夏さん。我々はプロレス・格闘技雑誌の者なんですけど、じつは今回の特集のテーマが「ヒール」や「アウトロー」なんです。で、プロスポーツ界を見渡したときに、一匹狼で魅力あふれるヒールといえば、江夏さんしかいないんじゃないか、と。

江夏 自分は優等生だよ(貫禄たっぷりと)。

——そ、そうですか。

江夏 自分じゃ優等生のつもりだよ。確かに現役時代には「江夏は一匹狼だ」「ワガママだ」とか言われたけど、しょせん、みんなワガママだしね。

——プロの選手なら……っていうことですよね。

江夏 そういうこと。で、自分で自分を一匹狼だなんて思ったこともないし。よく言うじゃん、「ピッチャーは孤独だ」って。でも、自分から言わせれば、「何が孤独なの?」って。だって野球は団体競技じゃん。基本的に団体競技っちゅうのは、やっぱりどっかで助け合ってる部分ってあるわけやから。で、一人で野球はできないんだから、自分で孤独と思ったこともなければ、自分は一匹狼だなんて思ったこともほとんどない。ただ、自分のできる範囲内は自分でやらないと、他人は助けてくれないよ。自分たちが(プロ野球に)入った昭和41~42年はそういう時代やったからね。

——そんな時代性でもあるんですね。

江夏 それほど(チーム仲間と)和気あいあいというわけでもなかったし。「プロとは何か?」っちゅうとね、プロとは要はグラウンドで答えを出さないかんというような教えられ方もしたし、そういう諸先輩ばっかり見てきたから。だから自分の先輩である村山実、この人は僕にとっては恩師であり、兄貴分であり、見本であり、ライバルっていうね。

——当初は、村山さんは江夏さんにいろいろ教えていたそうですけど、徐々に遠ざけるような……。

江夏 うん。要するに初めはかわいい弟分、子分というような感覚だったけど、「この男はいずれ俺のエースの座を狙ってくる男だな」と思えば、今度はライバルとして扱った。だから遠ざけるっちゅうか、いままではかわいがってもらったけど、だんだんそれがなくなったわけ。

——当時の江夏さんは、その意は汲めなかったわけですよね?

江夏 やっぱりね、いくらプロとはいえ、18~19歳の少年がそういう態度をとられると、当然「あの野郎!」って思うわね。当時は自分も若かったから、一つ一つ頭にきた部分もあったけど、やっぱりそれなりの年代になって、自分が判断できるようになってくると、村山さんのやり方に感心するようになったよね。

——じゃあ、江夏さんだけが一匹狼というよりは、当時のプロ野球全体の風潮がそういうものだったところはあるんですね。

江夏 そういうこと。みんなが一匹狼。一匹狼の集まりがプロ集団。たとえば、自分がこの世界に入ったときの年俸が180万円だった。月15万円。ただ、一勝すれば20万円の賞金がついたわけよ。

——月給より上ですか(笑)。

江夏 だから「勝ちたい、勝ちたい」という気持ちでマウンドに上がってた。自分はやっぱりね、この世界に入ったかぎりは人一倍稼ぎたいし、勝ちたい。勝てば当然いい生活できるというね。で、よく村山さんが言ってたのは、「札束っちゅうのは立つもんだ。横にするもんじゃない」っちゅうね。

——ボクなんか立たなくても満足できますけど(笑)。江夏さんを反体制的なイメージをもって、マスコミがそういうふうに報道していたところもあったんでしょうか?

江夏 マスコミからしたら、いいターゲットかもわからんね。自分たちのイメージっちゅうのは、マスコミに作られてる部分ってたくさんあるよね。たとえば、オールスター戦で9連続三振取ったときに、最後の打者の加藤(秀司)がポーンとファールを打って、キャッチャーの田淵(幸一)が捕りに行ったけど、マスコミは自分が「捕るな!」と叫んだと。でも、あれは「捕るな!」じゃないんだよね。「追うな!」と言ったの。もう追ったところで完全にスタンドに入るファールだから、それより早く座ってくれ、と。

——投球のリズムを崩されたくなかったんですね。

江夏 うん、早く投げたほうが三振取る自信あったから。だから自分は「追うな!」と言ったんだけど、それを勝手にマスコミが「捕るな!」と書いた。そのあとのノーヒットノーランをやってサヨナラホームランを打ったときなんかでも、あるマスコミの人が「おい、野球っちゅうのは一人でもできるんやな」って言うから、自分は「うん、そうやな」ってちょっと答えたのが、全部自分の発言になってて。結局、そういうのが当時のマスコミやったんやけどね。

——それだと江夏さんに傲慢なイメージがついちゃうじゃないですか。そういう報道に対して釈明したい気持ちはなかったんですか?

江夏 だって、男は言い訳するもんじゃない(キッパリ)。

——そうは言いましても(笑)。

江夏 それぐらいは、たとえ18歳やろうが19歳やろうが、わかってるじゃない。そうやろ?

——いやあ~、いまなら釈明するのがあた

自分はマスコミのいいターゲットだった。でも男は言い訳するもんじゃないから

りまえになってますよね。

江夏　そのへんがちょっと変わってきたよね。時代が変わってきたっちゅうのかな。自分たちが入った時代っちゅうのは、自分が悪くないとわかっていても言い訳をしなかった。すれば恥ずかしいという時代だったからね。

——あと有名なエピソードとして、リリーフの調整法の誤解もありますね。日本で初めてストッパーという役割を江夏さんがやられたときに、出番に備えてロッカールームで寝ていたり、マッサージを受けての調整方法に「江夏は何をやってるんだ！」とチームメイトから反発を受けて。

江夏　あった。いまだから笑い話にできるけど。南海（ホークス、現ソフトバンクホークス）の先輩で広瀬（叔功）さんっていたんだけど、この人はとってもいい人よ。人間としても素晴らしいし、野球人としても素晴らしい。その人が自分に文句言ったんだから。

「試合中に何を休んでるだ！」と。

江夏　そう。要するに、（南海の監督だった）野村克也は「おまえは今度はリリーフに使う。抑えっちゅうことは毎試合登板や。だから調整はおまえに任せる」と。それを僕に言ってくれたわけよ。だけど、野村監督もみんなの前で言ってくれりゃいいんだけど、自分だけに言ったんだよ。まあ、みんなにはしぶしぶ納得はしてもらったけど、みんな顔はムスッとしてたよな。だから、あとは結果を残すしかなかった。そこで自分が結果を残せば、自分のやり方をみんな認めてくるわけだし、実際にいまのプロ野球界はそうなってるんだから。

——そこで口じゃなくて腕一本で黙らせるのは、それこそ男の美学ですよね。

江夏　かもわからんね。美学でもなんでもないけど、そういうことが望まれた時代でもあったし、自分はそういう時代が好きだから。いいとは言わないよ。ただ好きだっていうね。だから、つい最近でもあったでしょ。ある野球選手が、ある女性と不倫をして。で、男のほうは反省したのか、丸坊主になった。バカかっちゅうの!!

——あ、反省無用ですか。

江夏　堂々としとけっちゅうの！　男にとって女の数って勲章だから！（キッパリ）。

——気持ちがいいですねぇ（笑）。





↑今年7月にタレントの山本モナと"五反田ラブホテル騒動"を巻き起こして世間を騒がせた二岡智宏（読売巨人）は、その謝罪の意味合いを込めて丸坊主姿に。ちなみにモナ嬢は二岡の前に細野豪志衆議院議員との不倫を報じられたことも。おそろしきは魔性の女。これぞヒール!?
←江夏も認める魅力的な"プロ"である清原和博（オリックス・バファローズ）。無類の格闘技好きとして知られ、魔王・秋山成勲のセコンドについたことも。残念なことに今期限りで現役引退を示唆しているが、その後はマット界に参戦もありうる!?

一匹狼の流儀

江夏豊

野次られるほど自分は投げ甲斐を感じた。凄い選手は憎まれ役であり、一匹狼よ

江夏　でも、女性にとって男の数は傷になる。だからね、女性はそうはいかないけど、男は堂々としてなくちゃいけないんだよ。それを丸坊主にしたっちゅうからね、情けない男だなと思うよね。自分はそう感じたよね。堂々としときゃいいんだから。

——王（貞治）さんなんかも不倫の是非を問う前に、あれだけの年棒をもらってるんだから「9800円のラブホテルには行くな！」と言ってましたもんね（笑）。

江夏　王さんもやっぱり自分たちと同じような……、まあ、王さんの場合は戦前生まれだけどもね。王さんは昭和15年生まれか、自分より8つ上だから全然年代は違うけど、やっぱり自分たちは王さんたちを見て大きくなったという年代だから。

——当時は巨人ファンが圧倒的多数だったじゃないですか。ONと対決するときなんか、江夏さんは大悪役扱いだったと思うんですけど。

江夏　よく野次られたね。甲子園でやるときはね、阪神と巨人のファンが五分と五分かもわからんけど、後楽園に来ればもう9対1で巨人のファンだから。まして当時のグラウンドに観に来る人たちは男ばっかりだったから。

——そういうシチュエーションは逆に燃えたんじゃないですか？

江夏　野次られれば野次られるほど、やっぱり自分としては投げ甲斐はあったよね。だから野球界なんかでもね、最近はよく悪役なんていうけど、憎まれ役ってあるじゃん。そんなヤツは現役時代の落合（博光）が最後かな。やっぱり相手から憎まれる。やっぱり「あいつだけには打たれたくない」とかね。そういう選手っちゅうのが味方にとっては凄く頼りになる選手だからね。凄い選手は憎まれ役であり、みんな一匹狼よ。だってね、たとえば巨人のON、二人並んでONだけど、王さんは王さんの世界、ミスターはミスターの世界があったからね。で、それにまた金田（正一）っちゅうとんでもない"天皇"がいたでしょ。

——かなり暴れていたそうですね、金田さんは。

江夏　まあ、金田さんもひどい。

——さすがの江夏さんでも金田さんには脱帽ですか！（笑）。

江夏　あれは尊敬できる先輩じゃないもんな（苦笑）。でも、400勝ピッチャーだからね。400勝っちゅうのは凄い数字やからね。初めの頃の名球会のメンバーっちゅうのも、やっぱりみんな個性あふれる、アクのあるね……そのアクの強さが魅力なんだよね。決して優等生じゃない、みんな「俺が俺が」なんだけど、でもどっかで一つにまとまるんだよね。どっかにみんな自分の志っちゅうのを持ってるから。

——アクの強さが魅力的な選手って、誰で最後ですか？

江夏　そうね、やっぱり落合が最後かな。その匂いを持ってるのが清原（和博）と金本（知憲）ぐらい。あとは野茂（英雄）もそうだったよね。

——イチローさんとか松井（秀喜）さんはどうですか？

江夏　このへんはもう優等生のかたまりだよ。だから言っちゃ悪いけど、個人的にはなんの魅力も感じてないよ。

――イチローさんなんて成績はもう……。

江夏　超一流だけどね。個性のある選手なんだけど、要するに優等生すぎるんだよね。

――野球界って、もちろんグラウンドの実力もさることながら、それにキャラクターっていうのが必要だと思いますか？

江夏　じゃあ、一般人はただ単にチームが勝った負けただけで観に来てるのか？　っていったら、決してそうじゃないと思うんだよね。やっぱりね、昔の巨人ファンはね、巨人が負けたって長嶋が打ってくれれば、王さえ打ってくれればというようなファンがたくさんいたと思うよ。それが本当のファンだと思うしね。だから、個性っちゅうのを僕は大事にしてもらいたい。華があるっちゅうかね、個性っちゅうヤツをね。それがいまの時代はどんどん華が小さくなってきてるよね。最近じゃもう新庄（剛士）ぐらいだよ、華があったのはね。だからやっぱりそういう華のある、個性のある人の集団であってもらいたい。

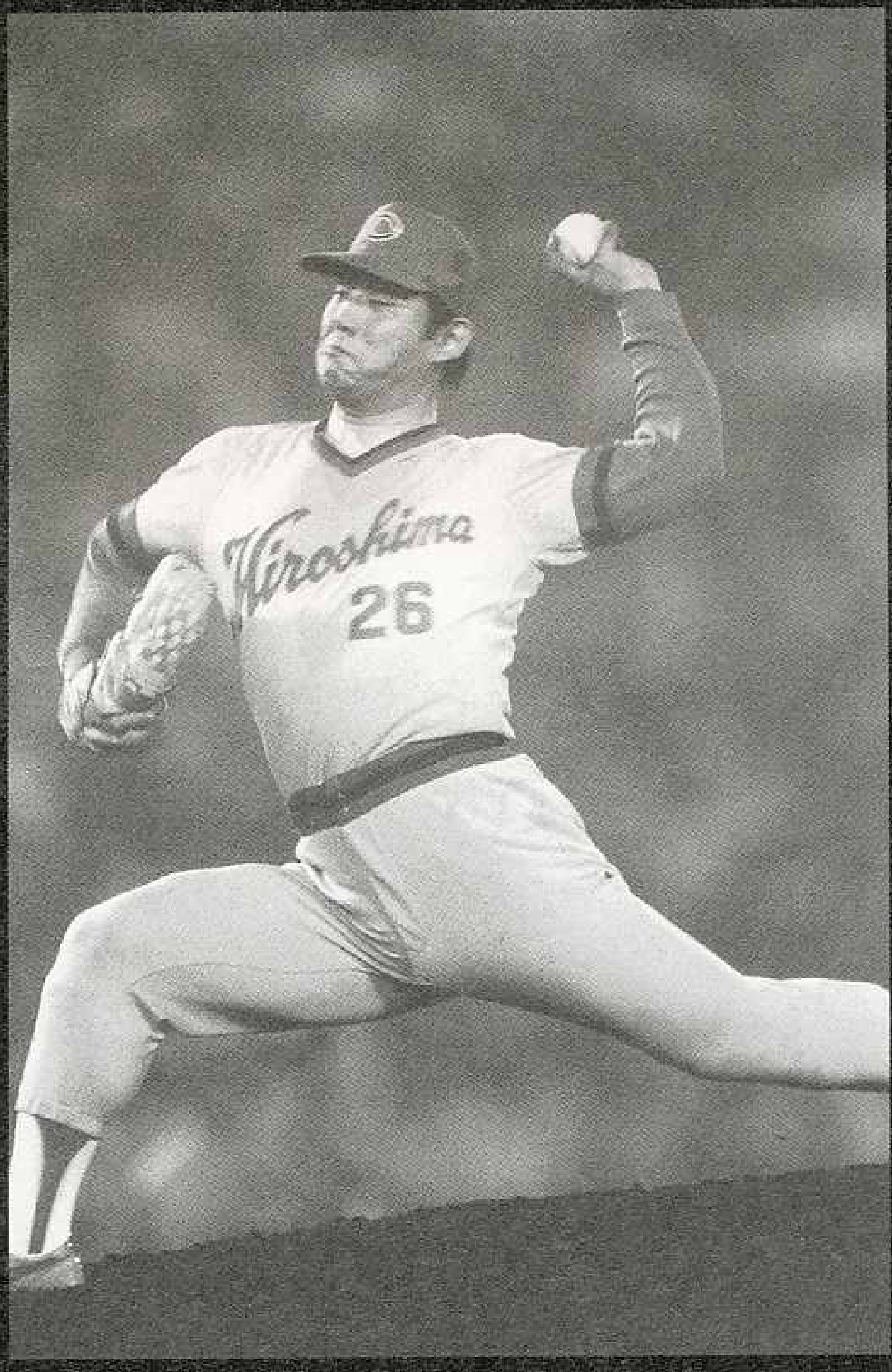
――単なる競技だったら見向きもされないですよね。

江夏　うん。一般の方は高い入場料を払って観に来てくれるわけだから。ある意味ではストレス解消にもなってもらわんと。大声出してね、ビール飲んでね、好き放題野次っていいわけだから。それが一般の人への唯一の、グラウンドでやってる選手たちからの恩返しになると思うんだよね。それが自分たちと変わらないような、ストレス溜まるような選手ばっかりだったら……。だからいまもね、見てるとやっぱり監督はそういう優等生ばっかり好む。

――つまり、使いやすい選手ってことですね。

江夏　そうそう。「右向け！」と言うとみんなが右向くような。我々のときは「右向け！」と言ったらみんな左向いとったわ！

――ダハハハハ。


広島時代はリリーフエースとして活躍、79年～80年の2年連続日本一に大きく貢献した江夏。79年の日本シリーズ、vs近鉄バファローズ最終第7戦での9回裏のピッチングは、後に作家の山際淳司が『江夏の21球』として短編ノンフィクションで記したほどの名場面。

江夏　中には上向いたり、下向いたりするのもいる。そんな選手を束ねるのが監督の仕事なんだけどね。

――江夏さんのいた頃も、チームの派閥争いは激しかったみたいですね。

江夏　あったよ、派閥も。やっぱり自分が一番まいったのは、昭和46年に村山派と金田（正泰）派に分かれたとき。自分だけは真ん中にいたんだけどね。

――一人だけ真ん中ですか（笑）。

江夏　自分がついたほうが政権を取るっていう話だったの。

――江夏さん、それ何歳ですか？

江夏　ええと……自分が入って4年目ぐらいか、22～23歳ぐらいだね。

――22歳とは思えない存在感ですね（笑）。

江夏　だから自分は阪神で人間関係っちゅうのには苦しんできたよね。まあ、人一倍苦労もしてきた。苦労っちゅうのかな、苦しんできたっちゅうのかな。だいぶ勉強になったよね。だから派閥っちゅうのも嫌な言葉だけどね。でもやっぱり3人集まれば派閥はできるんだよね、極端に言えばね。でも、べつに自分は自分の生き方があるから。だから、あの派閥の争いで金田派についたのは……うん、まいったな。

――それで江夏さんは阪神から南海へトレードされたあとも、チームを転々とされたじゃないですか。

江夏　はいはいはい。

――もちろん優秀だったためにいろんなチームから声がかかったっていうのもあると思うんですけど、ある意味、江夏さんの不器用な生き方が、監督やフロントに疎まれてトレードされていったところもあったんですよね。

江夏　うん、よく言われるよね。確かに不器用かもわかんないけど、そういう生き方

いまは「右向け右」な優等生が多い。我々の時代はみんな左向いとったわ！

現役最後の武勇伝

メジャー挑戦
～海を渡ったアウトロー～

江夏は84年に西武に移籍。当時36歳であり、さすがに衰えが見え始めていた。そして本文中にもあるように、厳格な選手管理で有名だった広岡達朗監督と衝突。結果、江夏は史上初の通算200セーブ、通算3000奪三振を目前に、84年限りで現役引退を表明。ところが、そこで終わらないのが反骨精神の塊・江夏。なんと引退式の席上で突如メジャーへの挑戦をぶちあげたのだ！

いまでこそイチローや松井秀喜、松坂大輔と日本人がメジャーに挑戦、活躍するケースも珍しくないが、当時は日本からメジャーに参戦した選手は村上雅則（64年～サンフランシスコ・ジャイアンツ）一人のみ。それから21年の空白を飛び越え、江夏はこの高い関門を突破しようとしたのだ。

85年、江夏は宣言どおりにミルウォーキー・ブルワーズの春期キャンプに参加。オープン戦で結果を出してメジャー昇格の最終選考まで勝ち残り、現地でもおおいに注目された。しかし最終段階で力尽きてしまい、惜しくも開幕メジャーはならず。もはや思い残すことはなかったのか、ここで江夏は潔くユニフォームを脱ぐ。

これ以降、95年の野茂英雄まで誰もなしえなかったメジャー挑戦。それに先駆けること10年。アクの強い個性派揃いの球界にあって、自分の流儀を貫き通した男による最後の果敢なチャレンジであった。どんなに挫折しても立ち上がり続けたこの不屈の闘志こそ、〝一匹狼〟江夏豊の魅力なのだ！

しかできない自分っちゅうのも、バカだなと思いながら、仕方がないって思ってるよね。まあ、それを直そうとも思わないし、自分はそういう人生っちゅうのかな。自分に正直に生きる。だから、ここで頭を下げりゃいいんだなっていうときってあるじゃない。

——ありますね。

江夏 あそこで頭を下げていたら、丸く収まってトレードに出されなかったかもわからんけど、それができなくて胸を張っていたからこそ、トレードされたときもあっただろうね。でも、そのときは「ああ、頭を下げとけばよかったな」って気持ちがどっかにあったとしても、時間が経てば「べつに頭下げなくてよかったな」って、自分で納得してるよ。後悔はしてない。それは自分に跳ね返ってくることだから（キッパリ）。だから昭和59年、広岡（達朗）のオッサンとケンカしたのがきっかけで、自分は引退したんだ。

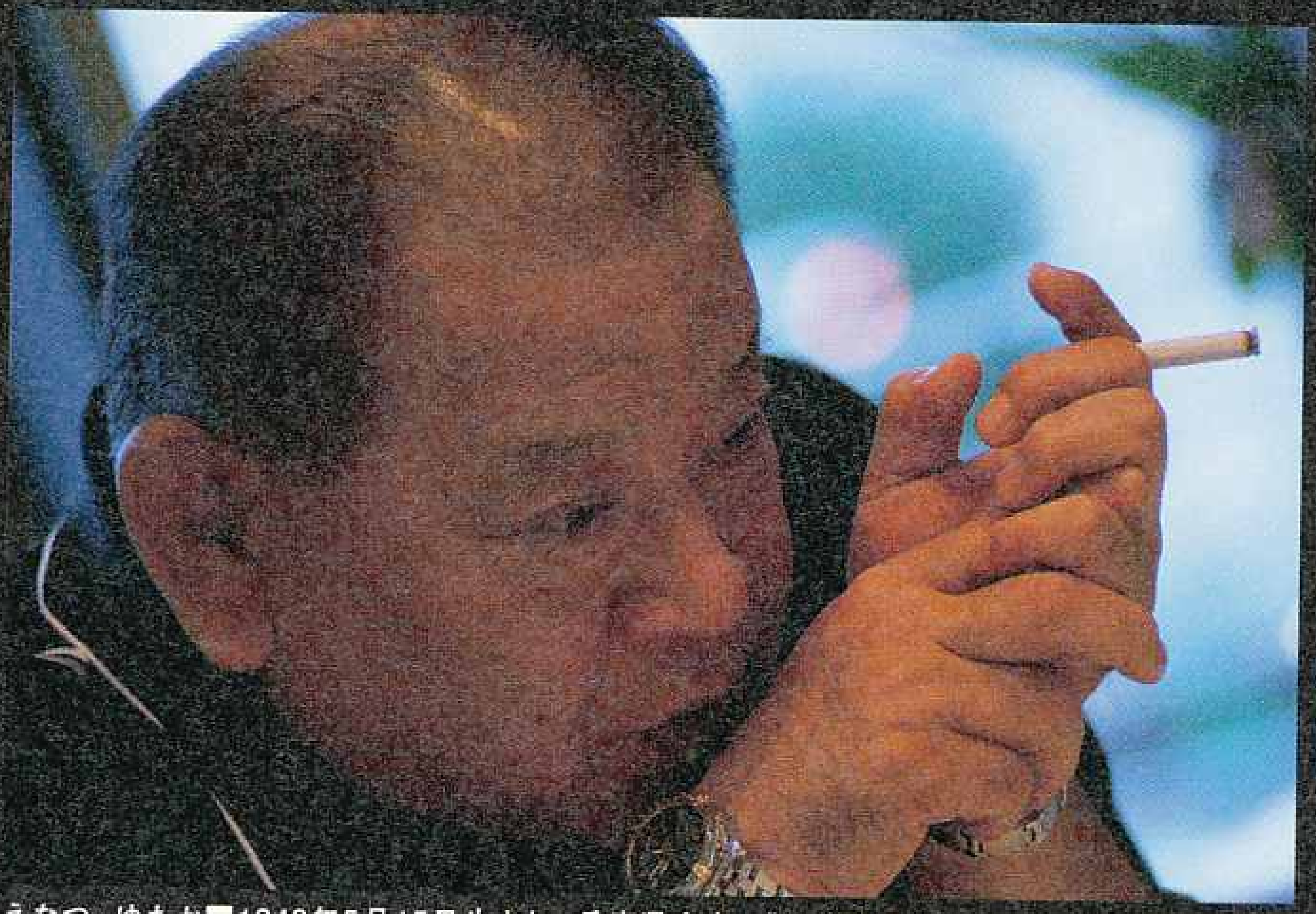
——あのケンカの理由も凄いですよね。

江夏 まあ、いまとなっては笑い話だけどね。「帽子を被れ、ストッキングを履け」。試合になったら履くっちゅうねん！　練習ぐらいええやろ、学生野球じゃあるまいし。で、挙句のはてには「あれ食ったらいかん、これ食ってはいかん」って管理するくせに、てめえは痛風で休みやがったからね。

——それを指摘したことが干されることのきっかけになって。そこでちゃんとケンカできる江夏さんはさすがだなって（笑）。

江夏 あのときは6月の初めだったかな、ファームに落とされて。もう落とした時点でまるっきり、チームの構想の中に入ってないわけだから、じゃあ、そんな野球界ならもういいやって。それで自分で辞めるって決めたんだから。いまでも広岡っちゅうのは許せないよ。なんでかっていうと、野球選手から野球を取ったらなんにも残らないんだよ。わかる？　カメラマンの人からカメラ取ったら商売にならん。自分は野球を取られたんよ。これはどんだけやってはいけないことか。職権を利用して、人の生活を脅かす。これは許されることじゃない。そのやり方を自分は我慢できなかった。そこで頭を下げてまで日本で野球をやる意味はなかったね。で、アメリカに行ったんだ。

——そこはフェアな闘いをしたかったわけですね。そういう意味で、江夏さんが正々堂々と闘っているなって思うのは、ライバルだった王さんに対してデッドボールが1回もなかったっていう話ですよね。王さんから一番ホームランを打たれるんですけど、一番三振を奪ってて。



えなつ・ゆたか■1948年5月15日生まれ。兵庫県出身。"20世紀最高の投手"の呼び声高い伝説の名選手。球歴は大阪学院高→阪神（67～75）→南海（76～77）→広島（78～80）→日本ハム（81～83）→西武（84）。現役通算成績は829試合206勝158敗193S（防御率2.49）。現在は野球解説者・評論家を務め、そのわかりやすく明晰な技術論は高い評判を得ている。

一匹狼の流儀

江夏豊

ルールを守る前にマナーを守らないと。自分なら「女と年下に手を出すな」だね

江夏 いや、いい話っちゅうか……これも時代の流れで、デッドボールってピッチャーにとって恥ずかしいことなんだよね。フォアボールっていうのは、これは一つの戦術としてあるわけよ。でもデッドボールっちゅうのは、これは要するに、職権利用して人の生存権を奪うのと同じで、単なるデッドボールで終わればいいけど、当たりどころが悪いと後遺症っちゅうのがあるから。それをいまは天下の高野連（日本高等学校野球連盟）が、バッターに避ける意思がなかったらデッドボールじゃないってへんなルールを作ったじゃん。こんなの大きな間違いだよ！　当てること自体がピッチャーは恥だと思わないと。だから今年の夏の大会観とっても、当てても、ピッチャーは知らん顔してるよね、審判のデッドボールというコールがなければ。

——当たってもデッドボールと認められないから、投手は謝らない、と。

江夏 そう、謝る必要がないという。当てたことに対して悪いとか、自分の技術の未熟さを自分で恥じるということを覚えてくれないと。恥ずかしいと思わないと絶対うまくならないから。もう二度と恥かきたくないという思いがあって、人間の技術は向上していくわけだから。

——そこはルールというよりマナーですね。

江夏 そう、それはマナーじゃないかな。ルールを守る前にマナーを守れっていうかね。ルールっちゅうのはコロッコロ変わるじゃない、法律と同じで。マナーはそんなに変わるもんじゃないだろ、その人のマナーは。そのマナーがないから、平気で子が親を、親が子を傷つけたり、そういう時代になってしまったんだろうね。だからよく言われたのは、「女と年下には手を出すな」と。それだけは守ってきたもん、自分は。

——それだけですか（笑）。

江夏 うん。自分のマナーはそれだけ。

——「一匹狼」「アウトロー」と呼ばれた江夏さんが魅力的に映ったのは、そのマナーを守ってきたからでしょうね。

江夏 ところで、キミはタバコ吸わんの？

——いや、大丈夫です。

江夏 これだけしゃべったらタバコぐらい吸わんとしんどいだろ？

——いや、そんなことないです（笑）。江夏さんはタバコはいつ頃から？

江夏 自分は18歳です。

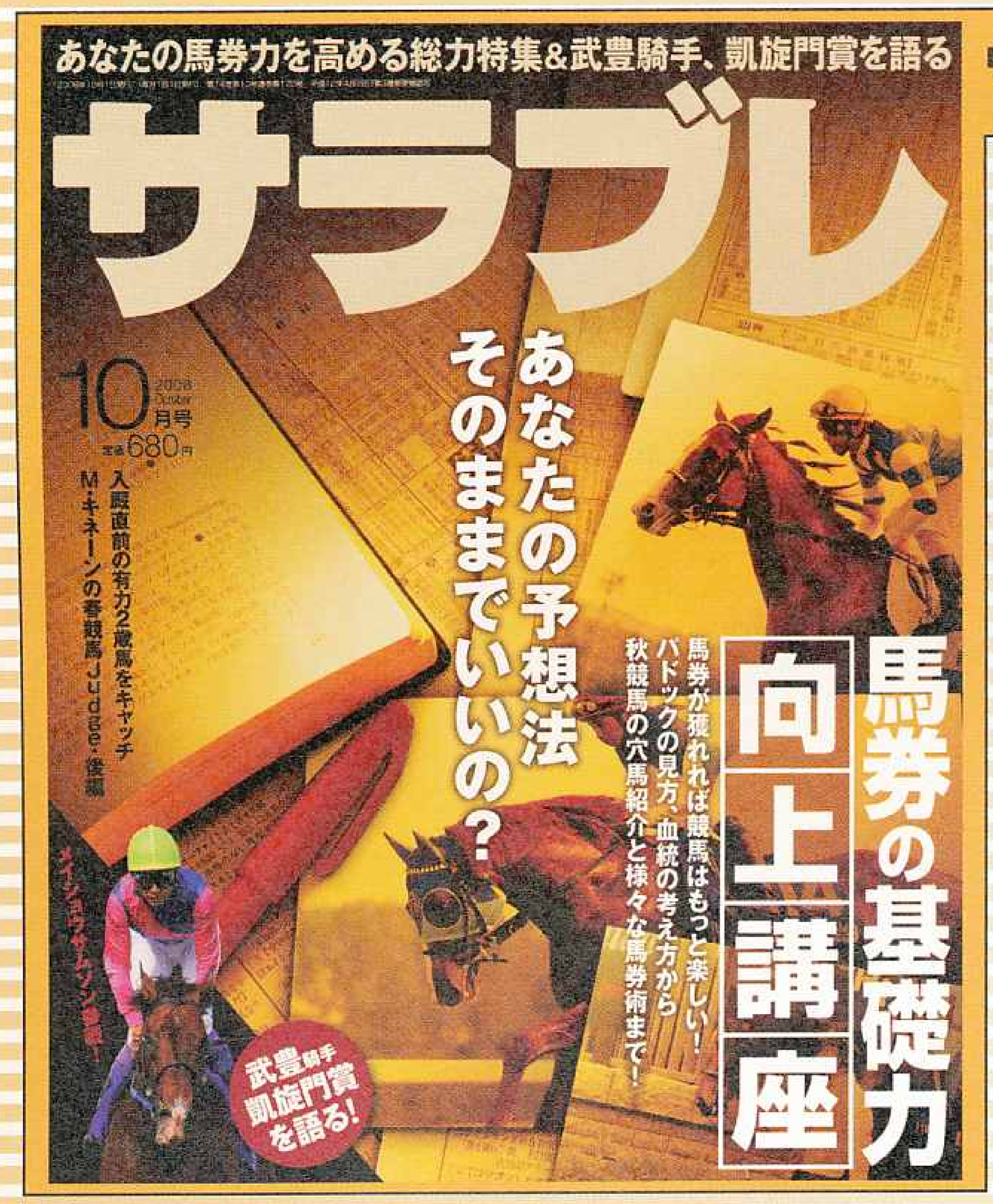
——ダハハハハ！　監督から注意されなかったんですか？

江夏 そんなもん、言われるわけないじゃん、あの時代に。要は野球人はグラウンドが勝負だっちゅうことだよね。度がすぎるとよくないけど、人に迷惑かけなけりゃ、自分で責任を取ればいいんだからという考え方だよね。自分はこうして生きてきた。それだけだよ。

——一匹狼のマナーがわかったような気がしました。今日はありがとうございました！

【08年8月25日／都内・お箸ダイニング『アーリーズテラス』にて収録】

『アーリーズテラス』東京都港区北青山2-8-44 テビアプラザ2F TEL.0470-87-9065



サラブレ10月号　9月13日発売　定価680円

あなたの予想法
そのままでいいの?

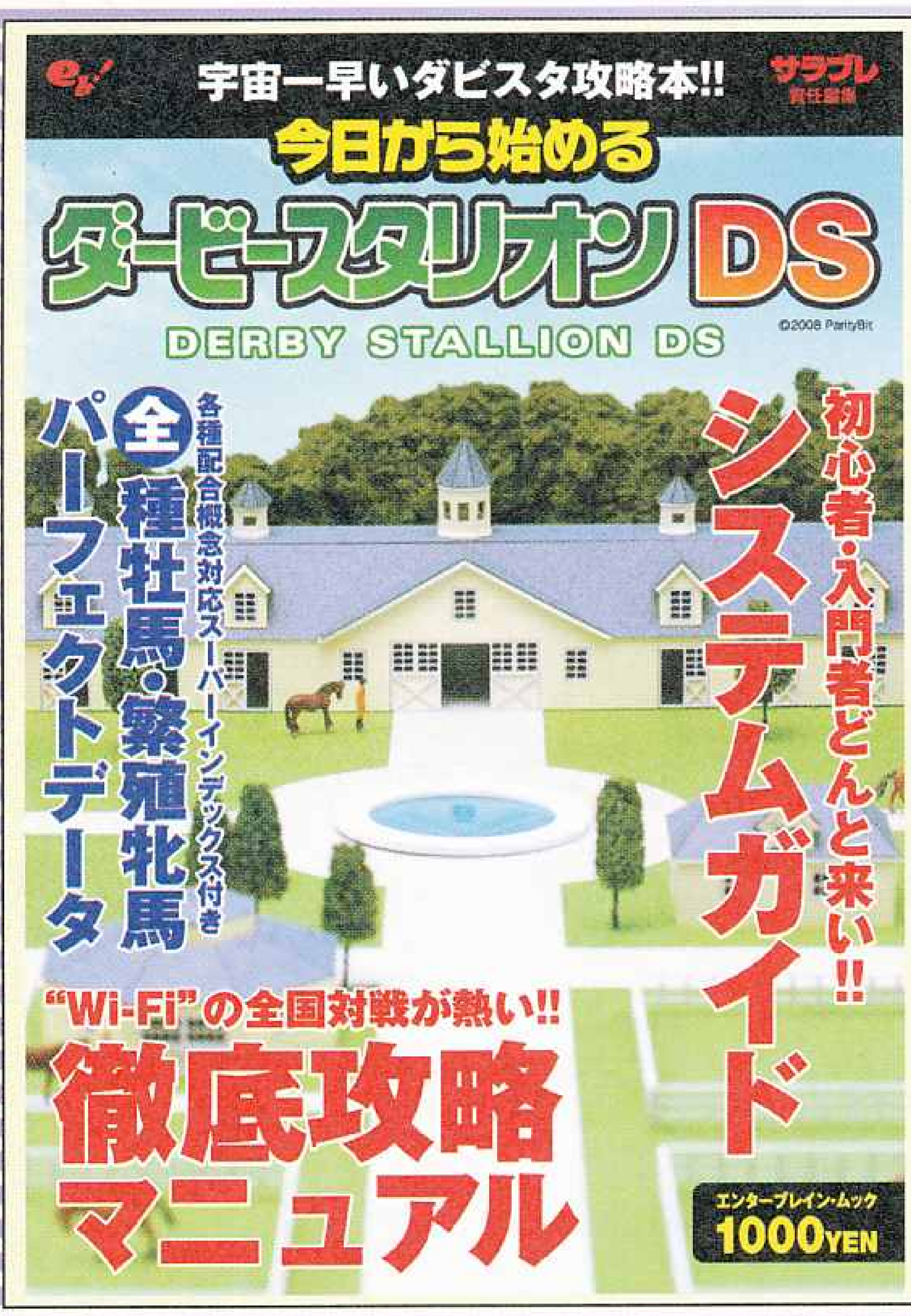
特集　馬券の基礎力向上講座

- 展開、血統、調教、馬体など予想の基礎中の基礎を今一度
- 全国競馬専門紙のココがスゴイ! &秋競馬の穴馬予想
- パドックの達人が教える『馬見』のメカニズム
- 競馬マスコミ陣に聞く馬券との上手な付き合い方

10.5 メイショウサムソン参戦
凱旋門賞を武豊騎手が語る!

入厩間近の大物たちを捉えた!
2歳有力馬最新情報

競馬月刊誌 サラブレは毎月13日発売!



宇宙一早い!! ダビスタDSの攻略本

大好評増刷

全種牡馬&繁殖牝馬の血統データを掲載
「面白い配合」「見事な配合」などの系統情報がひと目で分かる見やすい作り。血統マニアは必携

ダビスタ初心者も安心の攻略ガイド
分かりやすく丁寧な解説で『ダビスタ』初心者も安心! お得な攻略テクニックもたっぷり紹介します!!

製作者・薗部博之氏のスペシャルインタビュー!!
『ダビスタ』製作者・薗部氏の生の声をたっぷりお届け! その発言からゲーム攻略の鍵を見つけ出せ!!

サラブレ責任編集

"初心者から最強馬派まで、全ユーザー必携の書"

※内容は一部変更になる可能性があります。　©2008Parity Bit

A5半　288ページ
定価1000円(税込)

絶賛発売中

ケータイサイト
サラブレmobile
月額 315円(税込)

すべてのキャリアで3Gに対応していますが、一部非対応機種があります。詳細はサイトにアクセスしてください。

iモード　メニューリスト ▶趣味/娯楽 ▶競馬/競輪/競艇 ▶サラブレモバイル
EZweb　EZトップメニュー ▶カテゴリ検索 ▶懸賞・くじ・ギャンブル ▶競馬 ▶サラブレモバイル
Yahoo!ケータイ　メニューリスト ▶趣味・レジャー ▶競馬・公営競技 ▶サラブレモバイル

enterbrain　株式会社エンターブレイン　〒102-8431　東京都千代田区三番町6-1　電話0570-060-555(代表)　http://www.enterbrain.co.jp/

知る人ぞ知る

あの凶器バッグの中身を初公開!





Mr. POGO WEAPON COLLECTION 2008

ミスター・ポーゴ 武器コレクション2008

プロレスのヒールといえば忘れてならないのは、やはり凶器です。ここではプロレス界を代表するヒールのミスター・ポーゴが試合のたびに常備している凶器バッグの中身を初公開。「これは凶器じゃねえ、武器なんだよ!」いうポーゴさんが、これまで多くのレスラーを血祭りにあげてきた自慢の一品を紹介しましょう! ちなみに、オリジナルの武器を多数開発してきたポーゴさんですが、その多くはオークション等で売却済みとのこと。う〜ん、残念!

取材/阿修羅チョロ　撮影/戸成嘉則　試合写真/平工幸雄

WEAPON COLLECTION_002

五寸釘つき ギザギザカッター



【使用法&効果】

直径20センチほどのこの武器は通称・五寸釘つきギザギザカッターといいます。使用方法はじつに簡単。五寸釘部分を自らの人さし指と中指のあいだから覗かせるように握り、五寸釘を相手に突き刺しながらノコギリ部分でその両側も切り裂くという一石三鳥の優れものです。

WEAPON COLLECTION_001

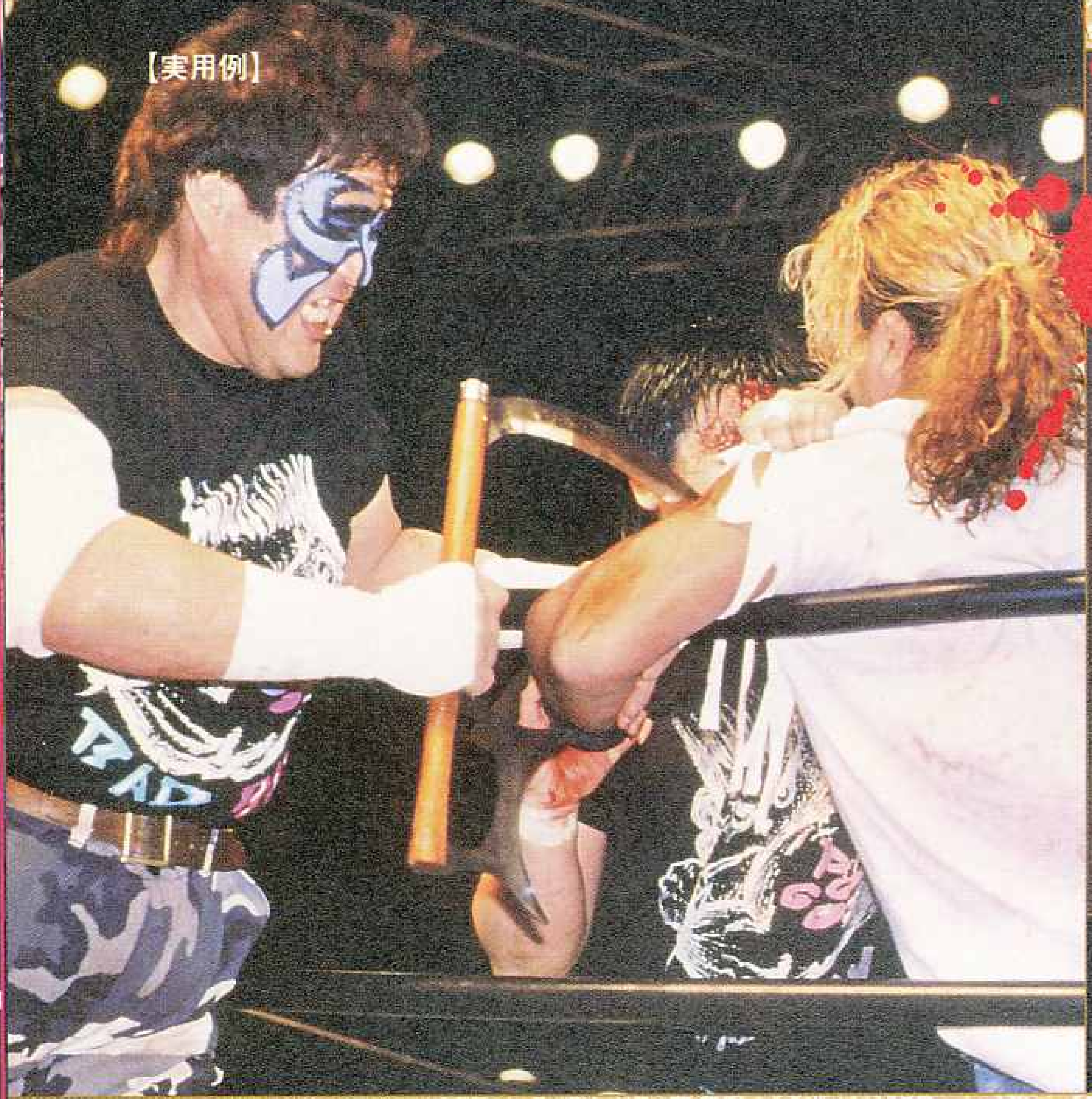
チェーンつきナイフ

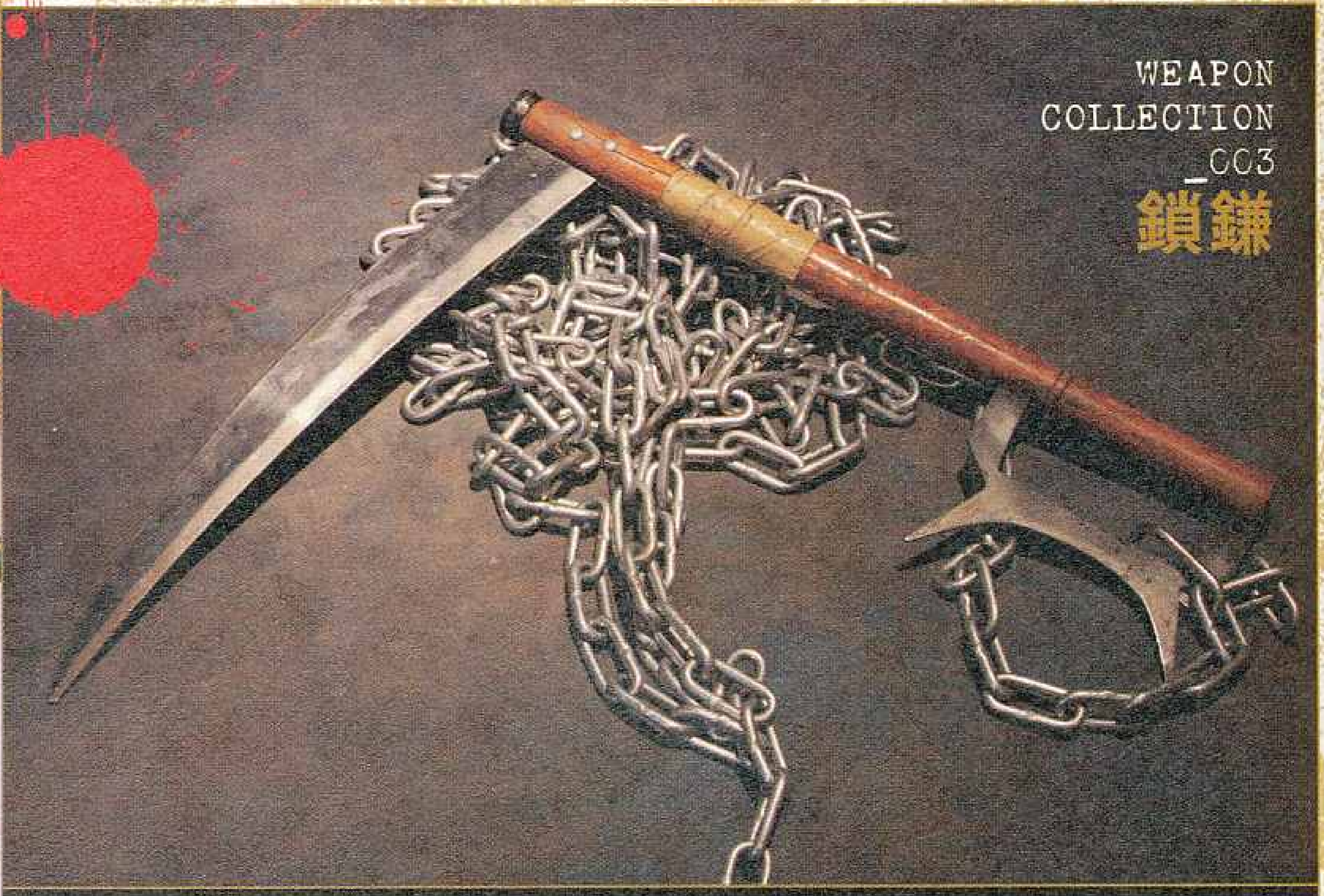


【使用法&効果】

このキラリと鈍い光を放つチェーンつきナイフが実際に試合で使われるなんて、プロレスファン以外には理解不能なことだと思われます。しかし、ポーゴは相手の首にチェーンを巻きつけ、躊躇なく額にナイフを突き刺すのです。なぜって? それが極悪ヒールレスラーの務めだからです。

【実用例】





WEAPON COLLECTION _003

鎖鎌

【使用法&効果】
一見すると農作業用の草刈り鎌と思われるかもしれませんが、やはりボーゴの武器なだけにそうはいきません。そのグリップ部分には、しっかりと別の刃物が装着されており、鎌部分での攻撃を回避したとしても、下からズブリとやられてしまうのです。こんな物騒な武器でも5カウント以内なら使用が認められるのがプロレス界なんです。

悪役とは何か?



WEAPON COLLECTION_004

試合用ブーツ

【使用法&効果】
ただのカウボーイブーツと侮るなかれ、こちらはボーゴが10年以上も試合で愛用している年季モノ。ボーゴの手にかかれば、こんなブーツも一瞬にして危険な武器に早変わり。使用法はいたって簡単。ムカついたらブーツを脱いでブン殴る。シンプル・イズ・ベストです。



WEAPON COLLECTION_005

ギザギザナイフ

【使用法&効果】
刃渡り40センチほどもあるノコギリナイフ。職務質問され、こんな武器が出てきたときには一発でアウトでしょうが、ボーゴなら問題なし。使用ポイントは鞘から抜く際にノコギリの刃の部分をこすりつけ「ギリギリギリ」と音を出し、聴覚も刺激することなんだとか。



WEAPON COLLECTION_006

ビッグファイヤーセット

【実用例】



【使用法&効果】
プロレスのヒールなら誰もが憧れるファイヤー攻撃ですが、簡単にできるものではありません。試行錯誤を繰り返し、誰よりもビッグなファイヤーを作り出すことに成功したというボーゴ。その方法は企業秘密とのことですが、こっそり4点セットを盗み撮り。「何、勝手に撮ってんだ! 出てけ——ッ!!」

府転覆”を
ブチ上げた

“超マッド革命家”

外山恒一が
本誌初出馬!!

「少数派の諸君っ!」「もはや政府転覆しかないっ!!」と金切り声で絶叫する超アナーキーな政見演説で昨年の東京都知事選挙をかき回したあの政治活動家・外山恒一がな、なんと『kamipro』に登場!! ネット上で話題となった、そのヒール的な言動の真意とは? さらにガチで“ファシズムで世直し”を掲げるマッド&反体制な生き様とは? このインタビューを読まずして、何かが変わると思ったら大間違いだ!

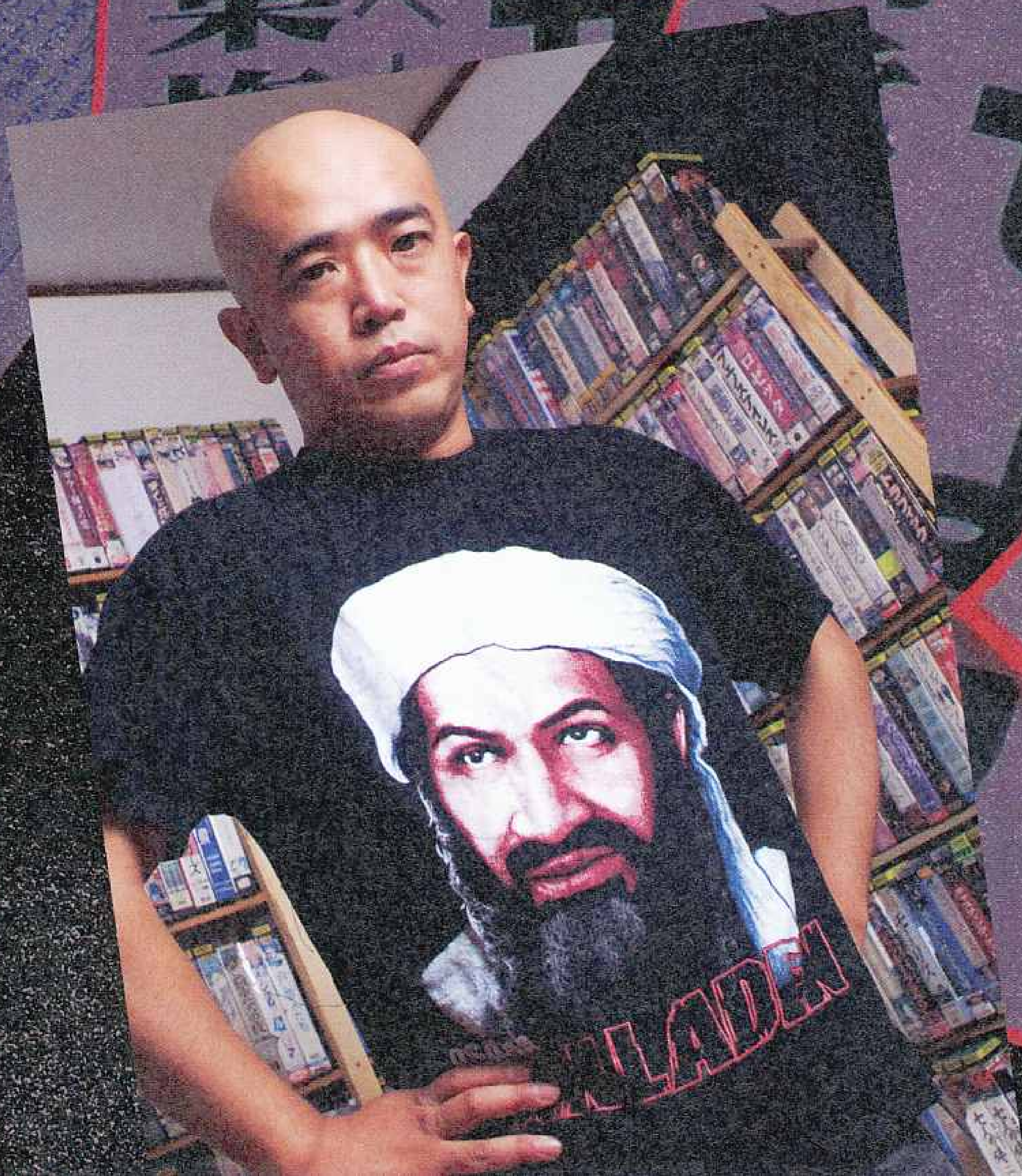
聞き手／真下義之　撮影／清沼修彦

こんな国滅ぼそう!!

'07年東京都知事選で“政

あの

まさかの



こんな国滅ぼせ!

都知事選は最初から「通るハズはない」と思ってました。完全に売名行為です

君は外山恒一を知っているか？ 昨年の東京都知事選挙に突如として出馬し、「こんな国滅ぼせ！」「改革なんかいくらやっても無駄だ！」という過激な政見放送をブチ上げた男。

そのヒール的な言動やハイテンションぶりとあいまって、ネット上で大きな話題となり、「You Tube」ではじつに200万以上の再生回数をマーク！

そこで本誌では、このマッドな革命家に取材を緊急オファー!! 誰もが〝独裁者〟アドルフ・ヒトラーを連想する〝ファシズム〟思想を掲げ、「もはや政府転覆しかないっ！」と世直しを宣言する真意とは？ なぜこんな活動を行なっているのか、本拠地・福岡で直撃!!

——今日は、いま最もアウトローな〝革命家〟外山さんにお話をうかがうため、博多までやってきました（緊張気味に）。

外山 どうぞ、よろしくお願いします（非常に礼儀正しく）。あ、お茶をどうぞ。

——あ、恐縮です……。ちなみに〝革命〟という言葉は我々の雑誌で扱っているプロレスや格闘技でもよく使われるんですが。

外山 ああ、そっちは縁遠い世界なんで、よく知らないんですよね。ただ、プロレスって観ている側がやたらと理屈っぽい感じはしますね（笑）。

——おっしゃるとおりです（笑）。ただ、我々からすると外山さんは、そのプロレスでいうヒール的というか、「怖い方なのかな」と戦々恐々として来たんですが……（緊張気味に）。

外山 あ〜、あれは演技ですよ（キッパリ）。

——んあ〜、演技!! じゃあ「こんな国はもう滅ぼせ！」とか、「選挙で何かが変わると思ったら大間違いだ！」とかああいうマッドな口調はすべて計算ずくですか？

外山 そうですね。でもちょっと反響が凄すぎました。ちょっとおもしろくしすぎたというか（笑）。

——ちょっとやりすぎましたか（笑）。確かによくも悪くも誤解されまくりでしょうね。

外山 誤解には慣れてるからいいんですけど。ただ、内容的にホントに思っていないことは一言も言ってないんですよ（真顔で）。ホントに思っていることを極端におもしろおかしくアレンジしてるだけで。アナーキズム（無政府主義）的な政治思想としてはごくごくオーソドックスなことを言ってますから。欧米みたいにアナーキズムの実践みたいな環境が身近にあれば、「まっとうなことを、おもしろおかしく言ってるな」という受けとめ方をされるし、実際に海外ウケもいいですから。

——ただ、日本ではあのテンションを見て、真剣にヤバい人だと思ってる人は多いでしょうね。「コイツ、本気だぞ－！」って。

外山 いやいや、主張的には全部、本気で思ってることです（真顔で）。そこを演劇的に楽しめるようにしたというか。最後の「当選したらヤツらはビビる！ 私もビビる！」のくだりはオチとして配置してますし。しゃべりが得意な人間だと思われてるんだけど、脚本の勝利というか。書き言葉を過剰に話してるだけですから。

——ただ、あの立候補って実際のところ、どのぐらい本気だったんですか？

外山 もちろん当落という意味では最初から、「通るハズはない」と思ってましたよ。まぁ、完全に売名行為です（キッパリ）。

——売名行為！ そこまでキッパリ言われると爽快です（笑）。

外山 結果的に都知事選では「二人の勝利者」という声もありましたから。「都知事になった石原慎太郎と、売名行為が成功した外山だ」って（笑）。僕はいままでの活動を通していろんなかたちでブレイクしかけたけど、今回が一番反響は大きかったし、そこを一過性にしないようにしないとね。

——結果的には1万5000票以上もの票を獲得されたわけですから。ただ、高校生時代から管理教育に反対して積極的に活動したり、刑事事件となった裁判では裁判官をからかって最終的に二年間も獄中に入ることになったり、その獄中でも刑務を断固拒否したり……。外山さんの人生って反体制な生き様を徹底的に貫いてますね。

外山 まあ、そんなこともないんですけど。基本的にはヘタレな人間なんで。いつも多少は怒られるとは思ってますけど、「怒られるだけだろ」ってナメてかかってる部分はありますね。

——でも都知事戦はスケールが異様にデカイですから、「自分の身に何か起こるかも」とは思いませんでした？

外山 確かに都知事戦のときは珍しく覚悟はしましたね。というのも僕は選挙ポスターで自分の携帯番号を公開してましたし。そのポスターで、「毎晩、高円寺の駅前にいる」ということも公開してましたから、「狂信的な右翼がいきなり来て、刺されるかも」とか。

——可能性はおおいにありますね。

外山 極左だったのは昔の話で、いまの僕は右翼なのにね。でも「殺されるのはイヤだけど、刺されるまでは仕方ない」って腹を決めて。刺される可能性と、やろうとしてた選挙パフォーマンスのおもしろさを天秤にかけて、「やるべきだろう」と。

——で、実際には大丈夫だったんですか？



「有権者の諸君っ!」がビビってたじろいだ、07年の東京都知事選挙の政見放送！「You Tube」や「ニコニコ動画」ではさまざまなパロディやMAD映像が異常発生。ネット動画時代の追い風で一躍、"時の人"に。

社会粉砕!!

外山恒一、狂気の政見放送全文

ナレーション「東京都知事候補、無所属。外山恒一、36歳（当時）。反管理教育運動を出発点に異端的極左活動家となり、**いまどき政治犯として二年投獄され**、現在に至る、反体制知識人。では、続いて外山恒一さんの政見放送です」

外山恒一「有権者諸君っ！ 私が外山恒一である！ 諸君、この国は最悪だ！ 政治改革だとかなんとか改革だとか、私はそんなことには一切興味がないっ！ あれこれ改革して問題が解決するような、もはやそんな甘っちょろい段階にはない。こんな国はもう見捨てるしかないんだ。**こんな国はもう滅ぼせ！** 私には建設的提案なんかは一つもないっ！ いまはただ、**スクラップ&スクラップ!!** すべてをブチ壊すことだ。

諸君っ、**私は諸君を軽蔑している。** このくだらない国を、そのシステムを支えてきたのは、諸君にほかならないからだ。正確に言えば、諸君の中の多数派は私の敵だ！ 私は諸君の中の少数派に呼びかけている。**少数派の諸君っ！** いまこそ団結し、立ち上がらなければならない。ヤツら多数派はやりたい放題だ。われわれ少数派がいよいよもって生きにくい世の中が作られようとしている。

少数派の諸君っ！ **選挙で何かが変わると思ったら大間違いだ！** 所詮、選挙なんか多数派のお祭りにすぎない！ 我々少数派にとって選挙ほど、バカバカしいものはない。多数決で決めれば、多数派が勝つに決まってるじゃないか！



革命家だけでは「食えない」ため、いまも食いブチの手段として福岡でストリートミュージシャン活動を続けている外山氏は、福岡におけるストリートミュージシャン第一号を自認。一日数時間の演奏で1万円以上稼ぐというから、その腕前はホンモノなんだって！

英雄を引きずり下ろすのが民主主義
一方、ファシズムは英雄主義ですから

外山 ええ。逆に右翼みたいな人から「頑張れ」って応援されたり。ああいう実際に身体を張って活動してきた人にとっては、「コイツは骨がある」って好感を持てる部分もあるんでしょう。もちろんネット右翼にはずいぶん叩かれましたけど（笑）。

——ちなみに『2ちゃんねる』とかはどう思われます？

外山 かなり否定的です。やっぱり匿名での意見は認めたくないし、匿名で発言しているヤツの意見にいちいち腹を立てるような自分にまた腹が立ったり。議論はありますが、自分は弊害のほうが大きいと思います。政権を取ったら、"IT反革命"で、規制をかけてやろうと思ってます。

——IT革命じゃなく、IT反革命（笑）。ただ、ご自身は信念があっての活動だと思うんですが、周囲からは異端児的に思われたりなかなか理解されないと思うんですが。

外山 う〜ん。でも全共闘運動とかをやっていた人からすれば普通の活動だと思いますよ。当時の革命家って、組織じゃなく個人的革命家がいっぱいいたわけですよね。その流れがいまは途絶えちゃってるだけというか。

——ただ、いまのメディアって、外山さんが演じられたようなヒール的だったり、煙たがられる存在を徹底的に叩く感じがありますよね。亀田兄弟とか、朝青龍とか。

外山 ホリエモンもそうですね。そういうメディア状況は醜悪な光景だなと思います。ただ、それが民主主義というものですよ。

——あ、安心してヒールを叩けるのも、民主主義のおかげ。

外山 メディアとしても、そういうほうが不特定多数の人たちにわかりやすいし、受けるわけですよ。選挙だって「一般的に正しい」と思われるようなことや、「一般に受けそうなこと」を言わないと落ちちゃうわけで。ただ、僕が信奉するファシズム（民主主義を否定する、ファシスト党独裁体制）を目指す運動では、そういうふうに突出しても問題ないです。大衆蔑視がファシズムの基本ですから。

——ファシズムは「絶対服従！ 反対する人は徹底弾圧！」ですし。じゃあ、ファシズムの世界なら、亀田も朝青龍も問題ない？

外山 マスコミに言論の自由など認めませんからね。それにしても、いまの時代って品行方正であることを過剰に求められますよね。プロレスラーもそうかもしれないけど、昔は芸人とか芸能人って、特殊な才能があるかわりに多少人格が崩壊してても、そのぶん才能を発揮していれば許される部分があった。そういうのが許容されないのは、かなり不健全な状況だと思います。

——豪傑が出づらい状況ですよね。

外山 でも民主主義って絶対にそういうものだから。いまの時代はとくに同調圧力がドンドン高まっているからこそ、顕著なんだろうし。基本的に英雄を引きずり下ろすのが民主主義ですから。

——英雄を引きずり下ろすのが民主主義！ 勉強になります。

外山 それに対して、ファシズムというのは英雄主義なんですよ。

——ファシズムは英雄主義!! ただ、外山さんも突出することでバッシングされたことはあったと思うんですが、それでも自分を貫けるのはなぜなんなんでしょう？

外山 やっぱり、基本的には「自分が正しい」と思ってるからですね。ただ、10代の頃に高校とか管理教育と闘っていたときは、闘う相手も目的もシンプルでわかりやすかったし、ホントに世の中変えるつもりでやってま

じゃあ、どうして立候補しているのか。**その話は長くなるから、**掲示板のポスターを見てくれ。ポスターは二種類あるから、どちらも見逃さないように。

私はこの国の少数派に対する迫害にもう我慢ならない。少数派の諸君っ！ 多数派を説得することなどできない。ヤツら多数派は、我々少数派の声に耳を傾けることはない。

ヤツら多数派が支配するこんなくだらない国は、**もはや滅ぼす以外にないっ！** 改革なんかいくらやったってムダだ!! いま進められているさまざまな改革は、どうせ全部、すべてヤツら多数派のための改革じゃないか？

我々少数派は、そんなことに期待はしないし、もちろん協力もしない。我々少数派はもうこんな国に何も望まない。我々少数派に残された選択肢はただ一つ。こんな国はもう滅ぼすことだ！ ぶっちゃけて言えば、**もはや政府転覆しかない!!**

少数派の諸君っ！ これを機会に政府転覆の恐ろしい陰謀をともに進めていこうではないか。ポスターに連絡先が書いてあるから、選挙期間中でも、終わってからでもかまわない。私に一本電話を入れてくれ。もちろん、選挙権のない未成年の諸君や、東京都以外の諸君でもかまわない。我々少数派には、選挙なんかもともと全然関係ないんだから。

最後に一応言っておく。私が当選したら、ヤツらはビビる。**……私もビビる！** 外山恒一に悪意の一票を!! 外山恒一にやけっぱちの一票を!! じゃなきゃ投票になんか行くな！ **どうせ選挙じゃ何も変わらないんだよっ！**

（中指を突き出し、振り上げながら）」

これはもう、ファシストになることが僕の運命だったとしか思えません

したから。そのあと左翼活動にハマっていく中で、革命の同志だと思ってた左翼の人間のやり方に不信感が出てきたり、揉めたりすることが多かったんです。

――外部じゃなく、内部に敵を作ってしまう。いわゆる内ゲバになるわけですね。

外山 ただ、自分の活動を続けるうちに「世の中、変わるわけはない」って錯覚しちゃった時期もあって。そのあとは、「せめておもしろおかしくやろう」と、自分も消耗しないように活動のスタイルを考え直して前衛芸術家的なこともやったり。ところが数年前に獄中に入ったときに、もう一回「世の中変えられる」って考え直したんです。

――そのきっかけは?

外山 そもそも僕個人のしょーもない痴話喧嘩レベルから始まったことが刑事事件まで発展して、裁判になり、最終的に獄中入りまでするようになったんですが、その発端は、僕が敵に回していた福岡の左翼が私のプライベートな色恋沙汰に介入してきたことなんです。

――敵対勢力がここぞとばかりに、外山さんを陥れようとしたんですか。

外山 ええ。で、獄中ではそいつら左翼に対する怒りと復讐のことしか考えられなくなった。実際、僕の投獄に加担した左翼のメンバーが一人、二人だったら〇すことだって考えられるんだけど……、何十人もいるんですよ。そうなると全員を〇すことは難しいから。「どうやったら、〇せるのか?」ってよーく考えたんです(と真剣な表情で)。

――はぁ……(唖然として)。

外山 それで数年前からファシズムを勉強したら、想像していた以上に正しくてね。「これはファシズムでいこう!」と。世の中、ファシズムさえ実現さえすれば、投獄に関わった左翼活動家なんて、自動的に弾圧されるわけですし!

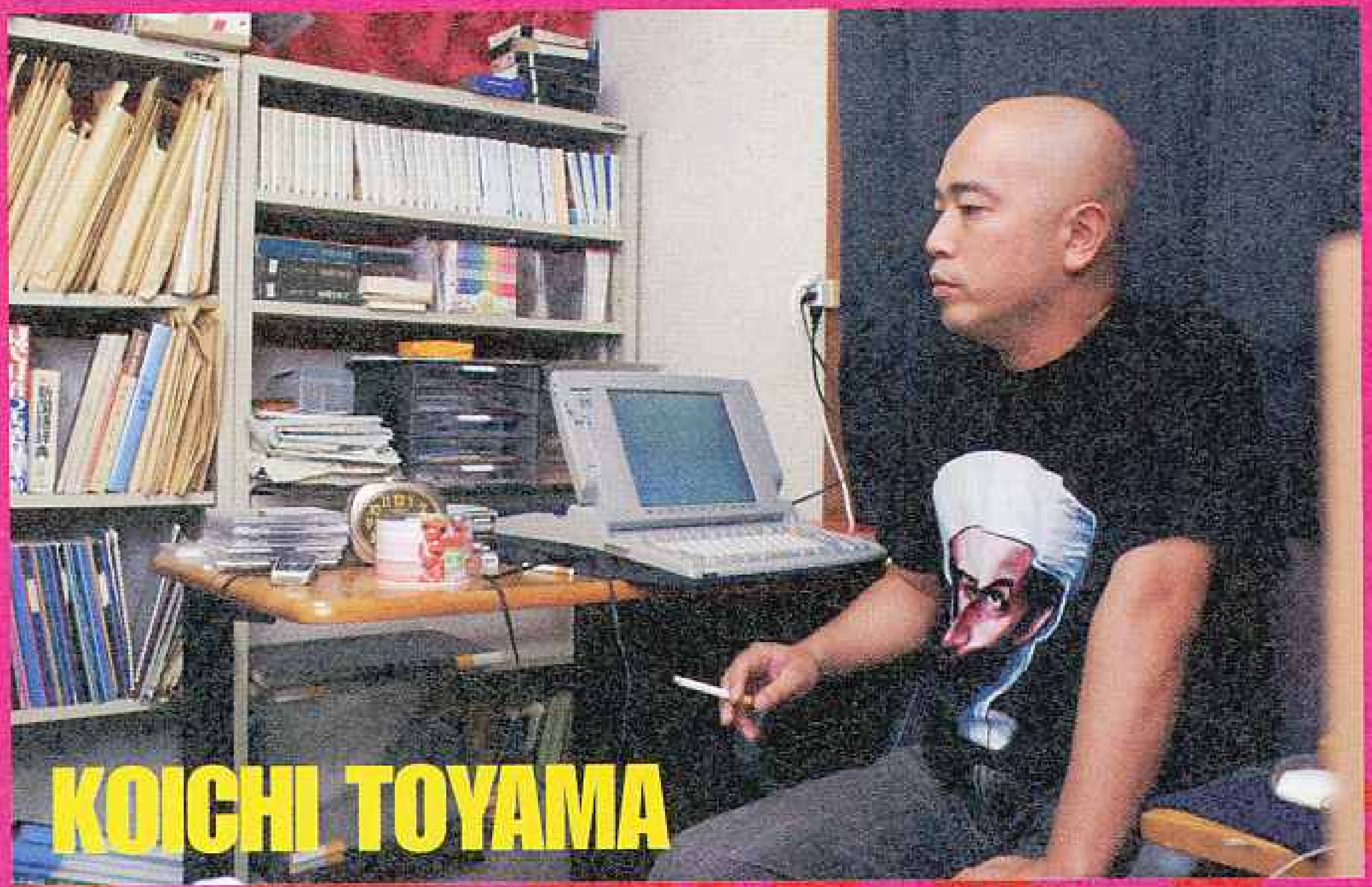
――なるほど……。

外山 個人的な怒りの解決と、本気で正しいと思う理想の実現とが、一石二鳥で同時に追求できることに気づいたんです。これはもう、ファシストになることが僕の運命だったとしか思えません。

――ただファシズムっていうと、それこそ悪の権化みたいなイメージがありますが……。

外山 ファシズムって誤解されていて、第二次世界大戦でファシズム陣営が負けたから、おとしめられてるだけなんです。ファシズムが本当にろくでもない思想なら、あそこまで盛り上がるはずがないですから。それに僕はヒトラーではなく、ムッソリーニ(イタリア)のファシズムを評価してて、これはかなりアナーキズムに近いんです。

――ただ、一般的にファシズムにイメージするのは、独裁的で危険で息苦しいというか。そういうネガティブなものと外山さんの目指すファシズムは違う?



福岡市内の一軒家を借りて、この9月より革命家養成塾を本格スタートさせた外山氏。取材時にはすでに講座用のテキストが着々と準備されていた。福岡発の新しい"ファシズム"ムーブメントは、巨大な渦を巻き起こすことができんのか?

外山 いや、僕は実際、そういう世の中にしようと思ってます(キッパリ)。

――そんなデンジャラスな世の中に!!

外山 いやいやいや。ただ、もし自分がファシスト党の内部の人間であれば、そっちのほうが断然いいわけです。

――自分がファシスト側だったらラクですけど。でもそんな世の中にできますかね?

外山 僕が思ってるのは、そこで必ずしも多数派になる必要はないんですよ。

――実際に、「少数派の諸君っ!」と訴えてますし。

外山 こういう思想で、過半数は絶対に不可能ですから。「世の中の一割くらいが強力に団結すれば革命は可能である」と思ってます。というのは、たとえばヤクザって人口のパーセンテージからすると、もの凄く少ないじゃないですか。

――基本は、日常的には会わない方たちですね。

外山 でもなんであんなに力があるかというと、彼らは固く団結しているから。じつは僕がファシズムに転向したのは、獄中でヤクザを見たことも大きかった。

――ヤクザを見てファシストに?

外山 自分がやった事件じゃなく、冤罪だったり、組の身代わり的に入っている人が多いんです。本来はツライことなんだけど、本人はイヤイヤやってるわけでもなさそうなんです。

――忠義心があるから、耐えられるわけですね。

外山 場合によっては死も辞さない覚悟というか。自分の人生の時間すら犠牲にしてもいいという強固な共同性みたいなものを感じた。「自分は運動の中でこんなに強固な共同性を持ったことがない」と気づかされて「これは勝てないな」と。逆に自分がそういうグループを作るとしたら、と考えたとき、思想的にファシズムに行き当たったし、ヤクザのことも尊敬し始めたんですね。

――なるほど。そういう意味では、オ

外山恒一 はてしなき闘争年表(概略)

▼**1986年4月** 福岡市私立中村学園三陽高校入学。生徒管理が厳しく、入学一週間で職員室に抗議。

▼**1986年9月** 鹿児島県立加治木高校に転入学、翌年に福岡県立筑紫丘高校に転入学、いずれも闘争の日々。高校3年時に自主退学。

▼**1988年5月** 反管理教育中高生ネットワーク・DPクラブ結成。

▼**1989年1月** 『ぼくの高校退学宣言』(徳間書店)で単行本デビュー。

▼**1989年8月** 福岡市天神の街頭でギター弾き語り。福岡のストリート・ミュージシャン第1号に。

▼**1990年7月** 神戸高塚高校の「校門圧死事件」で生徒を攻撃するビラを現場で配布して話題に。

▼**1992年8月** 左翼グループが「ブルーハーツを福岡に呼ぶ親と子の実行委員会」と称し開催したコンサートに抗議。

▼**1992年10月** 反共左翼革命結社・日本破壊党を結成。翌年、公安調査庁九州支局が破壊党を内密調査をしていたことが発覚し、押しかけ抗議行動。

▼**1997年5月** 東京の文化左翼ムーブメント「だめ連」を福岡へ輸入。

▼**1999年5月** 交流圏のフェミニストが外山の恋愛問題に政治的介入したことへ反撃(ストーカー闘争)。翌年、報復テロも。

▼**2001年2月** 傷害罪で起訴、裁判闘争をエンターテインメント化する決意で、演劇的な傍聴勧誘ビラを配布(マイ・マジェスティ闘争)。

▼**2002年5月** 「民事相手方の弁護士の同僚を誹謗した」と名誉毀損容疑で逮捕。

▼**2002年7月** 傷害罪の上告が棄却。名誉毀損公判と同時並行で受刑者となる。

▼**2003年5月** 傷害罪の服役終了。この頃、獄中でファシストに転向。9月には名誉毀損の上告が棄却、判決を不服として刑務作業、囚人の義務を拒否。8ヵ月間を取調べと懲罰ですごす。翌年出所。

▼**2005年11月** 霧島市議会議員選挙(隼人選挙区)に出馬。

▼**2007年3月** 東京都知事選に出馬、15000票を獲得。翌月に熊本市議選にも出馬。

▼**2007年6月** 1年以上前の原付での交通違反事件で逮捕。1ヵ月の獄中生活。裁判官をおちょくった結果、検察官の求刑「罰金1万5000円」に対し、判決は8倍の「罰金12万円」に。翌年の控訴審も上告。

▼**2008年4月** 鹿児島市議選立候補として540票獲得。

▼**2008年9月** 革命家養成塾・黒色クートベ、第一期をスタート。

都知事選以上のインパクトを考えたら、アメリカ大統領選出馬しかないなって

ウム真理教とかはどう思われます？

外山 あれは凄く可能性はあったと思うし、うまくやれば政治にも絡めたかもしれないけど、やっぱりヤリ方がヘタすぎたよね。でも、構造的にはかなりファシズムに近いですよ。

——やり方をもう少しスマートにしたら、わからなかった？

外山 あれは社会科学を一切やってなさそうで、ホントに幼稚な陰謀論という感じでしたから。

——なるほど。一方で外山さんはどうやってファシズムを完成させていくんでしょう？

外山 じつは、今度私塾を始めるんですよ。ちょうど、この場所が講義室になるんですけど。

——あ、この家が私塾になるわけですか？

外山 そうです。塾生は日本全国から集めるんだけど、まずは半年間の共同生活で、勉強に集中してもらう。そこで衣食住を保証します。ただ一つだけの条件は、「終わったあとは九州にとどまれ！」と。

——あ、地元に帰ってはいけない!?

外山 あまり散らばったら、何かあったときにすぐ集まれないじゃないですか。僕が考えているのは、たとえば演劇シーンがあって、そのシーンの歴史や経緯に詳しいだけじゃなく、ロックや文学、映画、政治の歴史に関しても知識のある人間がそのシーンに入っていけば、数年でかなりのキーパーソンになるんじゃないかなって。

——そういう知識があったら強いでしょうね。

外山 どのジャンルでもいい、「世の中を変えていく」ものに関わろうとしたとき、広く・浅くでいいから政治や文化の基礎教養を把握している集団を作って、そこから政治や音楽や演劇みたいなジャンルに散らばっていく。普段はバラバラに活動しているんだけど、なんとなく身内意識があって。彼らがそれぞれのシーンの中で一番の中核になって、浸透していけばいいかなって。

——それをいずれは血の結束によって、巨大なものにしていきたい、と。

外山 まずは、九州というエリアでね。1000人のサークルがあって、日本各地に散らばっているより、九州に1000人が集まっていたほうがパワーは出ますよね。

——まさに、革命家のススメという感じで。

外山 まぁ、少なくとも人生に張り合いは出ます（笑）。いまのフリーター論争とかも経済問題で語られることが多すぎるけど、若者が絶望してるとか、格差社会化してるとか、なんとかしなきゃいけないけど。本質的には生きがいの問題なんですよ。べつ貧乏でも人生が楽しければ、絶望しないわけですから。

——では、今年の秋葉原無差別殺傷事件はどう思われます？

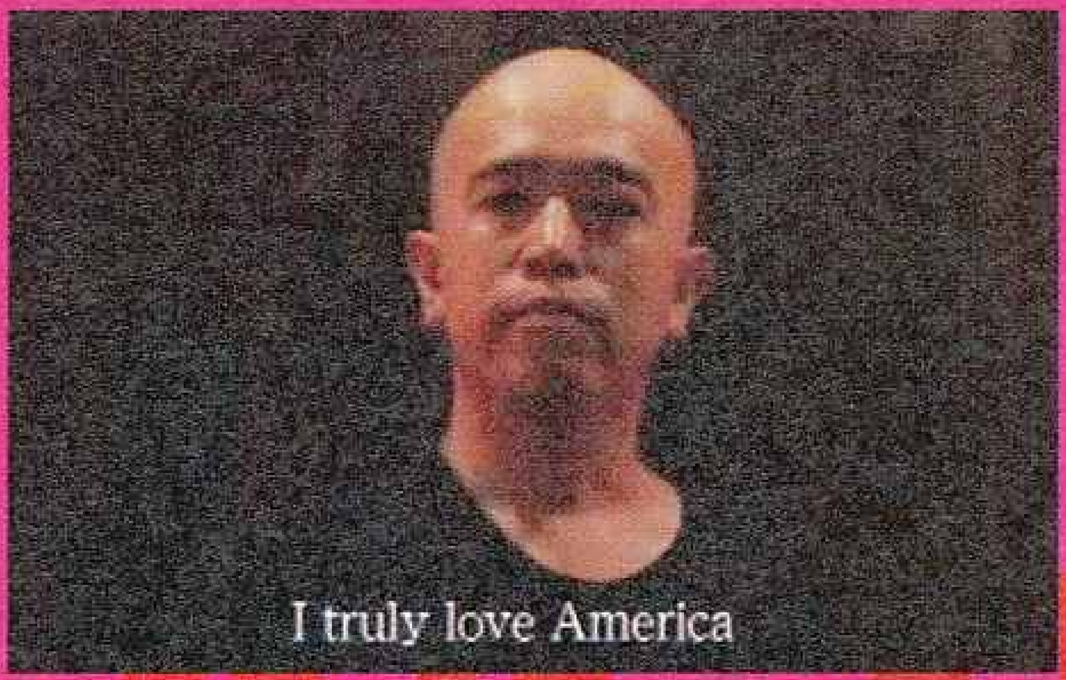
外山 彼だって、「モテないからやった」とか言ってるわけだから、彼女さえいれば問題なかったわけでしょ。派遣労働の悲惨さばかりピックアップされてますけど。

——ネットの世界では、ねじ曲がったヒール人気を祭り上げるような状況もあります。

外山 同じように「世の中メチャクチャになればいい」って思ってる人はいるでしょうから。彼がやらなくても別の誰かが似たような事件を遅かれ早かれ起こしてましたよ。ただ彼は絶望していった過程をキチンと残していたことが大きかった。いままで精神的な部分で同じような犯罪は多かったんでしょうけどマスコミは犯人の内面に踏み込まなかった。彼の場合、そこをちゃんと書き残していたから。その部分だけで言えば、彼は「よくやった」と思いますよ。

——よくやった、ですか。

外山 おそらく死刑になるだろうけど、何も書き残さず、アレをやったら、「ただの非道なヤツ」で片づけられますから。



「どうだ、まいったか!」外山氏が断言したアメリカ大統領出馬が早くも実現!? 「You Tube」に英語字幕つきで絶賛アップ中のこの映像、すでに海外からのコメントも多数だから必見だって!
http://jp.youtube.com/watch?v=uGZqOkeYbB0

——なるほど。一方、外山さんの革命活動って、マッドだけどどこか笑えるというか、ギャグを加える感じがありますよね。

外山 そうねぇ。まぁ、僕はもうあと一週間以内にアメリカ大統領選に出ますから（サラリと）。

——なんですか、それ!?

外山 都知事戦のあと、しょっちゅう「また選挙に出てください」って言われるんですけど、あれに勝るインパクトは無理じゃないですか。それで考えたのがアメリカ大統領選！

——アメリカ大統領選……。

外山 映像で出馬演説を撮って、英語字幕つきでネットで世界発信しようかな、と。最初に言ったように、あの政見放送は日本ではネタとしてしかとらえられないけど、むしろ海外で見た人のほうがキチンと受けとめてくれて、「普通に賛同できる」という評価も多かった。じゃあ、最初から海外向けにやろうって。

——ただ、システム的にアメリカへの出馬は無理ですよね。

外山 いや、アメリカって世界中の問題に口を出してるわけじゃないですか？ ということは「世界中の誰もが大統領選に参加する権利があるハズだ」と。内容は反グローバリズムと言われるような、ごくまっとうなものですが、そこもギヤグは入ってます。これは「世界中の誰もが、大統領選に立候補する権利も投票する権利もあるハズだ」という抗議であり、同時にこの選挙に棄権を呼びかける運動を提唱するワケです。

——え〜と、立候補を表明しながら、投票の棄権を呼びかける!?

外山 ええ。そしたら、アメリカ人以外の60数億人は棄権するしかない。これは僕の勝ちですよ。ハハハハハ！

——な、なるほど。今後はグローバルにファシズムの素晴らしさを説いていく、と。

外山 そうですね。全世界へ向けて「もはやアメリカ転覆しかないっ！」って感じで。

【08年8月29日／福岡・博多市内の外山氏の自宅にて収録】

政見放送のマッドなテンションは、プロレス的に演じられたものだったが、外山氏のファシズム思想はシュートそのもの。

ある意味で悪役を自ら演じながら、本気で「政府転覆」を計っているのだから、どんなヒールよりも最凶と言えるのかもしれない。

だが正義や悪は、立場や場所によって変わるもの。地元・福岡から虎視眈々と世直しを計る外山恒一。この組織がさらに巨大化したとき、我々はどう対峙するべきなのか？ その心構えだけはしておく必要があるかもしれない。

kamipro SHOPPING
通販カタログ



Kamiproマスクアシャツ[☆]
[S·M·L·XL ホワイト×レッド]¥3,990(税込)



マッスル スターウォーズ Tシャツ[☆]
[S·M·L·XL イエロー]¥3,150(税込)



青木フンドシ Tシャツ[☆]
[M·L·XL ブラック]¥3,990(税込)



一、十、百、戦極!! 戦極!! Tシャツ[☆]
[M·L·XL ブラック]¥3,990(税込)



マサ斎藤Tシャツ[☆]
[M·L·XL ブラック]¥3,150(税込)



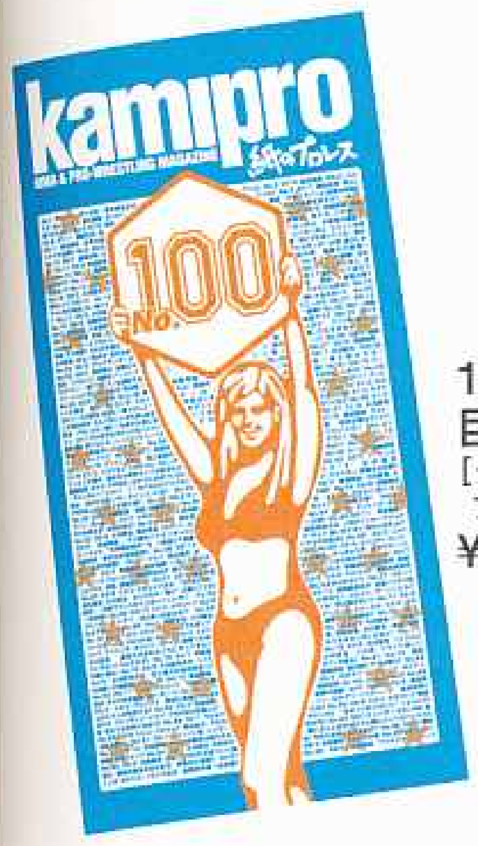
I編集長"殺し"Tシャツ[☆]
[M·L·XL ブルー]¥3,990(税込)



インリン様女神「LOVE」Tシャツ[☆]
[M·L·XL ホワイト]¥3,990(税込)



インリン様女神「LOVE」Tシャツ[☆]
[Lady's M ホワイト]¥3,990(税込)



100号記念特製
巨大バスタオル
[タテ132cmヨコ68cm
ブルー×オレンジ]
¥3,150(税込)



"殺し"キャップ
[フリー ネイビー×ホワイト]
¥3,150(税込)



インリン様女神「FIGHT」Tシャツ[☆]
[M·L·XL グレー]¥3,990(税込)



インリン様女神「FIGHT」Tシャツ[☆]
[Lady's M ホワイト×ブラック]¥3,990(税込)

『kamipro』通販方法

- 通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
- 全国どこでも送料一律500円です。
  (何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合わせください)
- 代引き手数料は315円です。
  (代引き金額によって異なります)

[「kamipro Hand」でご注文の場合]
詳しくは「kamipro Hand」の通販コーナーをご覧ください。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

[電話でご注文の場合]
(株)ダブルクロス TEL.03-5368-1797
(平日13:00〜19:00)

[kamiproオリジナルTシャツ サイズ表]
☆マークのものがKamiproオリジナルTシャツです

(単位はcmです)

サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24



※価格はすべて税込みです



ボノちゃん FIVE XL Tシャツ
[100·120·140·XS·M·L·XL パープル]¥3,990(税込)
※9月28日に発売!! イラストと実際の商品は異なる場合がございます。



SAMURAI SHIRO Tシャツ
[XS·M·L·XL ホワイト/ブラック]¥3,990(税込)



MONSTER K "ON STAGE" Tシャツ
[XS·M·L·XL ブラック]¥3,990(税込)
※9月28日にKIDSサイズ(100、120、140)発売!!

電話もしくはkamiproHandでカンタン注文!!

[販売元]ダブルクロス


ケータイサイトでセール実施中!
いますぐアクセス!!
★非会員でもショッピング可能!!

アクセス方法

DoCoMo	iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技/大相撲 ▶ ※もしくは「kamipro」で一発検索
au	トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
SoftBank	メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
WILLCOM	趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶ / エンターティメント ▶ TV・メディア・本 ▶ 本 ▶

kamipro Hand

[QRコード]



デーモン閣下にやくみつる!!
角界の二大論客が降臨!

激論!!

大相撲ヒール道

大麻問題で大揺れの大相撲!! 最近はジャンルそのものが
"大悪役"扱いを受けているわけであるが、
そんな渦中の国技をこの二人が語ってくれた。相撲を通してヒールを考える!!

聞き手　ジャン斉藤

悪魔が来たりて悪を語る!!

ミュージシャンにして相撲界のご意見番!!

デーモン小暮閣下



デーモン小暮閣下といえば、悪魔姿でＮＨＫ相撲中継のゲスト解説を務めるのが許されるほど、相撲協会からの信頼の厚い好角家である（長い歳月にわたる相撲普及活動を経て、悪魔姿での入館という歴史的快挙が許されたのだ！）。また、相撲のみならず、世の中の事象に一家言を持つ評論家としても名高い。そんな閣下に「ヒールとは何か？」をおうかがいしました。なお、このインタビューは、露鵬と白露山の大麻騒動や、その問題を受けて北の湖理事長がその職を辞任する以前に収録したものである。大麻騒動の閣下の見解は『デーモン小暮閣下の地獄のＷＥＢ ＲＯＣＫ』（http://demon-kakka.laff.jp/）にアクセスすること！

朝青龍は愛嬌があるし、けっこう気配りもできる

——閣下、自分は『デーモン小暮のオールナイトニッポン』（87〜90年放送）を聞いているうちにプロレスファンになって、いまやこういう仕事に就いてるんですよ。

デーモン小暮閣下（以下、閣下）　え？　どういうこと？

——いや、閣下が「オマエら、マサ斎藤の凄さを知るために、とりあえず『週刊プロレス』を買え!!」って言われたこともきっかけになって。

閣下　そんなこと言ってた？（笑）。

——ラリー・ズビスコ戦の素晴らしさを熱く語られておりました。

閣下　そうだっけ……。それでこの道に入ったの？

——はい。

閣下　それはそれは、悪いことをしたねぇ（笑）。

——とんでもありません（笑）。それで閣下。最近の相撲界では、朝青龍がヒールとして扱われております。閣下は、昨年末のＮＨＫ相撲特番で「相撲は土俵の中のことで楽しみたい」という発言をされておりましたが、たとえば朝青龍をヒールというキャラクターで楽しむのは、あまりよろしくないと考えておられるんでしょうか？

閣下　いや、べつにそこまで規制する必要はないよ。プロレスとは違って、朝青龍は自らヒールという役割を担っているわけではなく、自動的に周りがそのように扱っているわけだから。それはそれでいいんじゃないのかな。

——それに朝青龍にはナチュラルヒール的なところがありますね。

閣下　うん、そうだね。それは本人だけの責任ではなくて、若い頃に周りがちゃんと教えるべきことを教育しなかったからそうなっているのであるから、朝青龍本人だけを責めるものではないんじゃないかな。

——そういったキャラクターが興行の煽りとして機能しているところも多分にあります。それに相撲界には昔から、憎まれ役と呼ばれる存在がいたと思うのですが。

閣下　ただ、北の湖が憎まれ役で人気がなかった時代はあっても、べつに北の湖は土俵の外で暴れたり、出場停止になるような行為をしたわけではなくて。じつに真面目で勤勉で、ただひたすら相撲に打ち込んでいるだけなのに、態度がふてぶてしい、憎たらしいというだけで、女性や子どもからあまり人気がなかったわけだ。



2006年1月15日の大相撲初場所8日目、NHK大相撲テレビ中継のゲスト解説者として、悪魔の姿で登場したデーモン小暮閣下！ 相撲に対する造詣の深さと、スマートな語り口で好評を博したが、悪魔入館という英断を下した相撲協会とNHKもエライのだ。

——朝青龍とはずいぶん質は違うわけですね。

閣下　違うね、質は。でも、朝青龍はどちらかというと愛嬌があるから。白鵬は一所懸命に努力して、強さを極めて人気者になりたいという馬鹿正直なところがあって。インタビューとかはあまりおもしろくないけれども、それは反面教師で朝青龍を見てるからそう振る舞ってるわけで。白鵬は心の底で「あんなふうにはなりたくない」と思ってるわけだよ。

——そんな険悪だった二人を閣下が公の場で握手させたときも、それは微妙なムードだったとか。

閣下　いや、そうでもないよ。にこやかなムードでもなかったけどね（笑）。でもね、朝青龍はどちらかというと、もうそろそろ白鵬との険悪ムードをなんとかしたほうがいいと思ってるような雰囲気だったわけ。いつまでも「目も合わせない」だの「きわめて険悪な空気」だのとスポーツ紙に書き続けられるのが面倒になってたんじゃないのかな。だから朝青龍のほうはわりと自分から白鵬に話しかけたり、ボディタッチしたり、握手のときも積極的だった。むしろ白鵬のほうが「え〜、そんなことしなきゃいけないの？」という空気を凄く感じさせたからね。

——そこは二人のパブリックイメージとは逆転してますね。

閣下　うん。朝青龍はじつは愛嬌があるし、けっこう気配りもできるんだよね。

——閣下もよくご存知の北尾さんなんかは、朝青龍以上のヒール的資質はありませんでした？

閣下　いやあ、そうでもないよ。ヒールとは言えないんじゃないかなあ。性格的にヒールは難しいと思う。

——北尾さんは普段は気が優しい方っていう話も聞きますけど。

閣下　気が優しいかどうかは知らない。ただ、何回か北尾と仕事をしたことがあるけども……。

——閣下は北尾さんがプロレスデビューされたときにテーマ曲を作曲されていて。

閣下　年がら年中ずっとうんちくを垂れているイメージが我輩にはあるなあ。あんまり格闘技には向いてないんじゃないかな。

——横綱なのに格闘技に向いていなかったんですか？

閣下　たしかに体格という面ではプロレスにせよ、相撲にせよ、素質はあったわけだけども、性格的な部分がやっぱりチャンピオンになる器じゃないんだよ。相撲だっていちおう横綱にはなったけど、政策的に横綱になったようなもんだからね。

——あ、政策横綱でしたか。

閣下　要するに、相撲界としては千代の富士の対抗馬として、なんとか若いスターがほしいところに北尾が上がってきたんだけど、本来なら横綱にするには早すぎる成績で横綱にしちゃったわけよ。近々に大相撲のパリ公演が予定されていたこともあってね。

——あたりまえですけど、やっぱり相撲界にも興行論はあるんですね。

閣下　とくにその頃はそうだった。で、その北尾が一回も優勝しないまま親方と揉めて破門になったことをきっかけに、横綱というものはもっと厳重に審査しないとダメだろうって話になったわけよ。だから、そこから先はもの凄く厳しい規準で横綱は選ばれている。そういう意味では、北尾は相撲界を変えたんだけどね、結果的に。

——北尾がヒールでないとすると、

そこは「ヒールとは何か?」という定義になってきますね。

閣下　ヒールの定義というのは、あえて自らヒールという役割を担うのだと意識してヒールになるものと、自分は自分の信じた道を突き進んでいるだけなのに、いつの間にか暴走してしまっているヒールがいるわけだな。後者が朝青龍であり、前者はあまり相撲界にはいないのね。まったくではないけども、あまりいない。でもね、高田川部屋というおもしろい部屋があるんだけど、そこは元・大関の前の山という人がやっている部屋で、そこにいる力士たちはね、なんとなく自分たちはヒールでいなきゃいけない雰囲気を持っているんだな。

ーーへぇ～、それはおもしろそうな部屋ですね。

閣下　うん。そこには鬼雷砲や剣晃っていう力士がいたんだけど、だいたいみんな素行が悪いとまではいかないけど……。たとえば取材を受けても、あまりにこやかでない。ぶっきらぼうをちょっと超えているかな。

ーーそれはわざとそう振る舞ってるんですか?

閣下　親方がそういう教育なんだろう。それでも誰も文句を言えないし、相撲界には派閥があるんだけど、その部屋は一匹狼でどこの一門にも属してない。いわば無頼派。ヒールとはちょっと違うけどね。

ーーで、最近は相撲界自体が世間からヒール的な扱いを受けているというか。

閣下　ヒールというか、いまやダメ企業だよね。

ーーあ、ダメ企業ですか?

閣下　ちょっとダメだねぇ、ここへきて。人が集まって組織ができるわけだから、一つや二つの失敗は起こりうる。相撲協会もいろいろ問題は起きているけど、基本的には個人の失敗の積み重ねでしょ。ただ、組織としてそういうことが起こらないようにどうするか、どのように指導していくのか?っていうところを世間は見ていたわけじゃない。ところが全然ダメなんだなってことが、今回の若ノ鵬らの大麻事件で露呈したよね。

ーーでも、伝統社会って、ヨカタ（素人の隠語）が口を出すもんじゃないってところはあると思うんですよ。

閣下　うん、あるね。必要以上に周りが騒ぎすぎることは確かであると思うんだよね。で、ヨカタが口を出すなということに関してもおおむね賛成なんだけど、いまや相撲界は完全にダメ企業の状態に陥っている。自主浄化や自主改善できないという状態を1～2年近く見続けていくと、これはさすがに外の考えというものも取り入れないとダメだろう、というふうに我輩は見るようになってきたね。ただね、横綱審議委員会みたいなものはいらないね。

ーーいりませんか。

閣下　横綱審議委員会自体はあってもいいよ。ただ、あんな委員の選び方をしていたら、いつまでたってもよくならないな。だって、いまの横綱審議委員会では相撲に精通していない人が多いし、その人の品格が疑われる発言をする者がいるから。そんな連中が横綱を云々言っていることがそもそも笑止千万なことだ。

ーー確かに横審の存在感って、無用な発言が逆風を呼び起こしているイメージしかありませんね。

閣下　しゃべりすぎの人がいるからねぇ。言わなくていいことをしゃべりすぎる。内館牧子なんかヒールじゃん、よく考えてみたら。朝青龍との場外乱闘にしても（笑）。



プロレス界のヒールと聞いて、パッと思いつくのは北尾だろう。そのヒール的資質に可能性をおおいに感じさせてくれたが、本誌の長州カインタビューでも触れられているように、彼は結局は“魔王”になれなかった。ただ嫌われるだけではヒールの道は歩めない。

ーーそれが興行の煽りとして転がってるぶんにはいいんですけど、どうにもうまく噛み合ってないところはありますね。

閣下　うん。それはなぜかというとね、あの争いに爽快さがないからなんだよ。普通はある程度のストーリーが決まっているのであれば、ヒール同士、またはヒールとベビーフェイスが場外で言い合いをしたとしても、結果的に「ああ、おもしろかったね!」っていう結末に落ち着くはずなんだけど。朝青龍と内館牧子は決着がつくわけでもないから、見ていて不快になってくる（笑）。

ーーあの二人が土俵で決着をつけるわけじゃないですしね。

閣下　うん。何か爽快感を伴なわない場外戦だよね。むしろ場外戦のほうが爽快感が伴なわなきゃいけないんだけど。白鵬との関係にしたって、朝青龍がもうひと踏ん張りしてくれないと、ヒールとして成立しないんだよね。今年はいろんなことがあってこの秋まできたけれども、出場停止明けの朝青龍に対して白鵬が「絶対に負けたくない!」という初場所の大熱戦、あれがピークになっちゃうと困るんだ。次の場所で朝青龍は優勝したけど、ここのところ力の衰えをやや露呈してきてしまっているので、このままズルズルいくともう朝青龍はたいして活躍もしないで引退に追い込まれて、白鵬が天下を取るというふうになりそう。そこをもうひと踏ん張りしてくれないとおもしろくないわけよ。だから結局、ヒール役の朝青龍が強いからこそおもしろいわけじゃない。

ーーそうですよね。そこで内館牧子との番外戦が加熱してもしょうがないですし（笑）。ただ、そういう番外戦が新聞やテレビを賑わせ見出しになることで、世間が相撲に興味を持ってくれる可能性も広がるじゃないですか。大麻はともかく。

閣下　あんまりそんなことで興味を持ってもらってもね（苦笑）。結局、そういうことで相撲に興味を持った人は、相撲ファンにはならないと思う。我輩はやっぱり相撲に興味を持てる素質があるものが興味を持ってくれることを望むわけで。おそらく、そういった揉め事で興味を持った人は相撲の本当のおもしろさとか深みとか、そういうところにはたどり着かないんじゃないかな。

ーーそこはいまのプロレス・格闘技界が抱えている問題でもあるんです。相撲にしても、そのジャンルが持ちえる純粋な魅力だけで、世間に振り向いてもらうことは可能だとお考えですか?

閣下　相撲はまだまだ可能だと思うよ。ちょっと頭を柔らかくすれば、いくらでもいいアイデアは出てくるわけ。興行としてもやりようがあるし、例えば相撲が一場所15日間であるというのも、せいぜい昭和30年代から定着したことであって、それまでは11日間だったり、13日間だったりするわけ。ということは、15日連続であることは伝統的なものでもなんでもないわけね。客が入るから15日なんだという話なわけよ。

ーーそこは興行論なんですね。

閣下　そうそう、興行の話。それから、これは伝統に則る話だけども、

江戸時代に職業としての相撲ができあがった頃というのは、プロレス的な要素がまだまだあったのね。要するに、見世物興行的な側面というのがあって、本場所であってもそのへんにいるもの凄く大きい子どもが土俵入りをする催しがあったわけ。また、ただ身体がデカイだけで、相撲を取らないという見世物的な力士が土俵入りすることもあった。これを歴史的なものである、伝統的なものであると解釈すると、引退してもKONISHIKIの土俵入りだけでもやればいいじゃないかって。そういう発想もあるよね。

――そこはプロレス・格闘技界も参考になる意見ですねぇ。

閣下　そう？　プロレス界は馬場・猪木で引っ張りすぎたんじゃないの？



大麻問題が燃え盛る中、本誌発売時には本場所が開幕している。土俵に影響はあるのか。マスコミはどのように導いていくのかを見極めたいところだ。

――あの二人を超えるレスラーは出てきてないですね。ヒールでいえば、タイガー・ジェット・シンで終わってるかもしれない（笑）。

閣下　そっちも古いね（笑）。

――ところで、プロレスや相撲に限らず、閣下から見て上質なヒールだと思う方っていますか？

閣下　アイツはいいよね、柔道の無差別級で優勝した石井慧。非常に朝青龍的ではあるけど。それと小泉純一郎というのはナチュラルヒールだったね。べつに自分がヒールであるという言い方はしてないよ。言い方はしてないけど、彼の言動をずっと追っていくと、かなりヒールだ。なにしろ「自民党をぶっ壊す！」から始まって、ハッキリ言えば「弱い者は死ね！」くらいのことを言ってるわけじゃない（笑）。

――ストレートに解釈すれば（笑）。

閣下　意味合いとしてはね。「強い者は生き残る、弱い者は死ね！」で総理大臣をやり通したわけだよ。だから総理大臣としてはヒールだと思うね。

――それでも小泉待望論は根強いですよね。

閣下　まあ、いまの世の中はそのぐらい強引に引っ張ってくれる人をむしろ望むということなんじゃないの。だから福田康夫は、逆に言うと、とってもいい人だと思うわけ（このインタビュー後、福田康夫は辞任）。自民党歴代総理大臣の中で、こんなに人がいい総理大臣は見たことねえぞっていうぐらい。それは石井慧も言ってたけど、「握手した瞬間にすべてがわかった。腹黒さがまったくない」って（笑）。

――完全にナメられてますねぇ。

閣下　たしかにそれは感じるわけよ。総理大臣とか国を動かす権力者は腹黒さがあってね、駆け引きが巧くて、そういう要素が多少あってほしいと世の中は思ってるはずなんだ。その点、福田康夫はいい人なんだろうけども、統率力があまりないし、押しが弱いなとかね。

――それで、今回いろんな方々にお話を聞いてるんですけども、皆さんが共通して言うのが「ヒールはマスコミに作られる」ということなんですよ。

閣下　まあ、そうだろうね。でも、世の中にニーズがあるから、マスコミがそういうふうに導いていく部分もある。そこに本人の意思はともなわなくていいのか？　というところはあるけれど、亀田興毅はわりと本人も楽しんでいたでしょう。いまはちょっとヒールであることの壁にあたっている感はするけれども（笑）。

――ホントにそうなんですよ。

閣下　「こういうのでいいんだろう。こうするとおまえらは喜ぶんだろう」っていう、そんな感じなわけよね。まあ、現状の石井もそうなんだけれども。

――そこで格闘技界には秋山成勲という柔道家がいるんですけど。

閣下　はいはい、ヌルヌル事件の。

――彼はとてもファンから嫌われていて、それがキャラクターとして転がる可能性は秘めているんですけど、秋山本人の意向はスーパースター路線なんですよね。

閣下　それはそれで好都合なんじゃないの。要するに、いままでプロレスで通用していたヒールというのは、いまの時代となっては「これって、どうせ物語ができてるんでしょ」という解釈で通用しなくなったわけで。これからの時代のヒールというのは、本人はまともなスターになりたいと思ってるのに、なぜか周りから嫌われていくってのが正しきヒールのあり方かもしれない。そのかわり長期にわたってヒールであることはできないよね。なぜなら必ず衰えが来るから。どんなスポーツだってピークは3年間くらい。10年を超えてずっと一流でいるスポーツ選手って、大変なことだよね。

――タイガー・ジェット・シンはいまだに暴れてますけど、格闘技はそういうわけにはいかないですよね。

閣下　フハハハ！　まあ、タイガー・ジェット・シンは幸か不幸か日本人でもないので、たまに来日してそういう印象を残して去っていくわけだから。そりゃイメージという点では崩れないな。

――そこはキャラクターの消耗度になってきますね。

相撲協会は、ヒールというか、いまやダメ企業だよね

生活感が出るとヒールはあまり成立しなくなってくる

閣下　いくらタイガー・ジェット・シンいえども、日本にずっといれば、彼も生活していかないといけないからさ（笑）。バラエティ番組に出たり、店を経営したり、自分の現場ではないところに登場するわけじゃない。生活感が出るとヒールはあまり成立しなくなってくるね。

——閣下も生活感はまるで感じさせないですよね。

閣下　まあ、そこは打ち出さないよね。その必要もないし。

——それって、いまの時代においては、難しいことですね。

閣下　難しいよ。とくにインターネットがこれだけ発達すると、いろんなところでかなり注意深くしておかないといけない。たとえばテレビやラジオ、マスメディアの前での常套句の受け答えがあるとして、楽屋裏になったら違う会話をしてると思うでしょ？　いっさい、しないね。

——そこは徹底するんですねぇ。

閣下　これから舞台の稽古に行くけども、稽古場でも「そのメイクは何分ぐらいかかるんですか？」「これはメイクではない」ってなるわけよ。もうそれ以上は回答として存在しないから。よって生活感が露呈してしまうことにはならないわけだね。我輩は、人間のふりをしているときはたとえ親類でもその者のカメラでは写真をいっさい撮らせないしね。

——ということは、この時代にヒールを演出するのって、閣下ぐらい、いろんなところで気を使わないといけないってことですね。

閣下　そう、ヒールはどんな場面でも気を抜くことが出来ない。そこは意識の問題だと思う。意識というか、どれだけ命を捧げるのかという問題だと思うけどね、極端な話。たとえば我輩の場合は、死ぬまで、この姿以外で世の中に出るつもりはないから。そういう腹のくくり方をすれば、足元をすくわれないために考えられることをすべて実践するわけだよね。

——タイガー・ジェット・シンの場合は来日したときだけ考えればいいわけですもんね。

閣下　そうだよね。カナダではどうしてるかわかんないけどさ、量販店に買い物にも行っているだろうよ（笑）。

——自分はタイガー・ジェット・シンに殴られたことがあるんですけど、でも、それは人前じゃないんですよね。人前じゃないから大丈夫だろうと安心していたら、それでも殴ってくるんで、そこはプロだなと思ったんですけれども。

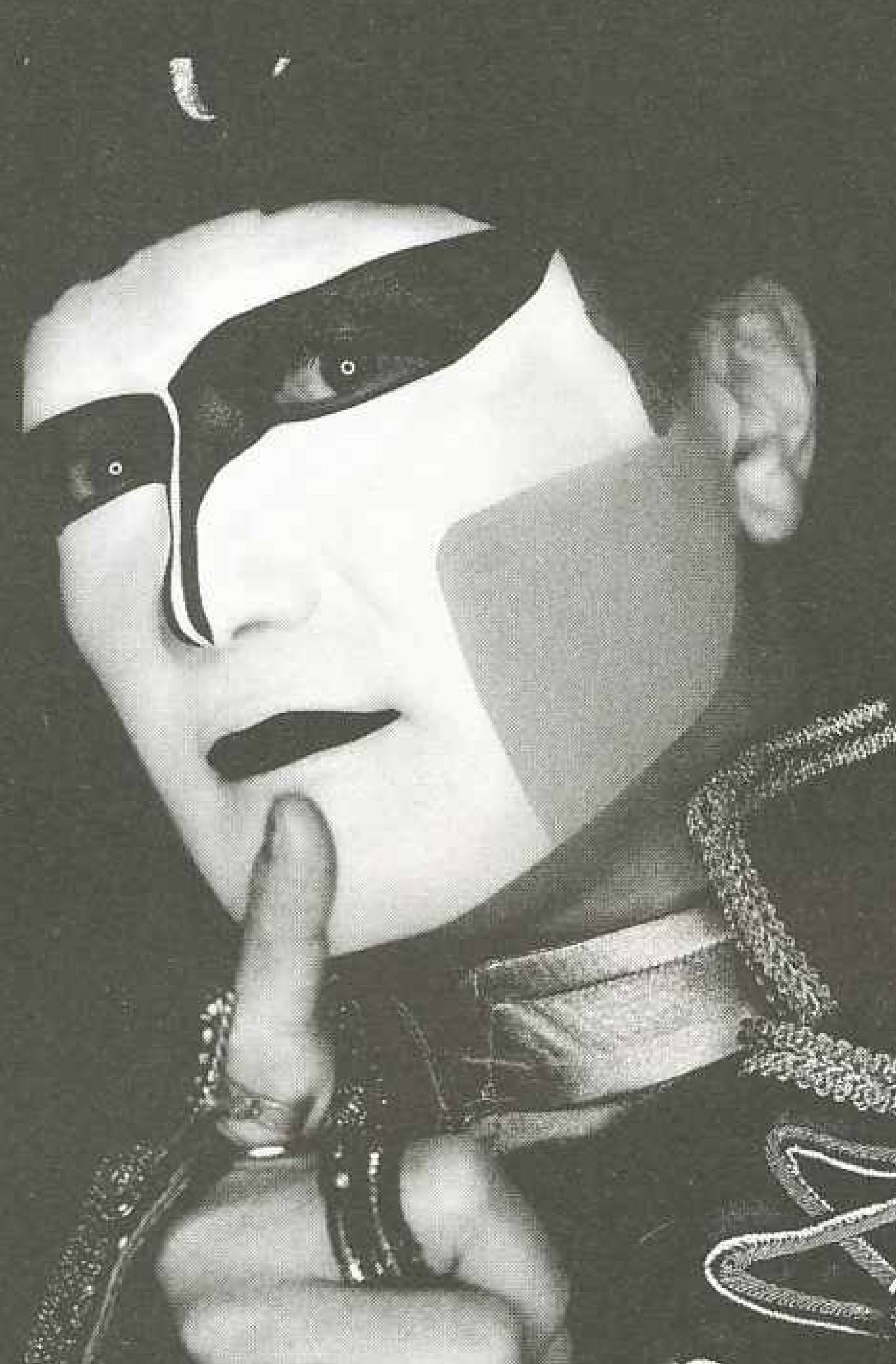
閣下　ふ～～ん。そこも腹のくくり方だろうね。タイガー・ジェット・シンがどう考えてるかはわからないけども。

——それと、いまってブログなんかですぐに生活感を出しちゃうじゃないですか。タレントにしても。

閣下　一つだけ言えることは、ヒールはブログをやっちゃダメだよね（笑）。

——まあ、そうですね（笑）。

閣下　我輩は始めちゃったけど（笑）。我輩の場合は、ブログというものを持つことによって、自分のメディアを持つという発想だったから。



でーもん・こぐれ・かっか■魔暦紀元前（B.D.）100036（B.C.98038）年11月10日発生。聖飢魔IIの主宰、ボーカリストとしてデビュー。魔暦元年（1999）12月31日、予定どおり地球征服を完了。征服後の地球で、音楽ソロ活動を中心に、相撲評論家（ファン歴300年）、コメンテーター、文筆業など、幅広い芸能活動を行なっている。普段は“世を忍ぶ仮の姿”で我々人間達を欺いている

——とくに自分の生活スタイルを伝えようという感じではないんですね。

閣下　全然、伝える気なんかない。何を食ったなんて、一言も言ってない。必ず文句ばっかり垂れている（笑）。

——そう考えると、プロレスラーの個性が目減りしているのは、ブログの親近感のせいかもしれないですねぇ。

閣下　そこで戦略的にやったり、目的があれば別だけどね。鈴木みのるとかブログをやってたりするの？

——やってますね。

閣下　やってるんだ。あまりイメージにそぐわないね、それ。

——最近は更新してないのかな。でもまあ、猪木さんもやっているぐらいですから。

閣下　猪木はもっとやっちゃダメだよね。

——やってないのはタイガー・ジェット・シンぐらいですよ（笑）。

閣下　ガハハハハ！　やってほしくないよね、タイガー・ジェット・シン。

——やり方次第ですけど、あのヒール性が一瞬にして消えるでしょうねぇ。話は戻りますが、閣下が腹をくくってると思われる方は誰ですか？

閣下　まあ、種類は違うと思うけれども、ビートたけしはそうだよね。あの人はヒールと言ってもいい。殴り込みはしてるわ、収監されてるわ、そのうえ映画で賞まで獲ってて。「オレはこういうふうに生きてれば、もうべつにそれでいいんだ。敵が増えたってかまわねえや！」っていう感じは漂ってるじゃない。

——そこは貫いてますね。

閣下　「あんまりこの人、好きじゃないな」と思ってる人もいっぱいいると思うんだよ。でも、その次元を超えちゃったよね。映画にしても、おもしろいかおもしろくないかは好みの問題だから。もう認めざるをえない成果を残してるってことでしょう。だから、結論としては、ヒールって職人なんだよ。

——職人ですか。

閣下　大多数、過半数という割合では憎まれたり嫌われたりしているけども、そのかわり熱狂的に支持する人も必ずいて、なおかつ実力がともなっている。だから実力があって、凄く嫌われている面を持っていながら、そこが魅力となっている。それって、簡単に言うと、職人だよね。鍋の型をきれいに作り続けて何十年のオッサンがいるんだけど、近所の人は「あそこは行かないほうがいいよ。偏屈だから。アンタらが言ったって売ってくれないよ」って。案の定、凄く不愉快な思いをして、「おまえんとこの鍋なんか買うか！」って帰ってくわけよ。

——でも、その鍋をどうしてもほしい人がいるわけですよね。

閣下　そうそう。その鍋じゃないとダメって人が何人かいるからもってるんだよね。ただ、職人の場合はそれが何十年もできるわけで、スポーツだと難しいけど。「オレはこういうふうに生きてれば、もうべつにそれでいいんだ」っていう腹のくくり方。「敵が増えたってかまわねえや！」って感じを漂わせる者こそが、ヒールと呼べるのかもしれないね。

【08年8月28日／都内・吉本興業東京本部にて収録】



亀田に朝青龍に横峯パパまで〝ヒールのご意見番〟が激語り！

漫画家・日本相撲協会「再発防止検討委員会」外部委員

やくみつる

亀田一家との〝仁義なき抗争〟の裏側

ヒールを語らせるならやっぱりこの人！　さまざまな社会現象や有名人をその鋭い筆致で諷刺、またエッセイストやTV番組のコメンテーターなど幅広く活躍している漫画家のやくみつるの登場だ。かつて亀田史郎と生番組でケンカ寸前の大激論を交わしたやくが、その抗争劇の知られざる裏側を明かす！　はたして〝ヒールのご意見番〟が語る悪役の品格とは？

聞き手／ジャン斉藤　撮影／鈴木佑

―やくさんは立場上、ヒールと呼ばれる方々との接点が多いですよね。

やく　立場上ではないですよ（笑）。

―まあ、テレビコメンテーターとして、どうしても接触せざるをえないというか（笑）。最初にお聞きしたいのは、やくさんは、朝青龍からヒールとしての魅力を感じられたりしました？

やく　ないです（キッパリ）。

―即答ですね。

やく　まず相撲界の話をしますと、私は「相撲界にヒールは必要ない」という言い方をしてたんですね。これは日本人に脈々と根づいている感覚だと思うんですが、力士というのは憧れの存在なわけです。たとえ内実がチョンマゲ結って身体が大きいただのあんちゃんであっても。おそらくこれはホモサピエンスという生物の持ってるものだと思うんですけど、生物全般に言えるのは、身体の大きいものに対して憧れるとか、服従してしまうというか。

―やっぱり身体のデカいほうに優位性はありますね。

やく　そういうのが全部一緒になって、日本人はお相撲さんに対してある種、尊崇の念というものを抱いている。普通のあんちゃんだとはわかっていつつも、彼らは「お相撲さん」であって呼び捨てにはしない。お相撲さんはそういう対象なので、その中にヒールはいらないというスタンスだったんですね。

―なるほど。

やく　で、このあいだ**内館牧子**さんとお話しをしたときに、内館さんは「ヒールはあり」と。ただ、そのヒールの捉え方が全然違っていました。内館さんは本人が「力士、かくあるべし」ということをわきまえた上で、自分の全体の中の立ち位置を考えて、ヒールを演じるんであればよしとする。ヒールとはあえて演じるもんだとおっしゃるんですね。

―そのスタンスであればかまわないと？

やく　それは厭わないと内館さんはおっしゃっていて、そういうふうにヒールを捉えてるんですね。ヒールというのは普通の人以上に全体を俯瞰して、自分の立ち位置が見えて初めてできてくるもの。だから、いま朝青龍がヒールうんぬんと言われてるのとは違う意味で、内館さんは使ってらっしゃる。えてして、いまヒールというのが、ただ乱暴だとか、振る舞いが悪いとか、そういうヤカラに簡単にヒールという称号を与えてしまっている。そういう意味でのヒールは、いまでも不要だという考えに変わりはありません。まずヒールの定義みたいなものから入らなきゃいけなかったんだなと思いますけどね。

―相撲界にも昔から役割としての憎まれ役というか、貴乃花に対する曙であったり、そういった図式は確かにあったと思うんですけども。やくさんのお話にあてはめると、いまの朝青龍はヒールとは呼べないですね。

やく　あくまで人気のある力士を倒して、それで憎まれちゃうというかね、そういうヒールはなんら厭うことはないですけど。本筋と違うところ

での振る舞いまでムチャしていいってことじゃなくて。べつに曙はそのほかで何かしでかしたわけじゃない。

――ただ憎たらしいほど強かっただけですね。

やく　人気者には、それを倒すアンチヒーロー的な者は必ずいますからね。そういうヤツはおおいに待望されるとは思いますけどね。

――朝青龍はそういうふうにわきまえた範囲内でのヒールになるんじゃないかなというような予感はありませんか？

やく　もしかすると、そういう理想のかたちに行きつつあるのかもしれません。**白鵬**にもう事実上逆転されてると言ってもいいと思うんですけど、これから白鵬に牙を剥いていくという構図であればね、ヒールの立場をこれからは担えるかもしれない。ただ、いままでと同じような態度をとっているのでは……。態度がよくないといえば、今回の**若ノ鵬**もそうでした。もちろん犯罪行為うんぬんなんて、そんなのはもってのほかですけどね。

――それはヒールじゃなくて、法を犯した犯罪者ですね。

やく　反則を犯しちゃいけないとは別に、相撲には相撲の荒くれようがあって、それを逸脱する必要はないと思いますよね。たとえば戦時中、**双葉山**に対した**前田山**という力士がいたんですが、その前田山は横綱の顔をバンバン張ったりとかで、けっこう批判を受けたんですけど、やっぱり相撲という競技の中で貪欲に勝とうとする姿勢を示して、その闘志剥き出しの様がヒールに映ったという感じなんです。

――つまり、相撲に対する姿勢が評価されたわけですね。

やく　それなら全然、厭わないですね。だから朝青龍が今後白鵬に対してね、けなげなまでの一生懸命さを出して、ときには顔を張ったりしながらも、なんとか白鵬を倒そうとするなんていうヒールになれるんだったらいいと思いますけどね。相撲の競技外のね、たとえばマスコミの人に対する態度であるとか、日常の自らの律し方がいまのままではマズいなという感じですよね。

――最終的には、相撲そのもののイメージが下がってしまいますよね。

やく　べつに万事腰低くしとけってわけでもないんですよ。寄せつけないような雰囲気があってもいいと思うんですけど、そこらへんのクソガキが悪態つくみたいなね、それは違うだろと思いますけどね。

――そういう意味で亀田兄弟っていうのはどう捉えていますか？

やく　まあ、これも朝青龍と同じベクトル上にあるのかな。対戦前のパフォーマンスもある程度はあっていいと思うんですよね。その示威行動をするところから闘いは始まってるんでしょうけども。でも、それもあんまり度を越えてしまうと……まあ、越しちゃったと思いますね。

――じつは昨日、亀田（興毅）さんに話を聞いてきたんですよ。ホントに普通の人なんですよね。

やく　とくに番記者の方はそれを言いますね。「話すと普通のヤツだ」と。だから、人前に出るとよけいにあえて演じてる部分があったんだと思うんですよ、とくに兄ちゃんのほうなんかはね。だけど弟（亀田大毅）あたりになると、そのまんま丸々いただいちゃってね、己を見失なうというか、自分の立ち位置を見失なうっていうところがありましたね。本来それをコントロールできればよかったんですけどね、まあ、亀田の親父も演じられるぐらい器用な人であればよかったんですけど、なんせ万事あの調子なんでね。

――やくさんとの**テレビの討論**はホント凄かったですよね。

やく　まあ、あれは怒って当然だと思いますけどね（笑）。こっちも怒らすためにやったところはありますから。

――あれでわかったのは、ヒールという存在は、冷静に空気を読めないと破綻しちゃうんだなってことですね。

やく　そこはね、自分が仕掛けたときに……あれをシャレとして受け流すぐらいのヒールでなくてどうすると思いますけどね。そこで地の部分を出しちゃうと「ホンモノじゃん」ってバレてしまいますよね。

――そう考えると、朝青龍や亀田興毅が一皮剥けるためには、俯瞰する部分がけっこう重要ですね。

やく　そこがわかった上でやっていれば深みが出るんですけどね。亀田の兄ちゃんのほうは、そういうのができる一面もあると思うんですけどね。ただ、亀田批判があんまり炎上しちゃうっていうのも、そうするとまたこちらもひねくれたもんでね、批判勢力にはあんまりくみしたいとは思わなかったですね。

――やくさんの場合は、礼儀であったり言葉使いだったり、人間としての見え方に異議を唱えたと思うんですが、たとえば判定そのものに対する怒りっていうのはあったんですか？

やく　いや、それはそんなになかったですよ。**ランダエタ戦**にしても、翌日の『日刊スポーツ』の社内判定というか、記者の方の判定でも、やっぱり亀田が勝ってたんですね。記者の方はこういうふうに判定をつけるのか、と。プロが見てそうなら、そうなんだろうなって思っちゃいましたからね、あんまりそれに対しては、とやかく言うものでもなかったですけどね。

――それよりも、亀田のあり方自体が問題だったわけですね。

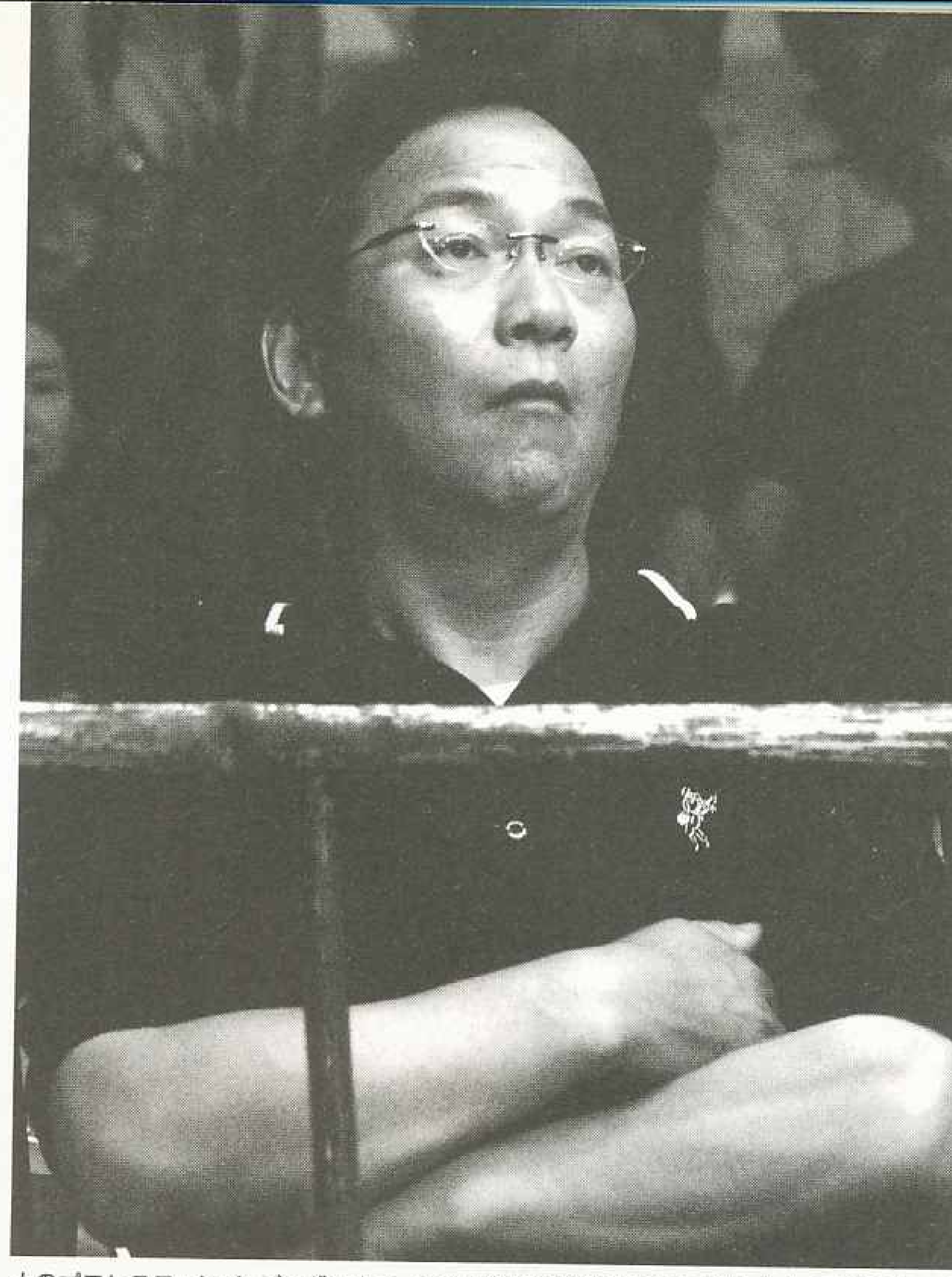


07年10月に時津風部屋の新人力士（序ノ口力士・時太山）リンチ死亡事件を受けて日本相撲協会が設置した「再発防止検討委員会」の外部委員に選ばれたやく。今年8月31日には問題行動が目立つ朝青龍を批判、理事会で議論するように訴えるなど、相撲界のために活発に提言。

悪役とは何か？

ただ乱暴なだけのヤカラに簡単にヒールの称号を与えてはいけない

亀田一家との〝仁義なき抗争〟の裏側



大のプロレスファンで、ビッグマウス・ラウドの顧問も務めていた横峯パパ。里村明衣子とも親交があり、娘さくらをセンダイガールズプロレスリングの道場で練習をさせたことも。よき父親のイメージだったのが、いまやさまざまなスキャンダルによりすっかりヒールに。

やく　むしろそうですね。っていうか、亀田が……あのときも親父に言ったんですけど、へんな話、観るほうも単純なヤカラが多いですからね。あの存在が世間をミスリードしてしまいそうな気がしましたね。

――へんな影響を受けるんじゃないか、と。

やく　そういう粗暴な振る舞いとか、表出してる部分だけを単純にもらっちゃうヤカラらが多そうに思いますんでね。それを引っぱられても困るなというところからものを申した感じだったんですけどね。あんまり「亀田、許すまじ！」の先頭に立つのは避けたかったですけどね。

――凄かったですよね、あのときの亀田憎しのムードは。

やく　それはパソコンが普及して以来、顕著になりましたね。あのツールは……、じつは私はパソコンを持っていないんですが、あれでツルむ行為が好きになれない。もの凄い数がリアルに集結できるんでね、炎上すればね、書き込んだ数なんかですぐに実数が出ますでしょ。あの炎上っていうのは美しくないなあ。

――韓国とかはもっと過敏らしいですね。

やく　そうですね、中国とかも。声を上げるのと、書き込むのとかがいまはほとんど等号で結ばれちゃってますけど、せっかく手に入れたネットっていうツールを暴力的に使うっていうのもどうかなって思いますけどね。せっかく便利なものを手に入れたのに。そのつもりがなくても集結すると暴力になってしまうことってありますからね。一人一人はただ言いたいこと言いたくてやってますけど、それが数が集まって暴力的な効力を発揮しちゃうってなると

当時の亀田一家の存在は世間をミスリードしそうな気がした

……、もう反駁はできないわ。

――表現者としては脅威ですね。

やく　そうですね、その反応を見たくないので自分はネットをやらないんですけどね。コメンテーターはみんな自分のサイトを持って、そこに書き込まれてくる反応を見たりしてる人もいるんですけど、よくヘコまないなと思いますよ。イヤだもん、見たくない。

――そういうものを見ちゃうと、自分自身がやってることに対して迷いが生じてしまうっていうこともあるわけですか？

やく　おそらくそういう危惧を抱かない人たちが見てるんでしょうけどね。そこまで信念を持って言ってないからな……。

――あ、そうなんですか（笑）。

やく　言い逃げです（笑）。昔から「コメンテーターは言い逃げである」って言ってたんですけど、この頃、言い逃げが利かなくなってるんですよ、『YouTube』とかのおかげで。

――なるほど、残っちゃいますもんね。

やく　繰り返し使うなよって思うんですけど。こっちは言い逃げでやってるんだから。

――そういう風潮になると、ますます良質なヒールが生まれてこないんじゃないのかなって思いますね。

やく　そういうのをへんに恐れたりするとね。ヒールになる前に潰されてしまうかもわかんないですね。

――だから、亀田興毅にも若干の迷いが生じてるように感じたんですね。

やく　そういう意見を彼がどう思ってるのかっていうのは非常に興味ありますね。

――1時間ぐらい話を聞いたんですけど、一番いきいきしてたのがアイスクリームがうまかったっていう話と、デパ地下で試食をするのがホントに楽しいんだっていう。〝普通の人〟というより、〝普通の人になりたい人〟という感じを受けました。

やく　兄ちゃん、悩んでるか……。

――で、お話の中でヒールのキーワードがいろいろ出ましたけど、やくさんが描く理想のヒール像はどのようなものですか？

やく　デストロイヤーだってヒールですよね。そういうのがいいな。やがておもしろ悲しい的なね。そこにおもしろさとか、悲しみみたいなものもたたえていくっていうのが。

――亀田さんや朝青龍はそういう方向に転がっていく可能性は感じますか？

やく　一瞬、興毅がね、ちょっとお利口さんの振る舞いをして、少し悲しみの部分を背負いかけましたけど……、まだわかんないな。

――そうですね。なんといっても、まだ21歳ですからね。

やく　あの若さで哀愁を漂わせろっていうのもムチャな話でね（笑）。ま

内館牧子
小説家。代表作にNHK連続テレビ小説『ひらり』、大河ドラマ『毛利元就』など。大の相撲ファンであり00年から女性初の日本相撲協会の横綱審議委員に就任。また格闘技全般のファンでもあることから、東京スポーツ社・プロレス大賞の審査委員も務める。伝説のオシャレプロレス雑誌『kampfer（ケンファー）』では、蝶野正洋と表紙を飾ったこともある女流作家。

白鵬
1985年3月11日生まれ、モンゴル国出身。宮城野部屋所属の第69代横綱。01年3月場所に初土俵。その後、順調に成績を残し、07年5月場所で横綱昇進。郷里の先輩でもある横綱・朝青龍とはよきライバル。08年8月現在の通算成績は376勝135敗21休（44場所）。幕内優勝7回。

若ノ鵬
1988年7月8日生まれ、ロシア連邦北オセチア共和国出身。間垣部屋に所属していたが、今年8月18日に大麻取締法違反（所持）の疑いで逮捕。現役幕内力士が逮捕されるという前代未聞の不祥事に、同月21日に日本相撲協会は解雇処分を決定。05年春場所に初土俵、最高位は前頭筆頭。

双葉山
1912年2月9日生まれ、大分県出身。第35代横綱。年2場所の時代に本場所での通算69連勝、優勝12回などを記録した昭和を代表する名力士。引退後は時津風部屋を興す。56年5月に相撲協会理事長に就任。68年12月16日没。

前田山
1914年5月4日生まれ、愛媛県出身。第39代横綱。張り手や攻撃的な仕切りなど殺気じみていた取り口が特徴。引退後の51年にはアメリカを巡業。以後も積極的に海外に相撲を紹介、「大相撲の国際化」に尽力した。71年8月17日没。

テレビの討論
06年8月7日放送のテレビ朝日系列『スーパーモーニング』で、やくは亀田史郎と対面。「金亀印のしつけ糸や。これで亀をしばっとけ」と、やくは〝亀田流パフォーマンス〟で挑発。さらに「あんたの息子はこれをやっとる」と、史郎の教育不足を指摘。しかし史郎も「悪いことしても世間に迷惑かけなければええ」とケンカ腰で反論、番組は緊迫した雰囲気となった。

ランダエタ戦
06年8月2日、WBAライトフライ王座決定戦で亀田興毅はファン・ランダエタと対戦。ランダエタが1Rでダウンを奪い、その後も優勢に試合を進めるも1－2で判定負け。この試合を放送したTBSには結果に関する問い合わせ電話が5万件以上寄せられる事態に。両者は06年12月20日に再戦、この試合ではアウトボクシングに徹した亀田がポイントを稼いで判定勝ちを収めた。

横峯パパ
本名・横峯良郎。プロゴルファーの横峯留衣（長女）、横峯さくら（三女）の父。07年参議院議員選挙に当選。07年12月25日放送の日本テレビ系列『爆笑問題の証人喚問!! 太田内閣がアノ関係者とっちめちゃうぞSP』に出演した際、共演者のやくみつるが思わずたしなめるほどの国会議員にあるまじき言葉使い、また国政に関する無恥を露呈。週刊誌で賭けゴルフ疑惑や年金未納、不倫について報じられるなど黒い噂がたえず、世間の反感を集めている。

だヒールとしての立場を追求できる位置にいるとは思いますけどね。

——あれから接点はないんですよね？

やく あの親父と揉めた年の暮れに、自分は流行語大賞の選考委員を務めてるんですけど、「浪速の闘拳」をトップ10に推そうと思ったんですよね。

——亀田興毅のニックネームに。

やく でも、選考会では一度、落ちたんですよ。けれど今年は亀田抜きでいくのもどうかって思って、もう一押しして。

——それはおもしろいなあ。

やく 強く推した結果、滑り込んだんですね。それで亀田サイドに出席を打診したらOKが出て。そうなると、贈賞式はたぶん自分が渡すことになる。

——それはいいですね！

やく これは劇的だと思って。これは亀田家にとってもマイナスではないはずなんですよ。ところが贈賞式の前日か前々日ぐらい、直近になって親父がNGだ、と。なぜかというと「選考委員の中にやくがいる」と。それで断っちゃったんですって。

——それはもったいないですねぇ……。

やく そういうシャレで緩和する部分を持っておかなかったために、その後、反則だなんだで大暴落していくんですけど。贈賞式に親父か興毅

ヒール製造器的な役割というか自分にはヒールな部分があるかも

が来る、そうするとたぶん一発、わしを殴りたい心境だろうっていうことで、ヘッドギアまで買ってたんですよ。

——それはおもしろい（笑）。

やく それを贈賞式のときに被って、そしたら向こうが軽くコツンと殴ってくる。そんな「こんな茶目っ気もありますよ」的なところをやらせてあげようと思ったのに。その年の終わりを飾るにふさわしい絵を提



やく・みつる■1959年3月12日、東京都出身。政治、社会、芸能、スポーツなど森羅万象をネタとする漫画家。日本相撲協会「再発防止検討委員会」外部委員のほかに、趣味が高じて日本昆虫協会理事にも就任。珍品コレクターとしても知られ、日本一のトイレットペーパー包装紙収集家でもある。

供してあげようと思ったのに！

——しかし、一度落選した「浪速の闘拳」を、因縁深いやくさんが推したのはいい話ですね。

やく だって、やっぱりその年の流行語だと思いますよ。返す返すもそのチャンスはもったいなかったなと思いますね。風向きも変わってたかもしれないのになと思いますけど。

——ほかのバトルで印象深いのは、**横峯パパ**なんですけど。

やく あれはもう、亀田パパよりもっと悪いと思いますよ！

——そこは同感ですね！（笑）。

やく あれをヒールと言っちゃったら、ヒールがかわいそう。あれはただの○ンピラ親父だもんなあ。

——あの逆ギレはホントに凄かったですねぇ。

やく あちらはもっと叩かれてもいいと思いますね、逆に。まだ横峯さくらが頑張ってることで緩和されてる部分があるけれど、彼を議員にした民主党も何を考えているんだか。党政を拡大するためにああいうのを取り込む民主党に投票する気はしないですよね。いくらほかの議員が政権を引っくり返そうとして頑張っていてもですね。ホントに難詰されて然るべきだと思うな。

——横峯パパは亀田パパ以下ですか？

やく 私にはそう見えますね。議員ヅラして振る舞ってるぶん、よけいに腹立つわ。

——しかし、やくさんと絡むことによって、当人のヒール度が増幅されるっていうような現象も自分は感じてしまったんですけど。

やく ヒール製造機的な役を担わされてるんですか？

——結果的にですけど（笑）。

やく まあ、わし自身ヒールみたいなところがありますからね、図らずも。自分ではそんなつもりなかったんですけど、たとえば、『anan』で「嫌いな文化人」の3位に入ったり。

——ちなみに2位と1位は？

やく 1位が小泉純一郎で、2位が橋下徹。それに次ぐ3位ですよ！

——ダハハハハ！

やく たいしたもんだなと思ったんですけど。その理由の一つとして書かれていたのが、「人のことばっかり言ってる。あいつはどうなの？」っていう代表意見が載ってたんですよ。

——いまの世論にありがちな声ですね（笑）。

やく それは違うなと思いました。それは自分がどれほど身を律しているかをたぶん知らないから。ゴミの捨て方一つ、タクシーの運転手さんやバスの運転手さんとの会話なんか聞いてもらえたら、とてもそんなことを言えないはず。「相当自らを律してるな、この人は」って思うはずなんです。でも、それはひょっとするとヒールとしては望ましいゾーンに自分で近づいているのかもしれないって勝手に思ってますけど。「じつはちゃんとやってるんだぜ！」的なね。

——あえて演じてるという部分で言えば。じゃあ、理想のヒール像は、やくさんご自身だったっていう（笑）。

やく それもちょっとおこがましいですけど。イチャモン言いをじつは気取っているっていうのは本意ではないんですけど、まあ、そんなオチにしてください。

——今日はありがとうございました！

【08年8月21日／都内・やくみつる事務所にて収録】

このインタビュー取材後日、若ノ鵬の逮捕を受けて日本相撲協会は相撲界の〝潔白〟を証明するためデモンストレーションとして、抜き打ちで十両以上の力士に対する尿検査を実施。しかし、なんとロシア出身の兄弟力士、露鵬と白露山から大麻の陽性反応！ 昨年の時津風部屋序ノ口力士死亡事件に続く不祥事の発覚に、日本相撲協会は土俵際に追い込まれた格好に。

この結果に大きなショックを受けたやくは「汚染度合を正確に把握するため序の口からすべての力士に薬物検査を実施すべき」と徹底解明を訴えた。また、白露山の師匠でもある北の湖理事長に対しても、「自分の部屋から出たら監督責任は逃れられない」と厳しく追及。まさに国技クライシス！ しかし逆の視点で見れば、徹底的にウミを出すチャンスでもあるが……どうするどうなる大相撲？

一人の横綱をめぐるはてしなき人間ドラマ

追跡 朝青龍ドキュメント「オレはサタンだ!」

07年の“仮病疑惑”騒動以来、いまなお世間を騒がせている朝青龍。この横綱を取り巻く騒動があまりに“プロレス的”だったので、以前『kamipro』No.115にてその一部始終を特集させてもらったが、今回はそれに加えて、その後の新たな因縁や衝突などをも追っている。朝青龍をめぐる極上の人間ドラマを、もう一度追跡!!

構成/松下ミワ





2007

7月25日(水)
朝青龍、サッカー事件発覚!! 高砂親方、北の湖理事長ら激怒!

25日、腰の疲労骨折などで全治6週間の診断書を提出し巡業を休場、母国モンゴルで療養中だったはずの朝青龍が、なんと、元日本代表の〝旅人〟中田英寿氏らとサッカーをしていたことが発覚!! 中田氏のパスを得点につなげた朝青龍の俊敏な動きからはとても腰の疲労骨折は感じられなかったが、感じられないどころかその事実はいずれフェードアウトしていくことになるから世の中って不思議である。日本相撲協会の北の湖理事長は「診断書が出ているのに、おかしい!」というあたりまえの苦言を呈し、朝青龍の師匠である高砂親方に至っては「サッカーができるなら、巡業に参加しろ!!」とこれまた正論。「入院するほどじゃないと判断したら、巡業は全部出す!!」と容赦ない発言をするなど、〝親方としての威厳〟を見せつけたのだったが、ここから事態は予想もしない方向にどんどん転がっていくのである。

7月30日(月)
朝青龍、帰国し「反省します」 高砂親方「私も反省しないといけない」

渦中の人物、ついに再来日! サッカー事件発覚後、高砂親方、北の湖理事長をはじめ、日本相撲協会の巡業部も激怒させた朝青龍。一般のファンからも「横綱が巡業に出ないならチケット代を安くしろ!」などの苦情も殺到するという大変な事態に見舞われていたが、30日、ついにその張本人が姿を見せた。朝青龍は一度帰宅して正装に着替えると、北の湖理事長の待つ両国国技館に直行。「反省してます。治療に専念し、来場所から頑張ります」と平謝り。翌日31日には、ケガの治療のため、朝青龍は入院することになっていた、……がっ!!

7月31日(火)
入院の必要はなかった!? 高砂親方「ヒジにメスを入れるのはやめたほうがいいということだった」

31日、都内・病院で再検査を受けた朝青龍。相撲協会が腰よりも深刻と発表されていた左ヒジに関しては、なんと〝手術は受けないほうがよい〟という診断結果! このため、通院治療でケガの完治に励むことになったが、この後、朝青龍の精神的な問題が徐々にクローズアップされていき、腰だのヒジだの身体的ダメージは、宇宙の彼方イスカンダルへ飛んで消えてしまうのであった。

7月31日(火)
中田英寿にも批判の声、続出!? FAXで「知らなかった」と謝罪!!

〝旅人〟として世界を放浪中の中田英寿氏から、なんと高砂部屋に謝罪FAX。現地モンゴルにて朝青龍とともにサッカーに興じ、〝ナイスアシスト〟を繰り広げた中田だったが、一部報道によると中田は日本サッカー協会から「責任は中田氏にもある!」と、わかったようでわけのわからない指摘されてしまったらしく、思わぬ〝飛び火〟を食らうことに。そのFAXには「当時はケガしていることを知らずに、申し訳ない」という記載があったと報じられており、さすがの〝旅人〟も疲労骨折は見抜けなかった模様。観戦に来ていた朝青龍が飛び入りで参加したことも「サービス精神旺盛で感謝している」とのこと。腰の疲労骨折なら通常は歩行ですら困難だが、朝青龍は旺盛なサービス精神をもって奮い立ったのだろう(適当)。

8月1日(水)
日本相撲協会、厳しい処分! 二場所出場停止および減額処分!!

朝青龍、引退の危機か!? 1日、両国国技館で行なわれた緊急理事会にて、朝青龍への厳罰処分が下り、①秋場所、九州場所の二場所出場停止 ②4ヵ月30パーセントの減俸 ③8月1日から九州場所千秋楽(11月25日)までの謹慎(自宅、高砂部屋、病院以外の外出禁止)という3つの処分が突きつけられた。あまりの厳しい処分に対して、モンゴルでは「人権侵害をしないください」と朝青龍を擁護するデモも行なわれたが、高砂親方の「4ヵ月30パーセントの減俸」という厳しい処分には誰もフォローしないのであった。

8月2日(木)
高砂親方「謝罪会見をする!」発言も、朝青龍は自宅〝ろう城〟でノイローゼ!?

事実上の〝引退勧告〟とも報じられ、

悪役とは何か?

厳しい処分を科された朝青龍が、なんとノイローゼに!? 1日の夜、高砂親方は厳罰処分を受けて「朝青龍に会見に出るように説得する」と息巻いていたが、翌日には「人前に出せる状態じゃない……」とあっさり前言撤回。その背景には、朝青龍が精神的に不安定になっているという不穏な事態が渦巻いていた。「朝青龍は『もう一回頑張ろう』と思ったり、『もうあかんわ』と思ったりと心が揺れている」と話す高砂親方。弟子から会見を"拒否"されるばかりか、とても縦社会の師弟とは思えない驚ガクの関係性があきらかになるのは数日後のこと。

8月4日(土)
平石医師、モンゴルへの帰国を勧めるが高砂親方「順番が逆！」と一喝!!

モンゴル帰国説が急浮上！ 4日、精神的に不安定な状態にある朝青龍について、自宅で精神科医の診察を受けることが判明したのだが、3日に診察した朝青龍の主治医・平石貴久医師は、食事もほとんどとれず、言葉も発せない朝青龍を見て「いまのままでは相撲はとれない」と衝撃発言。相撲どころか人間として危ないです。高砂親方にも「モンゴルに帰したほうがいい」と伝えていると話したが、なんと親方は「順番が逆！」と一蹴。「まず会見を開くなり、やることをやらないと」と正論をぶちまけたが、この心の病について"順番が逆"地獄をとことん巡り続けることになる……。

8月6日(月)
7日ぶりの再会で高砂親方も仰天！「朝青龍が憔悴している……」!?

モンゴル帰国に一貫して反対の態度を示していた高砂親方は精神的不安定状態にある朝青龍と会って「憔悴している……」と蒼白。しかし、こちらの顔面が蒼白してしまうのは、師弟関係を持つのにじつに7日ぶりの対面だったということ！ どうりで話につかみどころがないし、会見出席にしても説得できるわけがない。さらに、「一人より二人の診断のほうがより正確だろう」という親方の強力なプッシュにより、朝青龍は包茎手術で話題の本田医師とは別に、大泉メンタルクリニック所長・今坂康志医師にも診察を依頼。翌7日に、今度は「急性ストレス障害」とあらためて診断されたのだったが、基本的に精神医学は何度かの面接を経て結果が診断されるもの。あまりにあっけない診断スピードに世間ではますます"仮病"疑惑のムードが高まっていくのである。

8月8日(水)
大島巡業部長、高砂親方を叱咤！「汗をかけば治る」発言が波紋!?

迷走を極める朝青龍問題について、大島巡業部長が高砂親方と朝青龍に喝！ 大島巡業部長は、まず「高砂親方がおかしい。なぜ、親方はいままで一度しか会ってないの？」と、小学生でも感じる疑問をブチあげた。ほかにも「ボールを蹴っ飛ばしていた人間が、いきなり閉じこもったって同情する人はいない」とピシャリ。しかし、こういった正論が通用しないからこそ我々は楽しめる。常識どおりにいく世界なんて不気味でつまらないだけ！

8月9日(木)
朝青龍、会見出席を"拒絶"！ 高砂親方「説得に失敗しました」

前日8日に「朝青龍を引っぱり出してしゃべらせる！」と高らかに宣言していた高砂親方に対し、なんと朝青龍はまさかの"拒絶"。早くも出鼻をくじかれた高砂親方は、「説得に失敗しました……」と肩を落とすばかり。「記者会見をやろう、入院しようと言い続けたが、説得に至らなかった」と師匠を窮地に追い込んだ。そんな迷走極める騒動がある中、一方では両国国技館周辺に街宣車が出動するという非常事態にも見舞われた。「日本の国技をなめるな」など、拡声器で約30分間罵倒がやまないという、とんでもない事態に。

8月10日(金)
K-1転向の可能性もアリ!? 谷川氏「頑張っていただきたい」

やっぱりこの男が黙っちゃいなかった！ ご存知、我らがサダハルンバである。当時は「PRIDEっぽいのが好き」と公言してはばからなかったが、かつては「相撲っぽいのが大好き」だったサダハルンバ。"引退危機"ともいえる窮地の朝青龍に、谷川FEG代表は「あれだけの実績を築いたし、気になりますねぇ〜」と意味深すぎるコメント。また「横綱といえども厳罰を下した協会の措置はさすがですよお。ファンを大切にしてるんですねぇ」と、当時、大変な騒動となっていた秋山成勲クリーム塗布問題をさておき、日本相撲協会の決断に拍手を贈る場面も。"トラブル"が勃発するごとに"プロ格闘家転向"の噂が飛び交う朝青龍だが、今回、サダハルンバは「頑張っていただきたい」と多くを語らず。朝青龍が"谷川黒魔術"の洗礼を浴びる日はくるのか？ んあ〜！



8月20日(月)
"第4の医師"が「モンゴルに帰国」を再提示！ 国内治療派の高砂親方、ピンチ!!

世間が大騒ぎしている朝青龍問題を前に、お盆休み返上を宣言していた高砂親方。しかし「お墓参りにも行きたいし、休むよ」と、あっという間にてのひら返し！ そんな"主役不在"となっていた朝青龍問題だが、盆明けにようやく動きが。前回立病院機構東京医療センター精神科医長・高木洲一郎医師の診断によると、朝青龍は意識と行動の各機能をまとめる自己同一性を失なう神経症「解離性障害」と診断され、①高木医師が治療 ②国内で入院 ③モンゴルに帰国、という3つの選択肢が提示されることとなった。これを受け、北の湖理事長も「医師の指示に従って適切に対応していきたい」と、なんとなく帰国を"容認"した。ただ一人、高砂親方のみが「国内でも治療できる」と頑な態度。朝青龍の帰国を巡り、これほどコンセンサスを得ないで発言を続ける相撲協会。今回の件で、そのズンドコぶりが浮き彫りになったことはいうまでもない。

8月22日(水)
朝青龍、23日ぶりの外出!! 高砂親方「治療に前向きになった」

二場所出場停止処分などを科されていた朝青龍が、30日以来、初めて外出！ 高砂親方によると、高木医師の治療を受けることが目的で、自宅外に宿泊することになったとのこと。もちろん、報道陣の前にも姿を現わした朝青龍。無精ひげをはやし、生気のない表情で車に乗り込む姿がキャッチされた。高砂親方も「治療に前向きになったのは望ましい」と満足な表情。しかし、通院治療でモンゴル帰国がベストと判断されれば、早い段階でモンゴルへ帰国することも考えられる状態に。あくまで国内治療を望む高砂親方、北の湖理事長は、ピンチか？

8月22日(水)
高田川親方が高砂親方をバッサリ！「一番悪いのは、師匠の高砂だ」

これまで、数多くの"叱咤・激励"を受けてきた高砂親方に、またしても厳しい一言が浴びせられた。高砂部屋出身の高田川親方が、"高砂部屋の恥"として「高砂を返上して、一門を抜けろ！」と高砂親方にキツい一言。また、「一番悪いのは、高砂だ！」と痛烈な批判を向けたことも発覚した。高砂親方にしてみたら、一生懸命やった末の結果であるのに、約5分にわたり責め続けられたというから無念。あくまで想像だが、叱られる姿はきっとキュートすぎてたまらないだろう。

8月24日(金)
横綱・白鵬は朝青龍の外出に「いいんじゃないですか」

モンゴル出身の"もう一人の横綱"白鵬が、一向に収拾がつかない朝青龍問題に複雑な表情でコメント。すったもんだの末に、ようやく外出するまでに至った朝青龍に「いいんじゃないですか（アッサリ）」と、"遠くから"エールを贈った。また、モンゴル帰国については「自分の場合は周りに仲間がいっぱいいるから、ホームシックにはならない」と、なんとも朝青龍周辺の環境を暗に露呈させる発言も。しかし、このときはまさか土俵の上で朝青龍との小競り合いを繰り広げるとは思ってもいなかったのだろう。

8月24日(金)
モンゴル帰国を望む医師らに北の湖理事長が"待った"!?

高砂親方が痛烈な批判を浴びるのをよそに、朝青龍自身の容態は刻一刻と悪化。「横綱は混迷状態である！」という緊急事態に、高木医師らはモンゴル帰国をこれまで以上に強く要請。一貫して帰国に反対していた高砂親方も「北の湖理事長や親方衆がうなずいた場合、私も考える」

と態度を軟化させた。ところが、今度は北の湖理事長が帰国に〝待った〟！　理事長は帰国容認派だったのに、なぜ？　と思いきや、理事長は「帰国は、モンゴルの医療態勢をチェックしてからだ」と指示。「帰国する場合、高砂親方も同行して環境を確認せよ」という理事会の声もあるが、日本中の誰もが、同行人の高砂親方に不安を覚えたことは言うまでもない。そしてその不安があっさり的中したことも言うまでもないのであった。

8月24日(金)
高砂部屋後援会、親方をバックアップ！「大ちゃんは悪くない」!!

高砂親方にようやく味方が出現！　24日夜に開催された高砂部屋後援会主催のパーティの席で、「大ちゃん（高砂親方）は悪くない！」と擁護される声が多数。まあ、高砂部屋後援会主催でも罵倒されたら立つ瀬はないのだが。さらには、「（朝青龍は）もういらない。早くモンゴルに帰ればいい」や「誰、横綱って？」という過激な発言も飛び出したというからとんでもない。朝青龍のいる高砂部屋後援会でのコメントとは思えない発言だ。大ちゃんを擁護しても、身内に文句言ったら意味ないと思うのだが……。親方も「お騒がせして申し訳ない……」と神妙な表情で後援会に謝罪したそうだが、きっと、ここ1ヵ月で一番ホッとしたひとときだったのではないだろうか。

8月27日(月)
またも横道!?　朝青龍にまさかの申告漏れが発覚!!

これまた、とんでもないところから横やりが。なんと、東京国税局の税務調査を受け、朝青龍に約1億円の申告漏れが指摘されていたことが発覚！　報道によると、平成16年8月に都内で結婚披露宴を開催した際、朝青龍はテレビ中継を容認していたのだが、その契約料の税務申告が一部適切でなかったことが指摘されていたという。そのほか、テレビ番組など同類の指摘があったというが……。ついでに親方も申告漏れしていれば完璧だったのだが、なかなか神は降りてこないものである。

8月28日(火)
協会がついにモンゴル帰国を容認！　高砂親方と一緒にモンゴルにGO～ッ!!

やっと結論が出た！　28日に開催された緊急理事会で、朝青龍および医師らが強く望む「帰国療養」にGOサイン。理事会の決定事項として、高砂親方がモンゴルに同行して治療環境を確認、今後の行動にも責任を負え、という指示が出た。これを受けた高砂親方、「今後については、師匠である私が全責任を持ってやる」とあらためて覚悟。それはそれで心配な部分もあるが……。とりあえず、翌29日にはモンゴル行きの飛行機に乗るということで、事態はようやくクライマックスへ!?

8月28日(火)
メキシコ帰りの亀田興毅が一喝！「普通の人間なら自殺しているで」

合宿先のメキシコから帰国した亀田興毅が、騒動に揺れる朝青龍〝仮病疑惑〟問題に同情。かつて、WBAライトフライ級タイトルマッチ、ファン・ランダエタ戦で〝僅差の判定勝利〟という判定を下され、図らずもファンから〝八百長疑惑〟をかけられた亀田。試合を放映したTBSには、なんと5万5000件もの抗議電話が寄せられたという一大事態となってしまったが、その経験があっただけに、「オレは親父が守ってくれたけど、アニキは一人やからつらいと思う」とコメント。しかし、亀田自身も守られてなかったような気がするが……。

8月29日(水)
朝青龍、ついにモンゴルへ！　高砂親方も同伴!!

日本を揺るがす〝仮病疑惑〟問題も、いよいよ終幕か。29日、横綱がついにモンゴルへ！　250人もの報道陣が見守る中、午後13時44分に搭乗ゲートをくぐり、北西の空へと飛び立った朝青龍。もちろん「全責任を持つ」と胸を張った高砂親方も一緒である。しかし……なぜか成田空港には別々に姿を現わした両者。さらに、現地チンギスハン国際空港に到着してからも別行動をしたという。極めつけに高砂親方は、朝青龍が治療を行なう温泉施設でちゃっかり温泉に入ったのち、なんと現地滞在時間35時間で早々と日本に帰国。ちょっと早すぎるんじゃないでしょうか。31日の記者会見で「温泉でお肌もすべすべ」と親方がOL温泉夢気分を発表する一方、朝青龍の〝モンゴル治癒〟はまだまだ続く。

10月22日(月)
朝青龍、謹慎処分中に無断で出演!?　TBSテレビ取材騒動で一悶着！

モンゴル帰国中でありながら、そんなことはおかまいなしに日本で大騒動を巻き起こす朝青龍はさすが。22日、謹慎処分中にもかかわらずTBSのテレビ取材を受けていたという朝青龍問題が勃発。日本相撲協会の広報部内では「謹慎処分が終了してから撮影してください」という条件つきのもとでOKを出したというが、朝青龍はその通達を聞く前に取材を受けたという。しかしその二日後、なんとここで高砂親方が「横綱へのインタビュー取材はなかった」とキッパリ反論！　いざというとき頼りになります！　ただ、よく聞いてみると、今回のことの発端は親方が「帰国後の取材」という文言を「再来日後の取材」と勝手に解釈してしまったことが原因だということで、親方自身も「モンゴルでの取材なら許可しなかったが……」と不手際を謝罪。やっぱりあなたでしたか。

11月30日(金)
モンゴルから93日ぶりに再来日！　高砂親方と一緒にやっと謝罪会見

93日ぶりに横綱が再来日。長い長い〝里帰り療養〟を終え、ついに主役が帰ってきた。横綱は帰国すると同日夕方に会見を開き、「ご迷惑をかけたことを心からお詫びします」と謝罪。もちろん、親方も一緒である。さらに、会見後には臨時の横綱審議委員会で謝罪と一連の騒動の経緯を説明。横審では、その〝反省度〟をはかるために、抜き打ちで稽古の視察を行なうことが示唆されていたのだが、この抜き打ち視察が、またしてもとんでもない展開を見せることになるとは……。というか、ここまでの一連の騒動がサッカーに興じたことによる〝仮病疑惑〟に端を発したことだったとは、もはや誰もが気にも留めてないのであった。

12月21日(金)
内館牧子、朝青龍の朝稽古視察するも肩すかし「小橋建太を見習え」!?

内館牧子、屈辱の〝肩すかし〟！　かねてから示唆されていた横審メンバーによる抜き打ち視察が21日、ついに敢行された。だが、なんと肝心の朝青龍は稽古場に姿を見せず、7日連続の稽古欠席というとんでもない事実が発覚。怒りに震える内館牧子は「非常に不愉快！」「あれだけの騒動を起こしたあとだから、150パーセントの心を見せないと納得しないでしょう！」など苦言三昧。さらには腎臓がんを乗り越えてマット界に復帰した小橋建太を例に挙げ「小橋建太がどれだけストイックな練習でリングに戻ってきたか――」と吐き捨てた。また、苦言は親方にまでも及ぶから大変である。内館は「私にあいさつもしないで稽古場から消えた」と非難。しかし、親方も非難されては黙ってはいられない。「内館さんの都合で動いているわけではない」とピシャリ！　でも、自分の〝失態〟に必ず親方を巻き込む朝青龍というのは、もはや確信犯なのではないかという感さえ覚えさせるのであった。

2008

1月15日(火)
朝青龍vs内館牧子、加熱！　土俵上から内館にメンチを切った!!

因縁が止まらない朝青龍ｗｉｔｈ高砂親方vs内館牧子に、またも動きが。08年初場所の大会3日目、西のたまり席に座っていた内館牧子に、朝青龍がメンチを切ったのだ！　本人同士は「私、近眼なんですよ」（内館牧子）、「相撲に集中してるときに見てる場合じゃないんだよ！」（朝青龍）と、お互いに〝にらみ合い〟を否定したが、朝青龍は内館の存在を確認後、闘争心がむき出しになった様子で、パワー全開で白星を獲得！　出口の見えない二人の対立だが、このエネルギーを朝青龍はちゃっかり勝ち星に、内館牧子は相撲エッセイ集『お帰りなさい朝青龍』（朝日新聞出版）の印税に替えているからさすがなのである。

1月27日(日)
初場所で復帰するも、千秋楽で〝宿敵〟白鵬に完敗！

〝仮病疑惑〟騒動以来、初の土俵入りとなった08年初場所。初戦、まさかの黒星スタートとなった朝青龍だが、最終的には白鵬との横綱同士の千秋楽相星決戦にまでこぎ着けた。が、白熱する展開となったこの一番を制したのは白鵬だった。「負けたくないという気持ちだけだった」と素直なコメントを発した白鵬。ある意味〝みそぎマッチ〟という捉え方もされた大一番だが、これで暴れん坊な朝青龍が大人しくなるとなったら大間違い！　その後、内館牧子に加え、白鵬をも〝敵〟として作り上げていくのだから恐れ入るばかりである。

2月25日(月)
朝青龍、まさかの大暴言！　関西空港でマスコミに「死ね、コノヤロー」!!

朝青龍、今度はとんでもない〝暴言〟が大騒動に！　関西空港に降り立った横綱が、カメラマンに向かって「死ね！　コノヤロー!!」という暴言を放ったというのだ。怒りの原因は、以前ハワイの空港でアロハシャツ＆短パン姿というトロピカルな格好を激写されてしまったことに腹を立てたことらしいのだが……、いくらなんでも、ぶっ飛びすぎである。と思いき

や、朝青龍自身はこの発言をキッパリ否定。しかし、ここで収まらないのが朝青龍騒動の凄いところ。何を隠そう、師匠である高砂親方が「（朝青龍に）注意した」と、よけいな〝助け舟〟。そんなこと言ったら、よけいに騒ぎになると思うが、そんなことは気にしない親方であった。

3月23日（日）
朝青龍、ついに復活優勝！ しかし、横審は「品格がない」とピシャリ!!

朝青龍にスポンサーがつかず、横綱なのに力士幟（のぼり）がまったく見当たらないという緊急事態が勃発した08年春場所だったが、終わってみれば、なんと朝青龍が優勝！ 表彰の場面では涙を見せる朝青龍の姿。なぜかホッとさせる一幕だったのだが――、翌日行なわれた横審で、またも内館牧子が水をさすコメント。フライング気味の立ち合いや、優勝決定後に両手を挙げて花道を引き揚げる姿を指摘し「品格の問題はクリアになっていない」と手厳しく注意。しかし、内館が朝青龍に注意すればするほど内館自身がヒールと化していくから、これまたたまらなかったりする。

4月6日（日）
朝青龍、NHKの特番を観て「オレはサタン」と素敵な感想！

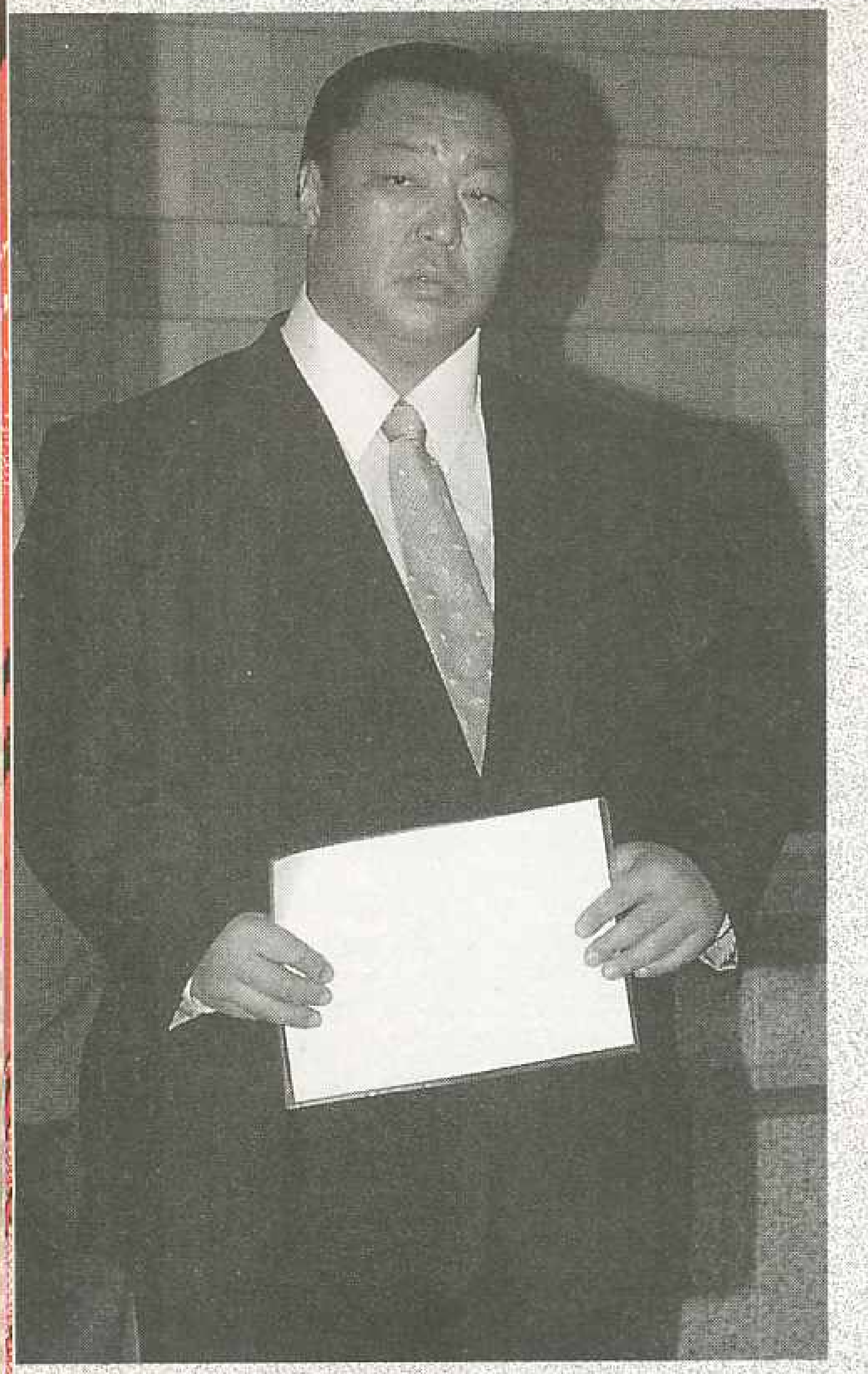
NHKのテレビ番組で、08年春場所での両横綱を追った番組『スポーツ大陸』が放送されたことを受け、その感想を求められた朝青龍は「あっち（白鵬）が平和のシンボルで、こっちはサタンか？」と苦笑い。自ら「サタン」と言いきるなんて、さすが〝国民的ヒール〟である。さらに、〝ライバル〟と目されている横綱・白鵬に向かって「番組、見たか？」と問いかけるなど、器量の大きさはサダハルンバ級！（?）。もっと凄いのが「週刊誌に白鵬とケンカしたとあるけど、こうして話してるし、ね」と、本人を前にして〝ケンカしてません〟宣言。このパフォーマンス、世の〝ヒール〟はぜひ見習ってほしい！

5月25日（日）
白鵬と危険な小競り合い騒動で瞬間視聴率は25パーセント超！

白鵬とはケンカしていない、と自ら言い放った朝青龍だが、土俵の上では話が別！ 夏場所千秋楽で直接対決となった両横綱。結びの一番で白鵬を引き落とした朝青龍が、ダメ押しとばかりに、土俵に両手をついた白鵬の背中に両手両ヒザでプッシュしたのだ。こうなったら〝優等生〟の白鵬も黙っちゃいられない。ヒジを朝青龍のボディにお見舞いすると、さらにヒートアップした二人は小競り合いの末、土俵上でにらみ合い！「あれで熱くなるんだから、相手も若いね」と、憎まれ口の朝青龍、このあたりにも確信犯的匂いをプンプン感じるのは気のせいじゃないはず。しかし、この一件に関して、北の湖理事長は「カッとした白鵬がおかしい」と、なぜか朝青龍を擁護。〝仮病疑惑騒動〟をともに乗りきった仲間意識が芽生えたのか!? ちなみに、両横綱が土俵上でにらみ合った瞬間の視聴率は25・1パーセントと、かなりの数字。これだから、ヒールはやめられないのだ。

6月19日（木）
内館牧子、〝天敵〟朝青龍にエール!? 雑誌の企画で「塩を送る」宣言！

白鵬との因縁が決定づいたその一方で、



〝もう一人の敵〟内館牧子は、なんと態度を軟化？ 某雑誌の企画「特別な日の贈り物」というコーナーで、朝青龍に「塩を送る」と表明した内館氏。そこには天日塩の写真とともに、朝青龍に宛てる手紙の内容が掲載されたのだが、その内容たるや「今回のダメ押し騒動、理事長は、白鵬が悪いとしましたが、世間は圧倒的にあなたに非があるとしました」と強烈。であるものの、最後は「あなたは横綱として、ピラミッドの頂点に立っていることを忘れないでください」と母心らしきものを発揮。しかし、こんなお膳立てをまったく無視して自己流で進むところこそ朝青龍の真の魅力。それは、その後も惜しみなく見られるので、ご心配なく。

7月10日（木）
朝青龍&白鵬、奇跡の和解か？ 仲介役は相撲評論家のデーモン閣下だった！

内館牧子に続いて、今度はデーモン閣下が朝青龍の更正をはかる。7月の名古屋場所を前に、前夜祭が行なわれたこの日、イベントの司会者を務めた閣下が、両横綱に〝和解〟の握手をうながしたのだ。しかし、しぶしぶ握手するも、目も合わさないというシビれる展開に。さらに、白鵬は入場するなり椅子をずらして朝青龍との距離をとるなど、イカした演出まで披露。ヒールを前にすると、ベビーフェイスもまた引き立つから素晴らしい。

7月18日（金）
朝青龍、ケガで無念の欠場！ そして、またもモンゴル帰国説が浮上！

白鵬との握手から始まった名古屋場所、これを制すれば名古屋場所5連覇という快挙を成し遂げられるはずだったのだが、場所前から右足首を痛めていた朝青龍は大会6日目から無念の欠場……。ケガのせいか、戦績も3勝2敗とふるわず。しかし、思い起こせば1年前、名古屋場所後の夏巡業を休場しながらサッカー事件で〝仮病疑惑〟を浮上させた横綱。それを察知してか、「モンゴルに帰って治療するなんてことは許されない！」と早くも目くじらを立てる関係者も出現！ ちなみに、高砂親方は帰国の可能性について「場所後のことはわからない」とまたもやこんにゃく発言。その後、予想どおり朝青龍はモンゴルへと帰ってゆきましたとさ。

8月6日（水）
夏巡業に参加も、朝稽古に顔を見せず！ 大島巡業部長「連絡してくれればいいのに」

朝青龍が十八番芸をまたまた披露！ 参加が心配されていた夏巡業には顔を見せたものの、6日、朝稽古に参加しないだけでなく、場所入りも土俵入りになんとか間に合うギリギリのタイミングとなるなど、やりたい放題！ これに怒り心頭なのは大島巡業部長。「朝稽古はとれなくても、土俵に来るように！」と、ここぞとばかりに注意したのだが、朝青龍は母国の言葉で口汚くののしり、さらに報道陣に「下がれ！」「何考えてんだ、この野郎！」と八つ当たり。何を考えてるかがわからないのは、横綱、むしろあなたです！ この朝青龍の悪態にビビったのか、場所後にコメントした大島巡業部長は「体調が悪いのなら、連絡してくれれば場所入りが遅れてもいい」と弱腰だ。大島部長に高砂親方の匂いを感じるのは気のせいか。

8月29日（金）
モンゴル巡業、大盛況で朝青龍ご満悦も、滞在延長希望が却下され、まさかのUターン帰国！

横綱念願のモンゴル巡業がついに実現！ 朝青龍、白鵬の両横綱ほか、モンゴル出身力士が19名も参加したこの巡業、多くの観客が詰めかけ、エンフバヤル大統領までもが観戦するなど大盛況に終わり、横綱も大満足。だが、ここで朝青龍のいつもの〝病気〟が発症！ 29日にモンゴルから無事成田空港に到着した朝青龍だったが、入国審査を受けずにそのままモンゴルへとんぼ返り。その理由というのも、モンゴル巡業の当初から滞在延長の希望を出していた横綱だったが、サッカーにまつわるイヤな勘が働いたのか、大島巡業部長は却下。そこで、「だったらいいや」とばかりにUターンしたというわけだ。ちなみに、滞在延長が認められなかったのは巡業部が一力士の別行動を認めていないためだったが、高砂親方の許可は降りていたらしいです。

8月31日（日）
やくみつる、ポニーテール写真に苦言！「横綱が力士たる姿で写っていない！」

これまた意外なところから悪魔のボール投入か!? 9月に出版される写真集『横綱 朝青龍』（ゴマブックス）の中に、まげをほどいたポニーテール姿の写真があるのを発見した漫画家（相撲協会の外部有識者委員でもある）やくみつるが苦言。「横綱が力士たる姿で写っていない！」と指摘したのだ。しかし、その苦言を聞きつけた撮影者の野村誠一は「この写真は、横綱の両親が生まれ育った湖と、その周辺で撮影したもの」と文書で反論だ。しかし、まげを下ろしただけで〝注意〟を受けるのは、まさに国民的ヒールのSADAMEなのだろうか。それにしても、あまりにも禁止事項が多すぎる相撲界を前に、モンゴルが恋しくなる横綱の気持ちもわからなくもないが。とにかく、朝青龍問題はまだまだ幕が降りそうもないことだけは確かなようである。

kamipro SHOPPING

Back Number

[kamipre特選劇場]

“特集主義”化へリニューアル! 第1弾は「アメリカ大特集」!!



No.126 所ジョージ×所英男対談

リニューアルした前号では「アメリカ」と「世間」をテーマに掲げ、80ページブチ抜きで大特集を敢行! その表紙&巻頭を飾ったのはダブル所対談! 所ジョージさんが仕事場兼遊び場である世田谷ベースで所英男にアメリカン・ライフの楽しみ方をズバリ伝授!!



マサ斎藤×武藤敬司対談

さらに“アメリカでトップになった日本人”対談としてマサ斎藤と武藤敬司の対談も実現! サングラスのマサさんがハンバーガーにかぶりつく扉ページがナイスなこの企画では、腕一本でアメリカを生き抜いてきた男たちのシビれる自慢話が満載! 必読だって!

そうです!! 本誌怒濤の大リニューアル

第1弾はアメリカ特集!! いますぐ読めって!!



(注) **No.92** 以降の「Kamipro」は
http://www.enterbrain.co.jp
でお買い求めください。

kamiproがリニューアル!!

元祖! 紙のプロレス Back Number すべて50%OFF!!

No.14 ~~780yen~~⇨390yen
特集 **神秘とは何か?**
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます!/遠藤幸吉インタビュー

No.15 ~~780yen~~⇨390yen
特集 **インディペンデントの逆襲**
あんた誰? 山口昇試練のインディー・レスラー10番勝負!/K-1とは何か? 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ

No.17 ~~780yen~~⇨390yen
特集 **実況パワフル北朝鮮**
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる! アントニオ猪木&長島勝司・村松友視・破壊王・ブル中野

パンクラス公式読本「矛」「盾」 ~~1260yen~~⇨630yen
97年当時のパンクラシストが勢ぞろい!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!!

紙のプロレス RADICAL Back Number No.16➡No.87

「紙のプロレスRADICAL」のバックナンバーは電話で注文できます!
03-5368-1797 [販売元] ㈱ダブルクロス (平日13:00〜19:00)

No.16 1999.03 | 780yen
格闘ノストラダムス!
[表紙:前田日明]前田道場新エース・金原弘光/怪物か!? それとも……藤田和之座談会/壮絶なる格闘人生・藤原敏男

No.32 2000.10 | 840yen
“新”プロレスとは何か?
[表紙:小川直也]田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ/ドラゴンの大爆笑10 藤波語録/ラッシャー木村

No.34 2001.01 | 840yen
『猪木祭り』いよいよ開幕ーッ!
[表紙:小川直也]田村潔司に快勝! ノゲイラインタビュー/ドラゴンの大爆笑10 藤波語録/ボブ&オバチャンチン

No.35 2001.02 | 840yen
純プロレスを徹底検証!
[表紙:サクマシン(イラスト)]ZERO-ONE本格始動 橋本真也/プロレススーパースター列伝 ジョー樋口/杉浦貴

No.36 2001.02 | 840yen
燃えよ、闘魂の火種!!
[表紙:橋本真也(イラスト)]ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!/ヴォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言

No.38 2001.05 | 840yen
小川直也は是か非か?
[表紙:髙田延彦(イラスト)]忘れ物の正体は。髙田延彦/ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル

No.39 2001.06 | 840yen
前田日明は是か非か?
[表紙:前田日明]前田道場新エース・金原弘光/怪物か!? それとも……藤田和之座談会/壮絶なる格闘人生・藤原敏男

No.40 2001.07 | 880yen
地上最強のプロレスとは?
[表紙:アントニオ猪木]蘇れ! Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光/熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎

No.41 2001.08 | 880yen
“最後の黒船”WWF来襲!!
[表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア]リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る/真樹日佐夫×三池崇史

No.42 2001.09 | 880yen
アントンパワー大爆発!!
[表紙:アントニオ猪木]ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談/“ヒャッホーの真実”辻よしなり/高山×宮戸×金原

No.43 2001.10 | 880yen
聖戦『PRIDE.17』迫る!!
[表紙:桜庭和志]ブラジリアン・トップチーム3大柱インタビュー/金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

No.44 20001.11 | 880yen
サク連敗と『PRIDE』の未来
[表紙:桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ]その修羅場の数々! シーザー武志/怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴

No.45 2001.12 | 880yen
一寸先はハプニング!!
[表紙:アントニオ猪木(ホームレス姿)]悪魔の書、現る! ミスター高橋/ジェラルド・ゴルドー人生相談

No.47 2002.02 | 880yen
WWE日本侵攻、5秒前!
[表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア]“天才”武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!/噂の馳浩がミスター高橋本を語る!

No.48 2002.03 | 880yen
桜庭、満開の日は近い!
[表紙:桜庭和志]奇跡のメガトン対談! 小川直也vsノゲイラ&スペーヒー/和田最強伝説が遂に現実に! 金原弘光

No.49 2002.04 | 880yen
究極の格闘技大戦争勃発!
[表紙:ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭]和田さん快勝記念鼎談! 高山&金原&和田/菊田早苗とは何者か!?

No.50 2002.05 | 880yen
50号記念企画てんこ盛り号
[表紙:桜庭和志]「地方発世界」開始! 小川&橋本/リングスロシア軍団の軌跡/パンクラス取材解禁!

No.51 2002.06 | 880yen
揺るぎなきプロレスの確立
[表紙:橋本真也]両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也/『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子/武藤敬司人生相談

No.52 2002.07 | 880yen
戦慄の『LEGEND』前夜!!
[表紙:橋本真也、小川直也]全身プロレスラー・高山善廣/USAの渡世人ドン・フライ/ロシアン・トップチーム

No.53 2002.08 | 880yen
『Dynamite!』ド直前号!
[表紙:桜庭和志]ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×箕輪輪育久/独占肉弾スクープ! マック・ガファリ

No.54 2002.09 | 880yen
『Dynamite!』を大総括!
[表紙:アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ]“首の皮一枚”ホイス&エリオグレイシー/ジョシュ・バーネット

No.55 2002.10 | 880yen
髙田vs田村、夢限大の真剣勝負!
[表紙:髙田延彦]「真剣勝負」発言から7年、田村潔司が激白!/金原が『PRIDE』参戦!/メガトン級の男、ボブ・サップ!

No.57 2002.11 | 840yen
驚ガクの6周年記念号
[表紙:高山善廣]サップとタイマン勝負!! 高山善廣/新たなる“U”が始動!! 田村/ミスター高橋×大槻ケンヂ

No.58 2003.01 | 880yen
夢の対談、大連発号!
[表紙:武藤敬司&船木誠勝]夢幻のファンタジー対談 武藤×船木/Uスタイル対談 田村×髙阪/宮戸×安生×鈴木健

No.59 1999.03 | 840yen
最後の皇帝、『PRIDE』上陸
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル]いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル/アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス

No.60 2003.02 | 880yen
『PRIDE』は変貌&再生する!
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル]ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル/驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気

No.61 2003.04 | 880yen
ゼロワンvs新日5.2戦争!
[表紙:橋本真也&小川直也]裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也/1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン

No.62 2003.05 | 880yen
ミルコの首をカッ斬ってみろ!
[表紙ミルコ・クロコップ]ヴァーと登場! 佐々木健介/現役復帰? 船木誠勝/ヒョードルが藤田を一刀両断!

No.63 2003.06 | 880yen
マット界、超絶リボーン!!
[表紙:橋本真也&小川直也(イラスト)]「お前は男だ」劇場炸裂! 髙田延彦/『PRIDE』REBORNを大総括!!

No.64 2003.07 | 900yen
PRIDEミドル級GP直前!!
[表紙:桜庭和志]“異次元格闘技戦戦”田村潔司×吉田秀彦を大展望!!/『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー

No.65 2003.08 | 880yen
皇帝vsミルコ闘争本能決定戦!
[表紙:ミルコ・クロコップ]最後の皇帝大炎上! ヒョードル/ミルコついに皇帝戦へ/闘魂ストーカー、イズマイウ

No.66 2003.09 | 880yen
ミルコ『武士道』電撃出陣!
[表紙:ミルコ・クロコップ]ミルコ緊急インタビュー/マッハを破った男、長南亮登場!/『東スポとは何か?』

No.67 2003.10 | 880yen
ミルコvsノゲイラ、迫る!!
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ]ノゲイラ戦緊急インタビュー! ミルコ/『PRIDEミドル級GP』決勝戦インタビュー

No.68 2003.11 | 880yen
大晦日・格闘技大戦決定!!
[表紙:髙田延彦PRIDE統括本部長]大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 髙田延彦/曙とは何者か!?/桜庭和志

No.69 2003.12 | 900yen
『ハッスル1』開催ド直前!
[表紙:橋本&小川]出てこい! 泣き虫! 橋本&小川/『泣き虫』著者、金子達仁登場!/田村潔司/美濃輪育久

No.70 2004.01 | 880yen
04年末の格闘戦争を大総括!
[表紙:ミルコ・クロコップ]シウバに近藤有己が宣戦布告!/健介&北斗WJの真実を語る!/紙プロ大賞&語録発表

No.71 2004.02 | 880yen
『ハッスル2』で大フィーバー!
[表紙:ハッスルイラスト]『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ/川田利明初登場!/猪木vsアミン戦の真実

No.72 2004.03 | 840yen
『PRIDE』に格闘ロマンを見よ!
[表紙:ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ]GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル/山本KID徳郁

No.73 2004.04 | 880yen
最も過酷な道を行く男!!
[表紙:小川直也]GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也/PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド

No.74 2004.05 | 880yen
感じろ、ハッスル魂!!
[表紙:小川直也]PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也/リベンジロード発進!! 桜庭和志/ミック・フォーリー

No.75 2004.06 | 880yen
英雄誕生の気運高まる!!
[表紙:小川直也、桜庭和志、吉田秀彦]シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也/奇蹟の独占インタビュー! 髙田総統

No.76 2004.07 | 880yen
プロレス爆発へ最後の挑戦!
[表紙:桜庭和志]小川の“盟友”と“宿敵”が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ/厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志

No.77 2004.08 | 880yen
小川vsヒョードル決定!!
[表紙:小川直也]「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也/狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ

No.78 2004.09 | 840yen
PRIDE GP徹底総括号
[表紙:小川直也]衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也/小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦/谷川貞治

No.79 2004.09 | 840yen
髙田総統がビターンと降臨
[表紙:髙田総統]キャプテンに休息無し! 小川直也/特別付録・髙田総統ポスター/谷川さんも推薦『曙は是か否か?』

No.80 2004.10 | 880yen
守護神ミルコが外敵狩り!
[表紙:ミルコ・クロコップ]ミルコ独占インタビュー/ハッスルお家騒動、小川直也/「袋とじ企画」グリズリー岩本

No.81 2004.10 | 880yen
究極のSADAME、迫る!!
[表紙:桜庭和志]ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ/新日本でハッスル成功! 小川直也/草野仁

No.83 2005.01 | 880yen
ミルコ激白! 打倒皇帝!
[表紙:ミルコ・クロコップ]04年『PRIDE男祭り』を大総括/05年ハッスル大進撃発表! 小川直也/橋本×船木対談

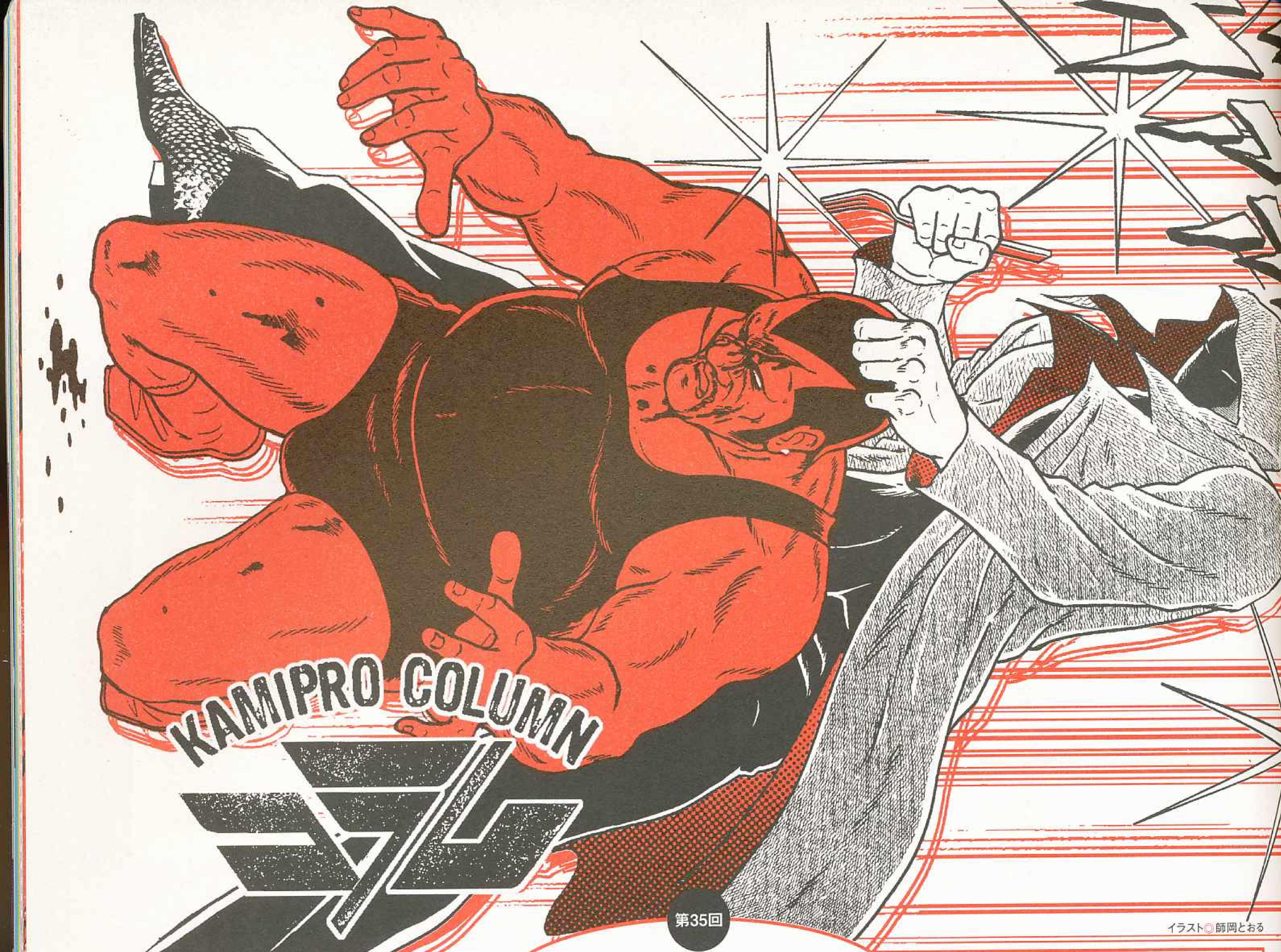
No.84 2005.02 | 880yen
RTTが皇帝に宣戦布告!!
[表紙:セルゲイ・ハリトーノフ]“殺人落下傘”が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ/田村潔司がPRIDE GPを語る

No.85 2005.04 | 860yen
『PRIDE』vs『HERO'S』開戦!
[表紙:前田日明&髙田総統]PRIDE GP2005特集 桜庭、田村、髙田/パンクラス2大王者対談 髙坂剛×近藤有己

No.86 2005.04 | 860yen
PRIDE GP直前大解剖号
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ]大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司/ダンプ松本が全女解散を語る!!

No.87 2005.05 | 860yen
PRIDE GP開幕&大総括!
[表紙:吉田秀彦]敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦/船木誠勝×宇野薫/金原弘光×池田大輔

通販方法 No.91までのバックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。❶「kamipro Hand」で注文 ❷電話注文⇨03-5368-1797 ❸メール注文⇨kapra@kamipro.com
※通信方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です(代引き金額によって異なります)。※送料は一律500円(何冊でも可。離島山間部は除く)となります。※郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。



イラスト◎師岡とおる

最近、グッときた試合など

花くまゆうさく リングの汁

8月もっともグッときた試合は、DEEPのセミ（MIKU vs瀧本）とメイン（今成vs梅村）。MIKUのミドルキックのフィニッシュが美しく衝撃的でグッときた。

その前のハイキックで顔がスローにのけぞったのも、いい画だったね。サムライTV、『格闘ジャングル』の『MIKU通信』終了は残念。次の通信は誰だろうか？ 村田くんのボンクラ通信でもやってほしいけど。

メインの十段も、ひさびさに十段らしい衝撃試合でうれしい。DREAMでも衝撃的に極めてほしいね。KIDを極めたら、みんな気持ちよくて昇天しちゃうよ。でも、KIDは十段とはやらなそうな気がする。笹原Pとか頑張ってほしい。

『戦極』はPPVで観た。第一試合から勝った人がマイクしてるので、全試合マイクするのかと思うと、観るテンションが下がってくる。そしてピーター・グラハムでどんどん観る気が下がってくる。ナツラが足関やろうとしたので、オッと思い、ライト級トーナメントで観る気が戻ってきた。北岡くんの異様な入場がインパクトありすぎ。パンクラスで身につけたのは、これなのだろうか。

鈴木と船木の入場芸を受け継ぎ、異常なかたちで進化させてしまっている。今回は、観る者全員をあぜんとさせてしまったが、これで免疫ついたので次回は凄いウケるんじゃないかな。まゆ毛を八の字に寄せるのも、ザ・ロック様の片まゆつり上げフェイスのように、ここぞというときの決めフェイスになってウケるのではないか？

残った日本人でvs五味戦が一番おもしろそうなのは、北岡選手なので勝ち上がってほしい。リザーバーは、ハン・スーファンvsライアン・シュルツか、ホドリゴ・ダムでお願いしたい。

なぜか、いつも『戦極』と大会日がバッティングしてしまうZSTでは、スーパー高校生コンビ・山田選手&横山選手が活躍中。グラップリングの横山選手は相手がいなそうだが、こないだGiグラップリングで活躍していたコブラ会の犬伏選手が体重近いし、足関得意だし（数年前、私もヒールでやられちゃった）、ピッタシの相手じゃないでしょうか、ZST上原さん。

そのGiグラップリングを、オール一本勝ちで連覇した中村K太郎くん、あいかわらず強いね～。来年アブダビ出てほしい。総合復帰もするようなので、70キロ級の日本人と片っぱしからやってほしいなぁ。





Hanakuma Yusaku
◎来月休みます。

金ちゃんのどこまでやるの？

●第27回● 富士登山と前田さんのスイカの巻

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/


イラスト◎中川画伯

今年の夏休みは富士山に登ってきました。

これまで登山なんか、そんなにしたことなかったし、富士山に登るのも初めてだったんだけど、急に登りたくなっちゃってさ。けっこう軽い気持ちで登ったんだけど、これが予想をはるかに上回るキツさだったよ！

まず、山の上のほうは、とにかく寒いのよ。麓はもの凄く暑かったからさ、寒いっていっても〝秋の装い〟で充分かと思ってたら、もう真冬みたいなもんなんだよ。しかも、途中で雨まで降っちゃってさ、また雨具もそんなに持ってきてなかったから、服もビショビショに濡れて、ホント寒くてたまらなかったよ。風邪をひかなかったのが奇跡みたいなもんだよね。まあ、事前の準備不足と言ってしまえばそれまでなんだけどね（笑）。

でも、ホントにつらくて、一日目は八合目の山小屋で泊まったっていうか、仮眠したんだけど、そのまま下山しようかと思ったぐらいだからね。八合目からでもご来光は充分見えるし。

でも、やっぱりここまで来たら、頂上まで行かなきゃダメかな、と思って真夜中に頂上に向けて登り始めたんだけどね。頂上でご来光を見るためには、もちろん真っ暗な深夜に八合目を出発するんだけど、星空が凄くきれいだったよ。ただ、あまりにも人が多くてね。人の渋滞みたいなのができるんだよ。富士登山って7月から9月中旬しかできないから、ただでさえ登山客が集中してるのに、みんな頂上のご来光を見ようとするわけだからね。

そんなわけで、頂上でご来光も拝むことができたし、キツかったけど、いい経験になったよ。人生の大変さを教えてもらったみたいな感じでね（笑）。

そんなキツい富士登山をしながらさ、俺はUインター時代に垣原（賢人）さんに聞いた、前田さんの話を思い出してたんだよ。

前田さんは富士山登るのが大好きで、新生UWFの頃、夏になると毎年、新弟子を連れて富士登山をしてたんだって。でも、垣原さんは富士山に行くのが嫌で嫌で仕方がなかったらしいんだよ。なぜかというと、新弟子だから、荷物をたくさんもたされるから。

しかも、登山に必要な荷物ならいいけど「頂上でスイカ食いたいから、スイカ持っていけ」って言われて、スイカ2個持って富士山登るハメになったんだって（笑）。富士山登るのに、両手がスイカでふさがってたら、これは大変だよ。途中で崖みたいなところもあるからさ、手を使わないと登れないところもあるんだよね。そこをスイカ二つ持って上がるわけでしょ？

それで前田さんは荷物が少ないからスイスイ登ってね「おまえら早く登ってこい！」とか言われて、それがどんなキツい練習よりキツかったって。

しかも、そんなに苦労して頂上までスイカを持っていったのに、頂上に着いたら寒いからさ、前田さん、せっかく苦労して持ってきたスイカ全然食わないんだって（笑）。ホントは頂上まで行ったらスイカ食って、下りは荷物が少なくなって下山できるはずだったんだけど、結局、帰りもスイカで両手ふさがったまま下りるハメになったんだよ（笑）。

こういう話はUインターの新人時代に、垣原さんから何度も聞かされたよ。「いまは練習生としてつらいだろうけど、Uインターはまだいいほうだよ。前田さんと船木さんがいた新生UWFの練習生はホントに大変だったんだから」ってね（笑）

追伸◎10・1パンクラス後楽園ホール大会で、金井一朗選手と対戦することになりました。応援よろしくお願いします！

DDT外伝 by高木三四郎社長 リングを捨て町へ出よう!?

大森さんとアックスボンバーズの思い出 第4回

8月末に発表されたZERO1・MAXの大森隆男選手が「一身上の都合でプロレスを休業」とのニュースは俺様にとって非常にショックな出来事だった。

キャリアは大森さんのほうが全然上だけど、学年は俺様と同じなのだ。まだまだできるはずなのに「なぜ？」。同年代の俺様にとっても現状のプロレス界と関連して、いろいろと考えさせられるニュースだった。

大森さんとは、一見、まったく接点がなさそうなんだけど、じつは05年から約半年間続いた「アックスボンバーズ」というZERO1・MAXさんの企画に俺様も絡んでいたので共通点があるのだ。

アックスボンバーズとはZERO1さんの新木場大会限定の企画で大森さんが若手選手の育成になればと各インディー団体に声をかけて結成した団体を越えたユニットなのである。メンバーは木高イサミ（当時isami／ユニオンプロレス）、宮本裕向（666）、田村和宏（STYLE-E）、726（ユニオンプロレス）の4人で、彼らを『スクールウォーズ』の山下真司ばりに、大森さんが毎回ビシビシと熱血指導するといった内容だった。

正直言って最初は大森さんがどこまでやってくれるのかかなり疑問だった。いまではそこそこインディーシーンで活躍している4人だが、この頃は技量的にも肉体的にも新人に毛が生えたような感じだったし、世間的には誰からも知られていないような存在だった。彼らを見たらメジャー出身の大森さんは怒り出すか相手にしないかのどちらかではないかと心配してたのだが、それは杞憂だった。

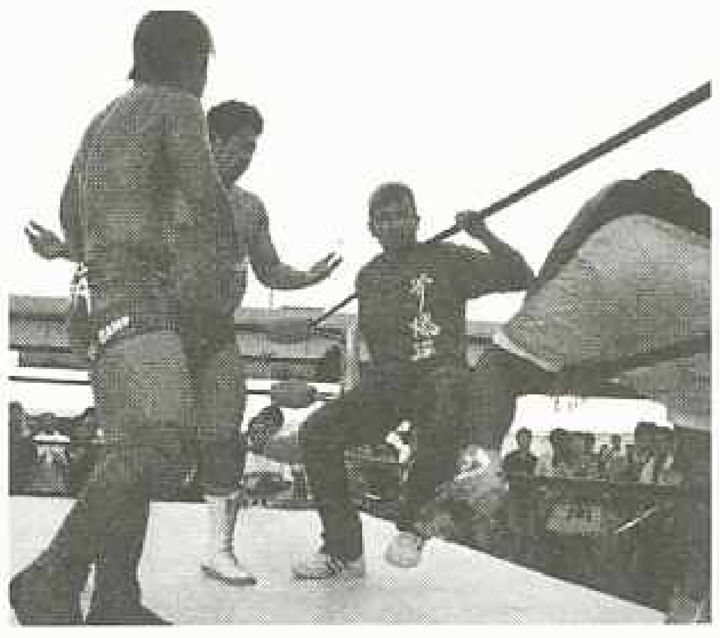
初戦で組まれた試合でアックスボンバーズの面々に気合いが入ってないということで、試合後は「俺がこれからおまえらをドンドン鍛えて強くしてやる！」と4人に張り手を食らわせ、最後はみんなで円陣を組んで団結を誓い合った大森さん率いるアックスボンバーズ。

その後、大森さんが先頭に立ってアックスボンバーズ全員で合同練習をしていただいたことがあったのだが、大森さんはそこでも決して怒ることなく、本当に山下真司演じる滝沢先生ばりの熱血感あふれる指導で彼らと一緒になって、黙々と練習をやっていたのだった。

またこういうこともあった。大森さんが「俺たちはプロレスラーだけど事務所で事務作業をやっているスタッフの気持ちも知らなくてはダメだ」と、街角でのビラ撒きを提言したのだ。そのときも大森さんはアックスボンバーズの誰よりも率先して通りすがりの人々にビラを撒いていた。

こういった積み重ねに最初は興行の企画で集められたという意識しかなかった4人や俺様も心から大森さんに傾倒していったのだった。

今回、一身上の都合でプロレス界からいったん離れるという大森さんだけど、また必ず戻ってきてくれると俺様は信じている。そのときにはアックスボンバーズの続編をまた一緒にやりましょう！　必ず戻ってきてください、大森さん！


08.8.30PREMIUM後楽園大会での蝶野正洋戦でプロレスラーとしての活動を一時休業することになった大森さん。"一身上の都合"をクリアし、復活のときを待ってます！

Sanshiro Takagi ◎DDTプロレスリングの社長兼レスラー。1970年1月13日、大阪府出身。趣味は高級時計収集。更新頻度もかなり多めで好評の高木三四郎の「新宿御苑ではたらく社長レスラーのブログ」アドレスは→http://blog.livedoor.jp/t346/

Booker K ◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

ブッカーKの ぶっかけ! 格闘裏情報

第33回

私だけが知っている

ある大物プロレスラーの幻のMMA参戦

9・28『戦極～第五陣～』に、ノアのプロレスラー杉浦貴選手がいざ参戦、柔術世界王者のシャンジ・ヒベイロと対戦します。プロレスラーのMMA参戦は、いつの時代もファンに話題を振りまいてきました。今回のコラムでは、幻に終わったプロレスラーのMMA参戦秘話を明かしましょう。

私がコンタクトしたプロレスラーの中で、一番の大物と呼べるのは〝マッチョマン〟ランディ・サベージです。「オー、イエー‼」の雄叫びでおなじみのサベージといえば、ハルク・ホーガンに匹敵するアメリカンプロレスの象徴で、ブロック・レスナーが裸足で逃げ出す重鎮の中の重鎮。なぜそんなプロレスラーがMMAに？

あれは『PRIDE・GP2000』の頃の話です。サベージの弟で、WWEでも活躍していたラニー・ポッフォというプロレスラーがいます。彼にサベージのカッコでPRIDEに出ないかという話を父親で元プロレスラーのアンジェロ・ポッフォを通してしました。

その後、ちょうどWWEと契約が切れたサベージ本人が「MMAに興味を持っている」という噂をキャッチしました。

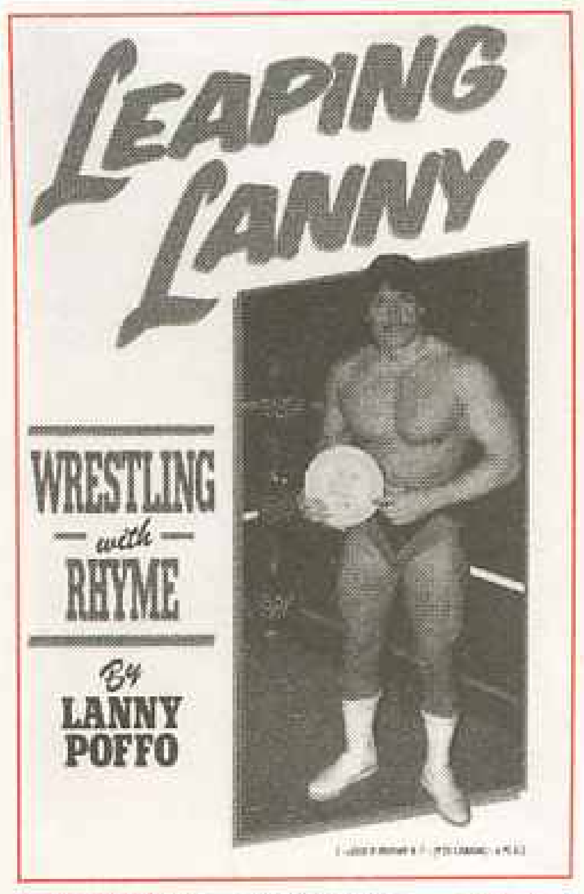
そのうちになんとかサベージと交渉することに成功。ところが、サベージ本人は「いまは確かにどことも契約はしてないが、MMAにチャレンジする必要はない。いずれほかにジョブが見つかるはずだ」という返答。あっけなくご破算。もし実現していたら、アメリカを巻き込んで大騒ぎになっていたでしょう。

もっと早くMMAというジャンルが認知されていたかもしれません。サベージのテーマ曲『威風堂々』をPRIDEのリングで聴きたかったですね。

また、WCWを辞めた直後のビッグショーに話をしてもらっていたら、WWEと契約してしまって断念。

そしてハードコアの天才レスラー、サブゥーです。サブミッションスタイルに興味を持っていた彼は、「ぜひ一度MMAにチャレンジしてみたい」と話をしていて、契約にも合意していたんです。ところが！ サブゥーがその当時参戦していた伝説のハードコア団体ECWのボス、ポールEがストップをかけてきて、こちらもご破算。ポールEの介入がなければ、PRIDEにやってきたことでしょう。

サブゥーにはのちにUスタイルの参戦についても話してみたことがあります。病気やケガなどでスムーズに話は進みませんでしたが、さすがサブゥーの魔法の絨毯、現実にならずとも、ひとときの夢を見せてくれたのでした。



こちらはサベージの弟ラニー・ポッフォの自伝の表紙だ。裏表紙はポッフォがシングルマッチで勝利（リングアウト勝ち）を挙げたことがあるホーガンのイラスト。ニセサベージでもいいからPRIDE参戦が見たかった!

---

kamipro Handで好評連載中!

ニュース特選!★kamiの

1週間

傑作編

8.31 全日本夏の大一番、両国大会で何が起こった!?

（9.2更新分より）

『kamipro Hand』で毎週火曜日更新の人気連載「ニュース特選! Kamiの1週間」。このコーナーでは、プロレス&格闘技好きなカントリーロックバンド「アニーラッズ」のボーカルの松さんとギターの竹内さんが、1週間のマット界で起こった気になる出来事を語りまくり! 興味を持った方は『kamipro Hand』にレッツ・加入!!

IWGP王座奪回失敗で、菅林社長が辞意表明!?

松 今週は全日本プロレス夏の大一番、8・31両国国技館大会があった。

竹内 やっぱり全日本、夏の目玉といえばミル・マスカラス!

松 来てないよ! 全日本の夏＝マスカラスって、いつの話をしてるんだよ!

竹内 あれ～、『Gリング』とか『Gスピリッツ』にマスカラスがやたら載ってるから、てっきり夏のビッグマッチの煽りかと思ってたのに。

松 『Gリング』と『Gスピリッツ』にマスカラスが載ってるのはいつものことだよ! なぜ、毎回載ってるのか知らないけど。

竹内 あ、そう。じゃあ、今大会の目玉ってなんだったの?

松 おまえ、そんなことも知らないのかよ? 武藤敬司がG1王者・後藤洋央紀を迎え撃つIWGPヘビー級と、諏訪魔が太陽ケアの挑戦を受ける三冠ヘビー級の豪華2大タイトルマッチだよ。

竹内 しかし、客入りは7割の入りでした。

松 よく知ってんじゃねえか! そういうことを言うのはやめろ!

竹内 IWGP戦は武藤が奥の手ムーンサルトプレスで後藤を返り討ちにしたんだろ?

松 そう。G1王者を擁しながら王座奪回できなかった新日本の菅林社長は『東スポ』紙上で、辞意をほのめかした。

竹内 いつも自慰をほのめかしてるのはターザン山本!

松 やかましい!

竹内 新社長には安生洋二が就任の意向。

松 なんでだよ! 石川敬士がやってた東京プロレスじゃないんだから!

竹内 新社長が一言「全権は奪ったが、借金までは面倒みきれねえ」。

松 それはNOWの社長になったときの上田馬之助! ていうか、ボケがいちいち古いんだよ!

竹内 この混迷の新日本プロレスを救うのは、藤波辰爾社長再就任しかないな。

松 間違いなく混迷極まるだろ! 菅林社長にはこれからも頑張ってほしいよ。

三冠フルタイム防衛! 諏訪魔はジャンボになれるか?

松 8・31全日本両国大会のメイン、諏訪魔vs太陽ケアは熱戦の末、なんと60分フルタイムのドローだった。

竹内 諏訪魔、ケア、二人ともよく頑張ったけど、観客も頑張ったよな。

松 60分フルタイムを観戦するには、観客も体力使うよ。

竹内 途中からは諏訪魔ならぬ、睡魔との闘いだからな。

松 やかましい! 寝てる暇なんかないよ!

竹内 あのフルタイムの熱戦は、キン肉大王vs委員長戦を彷彿とさせる名勝負だ。

松 たとえ方が間違ってるよ! フルタイム防衛は、〝ジャンボ鶴田二世〟諏訪魔の面目躍如だ。

竹内 あとは、場外でのピクピク痙攣を身につけるだけだな。

松 そんなところはマネしなくていいんだよ! いいかげんにしろ!!

"男の憧れ"マサ斉藤の

GO FOR BROKE! 獄門記

No.1 Commentator MASA RU-CHA 第5回

4年に一度、悔しさがよみがえる東京オリンピックの思い出

——今回は北京オリンピックが終わったばかりということで、マサさんがレスリング日本代表として出場した東京オリンピックのお話をうかがいたいんですよ。

マサ 東京オリンピック？ もう40何年前の話だから忘れちゃったよ。あんまいい思い出ないしなあ。

——やはりメダルが獲れなかったというのは、いまでも悔しいですか？

マサ 悔しいねえ。オリンピックが開催されるたびに、4年に一回、悔しさを思い出すよ。それはしょうがない。

——それだけオリンピックというのは、大きな出来事だったんでしょうね。

マサ 当時はオリンピックが開催される何年も前から、大騒ぎしてたからな。もう東京オリンピック開催中なんて、日本中がオリンピック一色よ。いまは、もうそんなことないでしょ？

——開催期間中、盛り上がりはしますけど、当時とは全然違うんでしょうね。

マサ 違うね。

——レスリング界自体も、当時といったら、伝説的な厳しさがあったんじゃないですか？

マサ 練習は厳しかったね。しかも練習内容が全部、軽量級用のメニューなんだよな。それじゃ、俺たちヘビー級は身体がもたないよ。走る距離も軽量級と同じだし、懸垂なんかも軽量級と同じだけやらせたからね。キツいに決まってんじゃん。

——そりゃそうですよね。体重が倍ぐらい違うんだから（笑）。マサさんは、東京オリンピック前の国際大会でも活躍されてたんですか？

マサ そうだね。そんなに活躍はしてないけど、海外遠征には行ってるよ。ブルガリアのソフィアっていうところで世界選手権があって、そこに出た。その前にはソ連、バルカン半島にも行ったよ。

——当時、共産圏に行くなんて、そういったスポーツの遠征でもないかぎり、考えられない時代ですよね。

マサ そうだね。だからソ連に行くのも、当時、横浜港から船でナホトカに行って、ナホトカから汽車でハバロフスクまで行って、そこから飛行機でモスクワに行ってたからね。

——もの凄い遠回りですね！

マサ それで40日間遠征して、クタクタになって日本に帰る途中、ナホトカから船に乗るとき、監督に「おまえらたるんでる」って言われて、揺れる船の中でトレーニングやらされたよ。そんなところでトレーニングしてもなんの意味もないよ。



東京オリンピック、レスリング日本代表選手団の集合写真。前列左端がマサさんだ。自分がメダルを首から下げていないので、悔しい写真だという。

——40日間遠征のラストが船の上でトレーニングって、とんでもない世界ですね（笑）。遠征中、食事とか大丈夫だったんですか？

マサ よく聞いてくれたよ（笑）。

——よく聞いてくれたですか（笑）。

マサ 黒パンにはまいったよ。あと水も飲めないからさ、ミネラルウォーター飲んだんだけど、これがまずいんだよ。こんなまずいもんよく飲めるな、と思って。遠征中でも軽量級は減量があるから、メシが食えないわけよ。そのぶん重量級にくるんだけど、メシがまずくてまいったな。

——当時の減量っていうのは、とにかく「食べない」っていう減量だったんですね。

マサ 当時は水も飲ましてくんなかったよ。いま考えたらバカみたいな話だろ？

——いまは減量中は、とにかく水を飲んで代謝をよくしろっていうのがあたりまえですもんね。でも、当時は逆だった、と。

マサ 水を飲んでいいのは、メシ食うときに、小さなコップ一杯だけだよ。それがなぜか重量級もそうだったからね。負けたときなんて「おまえら、水を飲みすぎてるから負けた」とか言われてな。

——敗因が水の飲みすぎですか。そんなバカな（笑）。

マサ それで俺の大事な一杯の水をこぼしたヤツがいるんだよ。あんときは頭にきたな～（笑）。

——マサさんは、その海外遠征してたときに、向こうのレスリング関係者に「マフィア」って呼ばれてたっていうのは本当なんですか？

マサ そうそう。

——本当でしたか（笑）。

マサ 向こうで対抗戦やったとき、頭と頭がぶつかって、額から血が流れてきたのよ。それでもガンガンやって、相手を場外にぶん投げたら「マフィア」って呼ばれるようになってた（笑）。

——アマ時代から流血戦でしたか（笑）。そういった海外経験豊富なマサさんでも、オリンピックは特別でしたか？

マサ 違うね。緊張感が桁違いだよ。それにやっぱり、オリンピックの重量級では、身体が大きくて化け物みたいなのがゴロゴロいたからね。俺が最初にやったヤツは、スウェーデンの選手で130キロ近くあったからね。こっちは97キロぐらいなのに。

——それでも、対格差をはねのけて、メダル候補だったスウェーデンの選手と引き分けたんですよね？

マサ そうだね。

——そして次がイギリスの選手とやって……。

マサ あんま思い出したくないよ。

——やはり、思い出したくありませんか。

マサ ポイントでリードしてたから「いける！」と思ったんだけどな、脇を差したとき巻き込まれてフォールされたんだよ。相手がそういう技を持ってるとか、当時の日本のコーチはデータを持ってなかったんだよな。オリンピックで勝つのには、やっぱりそういったデータが必要よ。

——試合では悔しい思いが残った東京オリンピックでしたけど、試合以外ではいい思い出はないですか？

マサ どうだろうなあ。

——開会式や閉会式なんかは誇らしかったんじゃないですか？

マサ 閉会式はね、しょんべんも行けないし、大変だったよ。

——しょんべんも行けない（笑）。

マサ 我慢できなくて、グラウンドで立ち小便してるヤツもいたからな。

——グラウンドで立ち小便！ それって何万人の観客がいる前でですか!?

マサ そうよ。競技場のライトが消えて、暗くなるときがあるんだけど、そのスキに、シャーっと立ち小便してんだよ。ありゃマズいよな（笑）。

——まずいですよ。いまならデジタルハイビジョンの鮮明な画像で、全世界に流れてますよ（笑）。

マサ そうだよな（笑）。

——では、立ちションネタで終わるのもなんですが（笑）、今回はこのへんで。また引き続きオリンピックの話を聞かせてください！

Masa Saito◎60年代末～80年代前半、アメリカン・プロレス黄金期を腕一本で渡り歩いたプロレスラー の中のプロレスラーにして、男の中の男。カルピスが大好きだが、いまは甘いものを控えている。

椎名基樹のサムライ三昧

第30回

プロレス界のおもしろ特訓



健介一家に健介オフィスの若手、さらにはノアで中嶋とタッグを結成した飯伏も参加した今回の夏合宿。その成果もあり(?)見事GHC王座奪取!

今年の8月は後半雨ばかり続いて半分、夏を奪われてしまった。毎年夏は1年ぶん遊んで冬の家ごもりに備えるので、非常に悲しい。

それにしても、最近の天候へんじゃない? 異常気象などというと、むやみに不安を煽っているようで気が引けるが、数日間夜中にずっと雷が鳴り響き、台風が上陸したわけでもないのに、人が死ぬほどの大雨が続いたりすると、いやがおうにも憂鬱な気分になる。

そんな気分を吹き飛ばすように、夏全開のムキムキ海パン姿を披露してくれたのが健介オフィス夏合宿。サムライTVでその模様が放送された。

海に浸かり、若手を二人いっぺんにブレーンバスターで持ち上げ、水面に叩きつける健介、砂浜にその場飛びムーンサルトプレスをする（よーするに自爆）飯伏選手と、どれもこれもQBBの漫画『中学生日記』のネタになりそうな中坊ぶり。みんな笑顔全開で非常に楽しそうだ。

特訓と称して海辺で裸を披露して、なにやら楽しそうな姿をマスコミに公開するはプロレス界の（つーか『東スポ』の?）伝統。ちょっと前では、猪木、佐山、小川のおもしろ特訓を思い出す。そーゆー意味では、試合以外にも、正しくプロレスを受け継いでいる健介オフィス。

映像の最後では、偶然近くのマリーナに上げられた推定重量145キロだというカジキマグロを、対戦間近に迫ったGHC王者・森嶋選手に見立てて逆水平チョップを浴びせる健介であった。この本が出ている頃には、とっくに結果が出ているであろうが、ぜひ合宿の成果を見せてタイトルを奪取してほしい。

夏の思い出といえば、『ダイナマイト関西』というお笑い大喜利のイベントに出演した。そのイベントには、『kamipro』でもおなじみのマッスル坂井さんも出演していて、お話しさせていただく機会に恵まれた。印象に残ったのは坂井さんが「プロレスの興行を打つのに、全然お金からないですもん」と言っていたことだ。

よく新団体ができてすぐに、「興行の赤字が続き借金が億単位に」なんて話を聞くたび、「プロレスの興行はお金がかかるんだなあ」と思うと同時に、「いったい何にそんなにお金がかかるのだろう?」と思っていたので、坂井さんの言葉は興味深かった。

グレート・ニタを見て「何をやってもいいんだ」と気がついてプロレスラーになる決心をしたという坂井さん。プロレス界に新風を起こしている理由がわかったような気がした。

話が古くて恐縮だが、5月と7月に行なわれた『修斗伝承』の興行を、やっとこさ、サムライTVで観る。とくに5月の興行は桜井マッハが一本負けしたというので、ずっと気になっていた。

「あいかわらず修斗はおもしろいな」というのが率直な感想である。そして、両大会に共通していえるのが、フロントチョークが猛威をふるったということだ。

マッハ、リオン武、マモルがこの技で負けた（リオンは一本取られたわけではないが）のだが、取られ方がみんな同じだった。

打撃の実力が上だと思われる選手が、猪木×アリ状態で下になったとき、その状態をキャンセルしようと、両手をマットについて立ち上がろうとしたとき、その隙を狙われて首に飛びつかれフロントチョークを取られるというパターンだ。

あるときから総合で打撃が有効になり、タックルを切るスプロールが重視され、さらに倒されてもすぐに起き上がる戦術がトレンドになった。3選手ともその戦術どおりに「すぐ起きること」がインプットされていて、身体が反応して起き上がろうとしたときに、カウンターでフロントチョークを取られたように見えた。

もし「とにかく寝るな」の戦術がいまのように浸透していなかったら、このカウンターのフロントチョークはなかったと思う。技の裏のかき合いは、もの凄いスピードで進化していると感じる。

とくにリオン、マモルは「とにかく寝るな」の大家ともいえるシューティングジム横浜の選手。すぐに起き上がる動きが身体に染みついているに違いない。もちろん「とにかく寝るな」「絶対下になるな」は総合格闘技の一番大切なセオリーだと思うし、これからもいままでどおりにシューティングジム横浜から強い選手がバンバン出てくるだろう。

ただ、不用意に両手をついて立とうとすると、フロントチョークが飛んでくる。そのことが強く印象に残った『修斗伝承』であった。

最後に『修斗伝承』5月大会で天突頑丈選手を破って、見事、第9代世界ウェルター級王者になった中蔵隆志選手は『ダイナマイト関西』の予選大会で準決勝まで勝ち上がったと聞いた。

中蔵選手は寝技の下からの攻撃が抜群にうまく、下からがうまい選手はやはり才能を感じ、好きになってしまう。それだけでなく、先の王者を獲得した試合では、まだ相手を倒すまでの迫力・威力はないものの、打撃の才能も凄く感じた。とにかく目がよい。相手のパンチが非常によく見えていると感じる。

宇野、五味、川尻、ヨアキムと錚々たるメンツの歴代修斗ウェルター級王者と比べても遜色ないどころか、どこか不気味ともいえる異能の才を持った実力者だ。その上、ギャグセンスも高いというのだから、つくづく異能。注目だ。



修斗世界ウェルター級王者・中蔵の『ダイナマイト関西』参戦の感想は「正直スマン」ですって。ヴァー。

イナズマKの

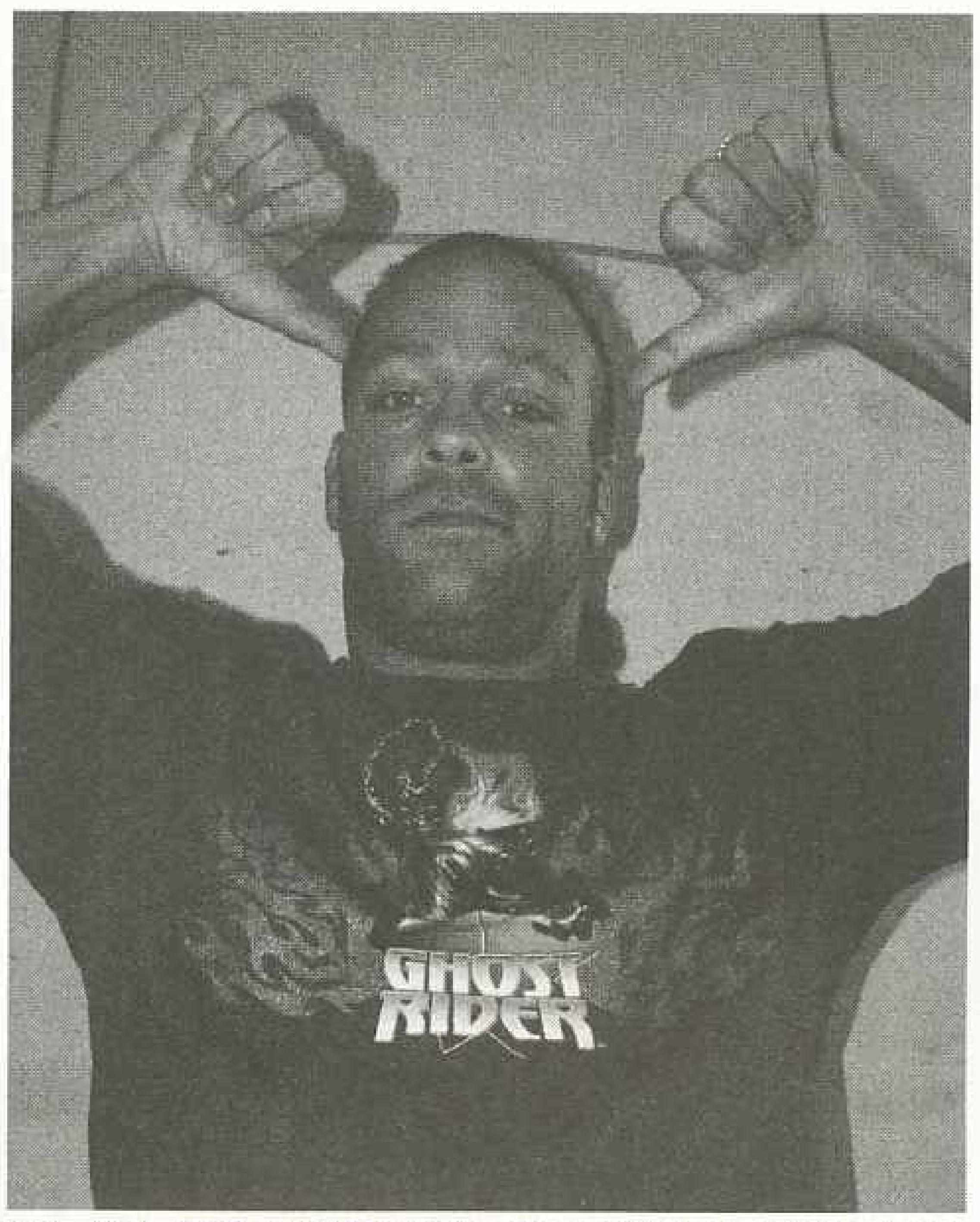
ハードコア・ドージョー SPECIAL

“オリジナル”にこだわり続けて頂点へ！

伝説のハードコア団体ECWの立役者が華麗に参上!!

ロブ・ヴァン・ダム

ついに当コーナーに元WWEスーパースターが登場、その名は“ミスター・マンデーナイト”ことロブ・ヴァン・ダム！（以下RVD）。昨年6月にWWEを退団し、レスラーとしての活動を休止していたRVDが、なんと8月のIGF両国大会に突如として参戦！　ケンドー・カシン、ネクロ・ブッチャーとの3ウェイマッチで、独特のハイフライ・ムーブを繰り出して勝利を収めた。今回は見事な健在ぶりを見せてくれたRVDに直撃！



ROB VAN DAM■1970年12月18日、ミシガン州出身。本名はロバート・ザットコウスキー。ザ・シークのコーチを受けて90年にデビュー。93年に初来日（全日本プロレス）をはたす。96年にECWと契約、そのレスリングスタイルが観客に支持され“ミスター・マンデーナイト”の異名をとり、一躍トップレスラーに。01年のECW崩壊後はWWF（現WWE）と契約、06年にはジョン・シナからWWE世界王座を奪取するなど輝かしい実績を誇る。07年6月に契約満了に伴ない更新を行なわずWWEを退団。08年8月にIGFに参戦。180cm、106kg。

ハードコア列伝1 あのIGFに参戦した真相とは!?

まずは、WWEを去る際に「燃えつきた」と語っていたRVDが、なぜIGFに参戦をはたしたのか？　「確かにWWEで疲れきったところはある。長いツアーや人間関係のトラブル、いろいろあったから契約更新する気にはなれなかった。それから半年は休んだけど、そのあいだはガンと闘病中の妻の介護をしてたんだ。それからしばらくして、スペインの団体NWEからオファーがあって、せっかくだから気分転換のつもりで参戦したんだけど、そこでは自分がプロレスを好きだってことを再確認できたよ。それ以降、NWEには何度か参戦してる。妻のこともあってフルタイムは難しいけど、信頼できるリングなら上がろうと思ってる。そんなときにタイミングよくIGFからオファーがあったってわけさ」。なんと、奥さんを看病しながら試合をしてファンを沸かせていたとは……なんとも泣かせるエピソードである。

さて、RVDはWCW～ECW～WWEとキャリアを重ねてきたが、そもそものレスラー人生の始まりは、ザ・シーク主宰のプロレススクール。RVDとシークではファイトスタイルがかなり違うが……その独特なスタイルはどのように完成したのだろう？　「シークのところを選んだのは家から近くて、金額もちょうどよくて、習うなら有名な選手がよかったからさ（笑）。自分のスタイルはもともと習っていたマーシャルアーツと、大好きな飛び技をミックスしてくうちに、いつの間にか形成された感じかな」と、RVDはその唯一無二な“RVD流”の成り立ちを語ってくれた。

ハードコア列伝2 兄弟子サブゥーの奇天烈エピソード！

師匠シークから学んだことについて聞くと、「一番印象深いのは『とにかく自分しかできない技やキャラを出して“オリジナル”になれ』ってことだね。だからオレやサブゥーみたいなアクの強い選手が生まれたんだと思う（笑）」と、イタズラっぽく笑いながら語ってくれたRVD。盟友・サブゥーとはシークのスクール時代からの付き合い。当時のエピソードを聞くと、「91年の夏頃、テネシーあたりをサブゥー含めていつも4、5人で回ってたんだ。車でけっこうな距離を移動するんだけど、用心深いサブゥーはいつも自分で運転して、他人にハンドルを渡さないんだよ。眠気に襲われても、片目をグイッと指で開きながら運転してさ（笑）。たまに寝ぼけながら運転してるから、オレが変わるよって言っても、“いま起きたから大丈夫だ”って譲らないんだぜ（笑）」と、なんとも風変わりなサブゥーらしい話が飛び出した。サブゥーはドライビングもハードコアなのであった！

さて、今回ひさびさの来日をはたしたRVDだが、その初来日は遡ること15年以上も前にあたる93年2月の全日本プロレス。当時から荒削りながらもすでに独創性あふれるムーブを繰り出していたRVD。その頃のことを「来日前にシークからいろいろ日本のスタイルを教わったんだけど、いざ来てみたらレベルの高さにビックリしたよ。アキヤマ（秋山準）、オオモリ（大森隆男）と闘うのもハードだったなぁ。でも、若い頃に日本で技術を学べたからこそ、いまの自分がいると思ってるよ」と、懐かしそうに振り返るRVD。「日本帰りは出世する」を見事なまでに体現したのはさすがの一言！

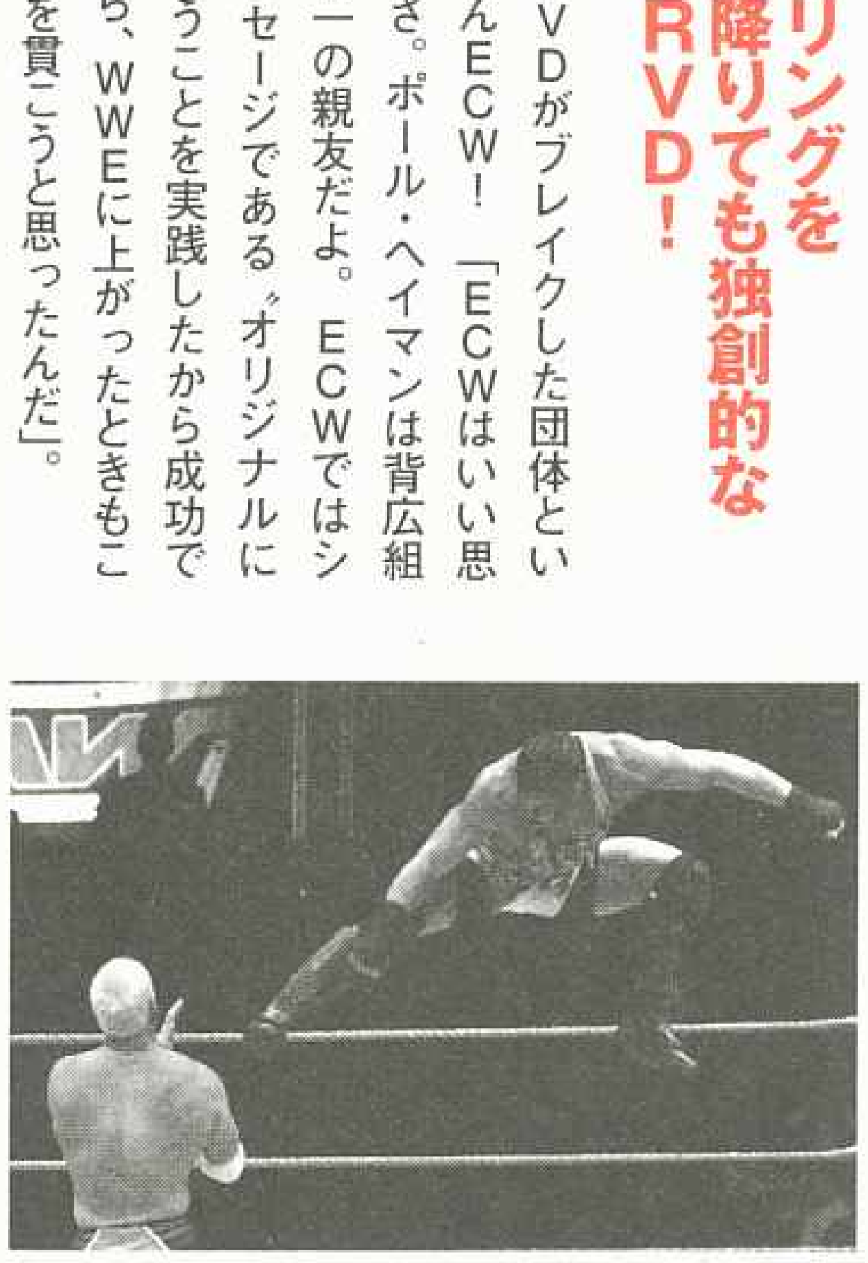
ハードコア列伝3 リングを降りても独創的なRVD！

そんなRVDがブレイクした団体といえばもちろんECW！　「ECWはいい思い出ばかりさ。ポール・ヘイマンは背広組の中じゃ唯一の親友だよ。ECWではシークのメッセージである“オリジナルになれ”ということを実践したから成功できた。だから、WWEに上がったときもこのスタイルを貫こうと思ったんだ」。

WWEでは世界ヘビー級王者にも君臨。RVDは観る者を惹きつける試合内容でスーパースターの座に駆け上がった。自身にとってのベストマッチを尋ねると、「ECWではジェリー・リンとの試合だけど、WWEだとやっぱりジョン・シナからベルトを獲った試合かな。ジョンを倒した瞬間にファンと一体になれたことは一番の思い出さ」と、ECWの代表としてWWEの頂点に到達した試合をピックアップ。ファンを大事にするRVDらしいチョイスだ。

さぁ、観る側としてはまだまだRVDのイキのいいファイトに期待したいところ。最後に今後の動向について聞いてみよう！　「プロレスは妻のこともあるし様子を見ながら続けていくよ。あとはオフィシャルサイトで自分のリアリティショーを配信してるし、コミックも描いてる。それに映画出演の話もあって、これはもうじき発表できると思うよ」と、プロレス以外にも精力的に動いている模様。リング上と同様にどこまでも独創的に活動するRVD。

「オレはいつも、自分の頭を使って新しい技を考えてる。だからリングを離れても新しいアイデアがいろいろ浮かぶんだ。これからのRVDにもみんな期待しててくれ！」



見てみぃ、この空中姿勢！　カンフースターを彷彿とさせる華麗な動きに、イスや机攻撃をミックスした唯一無二のレスリングスタイルこそRVDの持ち味。WWF（現WWE）参戦当初の設定はヒールであったが、観客の支持により急きょベビーフェイスに転身するほどの人気を博した。



イラスト◎ゴローちゃん

第27回 サソリ（極悪同盟）の巻

スコーピオンズ『ヴァージン・キラー』のレコードジャケを終日眺めるのが趣味のサソリストこと掟ポルシェが弱った視力でお届けする『萌え萌え女々苑』。今回のゲストは来年4月の引退に向けてカウントダウン中の極悪同盟のサソリ選手。謙虚な悪役の猛毒皆無な笑顔に萌えろ！

掟　いきなりですけど、やめるのは体調的な理由が一番大きいんですか？

サソリ　ガタはもうだいぶ前からきてますね（笑）。

掟　そうなんですか（笑）。でも引退を発表するのって勇気が要りますよね？

サソリ　要りましたねぇ（苦笑）。

掟　発表しちゃったものの、やめたくないのが本音じゃないですか。

サソリ　そうですね。好きで始めたことなんで。でも、一生続けられる仕事じゃないから、どっかで区切りをつけなきゃいけないですし。女子ならとくに。そう考えたときに、まだ身体が動くうちにやめるのが一番いいのかなぁって。

掟　25歳定年制がある頃なら、もう引退してるわけですしね。しかし今年1年は目覚ましい活躍ですよね！

サソリ　『マッスル』ですか？（笑）。

掟　5月の『マッスル』で占い師の小笠原まさやさんに今年一番活躍するプロレスラーと言われて。その直後、IMGP王座を見事奪取してましたね（笑）。

サソリ　楽しかったですね。こうなったら引退までチャンピオンでいたいですけどね（笑）。

掟　本名の藤井巳幸時代よりも、サソリに改名してからの注目度は格段に違いましたよね。

サソリ　忘れられないですもんね、一回見たら。女でハゲで眉毛ないし（笑）。

掟　それで頭にはサソリの絵で。

サソリ　イヤでも覚えちゃうだろうし。

掟　サソリのキャラクターでやっていくっていうのは自分で決めたんですか？



さそり■本名・藤井巳幸。1977年12月17日、三重県出身。96年9月16日、全日本女子プロレス八王子大会の中西百重戦でデビュー。06年5月の横浜アリーナ大会ではエリカ・モントーヤと総合ルールで対戦、秒殺負けを喫するも、直後に頭を剃り上げダンプ松本率いる極悪同盟に加入。それ以降は、さまざまなリングで大暴れ。163cm、62kg。
ブログアドレス→http://blog.livedoor.jp/gokuaku1/

サソリ　そうですね。ダンプさんから極悪同盟に入らないかと声がかかって、「一週間ぐらい待つから、それまでに返事ちょうだい」って言われて。正直、全女（全日本女子プロレス）の35周年大会の横浜アリーナでみんな一区切りつけてたじゃないですか。自分もそこでやめようかなって凄い悩んでたんですよ。

掟　もう経営的にも最悪の状態で。

サソリ　そうですね。でも、やめるんだったら、声がかかったときに、ちょっとだけサソリでやってみようかなって思ったんです。

掟　じゃあ、エリカ・モントーヤとの格闘技戦で負けて、プロレスラー藤井巳幸は一度終わったわけですね。

サソリ　はい。だけど、あの試合で負けたからサソリになったって思ってる人もけっこういたみたいなんですよ。

掟　格闘技戦で負けたからペナルティでスキンヘッドになったんじゃないかと？

サソリ　自分的には、勝っても負けてもサソリになるっていうのは決めてたことなんで。まあ、あの格闘技戦もかなり無謀でしたけどね（笑）。

掟　エリカ・モントーヤ選手は女子の総合格闘技ではチャンピオンクラスの選手だったみたいですからね。

サソリ　試合までの練習期間は1ヵ月ちょいしかなくて。でも、あれがきっかけでボクシングの試合にも出させてもらったんで、凄いありがたいきっかけだったと思うんですけど。

掟　その後、ボクシングの試合に出て、格闘技戦の負けを雪辱したんですよね。

サソリ　そうですね。しょっぱい試合でしたけど（笑）。

掟　正直、スキンヘッドにするのはかなり抵抗があったんじゃないですか？

サソリ　一番最初に「極悪に入る？」って言われて、「やります！」って答えたときに、「じゃあ、あなたはサソリで頭はハゲで」って。正直「マジかよ！」って思ったんですけど（笑）。

掟　ダンプさん的には「マジだぜ！」、と（笑）。

サソリ　悪役になるのは決めてたけど、どういう方向性か考えずに勢いで「やります！」って言っちゃったんで、いきなり「ハゲになれ」って言われたときには、ちょっと悩みましたね（笑）。でも、髪の毛を剃ることに対しての抵抗は、あまりなかったです。

掟　あ、そうなんですか？

サソリ　毎日剃ることに対しての皮膚的なモノとかはありましたけど（笑）。

掟　肌が荒れるんじゃないかとか（笑）。

サソリ　そうです（笑）。けっこう、こう見えて肌が弱くて、よく血まみれになったりするんで、いつもオロナイン手放さず、みたいな（笑）。でも、そんなにみんなが思うほどのショックはなかったです。

掟　男子レスラーでも平成維震軍とかスキンヘッドで眉ナシでしたけど、さらに頭にサソリのペイントですからね（笑）。これだけの転身は男子のヒールレスラーでもあまりないと思いますよ。

サソリ　そうですよね。まあでも、自分が決めたことなんで。逆にそれで知名度が上がったんだったら、オッケーだったんだなって、いまとなっては思いますね。

掟　このスタイルになって知名度が上がったっていう実感はありました？

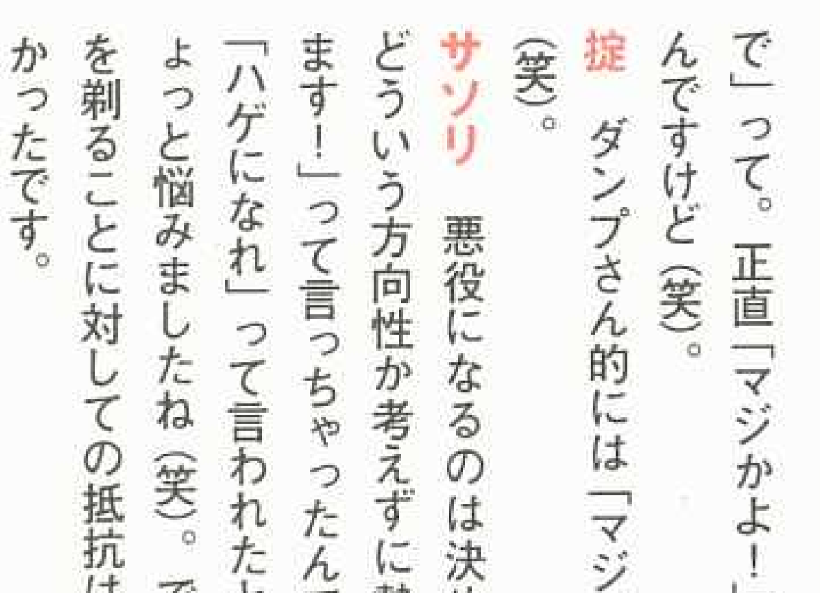
サソリ　それこそ声をかけられるようになったり。

掟　街を歩いててファンから声をかけられるとか？

サソリ　いや、年齢確認で警察に止められることが多くなって（笑）。

掟　ダハハハハ！　子どもに見られちゃったと（笑）。

サソリ　トイレに入ったらおばちゃんに止められて「あなた、違うわよ」って言われたり（笑）。



今年5月6日に開催された『マッスルハウス』後楽園大会では、今年一番運気のよいレスラーに選ばれ、飯伏幸太からIMGP王座を奪取したサソリ。直後に行なわれたタイトルマッチでも見事防衛に成功!

掟　性別まで（笑）。生活面ではいろいろと困ったことがありそうですよね。

サソリ　そうですね。頭剃りたての頃、夜中の3時ぐらいにコンビニ行こうと思って信号待ちしてたら、警察の人が寄ってきて。「いくつ？」とか言われて、「25です」って言うと、「エッ、5年生？」って。

掟　5だけしか聞こえなかった（笑）。

サソリ　で、何回言っても信じてもらえないんで免許証を見せたんですよ。そのときの住所が全女の寮だったんで、「全日本女子プロレス内」って書いてあるのに、「なんで坊主なの？」って聞かれて。

掟　「仕事だよ！」って（笑）。

サソリ　「住所見て、仕事わからんの!?」みたいな（笑）。ホントにそんなことばかりでしたねぇ……（しみじみと）。

掟　いやいや、坊主だから言うんじゃないですけど、いまのサソリさんは輝いてますよ！　今年一番運気のいいレスラーとして来年の引退までこのまま突っ走ってください！

Okite Porsche◎掟ポルシェ■10・11（土）23：30～@新宿ロフト（03−5272−0382）でJポップ限定DJパーティー『申し訳ないと』開催！　掟ポルシェが最近のアイドルの曲しかかけないネジ曲がったDJとして参加！　18歳未満入場禁止イベントのため、入場時にIDチェックがあります！　「チン毛に白髪が混じってるからこれで年齢確認を……」とか、そういうのはやってないので、必ず「写真つき」身分証明書（免許証とかパスポートとかそういうの）をご用意ください！　それがないとマジで入れない！　面倒くさくてスマン！　その他情報はブログをチェック！【http://porsche.exblog.jp/】

佐藤譲 入場曲五十三次

イラスト◎エロコエロオ

第7回 『戦極』の選曲と北岡さんを考える

Yuzuru Sato ◎1976年、静岡県生まれ、千葉県育ち。クラブ・ミュージックなど音楽の解説を書いたり放送作家をやったりしています。近所の定食屋の常連さんだった廣田選手が『戦極』で快勝。本当におめでとうございます!

先日、『戦極』を初観戦しました。

好試合が多いのになんだか興奮が客席まで広がらない感じ。入場曲的にはヘビー・ロックが多く重苦しい雰囲気で、五味さんの煽りVTRでも華やかなコールド・プレイ『Viva La Vida』を使いながら、直後の入場曲オジロザウルス『ON AND ON』の「出口やゴールなどねぇ」で落とすなど、最後までチグハグな流れでした。

そんな『戦極』の独特な空気を象徴していたのが、最高の勝利を飾るも、怪しげなポージングとぶっ飛んだ目で観客を困惑させた北岡悟さんと、その入場曲であるGacktさんによる『機動戦士ガンダムⅡ』の主題歌『哀 戦士』のカバーでした。あ、もしかしてあの天に向けたポーズってア・バオア・クーの再現?

さて『哀 戦士』は「名を知らぬ戦士を討ち生きのびて血へど吐く」という歌詞のとおり、闘う男の生き様が描かれた格闘技にぴったりの曲です。

またGacktさんというセレクトも秀逸。上杉謙信を超ビジュアル系に仕立て、スカやパンクなど、幅広い音楽性をオレ色に染める徹底した自己プロデュース能力。またバンドの合宿では実戦組手を敢行、旅先のマダガスカルでは村人と裸拳でボクシングをし、Gacktファミリーに入る際には必ずスパーリングをさせる武闘派な側面を持ち、さらに緊張感を保つために自室を牢獄調にするストイックな姿勢は、格闘家の入場曲にふさわしい人選と言えます。

ところがこの『哀 戦士』とGacktさんが組み合わさると、かなり微妙。

なぜならライブ番組でギレン・ザビの演説を完コピし、よくわかってない女性ファンに「ジーク・ジオン」と絶叫させるなど、『機動戦士ガンダム』ネタはGacktさんを激しく暴走させるからです。

実際、『哀 戦士』のカバーでは「アレンジがまとまらず、旅に出ようかと思った」と本人が語ったとおり、煮詰まった結果、ゴリゴリすぎる上に構成がややこしく、高揚感が希薄という、珍しくチグハグでわかりにくい内容になってしまいました。

そして、そんなGacktさんの『哀 戦士』を選ぶ北岡さんも立派なガンオタ。

唯一の定期購読本は『月刊ガンダムエース』。また鬱寸前の富野監督が作中で唐突なキャラ殺しを繰り返し、監督自身が「一番嫌いなガンダム」と評する『機動戦士Vガンダム』をブログで大絶賛。もちろん物議を醸した『戦極』の池田秀一さんによるナレーションには大喜びです。選曲を含め、これらのガンオタ特有の木を見て森を見ずなバランス感覚が、武士&ディスコに代表される『戦極』のへんな流れや演出に通じると思うのです。

そう考えると盟友の青木さんの『バカサバイバー』は、バカキャラを巧みに利用する彼の俯瞰したクレバーな立ち振る舞いや、素材を巧みに活かすDREAMの演出術を象徴する曲だなと思います。

とはいえ『戦極』がDREAMの真似をしても意味がないですし、あのへんなセンスは活かしてほしい。さすれば北岡さんの行動も注目され、『戦極』もGacktさんのようにオレ流を貫きながらブレイクできるのかもしれません。

厳しい状況の続く『戦極』ですが、Gacktさんの名言「出すぎた杭は打たれない」を座右の銘にし、是非とも我が道を邁進していただきたいと思います。

あと、強さ、狂気、おもしろさが同居する北岡さんは『機動戦士ガンダムZZ』のマシュマー・セロ(強化人間改造後)とダブるのですが、どうでしょう?



鉄火場ゴングショー 賭博とは極上のプロレスである

田中太陽の七本場

馳浩の宝くじ

Taiyou Tanaka ◎日本プロ麻雀協会所属のフリープロ。"観戦記の鬼"として一部の麻雀ファンのあいだで根強い人気を誇る。

「人間の運命は、ルールどおりに行なわれるチェスというよりむしろ宝くじを思い起こさせる」

旧ソ連の文豪イリヤ・エレンブルクはそのように語ったというが、これはあえて運命論というよりも、宝くじの本質を表わした発言として捉えてみたい。すなわち"宝くじを買う"という行為は、人間の運命ほどに刺激的な娯楽なのである。

いまや"一攫千金"や"夢の売り買い"といった本質的概念は負け組の戯言とされ、代わりに期待値や収益効率といった悲しい言葉が横行するようになってしまった大衆ギャンブル界。しかしながら、宝くじのもつ破壊力だけはいまだ別格だ。そこには庶民のシケた人生を運によって一変させるパワーがある。夢がある。

そのうえ我が国には、庶民最後の夢である宝くじに技術介入と勝負論をプラスした究極の公営ギャンブルが存在する。通称『toto(トト)』、あるいはサッカーくじと呼ばれるものがそれである。

これは宝くじのシステムにプロサッカーの勝敗予想という娯楽的要素を加えたものだが、その配当金額の高さや当選率の低さは宝くじと同等だ。さらに、たびたび発生するキャリーオーバー(繰り越し金)の刺激性から、サッカーファンを中心になかなかの人気を誇っているようだ。

そしてサッカーくじから連想されるプロレスラーといえば、じつは馳浩であろう。その昔、衆議院議員になったばかりの馳が、さかんに公約として掲げていたのがこの「サッカーくじ法案成立」であったからだ。

いまでこそ体育会系議員の代表格として安定した評価を得ている馳だが、当時はまだまだタレント議員的なイメージが強く、サッカーくじ法案のことも話半分に受け止めているファンがほとんどであった。しかしながら、法案はみごと成立。実際に馳の影響がどの程度あったのかはわからないが、ここは彼一流の行動力とプロレス的発想力が、政界をも動かしたということにしておきたいものだ。

さて、その馳であるが、元教員という肩書や独自の立ち位置から、プロレス界では常に異端とされてきた存在だった。アマチュア競技と学徒育成に長年従事してきた馳のまともすぎる感覚は、お世辞にもカタギの衆とはいえない当時のプロレスラーたちの中で、逆に浮いてしまっていたのかもしれない。

そんな男が政治家になったとたん、新たな公営ギャンブルの設立に動き出した背景とは、いったいなんだったのか?

これは一つの手がかりにすぎないが、馳がかつて『デイリースポーツ』紙上に連載していた『永田町一筆勝負』には、このような記述があった。

「子どもの育成に悪影響を与えるギャンブルなんていけませんとか、神聖なスポーツを賭けごとの対象にするなんていけませんというわかったような批判をすることはおかど違いもはなはだしい。スポーツ界に金はないのだ」

教員兼アマチュアレスラーとして、借金を作ってまで競技活動にいそしんだ経験をもつ馳ならではの発言だ。あらゆる面で補助されるトップアスリートは別として、多くのレスリング選手は環境出費を自腹でまかなう苦労人であるという。

自分が政治家になったからには、そのような状況を改めたい。そう思ったときに「娯楽を提供して木戸銭をちょうだいする」という方向に走ったのならば、それはごくごく自然な発想なのではないだろうか。馳とサッカーくじとの関係は、いうなればレスラーと観客のそれだろうか。およそ政治家らしくないこの発想。議員としてもやはり馳浩は異端であったのかもしれない。


kamipro books
八百長★野郎（仮）
プロレスの向こう側、マッスル
すべての〝元〟プロレスファンに捧げる
呪いなき〝プロレス再入門書〟登場!!
10月下旬
発売予定

絶好調！ 新日本の“真夏の祭典”に何が起こったのか!?

“呪いなき”G1クライマックス大成功なのに、大誤算!?

月刊新日本プロレスNOW通信!! 4

聞き手／真下義之　撮影／平工幸雄

―いや〜、阿部さん、今夏の新日本プロレスはかなりおもいきったことをやりましたねぇ。

阿部　ん？　それはどういうことですか？

―もちろんG1クライマックスのことですよ！　あの決勝戦（真壁刀義vs後藤洋央紀）は、G1のスポーツライクな世界を根本から破壊するような反則三昧で、見事な勧善懲悪になってましたよね。あれこそ呪いなきG1、新しい新日本プロレスじゃないですか!?（と興奮して）。

阿部　…………。

―あれ、どうされました？

阿部　いや、『ｋａｍｉｐｒｏ』さんはそうとられたんだなぁと思って。

―えっ？　……確かにあの試合は一部で賛否両論が起こって、長州（力）さんや蝶野（正洋）さんもああいったG1の展開には否定的だったし、GK隊長（金沢克彦）なんかもウチの携帯サイトのコラムで「いかがなものか？」と問題提起されてましたけど。

阿部　そういう声はたくさんありますね。実際、僕もGKさんのコラムを読みましたけど……、正直そのとおりじゃないですかね（アッサリ）。

―そ、そうなんですか!?　じゃあ、あの反則三昧の展開は想定外の出来事だったと？

阿部　ああいう大切な試合で、反則オンリーの展開をやられちゃうと、ちょっとね。もっとレフェリーが厳格に反則をとったほうがよかったかもしれないですよね（淡々と）。

―う〜ん。あそこまで優勝決定戦をハチャメチャにしたのは、「G1の価値観、ぶっ潰す！」っていう新しい新日本からのパンクなメッセージなのかと思ってたんですけど……。

阿部　まぁまぁ。G1は確かに競技性重視の大会ですから、GBHの連中が“悪の技量”で勝ち上がっていくのは、新鮮な光景でしたけどね。ただ、真壁選手とGBHが暴走しすぎた部分はあったし、僕らとしても初めてG1を観に来た人に、「あれがまかり通っちゃうの？」って思われるのはツライし、「もうちょっと試合をカッチリやってほしかったな」というのは本音ですね。

―なるほど。そこはキング・オブ・スポーツとして、“守りたい”部分なんですかね。

阿部　もちろん決戦に至る過程での反則、乱入はいいと思うけど、ああいう天王山の舞台では、プロレスラーとしての肉体のぶつかり合いがあったほうが、より“プロレス”というものを見せられたのかもしれないですね。

―確かに会場では「オイ、オイ！　これはG1だぞ!!」と怒り狂った反応の新日ファンも何人かいましたけど。

阿部　いらっしゃいましたねぇ。実際、大会後に抗議の電話とかハンパなかったですから！

―はぁ〜。そういうガチガチな旧来のファンはまだまだいるわけですね。

阿部　G1に関してはとくにこだわりが強いのかもしれないですね。『ｋａｍｉｐｒｏ』さんが書いていただいているように、最近の新日本は過去にとらわれない、自由で“呪いなき”部分っていうのは出てきてるんです。ただし、ことG1に関して言えば、“実力ナンバーワン決定戦”って謳っている部分がポイントとして大きいし、天山（広吉）と飯塚（高史）の抗争劇に熱狂したファンも、G1に関しては肉体と肉体のぶつかり合いを求めていた部分はあるでしょうね。

―なるほど……。これはかなり根本的な話になっちゃうんですが、新日本さん的には、いまのスタイルから徐々に、よりエンターテインメント系のプロレスに軸をズラしていくってことは考えてるんですか？

阿部　う〜ん。実験的にそういう方向性の『レッスルランド』をやったりしましたけど、完全に振りきることはないでしょう。やっぱりWWEのレギュラー放送の『Ｒａｗ』とか『ＳｍａｃｋＤｏｗｎ』なんかでは、反則あり介入ありの世界ですけど、PPVの最終決戦ではしっかりした試合をするじゃないですか。個人的にはああいう展開が理想というか。

―じゃあ、キッチリと本道を守りつつも随所でエンターテインメントの味つけをしていくって感じですか。

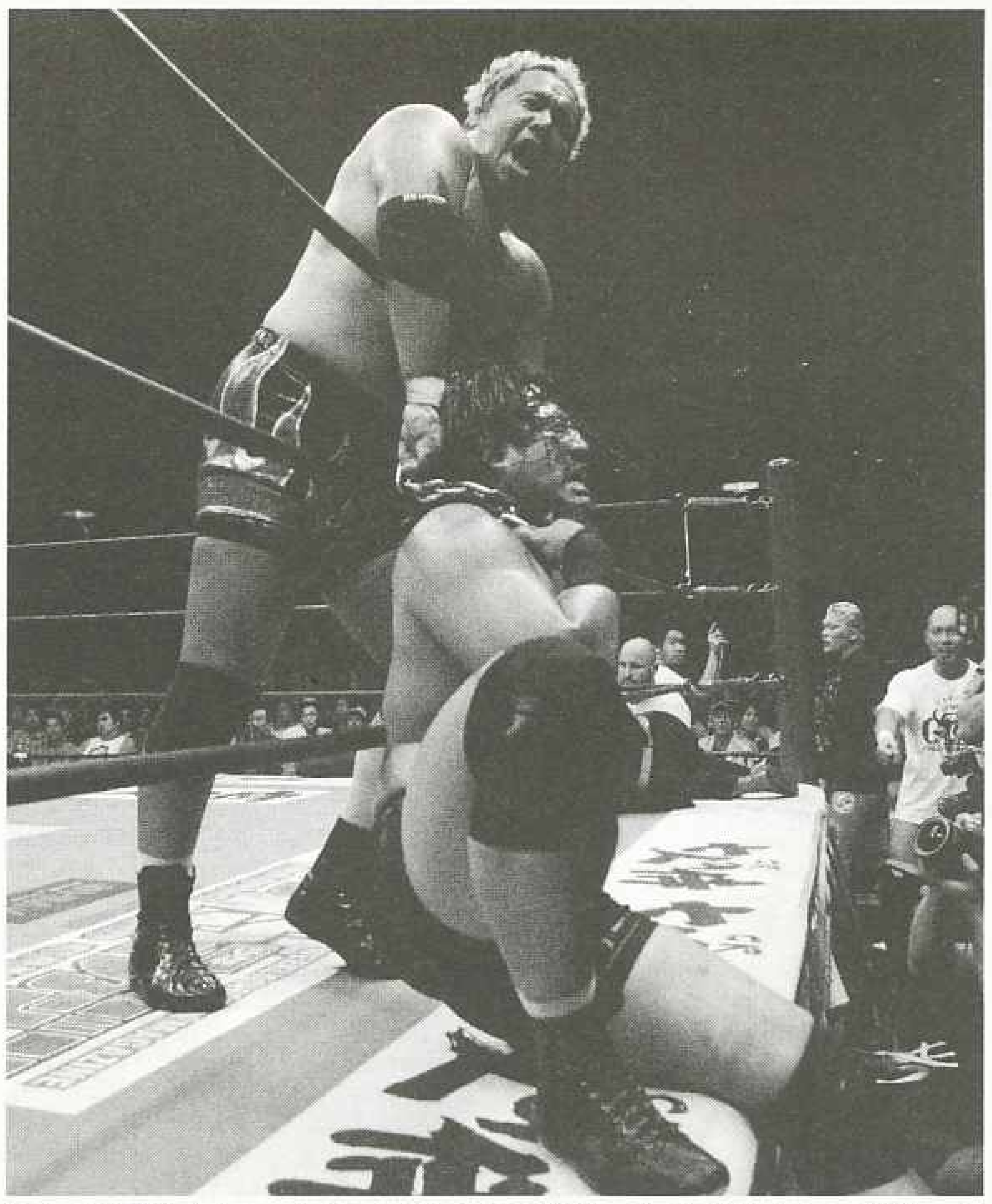
阿部　どうだろうなぁ。エンターテインメントって言葉の使い方は凄く難しいですね。まぁ、大きくいえば『ハッスル』も新日本プロレスもエンターテインメントなんですよね。

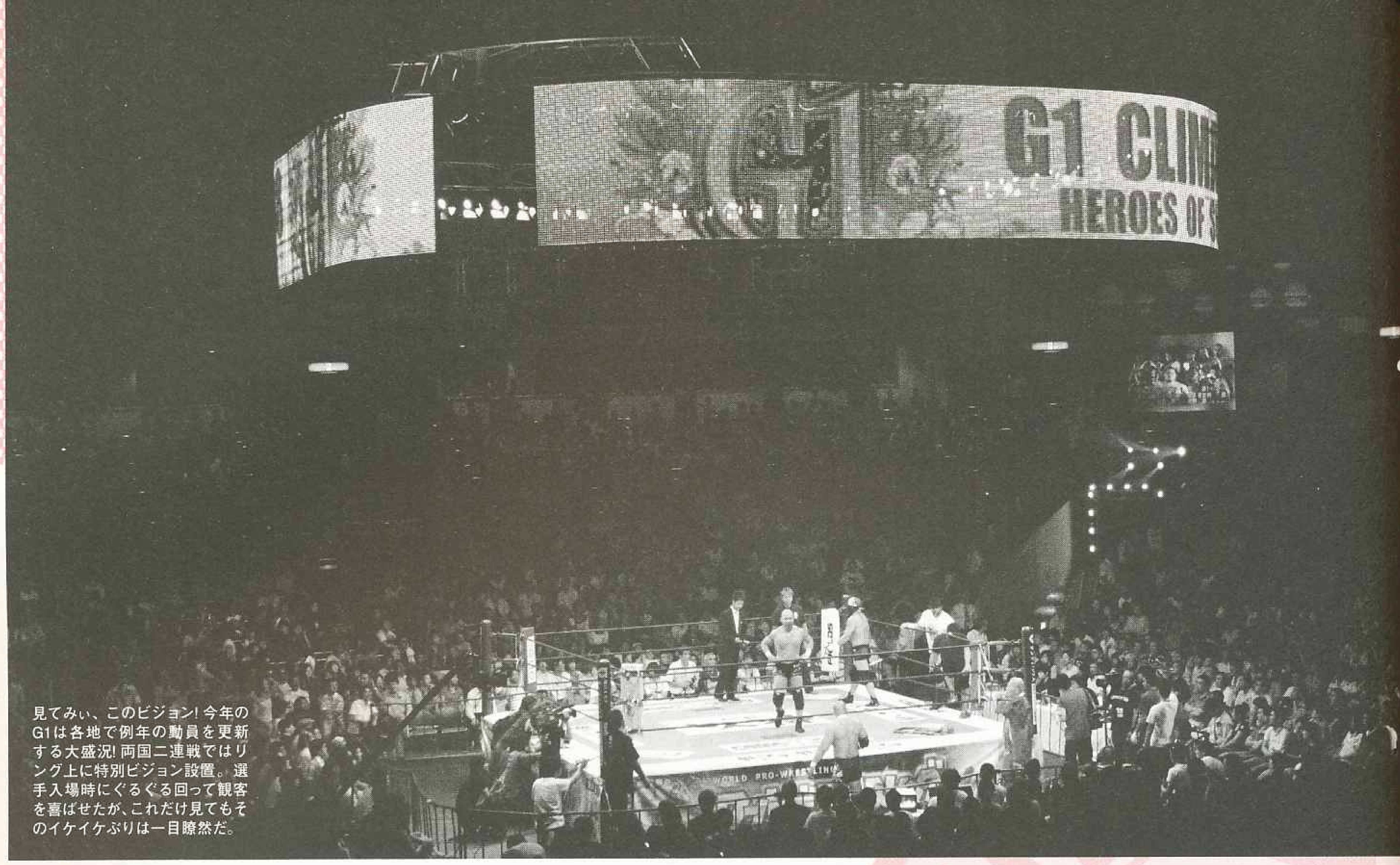
―なるほど。ただ、その『ハッスル』がいま、逆にちゃんとプロレスをしようとしてる傾向があるんですが。

阿部　あ、そうですよね！　僕は『ハッスル』もずっと観てましたから、「どうしちゃったの？」って驚いてるんですけど。

―いままで芸能人をリングに上げたり、世間に対するベクトルが外向きなのが『ハッスル』の最大の武器だったんですけど、いまはむしろ内部を強化し

大会後にかかってきた抗議の電話の数はハンパなかったですから!!


「これが現実だ!!」とシャウトしたくなるような非道三昧の反則暴走をG1決勝という舞台でブチかました真壁。ファン&関係者から賛否両論が渦巻くも、結果的に会場を大ヒートさせまくった立役者であることは間違いない。



見てみぃ、このビジョン! 今年のG1は各地で例年の動員を更新する大盛況! 両国二連戦ではリング上に特別ビジョン設置。選手入場時にぐるぐる回って観客を喜ばせたが、これだけ見てもそのイケイケぶりは一目瞭然だ。

新日本ファンの客層は確実に変化しているけど、まだまだ手探りです

ているような感じで。

阿部　『ハッスル』のお客さんって、もともとプロレスファンじゃない人も多そうだし、そのお客さんが何を求めているかわからない部分もあるんですけど、後楽園なんかは一体感があって凄く雰囲気がいいじゃないですか。「高田総統や川田（利明）さんの歌やスキットみたいな演出が受けてるのかな？」と思ってたんだけど、そこにガッチリした試合を組み込もうとしてるのは不思議だし、高田総統がかつて言っていた「プロレスを壊す」方向とは変わってきたのかなって。……ただ、その高田総統の「（プロレスを）守るだけでなく、作り出せ！」っていう言葉があったじゃないですか。

——ええ。川田がハッスル軍からモンスター軍にヒールターンしたときに、高田総統が『ハッスル』の方向性を示した名演説ですね。

阿部　あの言葉を彼らは本気で有言実行しようとしてたじゃないですか。そこは個人的にかなり脅威に感じてたんですよ。そういうのって、「ホントは新日本がやらなきゃいけないことじゃないか？」と常々思ってたから。

——あれは強烈なアジテーションでしたよね。

阿部　だから、僕もあの言葉を踏まえた上で、日々やってますからね。もちろん新日本じゃなきゃできないこと、新日本という舞台の中でできること、っていう制限はありますけど。

——そういう姿勢はヒシヒシと感じますし、だからこそ僕はG1の決勝戦を観て、「やっぱりいまの新日本はホントに自由だなぁ！」っていう妄想を爆発させてたんですけど……。

阿部　ハハハハハ！　いや、でもそういう妄想は大歓迎ですよ！

——でも実感として、新日本プロレスは会場の雰囲気もかなり変わってきていて、総合格闘技やミスター高橋本の影響とかとは関係のない、〝呪われてない〟新しいファンが増えてきてると思うんです。「棚橋クン、カッコイイ！」みたいなとこからスタートしたファンが確実に育っているというか。

阿部　ええ。『ハッスル』とはまた違いますけど、あきらかに客層は変わってきてますね。そういった新しいファンの実態を完全に把握してるわけじゃないんですけど、顧客満足度は少しずつながら上がっている自負はあります。なんというか、キツいヤジとかモノを投げるようなヒリヒリした昔のファンは減ってる気はしますね。

——その一方、G1に抗議するような狂信的なファンもいるわけですけど……いまの大多数は呪われていないファンだと思うんです。だから、「もっと振りきってもいいんじゃないか？」と勝手に思ってたんですけど。

阿部　確かにそういった新しいファンも「ここがおもしろい」っていうツボな部分にはちゃんと食いついてますから。ただ、そこをどこまで信用していいのかなって。「盛り上がってくれてるけど、ホントに大丈夫かなぁ」という手探りな部分はまだまだありますよね。

——その一方で、G1をガチガチに観ているような人もあえて突き放すことはしない？

阿部　そうですね。ただ、ここ4～5年前の新日本ってあまりにもファンを無視した裏切りを連発してたじゃないですか。それに愕然として一度離れちゃったファンって、なかなか帰ってこないと思うんですよ。だったら昔のファンを呼び戻すよりも、いま盛り上がってくれている会場のファンにより満足して帰ってもらって、そういう新しいファンを次々と生み出せればと思いますよ。

——トライ&エラーを繰り返していくって感じですかね。まぁ、そういう意味では、いまの新日本プロレスには天山さんという抜群の研究材料がいるわけですから。

阿部　ハハハハハ！　個人的にはWWEのビンス・マクマホン劇場じゃないけど、いつかは天山が爆死しちゃうくらいの展開を観たい気もあるんですけど（笑）。

——「天山が爆死してもええんちゃう？」と（笑）。

阿部　あくまで新日本っていう伝統とバランスをとりながらですけど、だからこそやりがいはありますし、10月の両国大会もホント、期待してくださいよ。

——わかりました！　今回もありがとうございました。

【08年8月7日／都内・新日本プロレス事務所にて収録】



あべ・たけし■1972年7月16日、東京都出身。99年よりWWE関連書物に携わるフリーライターとして活動。05年より株式会社ユークスのグループ会社、株式会社ファインに所属、新日本携帯サイト、ポスター制作や会場演出の進行等に関わる。

amiproがここにある!!

毎日更新ブログ

MIKUの格闘ブロガール

『過去の試合を思い出してみるぅ～』

まずは総合デビュー戦。

【CROSS SECTION 石山絵里選手】(04年9月4日)

男子の試合しか観たことなくて、女子の試合をやるのを観たのもこのときが初めてでした。ぶっちゃけますが……会場に入るまで男子みたいな打撃力を想像してビビってたんですが、女子の打撃力を見てちょっと安心したの覚えてます。でも相手の石山選手の特攻服と竹刀を見てビビったのも覚えてます。あのときは、寝技に持ち込んでサイドからヒザ蹴りの練習をしてて、ただただ一心にそれをしてた。



と、和田レフェリー。このお話は何度かしたこともありますが。試合中コンタクトが外れてタイムアピールしたんですね。そしたら和田レフェリーに「そんなことは関係なーいっ!!!!」ってめっちゃ怒られて試合中ショックを受けたのも覚えてます(笑)。

※続きはkamipro Handで!!

川尻達也の筋肉日記

『月曜日は何の日!?』

そう! 指導の日!! ってことで毎週月曜日はT-BLOODで打撃クラスの指導。いやぁ～、指導は本当に難しい! 俺自身まだまだ未熟だしね。でも会員さんの満足そうな顔や、試合に出て勝ってくれると嬉しいな～。若い子なんてすごいスピードで成長していくからね。入った頃はあんなに弱かったのに……。お兄さん(おじさん?)嬉しい! って感じ。会員さんたちの出る試合も近づいてきてみんな気合い入ってます。



今日もみんな頑張りました! しかしさ～、10年前、俺がマッハさんやルミナさんに憧れたように俺たちの試合を観て入会してくれる子もいるし、嬉しいよね～。ま、生意気な奴もいますが(笑)。でも、俺も10年前から岩瀬さんや隆多さんに生意気な口利いてたから同じか(笑)。

最狂布陣の連載コラムはコチラ!!

月 “マット界随一の文豪”がついに参戦!!
“DJ GOZMA”郷野聡寛の『MONDAY NIGHT FEVER』

火 毎週のニュースを独断と偏見でトーク!
ニュース特選!『kami の一週間』

水 マニア格闘技の真髄を読め!
橋本宗洋の『格闘裏グルメ』

木 アメリカMMA事情を週イチでお届け
『USA Cool 宅急便モバイル』

金 “プロレス冒険家”がマット界を斬る!
金沢“GK”克彦の『こちらプロレス村役場』

土 マット界の事件を徹底追求!
kamipro事件簿 『ジョシカク絶体絶命』

日 あのお騒がせ男のコラムが週替わり連載に再上陸
ゴー・フォー・ブログ! 週刊マッスル坂井 NEW

編集部が毎日お届けする『kamiブログ』必読です!!

携帯サイト

kamipro Hand

携帯サイト「kamipro Hand」への簡単アクセス方法

1 QRコードでクイック・アクセス!!

2 http://kamipro.dsn.ne.jp/hand/ を入力して直接アクセス

3 hand@kamipro.com へ空メールを送信

アクセス方法

docomo	iMenu ▶	メニュー/検索 ▶	スポーツ ▶	格闘技/大相撲 ▶
	※もしくは「kamipro」で一発検索!!			
au	トップメニュー ▶	カテゴリ検索 ▶	スポーツ・レジャー ▶	格闘技 ▶
Soft bank	メインメニュー ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶
WILLCOM	趣味&スポーツ ▶	スポーツ ▶	総合 ▶	
	エンターティメント ▶	TV・メディア・本 ▶	本 ▶	

kamipro Hand

[QRコード]

[お問い合わせ](株)ダブルクロス TEL.03-5368-1795

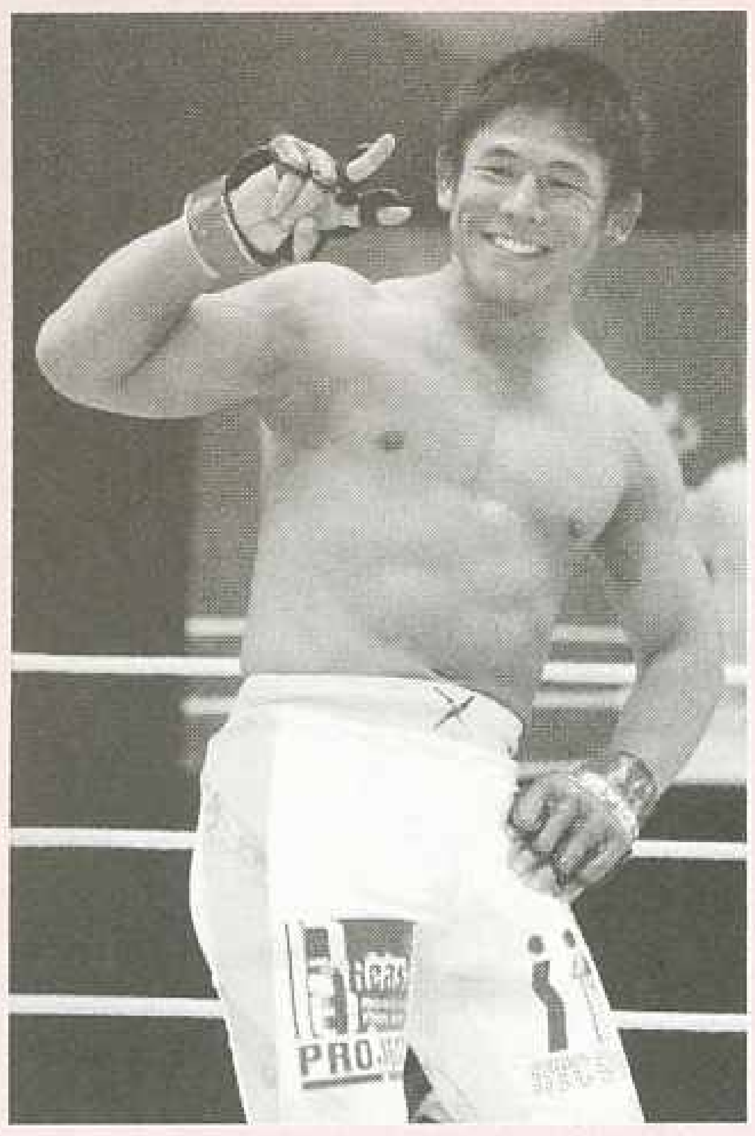
雑誌じゃ読めないkami

kamiインタビューは戦極ライト級スペシャル!!



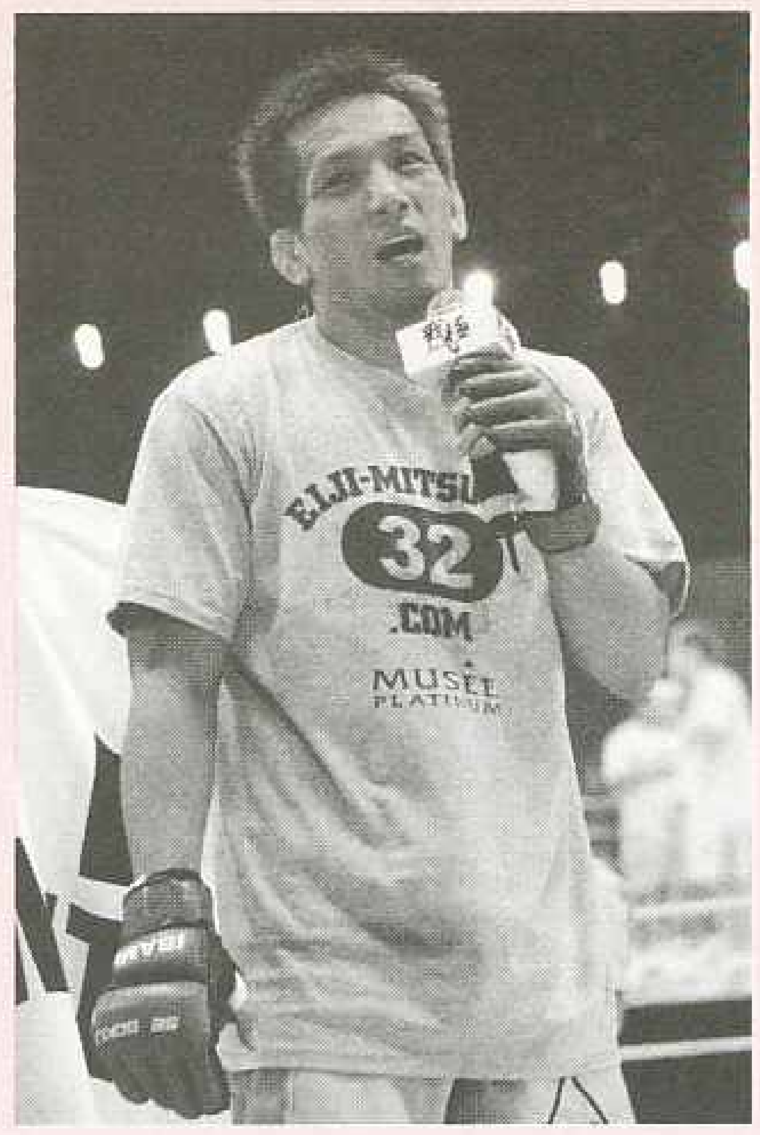
横田一則

8.24『戦極～第四陣～』でボーヤン・コセドナーに判定勝ちを収めた直後、リング上のマイクアピールでケガを告白した横田。GRABAKAの先輩陣から一斉にダメ出しが炸裂したというが、その行動の真意は……!?



北岡悟

「キモい！」「いや、強い！」とその評価が真っ二つに割れた北岡。KOTC王者のクレイ・フレンチを秒殺した試合と、激しく自己陶酔するパフォーマンスの根源にあるものは何なのか!? 本人の口から語ってもらいました。



光岡映二

優勝候補の一角に挙げられていたホドリゴ・ダムに劇的な逆転勝利を収めて、リング上から求婚するという前代未聞のパフォーマンスを披露した光岡。ベスト4の中でも最年長だけあって、冷静な状況判断が聞けました。



廣田瑞人

IFL王者で海外では評価も高いライアン・シュルツをKOしたことで一気に評価が上がった廣田が『kamipro』初登場。 その強さの根源に迫るインタビューではバックボーンと将来の夢を激語りです!

お楽しみ企画満載で目が離せない! レッツ・毎日アクセス!

週刊ワオキ真也



“バカサバイバー”青木真也が送る平均週2～3回更新のコラムです。超マニアックな格闘技論から青木真也のプライベートまで大公開！ ユーザーからの質問にもガンガン答えてしまいます!

ピラニアUSA日記



お待たせしました！ 携帯サイト『kamipro Hand』で大人気だった“殺戮ピラニア”長南亮が日常を綴る大人気連載が『kamiproドットコム』で再開です。アメリカで単身活動する長南の日々の激闘は必読!

mimipro



“カリスマ司会者”原タコヤキ君が、ペールワンズ総帥・井上崇宏、ハッスル事情通ライター・八木賢太郎、本誌編集部・阿修羅チョロと、楽しいトークに花を咲かせます。意外なBIGゲストも登場するよ！

kamiメモ



本誌編集部の日常がここを読むとわかってしまうという禁断の編集部ブログです。あんまりマット界の動きとはリンクしてないですが、『kamipro』がいかにして作られるのか、ここを読めば一目瞭然！

ウェブサイト　カミプロ　検索

紙

kamipro.com

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

カミプロドットコム

夏は終わっちまったけど、オレのハートはヒートアップ! “読者ペイジ”・ジャクソンさまのお出ましだーい。どうだい? 燃えてきただろ!? クックックック。さーて、今回も腰が抜けるほどお便りもらって、マジ、サンキュー! ユーたちは、本当によく『kamipro』を読んでくれるよな。ん? もしかして、それってこのペイジに載るのが嬉しいからかい? それとも、オレにコメントしてもらうのが嬉しいのかな? OH! なんだよ、照れるなって。ま、そんなキュートなユーたちに、今回もちゃーんとこのペイジをお届けするから、しっかりCheck it outだぜ!!



AUGUST号へのお便り紹介

“60億分の1” 幻想ゾッコー!! エメリヤーエンコ・ヒョードルの記事がよかった。パソコンの前で泣きました。まさに「UFCナンボのもんじゃい」でした。あと、ダナ・ホワイトも「ナンボのもんじゃい」です。

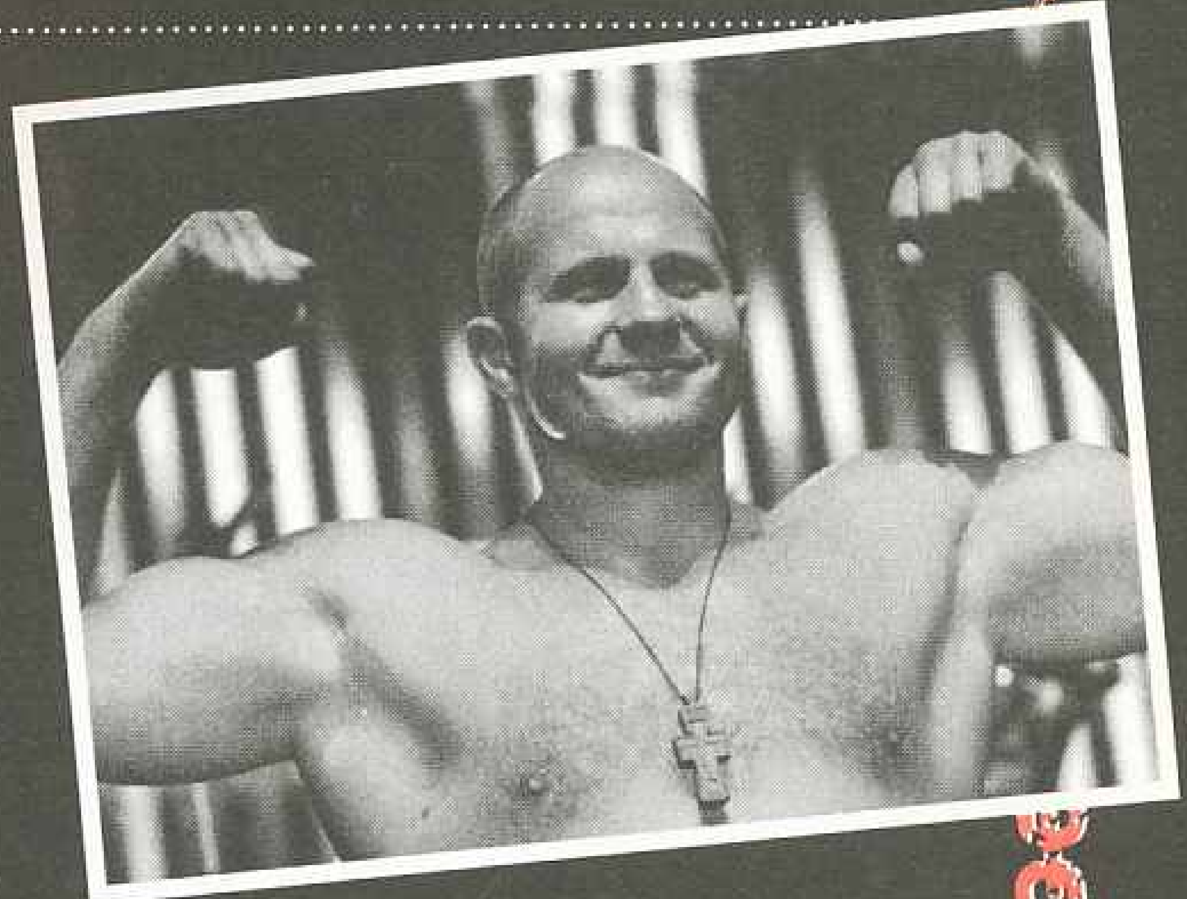
【東京都・田中秀和さん・大学生・22歳】

D おっと、「ナンボのもんじゃい」ってのは、いったいどういう意味だい? ジャパンに来てからだいぶ経つけど、方言ってヤツはホントにやっかいでわからないんだ。……ん? そのくらい知っとけだって? OH~、なんてコールドなヤツなんだ……。いまのはまさに、“氷の拳”だぜ! クックックック、またうまいこと言ってしまった!!

今回の髙田×越中は変態道のど真ん中ですね。僕も最初は「全日本出身の越中なんて、高田の相手じゃない」なんて思っていましたが、蹴られても蹴られても前に出続ける越中さんの姿を見て、最後のほうは「どっちも頑張れ」状態になりました。越中さん、維震の風を吹かせてやれって!

【神奈川県・廣木和宜さん・会社員・43歳】

D 「やれって!」ってのは、オレもずいぶん使わせてもらったフレーズだ! もちろん、意味はわからないけどな!! どうせ、「ウィッシュー」みたいなもんだろ? カメラ目線で言うとナイスガイに映るって聞いたぜ!



語録で振り返る天山vs飯塚がおもしろかった! DREAMライト級GP関連が読みたくて購入したら、とんでもない物にヒットしました。かつて「藤波語録」にも大笑いしましたが、天山も言葉のセンスがあるのかないのか……(たぶん「ない」)。たぶん本人はマジメな人なのでしょうね。

【栃木県・稲葉修さん・会社員・35歳】

D じつを言うと、オレもテンザンには注目している。オレはレゲエだけど、アイツはパンクな匂いがするんだ! まさに「NO MUSIC NO LIFE」だぜ。そうだろ!?

私も座談会に参加させてぇっ!! と本気で思うほど、皆さまの話の内容に「うん、うん!!」って感じで! DREAMサイコー!! って感じ。本当に、この座談会の仲間に入れてほしいと思いました。変態座談会に参加させてほしいと思ってる人の気持ちがよーくわかりました。

【埼玉県・笠井のり子さん・会社員・36歳】

D 座談会ってのは、みんなで集まってわんさかトークするヤツだろ? ふーん。オレはやっぱり独壇場がいいぜ! だって、みんなで話していると、オレの周りって、どんどん人がいなくなるからな。……べつに何も気にしてないから、へんな気ぃ使うなよ。

谷川貞治インタビューがよかった。自分の周りは皆、サダハルンバが嫌いだったけど、この記事を読ませて説教したら思いが通じたから。

【静岡県・節政徹也さん・学生・20歳】

D OH! なんてホネのあるヤツなんだい。リスペクトだぜ!! しかし、説教というワードを聞くと、オレは縮こまっちまうんだ……。今日も、「ハマダさま」を「ヤマダさま」と間違えて、店長にこっぴどく説教されたからな。……あ、オレがバイトしてるなんてことは、絶対にシークレットだぜ!!

新日特集の中邑インタビューが興味深かった。いままでどういう考えを持ってリングに上がっているのかよくわからなかったが、「プロレス」に対する思いが伝わってきた。

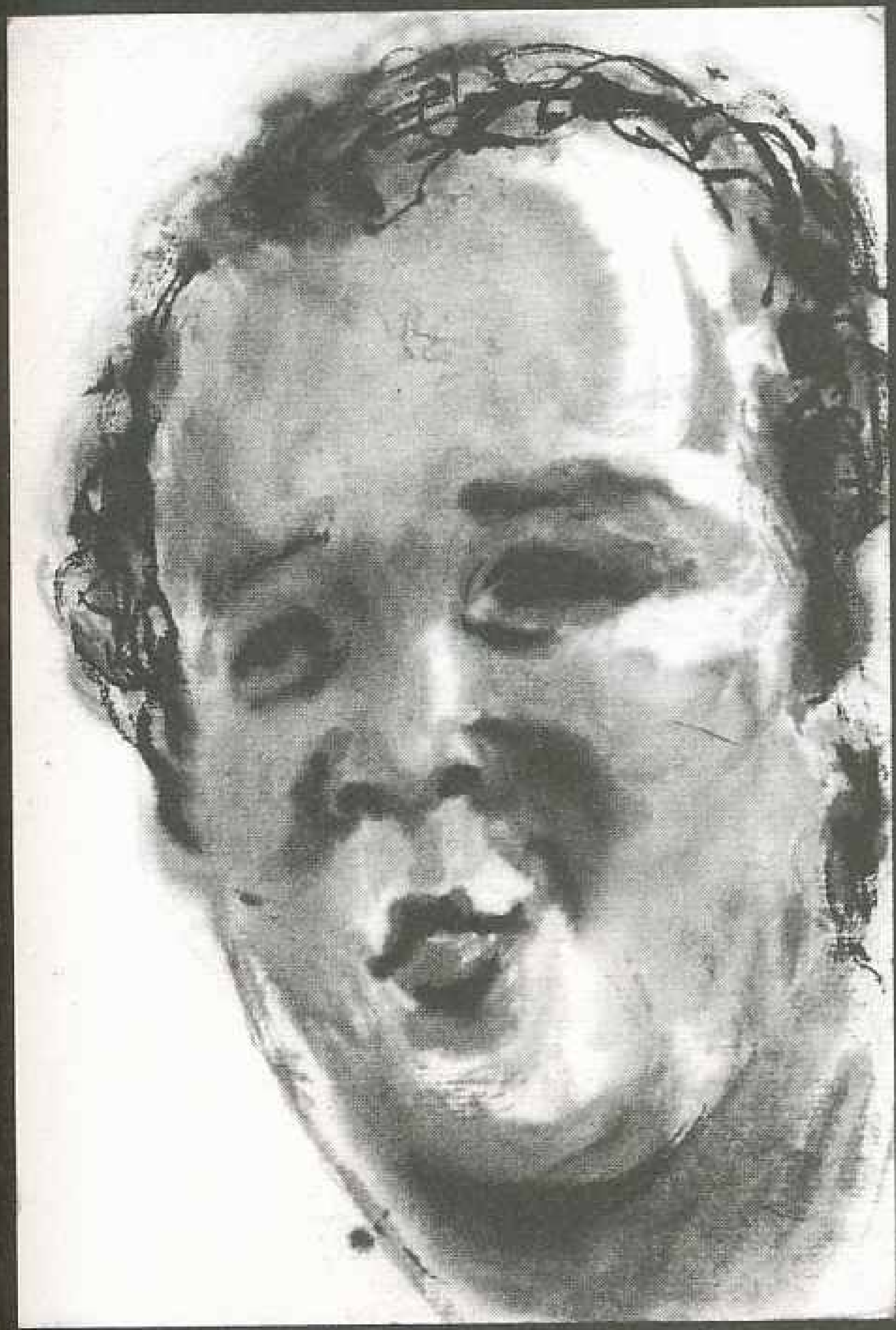
【大阪府・佐藤直大さん・会社員・34歳】

D ユーはG1観に行ったかい? もちろんオレは観に行ったぜ! 決勝戦でナカムラがGBHに襲われそうになるゴトウを助けにいってた姿はとんでもなかった(感嘆)。これを観た瞬間から、オレはゴッドに誓ったぜ。大きくなったら、絶対にRISEに入るってな!

カミスペAUGUST号
おもしろかった記事
RANKING

- NO.1 エメリヤーエンコ・ヒョードル
- NO.2 髙田延彦×越中詩郎
- NO.3 髙阪剛×郷野聡寛
- NO.4 青木真也
- NO.5 谷川貞治FEG代表

今回は、もうブッチ切りでエメリヤーエンコの圧勝だ! さすが、あんな凄い試合をしたら、人気も爆発だよな! ……おっと!! なんと今回はサダハルンバがランクインしてるじゃないか! こりゃたいへんなことが起こっちまったな。「川尻くん、好きだよお!」って言ってたのがみんなの共感を得たんだろうな。だってよお、オレもタツヤは好きだからな(小声で)。



大阪府・剣洋人さん/おおおぉぉ———っ!! これはかなりのメガヒットじゃないか! ヒロト、マジ、サンキューだぜ!! きっと、これを見たらサダハルンバ本人も大喜び間違いなしだ! また送ってくれよ!



長野県・市川学さん/先月、大御所マンガ家・原哲夫先生のアシスタントに採用されましたので、徹夜で仕事しています(本当)。画力が凄くて最初はとまどいましたが、『kamipro』に投稿していると伝えたら、先生が大歓迎してもらいましたので、近況を報告させてもらいました(本当)。

D な、なんだってえ~~~。あの、世界のケン・ホクトを描いたミスター・ハラのアシスタントだってえ~~~!! そんなことだったら、いますぐミスターに『kamipro』に出るように伝えてくれ!! ……しかし、「(本当)」ってのはなんだい? オレ様がピュアなユーを疑うわけないじゃないか。もお、つれないヤツだなあ(本当)。

目撃情報が止まらない!

★先々週末あたりの中目黒のパチンコ屋さんでの出来事です。ある台に座って打っていたところ、やたらと隣の男のヒジが私の身体に触れてくるのです。うっとうしいなーと思いつつ我慢していたのですが、あまりにも執拗だったので明らかに嫌がっていることがわかるように、そのぶつかってきたヒジを払いのけました。すると、その人も隣の私を邪魔をしていたことに気づいたらしく、ようやくヒジを引っ込めました。その後、見るともなく隣をのぞいたところ、丸太のような腕をした、とんでもない大男だということに気づきました。「あぁ、それなら(ヒジが多少ぶつかっちゃのは)しょうがないよなぁ」と、マザーテレサのような優しい気持ちになって、あらためて隣の男の顔を見たところ……小橋建太選手でした。

思わず「あぁ、小橋だ!」と声に出してしまったのですが、当の小橋選手は相当集中しているらしく、その声は聞かれずに済みました。そうこうしているうちに小橋選手の台に大当たりがきて、当然当たった瞬間は握りこぶしをしていました(うそ)。

ちなみに小橋選手だと気づいてからは、リーチがかかるたびに、我がことのように「当たれ! 当たれ!」と念を送っていました。その甲斐もあって(?)、数度大当たりしていたので、その勝ち分の半分は私がもらう権利があると思います。

【東京都大田区・笹原圭一さん】

D ケンタ・コバシと、そんな素敵な夏の思い出を作れたなんて、なんてラッキーなヤツなんだい! 大当たりしたのは、むしろユーのほうだぜ!! ……ん? お、おい、このケイイチ・ササハラってのは、もしかして、DREAMのササハラEPじゃないのかい!!!!?? な——んてこったい! こりゃ、とんでもない投稿だな!! しかも、大田区にいるだなんて……。業界関係者もミスター・ササハラを見習って、どんどん投稿してくれよ! 恥ずかしいだなんて言ってたらミスター・ササハラに笑われるぜ!

ファンキーでクレイジーなアイツが
読者のメッセージを
Check it out!!

"読者ペイジ"
ジャクソン

126号へのお便り紹介

妄想小説「PRIDE vs UFC」ファンなら一度は妄想したものを記事にしていたので興味深かった。
【埼玉県・星喜幸さん・大学生・22歳】

🅾妄想ってのはいいよなぁ（しみじみと）。だってよ、妄想に不可能なことなんてないんだぜ！オレはヒマさえあればいつも妄想してるからな。どんな妄想か聞きたいかい？ ヒントはな……やっぱり言えねえな！（真っ赤）。

『戦極』の国保さんがよかった。『戦極』には地上波にとらわれない、いまのようなコアなマッチメイクを続けてほしいです！ ビックリしたのが北京オリンピックの中にも総合に、という選手が二桁もいることです!!
【福島県・吉内まことさん・会社員・31歳】

🅾おっと、ユーはセンゴクがフェイバリットなのかい？ なかなかいい目してるじゃないか。あの「シャキーン！」がなんとも言えないいい味出してるぜ!! 男なら一生に一度は「"読者ペイジ"ジャクソン、いざ！」って言われてみたいしな！ クックックック。

谷川さんの記事で「K−1 ROOKIES」かなんかにしようと……。さすが、谷川さんはテレビ業界人ですね。ジャニー谷川さんのセンスに期待しています。
【兵庫県・春名義行さん・会社員・41歳】

🅾この前のK−1甲子園ってやつは、大成功だったっていうじゃないか!? やっぱりサダハルンバはとんでもないビッグ・ガイだぜ！ それより、『ROOKIES』ってドラマはオレも観たけどよ、あのハヤト・イチハラの眉毛は、いったいどうしてあんなに自由自在なんだい!?



西村修のドラゴン完全擁護には驚きです。あれだけヒドい批判（カストロとか）をしていたのはなんだったんだ……、と思わせられるコンニャクぶり。闘魂ならぬコンニャク伝承。
【宮城県・毒柴さん・変態宮城支部長・37歳】

🅾ニシムラは本当に過ちを犯しちまったな。迂闊なことをしてると、危ないぜ！ ドラゴンってヤツも、怒るときは怒るからな！

ほしのあき凄いです。正直、単に胸の大きい人という認識しかなかったのですが、厳しい芸能界で生き抜く秘密は、この高いプロ意識だったのですね。ヒデ兄も次は強豪と闘ってプロ根性を見せてください。これからも格闘技を応援してほし〜の。
【神奈川県・廣木和宣さん・会社員・43歳】

🅾「ほし〜の」でコメントを締めくくったからって、そんなにいい気になるなよ！ まったく、『kamipro』の連中もそうだぜ。やたらと「ほっし〜の」ばっかり使いやがる。最近の中で、一番許せないぜ!!（怒）。……なーんて、本気で怒ったと思っただろ？ クックックック。そんなにオレを見くびらないでほっし〜の！ っと。

藤波変態座談会も藤波語録も最高に笑えました。ぜひ、ドラゴンの法廷での活躍も取材してください。裁判官がドラゴンワールドを理解するために、『kamipro』を購読してたらいいんだけどな〜。
【大阪府・G.G.ジョージさん・内々定のはず……きっと・25歳】

🅾また、ドラゴンか。ボーイたちはホントにドラゴンが大好きだな。でも、確かにあんな歌を歌われたんじゃあ、とりこになるよな！ オレなんて、着メロにしてるからな!! 『マッチョドラゴン』はホント、名曲だぜ！

「ターザン山本！は生きていた!!」は説明無用のおもしろさ。このオッサン、ある意味凄いな。狂っている。人がいいのか心が広すぎるのか。
【三重県・ナニがアレださん・会社員・35歳】

🅾オレが想像するに、コイツは目立ちたいだけだ！（キッパリ）。でも、いいじゃないか、なんだか幸せそうだから、許してやろうぜ！ 2ちゃんにへんな書き込みなんか、するなよ。

125号 おもしろかった記事 RANKING

- NO.1 所英男×所ジョージ
- NO.2 ほしのあき
- NO.3 藤波辰爾変態座談会
- NO.4 町山智宏
- NO.5 堀辺正史

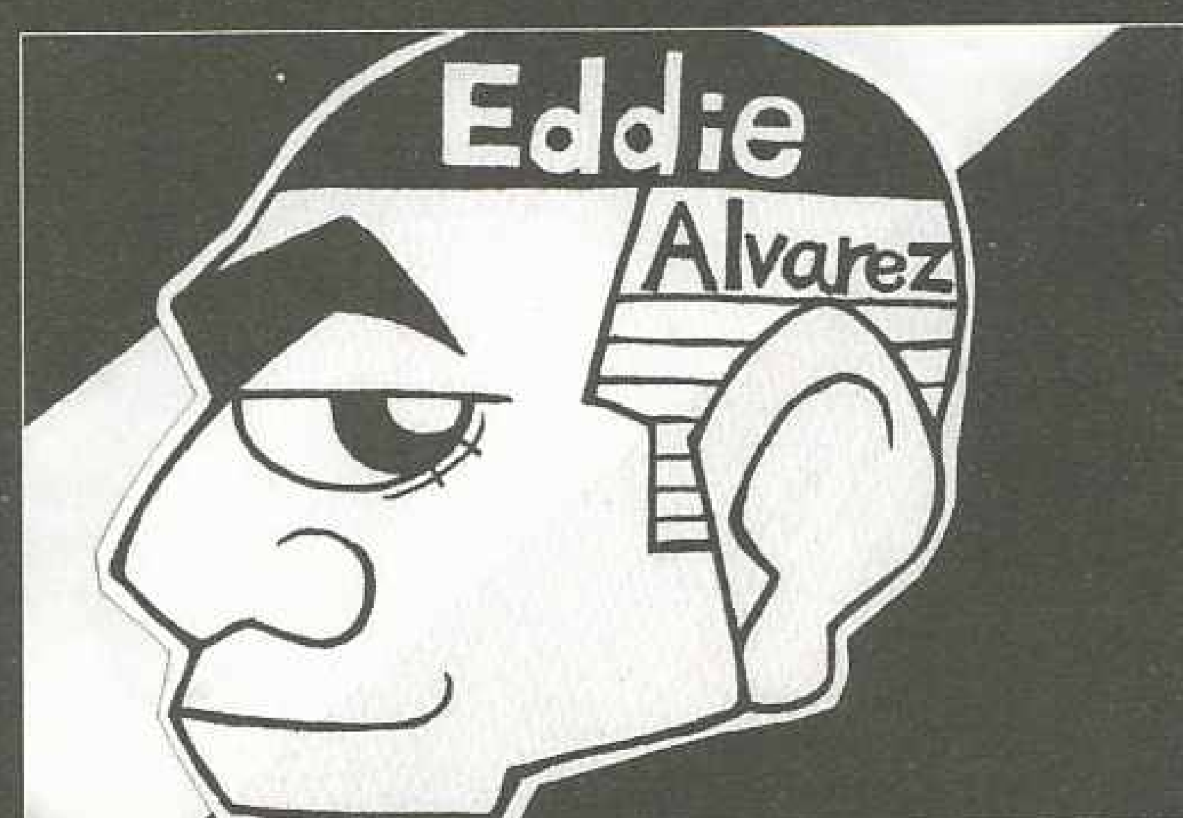
今回はWトコロ対談、アキ・ホシノ、マッチーと、『kamipro』初登場のレディース&ジェントルメンがトップに勢揃いだな！ でもよお、オレが初登場したときには、ベスト5には入らなかったぜぇ……。ちょっと、どうなってんだよ、ボーイズ&ガールズ!! ビッグハートなオレだって、我慢の限界ってやつがあるんだ！ そんなに冷たいと、海を見に逃亡しちゃうぜ！



神奈川県・亜衣さん／オレの大好きなタツヤなのかい？ いくらなんでも、これはちょっと美形に描きすぎなんじゃないのかい？ 確かにタツヤは男前だけどな！ クックック。



埼玉県・棘蟹さん／オレが"ロック"を感じる男、テンザンを描いてくれたんだな。サンキュー！ 何？ このペイジでイラストコンテストをしたいだって!? おっと、これは自信満々だな。検討しとくぜ!!



香川県・ハワイアン・グレイシーさん／これは、眉毛にツッパリ感を感じるエディじゃないか！ ヒャッホ〜。オレもエディに眉毛のお手入れ法を教えてもらいたいぜ！ シャープに頼むよ!!

もうお別れだからって、そんな寂しそうな顔するなよ！ 次号もオレがクレイジーな読者ペイジを届けてやるから待ってろって！



おハガキ募集!!

おハガキ、どんどん送ってくれよ！
ケータイからでもOKだぜ!!
どんな意見、感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだしでも、ぜーんぜんキャッチするから安心しろって！ 待ってるぜ！

こんな情報も24時間どんと来い！ってヤツだ。
- 譲ってほしいもの
- タレコミ情報
- 選手に対するコメント、試合の感想
- その他、オールOKだ!!

以上、すべてのお便り・イラストのあて先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス kamipro編集部
「就職相談」係まで。

携帯サイト『kamipro Hand』からの投稿もできるぜ。

某・国民的写真週刊誌 キャッチフレーズ募集の結果発表！

前号で、ユーたちにお願いした某・国民的写真週刊誌のキャッチフレーズだが……、なんと送ってくれたのは一通だけだ！ いったいこの1ヵ月間、ユーたちは何をやってたんだ!! 賞金5万円っていったら、家賃が1ヵ月ぶん浮くんだぜ！ まったく……。とにかく送ってくれたナイスガイのヤツを発表するぜ！

「『kamipro』とS波氏の隠れファンです」と陽気なコメントつきで送ってくれた東京都のオサム・ワタナベ（渡辺修）の考えたキャッチフレーズは……

Fridayと生きる!!

どうだいS波氏？ せっかく送ってくれたんだから、コメントくれよな！

団体INDEX

※50音順及びアルファベット順

■アパッチプロレス軍
☎03-5610-2609
〒130-0013 東京都墨田区
錦糸2-6-11第2赤木ビル303
http://www.apache-pro.com

■大阪プロレス
☎06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区
恵美須東3-4-36
フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■上井オフィス
☎03-5766-0079
〒150-0002 東京都渋谷区
渋谷3-18-10 5F
http://blog.livedoor.jp/uwaistation/

■キングダム・エルガイツ
☎042-376-1639
〒206-8585 東京都多摩市
関戸4-8-18 TOHO聖蹟桜ヶ丘ビル
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

■健介オフィス
☎048-982-0960
〒342-0041 埼玉県吉川市保1-4-12

■新日本プロレス
☎03-6407-3111
〒153-0042 東京都目黒区
青葉台4丁目4番5号
渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp

■シュートボクシング(SB)協会
☎03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区
花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org

■掣圏真陰流 興義館
☎050-3599-7872
〒113-0033 東京都文京区
本郷3-6-13 太平ビル2F
http://homepage2.nifty.com/seikendo/

■仙台ガールズ・プロレスリング
みちのくプロレスと同じ
http://plaza.rakuten.co.jp/sendaigirls

■全日本プロレス
☎03-3288-0610
〒102-0073 東京都千代田区
九段北1-5-10 岳南九段ビル6F
http://all-japan.co.jp

■大日本プロレス
☎045-321-1598
〒220-0073 神奈川県横浜市西区
岡野1-13-5 横浜西口サンエースビル7F
http://www.bjw.co.jp

■髙田道場
☎03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6
ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com

■日本修斗協会
☎03-5984-3209
〒176-0012 東京都練馬区
豊玉北1-6-13 カエサル江古田B1-101
http://www.alles.or.jp/sshooto/

■ハッスルエンターテインメント
☎03-3221-2431
〒102-0075 千代田区三番町6-1
渡辺ビル2階
http://www.hustlehustle.com/

■バトラーツ
☎048-963-0005
〒343-0046 埼玉県越谷市弥生町9-8
http://www.bat-com8000v.jp

■パンクラス
☎03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp

■ビッグマウス・ラウド
☎03-3888-3375
〒120-0024 東京都足立区
千住関屋町20-16-703
http://www.bigmouthloud.com

■CHICK FIGHT SUN
ZERO1-MAXと同じ

■プロレスリング・ノア
☎03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■みちのくプロレス
☎022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市
若林区土樋236
愛宕橋マンションファラオ E-08
http://www.michipro.jp

■DRADITION
☎03-3402-2474
〒107-0062 東京都港区
南青山4-2-4
シャトー青山第3-204号室
http://www.muga-world.jp/

■ユニオンプロレス
☎03-5360-6653
〒160-0022東京都新宿区
新宿1-12-3 藤田ビル1F
http://union.ne07.jp

■ワールドビクトリーロード
☎03-3369-2211
〒160-0023 東京都新宿区
西新宿7-21-1 新宿ロイヤルビル6F
http://kakutougi-kyoukai.c om/

■DDT
☎03-5360-6653
〒160-0022東京都新宿区
新宿1-12-3 藤田ビル1F
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
☎052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市
中区松原1-2-23 第3栄ビル3F
http://www.deep2001.com

■DREAM(DREAM事務局)
☎03-5775-5065
http://www.dreamofficial.com/

■DRAGON GATE
☎078-333-9797
〒650-0012 兵庫県神戸市中央区
北最狭通7-1-4 サンクチュアリビル
http://www.gaora.co.jp/dragongate

■El Dorado
☎03-5683-5022
〒136-0074 東京都江東区東砂6-13-2
http://sports.livedoor.com/battle/eldorado

■FEG(K-1事務局)
☎03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区
神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/feg/

■GCM COMMUNICATION
☎03-3556-6201
〒102-0093 東京都千代田区
平河町1-4-3伏見ビル4F
http://www.g-c-m.net

■IGF
☎03-5159-3380
〒104-0061 東京都中央区
銀座1-15-2 銀座スイムビル3F
http://www.igf.jp/

■IWAジャパン
☎03-3352-3366
〒160-0022 東京都新宿区
新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp

■JWP
☎03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com

■KAIENTAI DOJO
☎043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市
中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp

■LLPW
☎048-297-9587
〒333-0832 埼玉県川口市
大字神戸162

■MARS
☎03-5550-7308
〒169-0073 東京都中央区
銀座2-12-3 ライトビル2F
http://www.mars-k.com

■NEO
☎044-422-8344
〒222-0002 神奈川県横浜市
港北区師岡町879
http://www.neoladies.com

■RIKIPRO
☎03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区
久が原3-31-1(RIKIPRO道場内)
http://www.rikipro.com

■SMACK GIRL
☎03-5360-7728
〒151-0051 東京都渋谷区
千駄ヶ谷5-23-7
http://www.smackgirl.com

■U-FILE CAMP
☎044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市
多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com

■U.K.R
☎044-833-4130
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

■U.W.F.スネークピットジャパン
☎03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区
高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■ZERO1- MAX
☎03-5730-3966
〒105-0014 東京都港区芝2-8-13-2F
(株)ファースト オン ステージ
http://www.zero-one-max.com/

■ZST
☎03-5388-0808
〒151-0053 東京都渋谷区
代々木2-23-1
ニューステイトメナ-833号室
http://www.zst.jp

マット界の周辺情報をお届け!!

kamipro Info

DVD

6.15『DREAM.4』のDVDが早くも登場!!

美しくも悲しい、桜庭和志の覚悟を絶品の煽りVTRとともに見届けよ!



6.15『DREAM.4』が早くもDVDで登場! ミドル級GP2回戦では、桜庭和志が猛獣・マヌーフと対戦! 煽りVでは石原裕次郎の「我が人生に悔いなし」を歌い、壮絶に散ったサクの試合は、まるで一つの短編作品を思わせる内容。ほかにも強烈な個性と技術が激突したジャカレイ vs メイヘム戦、銀メダリストの永田克彦を完封した青木の底知れぬ強さなど、見どころ満載! 必見だって!!

★『DREAM.4 ミドル級グランプリ2008 2nd ROUND』(TCエンタテインメント)
★定価5,040円(税込) ★9月24日発売 ★収録時間107分

DVD

スマックガール旗揚げ7周年記念DVD第2弾!!

女子格闘技のパイオニアスマックガールの歴史を振り返れ!



6月に発売されたスマックガールの旗揚げ7周年記念DVDに続き、早くも第2弾が登場! 今回は"絶対女王"辻結花、ライト級&ミドル級王者の試合を中心に構成。内容も245分とテンコ盛り! 熱く激しいオンナたちの華やかな闘いを見逃すな! 今年の7月大会を延期し、現在再始動の道を模索中のスマックガールだが、ファンはこのDVDを観ながら来るべき復活の日を待て!

★『SMACK GIRL スマックガール大全集 vol.2』(ビデオメーカー)
★定価5,880円(税込) ★9月20日発売 ★収録時間245分

DVD

新日本プロレスの08年上半期の激闘がDVDに!!

友情、裏切り、対抗戦、IWGP!! 新日本の旬なおもしろさ満載!!



絶好調の新日本プロレスが08年度上半期の名勝負を凝縮したDVDをリリース! 上半期に新日マットを席巻した天山&飯塚の"偽りの友情タッグ"、「対抗戦最高!」の声が飛んだZERO1-MAXとの全面対抗戦、棚橋、中邑、そして武藤へと流出したIWGPをめぐる激闘、さらに脳異常の疑いで欠場した永田さんの復活劇まで、とにかくおもしろいいまの新日本を完全収録!! 観ないと損するよ!

★『新日本プロレス 激闘録 2008年上半期』
★7,140円(税込) ★9月26日発売 ★収録時間200分

SHOP

伊勢崎市で営業中のミスター・ポーゴのお店!!

鎖鎌で魚をさばき、火炎噴射で焼くそんなお店で一杯いかが?



まだまだ現役のミスター・ポーゴは、鎖鎌で魚をさばき、火炎噴射で魚を焼くというパフォーマンスでマニアから絶賛される『味処ぽーごちゃん』を群馬県伊勢崎市で営業中!! もとは焼鳥屋だっただけに、メニューも豊富! 人気メニューは、危険なヒールキャラのポーゴならではの火鍋ちゃんこ(920円)、激辛スープカレー(700円)などの激辛メニューも! 一杯やってく?

★「味処ぽーごちゃん」 群馬県伊勢崎市今泉町1-1527-2
★営業時間/18:00~24:00 ★問/0270-24-5003

BOOK

激動期を駆け抜けた男の手による悪党列伝!

"平成プロレス仕掛人"永島勝司がマット界の悪党10人を斬る!



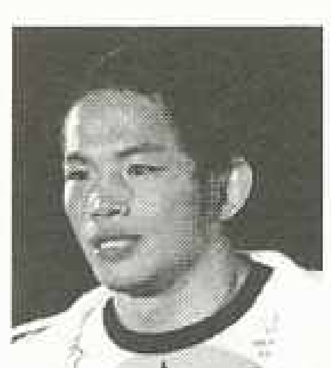
新日本プロレスの企画宣伝部長としてUWFインターナショナルとの対抗戦など、さまざまな企画を実現させた"平成プロレス仕掛人"永島勝司が、猪木、馬場、橋本真也、小川直也、大仁田厚などのレスラーから、ミスター高橋、上井文彦、ターザン山本まで、マット界の悪党10人を斬る! 波瀾万丈のマット界の内側を知る男が何を語り、どう分析するのか? 心して読め!

★『プロレス界を揺るがした10人の悪党』永島勝司著(オークラ出版)
★定価1,500円(税込) ★9月28日発売

GYM

山梨県に新道場『FourRhombus』がオープン!!

和術慧舟會山梨支部が9月末まで入会金無料キャンペーン実施中!!



岡見勇信、宇野薫らを総合格闘技界のトップファイターを輩出した和術慧舟會が山梨県に新道場をオープン! すでに会員数は20名以上で打撃や組技の練習を下は高校生から上は50代まで、女性や初心者もみんな同じメニューで練習中! 9月末までオープン記念として入会金1万円が無料になるキャンペーンも実施中! 格闘技を始めようと思っている人はぜひ入会しよう!

★和術慧舟會『FourRhombus』山梨甲府道場 ★会費/3,000円
★問/fourrhombus@yahoo.co.jp(豊田)

GYM

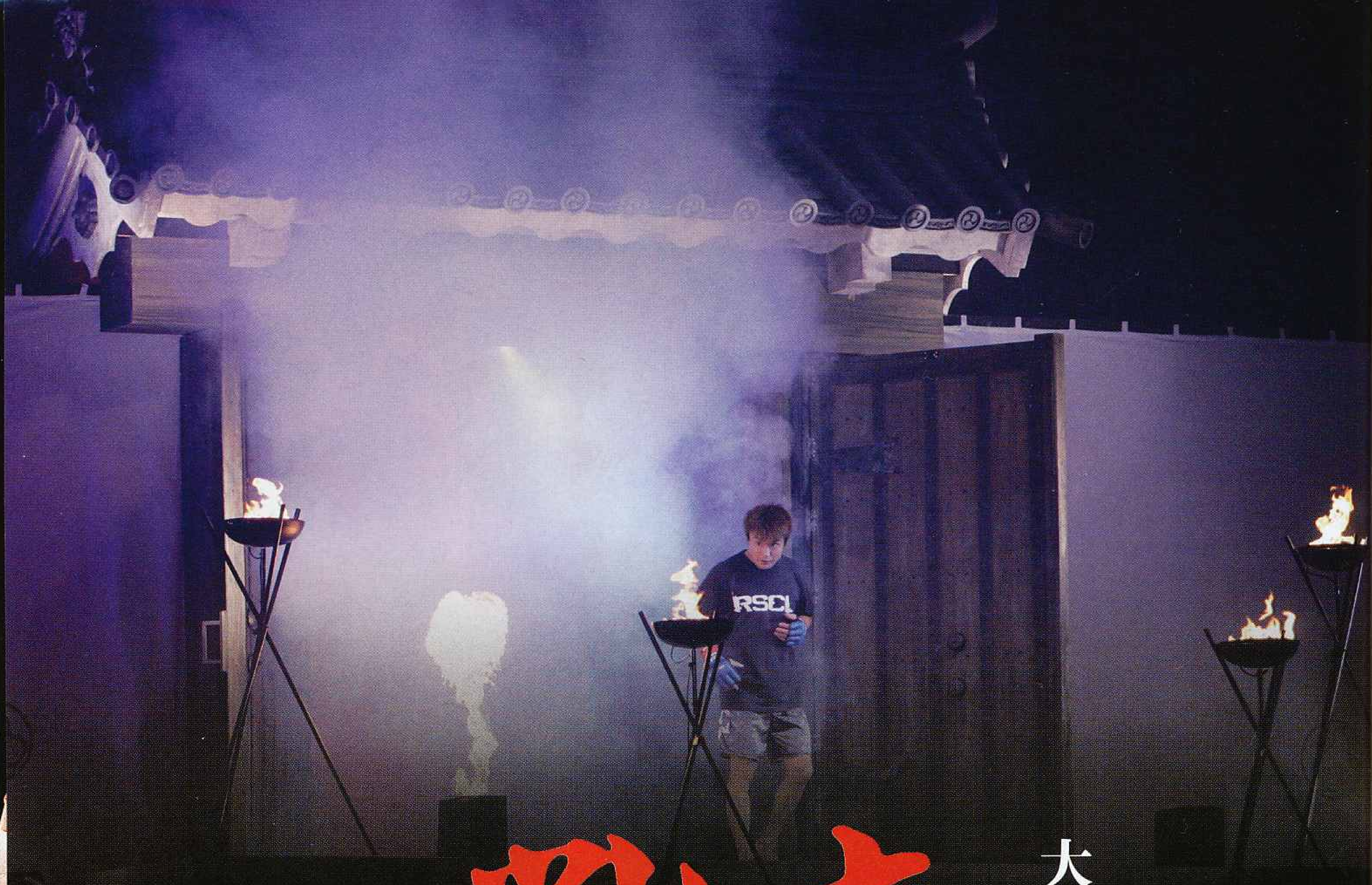
格闘技ショップ「ブルテリア」がジムをオープン!

ブラジリアン柔術王者が徹底指導! 最高の技術を学ぶチャンス!!



静岡の格闘技ショップ「ブルテリア」が10月1日から浜松市に格闘技ジムをオープン! コースはプロ向けコース、一般コース、キッズ柔術クラスなどを用意!『DEEP X』というグラップリング大会を定期開催し、多くのブラジリアン柔術家を招聘する「ブルテリア」だけに、メインインスラクターにはブラジルの柔術王者がズラリ! 最高の技術を学ぶチャンスを逃すな!

★「ブルテリア格闘技ジム」 ★公式HP/http://www.b-j-j.com/gym
★静岡県浜松市東区積志町496-1-2F ★問/053-433-7971



大晦日へ向けマット界再編が加速？

来るぞ！戦極時代

爆発5秒前！

気がつけば、2008年も、あと3ヵ月ばかりで終了。日本の総合格闘技界では、大晦日の『Dynamite!!』はもちろんのこと、水面下ではすでに来年へ向け、さまざまな動きがあるようで、一部ではマット界再編の噂もささやかれていたりする。そんななか、今後の日本MMA界のカギを握るのは『戦極』との説もあるが、その意味とは!?

撮影／乾普也

小　この号が書店に並ぶ頃には『DREAM・6』や、『戦極～第五陣～』も近いんで盛り上がってると思うんですけど、この座談会を収録している9月9日時点では日本のMMA界は大きな話題がないですね。
中　海の向こうのUFCでは、クートゥアーvsレスナー戦が発表されたり、リデルが衝撃のKO負けを喫したり話題満載みたいだけどさ。
小　そういえば、一部スポーツ紙ではUFCオーナーのロレンゾ・フェティータとダナ・ホワイト代表が来年の3月から5月に日本大会を開催して、五味隆典や山本KIDらに参戦を呼びかけた、なんて話も出てましたけど、実際どうなんですか？
大　あれはリップサービスの域は脱してないね。WOWOW中継が再開されることもあって、日本の記者が現地まで取材に来てくれたんでダナもネタになるようなことを言ってあげたんでしょ。だいたい海外のマスコミはどこも報じてないし。
中　現実的にはフィリピンや韓国での開催を狙っているという話だよね。
大　まあ、UFCのことは、ひとまずおいといて、表には出てないが、日本のMMA界も水面下ではかなり激しい動きが起こってるんだよ。
小　やっぱり、大晦日絡みですか？
大　そのへんも含めて、いくつかビッグプランの噂も入ってはきてるんだけど、具体的な話は何一つない。
小　噂ならいいじゃないですか⁉
大　UFCならともかく、日本のMMA界が9月上旬に大みそかの具体的なカードの話ができるわけないだろ。それに噂の段階で話を出して、もし壊れたら、それこそ『kamipro』のせいにされちゃうぞ。
小　それは困りますよね。話せる範囲で何かネタはないんですか？
大　DREAMのほうは9月大会のあとは、11月に韓国大会を予定してるって話があったけど、いまのところ発表はされてない。同じく11月には『戦極』もミドル＆ライト級GPの決勝大会を開催するってことなんだけど、こちらも現段階では日程も会場も発表されていない。まあ、このあたりも、ちょっと年末に向けてのMMA界の動向も含め、気になるところだね。この号が発売される頃には発表されているだろうけど。
小　なんですか、意味深に。もしかして、『戦極』とDREAMの対抗戦の可能性もあるってことですか？
大　冷静に考えてみろよ。対抗戦だとか、○○が○○に吸収されるだとか、○○と○○が合併するとか、そんな話が簡単にまとまるわけないだろ。
中　かつての新日本vsUインターの対抗戦のときの長州みたいに「よし、ドームを押さえろ！」ってわけにはいかないだろうし。
大　プロレスとはわけが違う。いまのMMA界ってのは、単純にDREAMや『戦極』、K-1といった団体だけの話じゃなく、契約を含めて選手個人の意向も複雑に絡んでくるんで何をするにも一筋縄ではいかない。
中　でも、たとえばだけど、将来的に『戦極』とDREAMだったり、UFCと日本連合軍の対抗戦っていうのは実現不可能な話なの？
大　いや、水面下で何やらマット界再編の動きも出ているみたいだし、犬猿の仲と思われている団体同士でも、完全に敵対しているわけではないので可能性は全然ないわけじゃな



座談会出席者

【大】悩みはプロレスラーと間違われることだという無駄に大きい業界事情通。英語が堪能なため海外情報にもめっぽう強い。いま一番気になっているのは大森さんの退団理由だとか。

【中】第一回のUFCを現地観戦し、その後も『TUF』など関連興行も含めUFC系イベントは全部チェック済みというのが自慢の格闘技系ライター。ちなみに彼女いない歴は20年以上。

【小】MMA好きが高じて某総合格闘技イベントに携わるも、わずか3ヵ月で脱走。その後、自らも格闘技を学びながら某媒体でプロレス&格闘技の取材を積極的に行なう若手記者。



大晦日をきっかけに、なんらかのマット界再編の可能性はある

い。ただ、それぞれのイベントの思惑とかも複雑に絡み合ってるんで、どうなることやら。まあ、その中でもキーになるのは『戦極』だと思う。

小 エッ、どういうことですか？

大 念願だった地上波放送の話も現実身を帯びてるという話を聞くしね。まずは深夜枠みたいだけど。

中 あ、そうなんだ。

大 すでに発表されてるかもしれないけど、それ以外でもいろいろとテレビ方面の動きはあるみたいだし。

中 そういえば、『戦極』のビッグスポンサーでもあるドン・キホーテがパンクラスを買収したとかって噂もよく耳にするけど。

大 買収も何も、ドンキは、それこそ『戦極』ができる何年も前からパンクラスのスポンサードをしてるしね。まあでもパンクラスの会社組織に変更があったのは事実だし、いままで以上にドンキとの結びつきが強くなる。そのへんのことは携帯サイトの『kamipro事件簿』で連載中みたいだから、そちらにアクセスを。

中 『戦極』ではニューイヤーイベントをやるって話をしてたよね？

大 いまのところ、年明け早々に大会場で開催するって説が有力だね。

中 ニューイヤーに大会場っていっても大晦日には『Dynamite!!』があるし、直接関係ないかもしれないけど1・4は新日本の東京ドーム大会もあるし、やるからには大きな目玉が必要なんじゃないの？

大 もちろん、それ相応のことは考えてるだろうし、『戦極』に限らずだけど、すでに年末年始のイベントに向けて……、って、まだ言えないな。

小 さっきから、もったいぶってないで教えてくださいよ！

大 ゴニョゴニョゴニョ（と耳打ち）。

小 え～っ、ホントですか⁉

大 それだってどうなるかはわからないけど。ただ、さっきも言ったように『戦極』はパンクラスとの連携がしっかりとれてるし、地上波の話やニューイヤーイベントがあったり、北京五輪が終わってメダリストの参戦もありえる。肝心の大会自体の内容も上向きになってきてるっていうのも含め、動きが活発化してきた『戦極』は注目したほうがいいよ。

中 『kamipro』発の戦極ボーズも陽の目を浴びるかも？

大 それはないな（冷静に）。ただ、大晦日をきっかけに、なんらかのマット界再編の可能性はある。それくらい大晦日っていうのはビジネスチャンスでもあるから。

中 でも、谷川氏はインタビューで否定気味だったんだろ？ まあ、肯定はしないだろうけどさ（笑）。

大 まあでも、日本のMMA界は、これまで以上の戦国時代に突入するってこと。これは間違いない。

小 そうなんですか。『戦極』に限らず、激動の予感プンプンの日本MMA界最新情報は『kamiproドットコム』か『kamipro Hand』でチェックしましょう!!

【08年9月9日／都内某所にて収録】



郷野聡寛が見た

五味隆典の底力！



8・24『戦極～第四陣～』解説席から見たこの男が斬る！

『戦極～第四陣～』にて、ひさびさの登場となった五味隆典。その試合を、『戦極』中継解説者にして本誌の〝『戦極』ご意見番〟である郷野聡寛は『kamipro Hand』のコラム『郷野聡寛のMONDAY NIGHT FEVER』で大絶賛！ その真意をうかがうべく、さっそく郷野のもとへ駆けつけた！

聞き手／松下ミワ　撮影／乾晋也

――郷野さんには『kamipro Hand』のコラムで8・24『戦極』の全試合レビューをやっていただいたんですけど、その中で、五味選手をかなり評価されてましたよね？

郷野　あの試合は最前列で、下から見上げる感じで観ていたんですけど、五味くんの表情もよく見えて、「いろんなものと闘いながら試合してるんだろうなぁ」なんて思いましたね。

――五味さんはメインでしたし。

郷野　もちろん、お客さんが何を望んでるかは本人もわかっていたんでしょうけど、でもその中で、相手のハン・スーファンが、基本的には「相打ち上等、自分のパンチが先に当たって五味くんが倒れてくれたらもうけもん」みたいな感じで、ずっと待ちの状態から、五味くんが来たら相打ちのタイミングでパンチを振るという闘い方の選手でしたからね。その中へ飛び込んでいって、五味くんも相打ち覚悟で強いパンチを打つというのは、ちょっと厳しかったんでしょうね。

――五味さん自身「相手はカウンター狙いだった」とコメントしてましたし。

郷野　そういう相手のカウンター、とくに相打ちを警戒しながらだと、やっぱりどうしてもおもいっきり踏み込んでパンチを打つというのは、自分の頭が下がって相打ちのタイミングでのカウンターを食らいづらいボディ以外は難しいですからね。強いパンチをガツンと入れるには、きっちり踏み込まなきゃならないでしょ？　そこに相打ちのタイミングで相手の強打が、ときにはまとめてくる。そうなると、いくら両者のあいだに実力差があったとしても、そのパンチを出し合ってる瞬間というのは、先に当たったほうが倒れるという、いわばフィフティ・フィフティの状態になるわけですからね。相手のパ

俺目線で見たら五味くんは完勝もいいところですけどね

ンチにもけっこう殺傷能力を感じていたと思うし、なかなかそんなリスクは冒せなかったんだと思います。それでも時間の経過とともに実力差が表われて、これっぽっちも相手に傾かなかったじゃないですか。

――確かに、向こうが優位になった瞬間ってないですよね。

郷野　2ラウンドには強烈なボディでダウンさせたし。あれはひと目で誰にでもわかるような「効いた！」っていう反応をスーファンがしましたからね。あんな見事なボディを効かせて、実力差をハッキリと見せて勝ったんだから、俺目線で見たら完勝もいいとこなんですけどね。

――完勝ですか！

郷野　もし俺だったらね、3ラウンドの残り10秒くらいは、シュガー・レイ・レナードよろしく両手挙げてリングをぐるぐる回って、「俺の勝ちだぜー」って余裕こいてアピールしながら流して終わりたいぐらいですよ。でもやっぱり五味くんは「判定ダメだよ。KOじゃなきゃ」ってスタイルの選手だから凄く倒したかったはずだし、でも本人も試合後に言っていたように、タイトルマッチの前にポカするわけにはいかないってプレッシャーもあって、その狭間で苦しみながらの試合だったんでしょうね。

――「いろんなものと闘ってた」というのはそういう部分なんですね。

郷野　俺のすぐうしろにいたお客さんも「倒せ！　倒せ！」ってずっと言ってて、そういうのも五味くんの耳に入っていたと思うし。だから、倒してぇ！　……でも相手の相打ち食らったらヤバいしな。でもメインだし行かなきゃ！　……でも万が一ここでコケちゃったら、「ロード・トゥ・俺」のトーナメントの手前カッコつかないしな。でも客席は「倒せ！」って言ってるし、やっぱ行かなきゃ！　……でもロー蹴って足痛めて踏み込めねえ……みたいな。そんなことを隣の席のお嬢さんにお話ししながら観ていたんですけどね。まぁ全部俺の想像ですけど。

――でも、PRIDE時代からすると、ちょっともの足りないなと感じる人もいたみたいなんですよ。

郷野　でも、アウレリオとやった2戦目も、同じような感じの試合だったじゃないですか。だからね、いくら五味くんでも、たまにはそんな試合のときもあるって。スカ勝ち率100パーセントなんて、なかなか難しいですよ。五味くんはいつもそういうことをやってきたから求められちゃってる部分がありますけど、今回だって内容としては、これまでキャリアに勝る日本人選手をことごとく倒してきたスーファン相手に、きっちり実力差を見せて勝ったわけでしょ？　だから、俺から見たらやっぱり完勝なんですよね。

――じゃあ、五味さんへの期待度でいうと、ぜんぜん落ちてない、と。

郷野　それでいいと思いますよ。あれだけの選手ですから。それに過去、PRIDEでの判定試合の次の試合では、爆発的な勝ち方をしてきている五味くんですからね。そう考えたら、次はまた凄い倒し方しちゃうんじゃないの？　なんて楽しみにすることもできると思うしね。

――期待度でいうと、瀧本さんの〝限界発言〟にも郷野さんは「10戦にも満たない経験で限界も何もない」と、陰ながらエールを送られてましたよね？

郷野　あれはべつにエールとかそんなんじゃないんですけどね。客観的にそう思っただけで。だって、そんな簡単な世界なわけないじゃないですか。PRIDE時代、ガレシックとかブスタマンチに勝った試合も、ラッキー的要素を含んだものだったと思いますからね。本人は、毎回ああいう試合ができないとって思うかもしれないですけど。

――そこも五味さんと一緒で、必ずしもいい試合が続くわけがない、と。

郷野　正直、まだまだMMAの選手としては発展途上じゃないですか。コラムでも書きましたけど、「総合に対応しかけの柔道技術＋まだまだな打撃＋10戦の経験」なわけですから。確かに、俺も10戦やったかどうかってくらいの頃に、超不完全燃焼の判定負けをして、本気で「限界なのかな……？」って思い悩んだことがあったから、気持ちもわからないでもないんですけどね。本人も一生懸命やってるからこそ限界と思っているのかもしれないですけど、でもやっぱり30戦、最低でも25戦くらいはやってみないとわからないと思いますよ。

――それで、次回大会9・28『戦極〜第五陣〜』ではミドル級トーナメントが行なわれます。

郷野　正直、どうしても同じ時期にやっているDREAMのミドル級GPと比べられてしまう傾向にあると思うんですけど、外国人選手の強さであったり、浸透度で言えば、これはDREAMのほうに分があるかな……ってところですかね。でも、それは単純にイベントとしてのこれまで蓄積の差だと思うんで、仕方のないことだと思いますけど。

――そういう条件を含めて盛り上げていくにはどうしたらいいですか？

郷野　俺的にいろいろ考えたりはしますけど、話すと長くなるんで。でもとりあえず、〝マイクの鬼〟としては、選手のマイクはもうちょっとなんとかしようぜって思いますね。

――マイクにはうるさい郷野さんですからね。

郷野　『戦極』に限らないですけど、「どこどこの誰々です。また頑張りますので、応援よろしくお願いします」だけのマイクなんて誰も聞きたくないでしょ？　自己紹介ならパンフにあるし、試合前に流れるVTRでも充分紹介してくれてるんだから。ホント、マイクを持つなら自己アピールだけじゃなく、「お客さんを楽しませよう」って意識がどこかにないと絶対にダメですよ。主催者にも、そのへんは選手にプレッシャーをかけてもらいたいですよね。「マイクを持つなら、自分なりにファンを楽しませる努力をしてください。それができないなら持たないでください」ぐらいのね。

――その点、郷野さんの〝指導下〟にある横田選手はどうでした？

郷野　アイツは一番俺の背中を見ていたはずなのに、そこから何も学んでいなかった……。

――そうですか（笑）。

郷野　ファンを楽しませるためじゃなくて、言い訳、自己弁護をするためにマイクを持つだなんてありえないですよ！　あとね、横田に関しては『kamipro』さんもダメですよ！

――え⁉　本誌が何かしました？

郷野　大会前の横田のインタビュー記事の締めで、キャラに関して、「方向性は定まってませんが、ハゲではないと思います」って書いてたけど、本人がハゲで行くって言ってんのに、その機先を制さないでくださいよ！

――それは失礼しました（笑）。

郷野　あのインタビューで、せっかくの彼のキャラ作りの努力を台なしにしたのをわかってますか⁉　こちらからしたらホント大迷惑ですよ！

――でも、ハゲの人っていっぱいいますし……。

郷野　そんな話をしてるんじゃないでしょ！　とにかく、『kamipro』さんのせいで、彼のせっかくのキャラ作りは頓挫ですよ！

――そこは郷野さんがプロデュースしてくださいよ（笑）。

郷野　そんな余裕はないです。自分のことで精一杯ですから。練習に英語の勉強、それに次の入場もまだまったく方向性が決まってないし……。

――そ、そうですか。

郷野　だから正直、こんな偉そうに人のことをとやかく言っている場合じゃないんですよ！

――というわけで、郷野さんの『戦極』解説でした！

【08年9月9日／都内某所にて収録】



『戦極～第四陣～』、一番インパクトを残したのはこの男！

強くてキモい！

語ろう！北岡悟

撮影／乾晋也

皆さん、こんにちは。『Kamipro』編集長のジャン斎藤です。残暑が厳しい8月25日、『Kamipro』編集部では、No・127の編集企画会議が行なわれ、次々に掲載企画が決定しております。残されたのは『戦極』企画のみ。なぜ『戦極』だけが残ったのでしょうか？

たとえば、インタビュー企画をやろうにも、本誌の発売はライト級GPが開幕した『戦極〜第四陣〜』の約1ヵ月後。それではちょっと遅すぎるために、何かもう一つひねりがほしいと思い、編集部員の声を聞くことから始めたのですが……、良きにつけ悪しきにつけ、誰もが口を揃えて名前を挙げるのがあの男だったのです。とりあえずICレコーダーを回してみました。

いま顔芸で会場がどよめくのはテイカー、永田さん、北岡ぐらい（ノブ）



機動戦士ガンダムの主題歌「哀戦士」のGacktバージョンに乗って客席をなめ回すように身体を揺らし入場してきた北岡。試合直前には対戦相手のフレンチを三白眼で睨みつけるなど、すでに北岡ワールド全開！ キモッ!?



[8.24『戦極〜第四陣〜』] 埼玉・さいたまスーパーアリーナ
[戦極ライト級グランプリシリーズ2008]

○北岡悟vsクレイ・フレンチ×
（1R 0分31秒 アキレス腱固め）

開始直後、片脚タックルからグラウンドに持ち込んだ北岡はフレンチの足を取ると一気にアキレス腱固め！ 試合タイムわずか31秒と自身の持つ『戦極』最短試合時間を更新させ、喜びを爆発させると恍惚の表情＆各種ポーズをキメまくり観客の目を、いろんな意味で釘づけにした北岡（右ページ参照）。

――……というわけで、『戦極〜第四陣〜』の感想から？

ガンツ いろいろあったけど、終わってみると、北岡悟の恍惚の表情しか覚えてないんだよ。

ノブ そうだね。やっぱり印象に残ったのは北岡かなあ。

真下 北岡悟ですっ！（試合後の北岡のマイク調で）。

チョロ シャキーン！ シャキーン!!

編集部以外の感想を聞くかぎり、ライト級GPで勝った光岡（映二）や廣田（瑞人）の評価は高いですけどね。

ノブ 普通に評価すれば、ライアン・シュルツに勝った廣田瑞人、ホドリゴ・ダムに勝った光岡でしょう。でも、北岡は相手に何もさせずに勝ってるから、格闘技的にいえば一番評価されてしかるべき内容だったと思うんだけど。

語ろう！北岡悟

ガンツ そんな快勝を自己愛でかき消してしまったところもあるでしょ。自分に酔いしれながらの入場、そして試合後の勝利のポーズとマイクアピール。それが気持ちいいくらい、気持ち悪い！（笑）。

――気持ちいいくらい、気持ち悪い（笑）。

ガンツ だって、北岡が勝ったあと、その気持ち悪さにドヨメキが起こっていたくらいですから（笑）。

真下 凄かったですねぇ……、あの突き抜けた陶酔っぷりは。

ガンツ でも、北岡が凄いのは、その気持ち悪さが突き抜けすぎて、芸になり始めてるんだよね。その光景を見て、これは何かが生まれた瞬間かもしれないっていう気になったし（笑）。

ノブ いまのところ〝顔芸〟で会場がどよめくのって、アンダーテイカー、永田さん、そして北岡ぐらいだよね。

ガンツ そしてナルシストが商売になるのは高野拳磁以来だね。で、北岡の自己愛がどのぐらい気持ち悪いかというと、夢香姫級です！

チョロ シャキーン！ シャキーン!!

ガンツ ただ、夢香姫の場合は、たんに不快なだけなんだけど、北岡はその不快を通り越して、新たな境地にいく可能性があるというか。

――嫌いなんだけど、本当はもしかして好きなのかもしれないという感情に。「これって恋かも……本当はアイツこと嫌いなのにぃ！」みたいな（笑）。

ガンツ あと『戦極』での北岡のキャッチフレーズは「絞め技態将軍」だったっけ？

ノブ そうそう。北岡って、たしかクマちゃんキャラがトレードマークなんだよね。

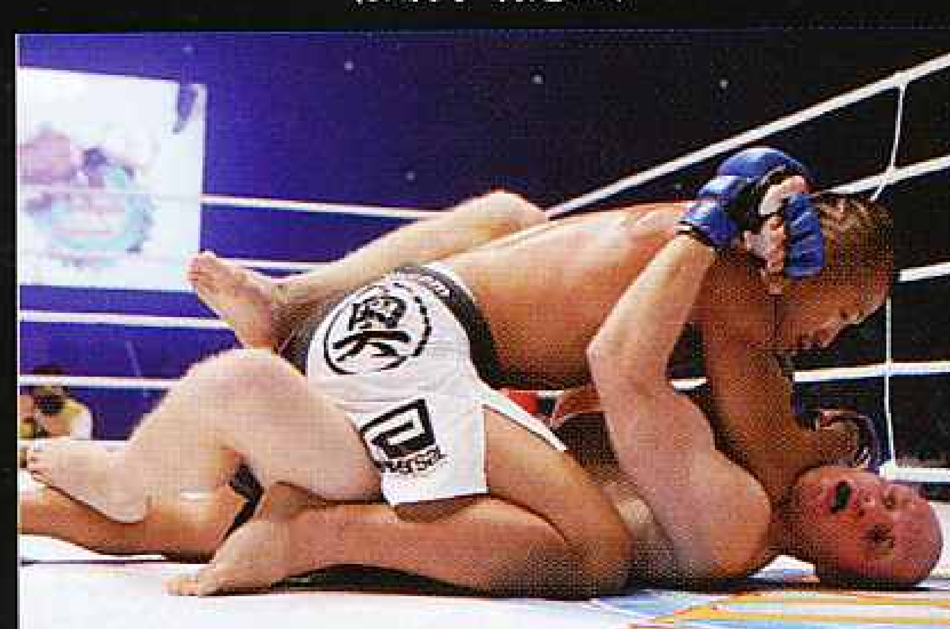
戦極ライト級GPは北岡以外の日本人も全勝！

[戦極ライト級グランプリシリーズ2008]
○廣田瑞人vsライアン・シュルツ×
（2R 4分45秒 KO）



戦極ライト級GPの第一試合はケージフォースライト級チャンピオンの廣田とIFL世界王者のシュルツの一戦。優勝候補として注目されていたシュルツに対し、廣田は2R終了間際、ジャンピングフックからのパウンド連打で見事KO勝ち。一足お先にGP準決勝戦進出を決めた。

[戦極ライト級グランプリシリーズ2008]
○横田一則vsボーヤン・コセドナー×
（3R終了 判定3-0）



大会前から優勝宣言していたグラバカの横田だったが、初来日のコセドナー相手に不完全燃焼の判定勝ち。試合後は「すみません、ケガで満足に練習できませんでした」と言い訳マイクを炸裂させ場内はブーイング三昧。解説席の郷野にもダメ出しされた横田はしょんぼり退場。

[戦極ライト級グランプリシリーズ2008]
○光岡映二vsホドリゴ・ダム×
（1R 3分13秒 チョークスリーパー）



DREAMライト級GPで優勝したヨアキム・ハンセンに勝利を挙げている光岡が宇野薫をセコンドに引き連れ登場。試合は強豪ダムに対して右フックでダウンを奪うと一気にチョークを極め見事一本勝ち。試合後は同棲中の彼女に中途半端なプロポーズを炸裂させ、らしさを発揮した。

キャラクター化、商品化に成功したパンクラス自己愛。それが北岡悟（ジャン）

ガンツ　だからって「絞め技熊将軍」はないでしょう（笑）。

真下　あと、Gacktがカバーした、ナルシス全開でどうにも気持ち悪い『哀 戦士』（原曲は井上大輔、映画『機動戦士ガンダムⅡ』主題歌）を入場テーマ曲に使っているというチョイスに、人間性のすべてが投影されてるというか……。

ガンツ　あれは、『戦極』＝シャアの声ってことで、『哀 戦士』をテーマに使うことで、「自分こそ『戦極』の大黒柱」宣言なんだと思う。間違った青木真也というか（笑）。

ノブ　だから、その勘違いした気持ち悪さが、逆に売りになると思うんだよ。

ガンツ　でも、さすがに北岡本人を目の前にして「気持ち悪いですねぇ……」と質問するわけにいかないでしょ？

ノブ　じつは『kamiproドットコム』でインタビューしたんだけど、本人に伝えた。「気持ち悪いですねぇ」って。

——なんて失礼な話（笑）。

ノブ　あまりの気持ち悪さに、海外ではゲイ疑惑が浮上していることも伝えて。オレ、ゲイの友だちがいるんだけど、こっちのゲイって容姿も言動も世をしのぶ仮の姿で生活してる場合が多いけど、海外のゲイはわりと堂々と生活してて、ああいう人たちは自分の思い描いたキャラクターの中に生きているような。要は、海外のゲイに通じる気持ち悪さが北岡にあるのかなあ。気持ち悪さを外へ外へと出してくるっていうか。だから海外でそういう反応があったのかもしれない（笑）。

ガンツ　ゲイというより、さっきの夢香姫の話じゃないけど、勘違いした女というか。「私、かわいいでしょ」「べつにあなたのこと、そんなに見てませんよ」という感じ？

ノブ　でもさ、北岡は「私を見て！」な姿勢でしょ。その姿勢はプロとして絶対に買えるんだよ。「私を見て！」の姿勢でビッグマウスを仕掛けて、それで失敗してるのが横田（一則）なんだけど。

ガンツ　横田は意識してビッグマウスになろうとしているという〝郷野系〟だけど、北岡はナチュラル・ボーン。男・しなしさということというか（笑）。

チョロ　でも、そういう意味では光岡のほうがナチュラルだと思う。せっかく、凄くいい試合をしたのに、本人も自覚するグダグダマイクでリング上から彼女へ中途半端なプロポーズを始めたり。

——おそらく光岡は慧舟會のノリだっていうのはわかるんですよ。

ガンツ　光岡は昔の宇野くんとミートくん（廣野剛康）系だよね。でも、北岡は半分わかってて、半分は天然。その自己愛も含めて「パンクラスだなあ」という感想が一番しっくりくる。

真下　郷野（聡寛）も前回の『戦極～第二陣～』での北岡の試合を観て言ってたように、鈴木みのる直系の芸風というか。

ガンツ　そのへんに近い気はする。「オレがパンクラスだ！」と訴えてくる暑苦しさというか。

——それは「オレこそ、ハッスルだよ！」の坂田亘ともまた違うのかな？

ガンツ　坂田はなんか自分に言い聞かせてる感じがする（笑）。

真下　坂田本人がそう言うことで、「あ、そうなんだ」って観客も納得する感じで。

ガンツ　北岡はもう言い聞かせ終わって、本心から「オレがパンクラス」って思ってるフシがあるよね。

——要するに、キャラクター化、商品化に成功したパンクラス自己愛。それが北岡悟って感じで。

ノブ　そもそも北岡はパンクラスに入りたくてこの世界に入ってるからね。で、北岡いわく、そういうパンクラスらしさを出せてる人間は、川村（亮）と、あと「伊藤（崇文）さんもいいものを持ってる」と。

ガンツ　伊藤は確かにパンクラスらしさを持ってる！　あの帽子被って踊ってる感じとか、デビュー当時からビンビンにらしさを発揮してたから（笑）。

チョロ　北岡は鈴木みのる、伊藤崇文のラインというのはわかりますね。北岡は練習仲間の今成や青木の〝変態〟とはどう違うんですかね？

ノブ　技術的なところで言うと、北岡は



[8.24『戦極～第四陣～』]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ

○五味隆典vsハン・スーファン×
（3R終了 判定3-0）

『戦極』初のメインとなった五味の相手はDEEPライト級王者のスーファン。試合は自身が放ったローキックで右足を痛めながらも、五味が終始優位に進めフルマークの判定勝利。不満げな表情を浮かべた五味だったが、試合後にはライト級初代王者になることをファンに約束。獲れんのか？

8・24『戦極～第四陣～』その他ダイジェスト

○ヴァレンタイン・オーフレイムvs高橋和生×
（1R 2分42秒 KO）



ひさびさの来日となるオーフレイムがここ最近結果が出ていない高橋と対戦。高橋は得意のタックルからテイクダウンに成功するもスタンドに戻されるとオーフレイムのパンチからの飛びヒザ蹴りがアゴに直撃。口から流血した高橋はそのまま病院送りとなってしまった。

○モイス・リンボンvsピーター・グラハム×
（2R 0分42秒 チョークスリーパー）



第2試合ではセコンドに小路晃をつけたグラハムがフランスの悪童リンボンと対戦。K-1ルールで、あのバダ・ハリを下したこともあるグラハムのお株を奪うような豪快な右フックでダウンを奪ったリンボンはパウンドの連打からバックに回ると一気にチョークを極めて一本勝ち！

○ヤン・ドンイvsパウエル・ナツラ×
（2R 2分15秒 TKO）



PRIDE以来の日本マット登場となる柔道金メダリストのナツラが韓国のドンイと対戦。試合はドンイのローブローを二度食らったナツラがそのダメージのためか、試合途中、レフェリーが10カウントを数えても立ち上がらなかったため試合放棄と見なされレフェリーストップ負けを喫した。

「いきなり下からもぐって足関を取りにいくのは、ボクらぐらいッスよ」って話をしてるね。
ガンツ そこはボク〝ら〟ですか。北岡と青木たちの変態性と北岡は、別のような気がするけどなあ。
ノブ それは技術の話だし、実際に一緒に練習してるんだから、いいんじゃないの。
ガンツ なるべく青木と北岡は分けたいよねぇ、そこは。青木・今成という奇人変人ラインと、北岡的自己愛は、同じ「気持ち悪い」でも方向性が違うというか。
ノブ オレはなんか入ってほしいの。そこは『サンバルカン』と一緒で、変態イーグルがいて、変態シャークがいて、変態パンサーがいるっていう感じで。
――えーっと、凄くどうでもいい論争になってきた（笑）。
真下 でも、ルックスで言ったら今成のほうが、はるかに変態的じゃないですか？ でも試合では今成の気持ち悪さって、全然気にならないんですよね。
――青木と今成の変態性を定義すると、彼らは変わり者ですね。
真下 風来坊っていう感じで。
ガンツ 「気持ち悪くてもいいよ、オレたちは奇人変人だから！」っていう無頼な感じが青木と今成。で、北岡は凄くカッコイイことをしようとして、一回転して気持ち悪いところに着地しちゃってる感じがする。最初から変態な青木たちとは違う気がするんだよね。
ノブ 本人が狙ってるところとは全然違ったところに着地しちゃってるっていう意味でのおもしろさは、大好きだなぁ。インタビューで横田に対してもいろいろ言ってるわけですよ。「ボクが横田選手とやって、もしボクが負けたとしても『北岡、負けた』って記事になりますよ。『横田、勝った』とはなりません」って。
ガンツ 『やれんのか！』で名前すら覚えられなかった選手の発言とは思えないよね（笑）。気持ちいいぐらい自己評価が高いんですよね。だいたい、今回のライト級GPにしても、実績からしたら日本人はみんなどっこいどっこいじゃない？ でも、北岡はパンフレットでも「大本命」とか書かれてる。これって自己申告だと思うんだよ。自分から大本命ムードを醸し出してるうちに、周りも「そうかな？」って思い始めるという。
――北岡にはそういうムードにさせる気持ち悪さがあるんですよ。そこは、田中太陽が前に書いていた「アイム・チョーノ！」論かもしれない。いかに周囲を気にせず自分を貫き通すかってことでいえば、北岡は『戦極』でいまナンバーワンだと思うし。


メイン後、五味が控室に姿を消す中、出場選手がリングに勢揃い。数分後リングに戻ってきた五味がマイクアピールしたのちの記念撮影では五味のうしろで北岡がポーズをキメ、その存在をアピール。やっぱり、キモッ!?

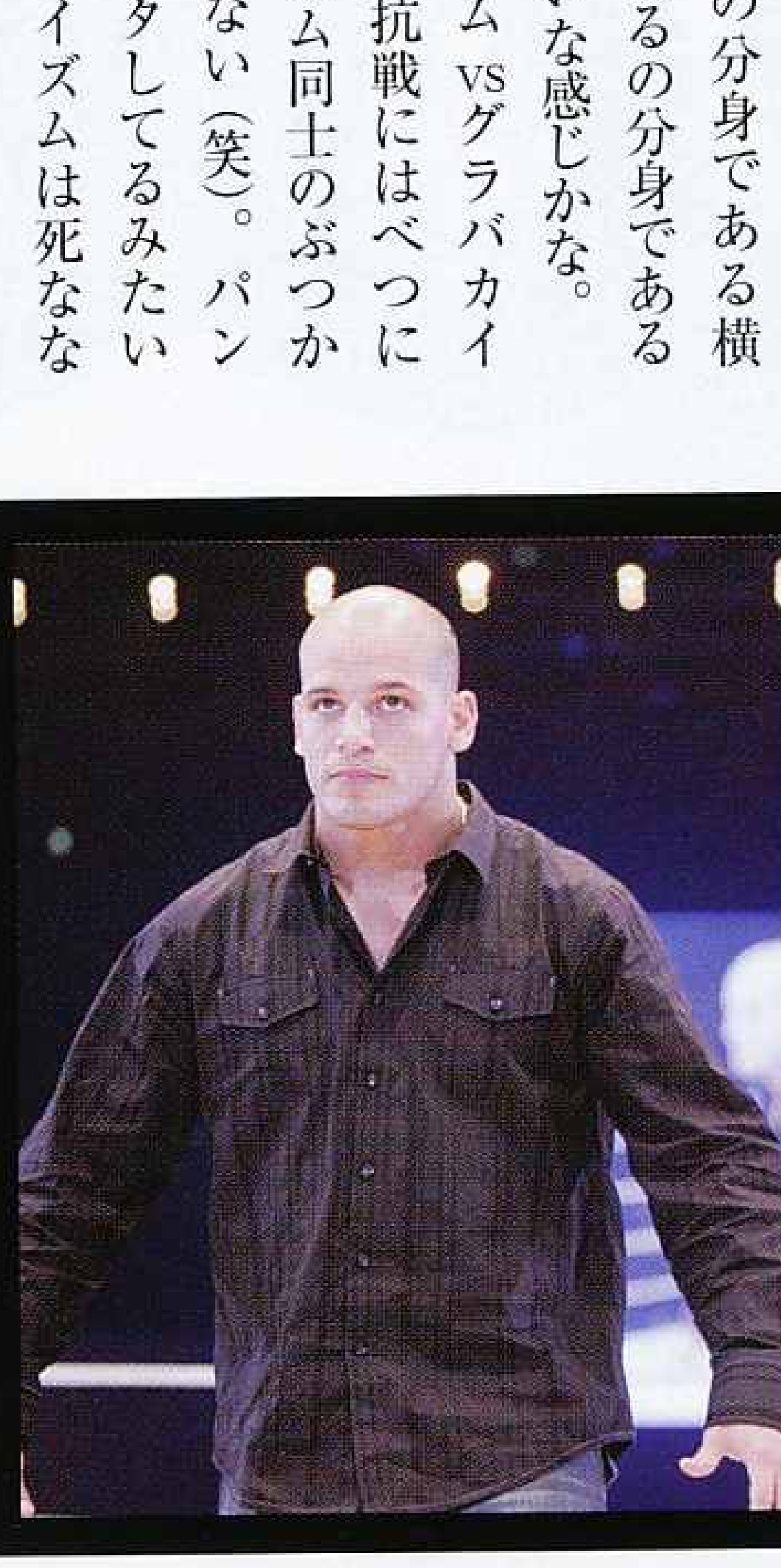
真下 横田も引っかかるんだけど、あれはネガティブな「アイム・チョーノ！」ですよね。あんな試合をしておきながら、マイクを握って言い訳までする空気の読めなさかげんはある意味凄いけど。
――まあでも「横田はグラバカだったんだなあ」という感じで、菊田早苗イズムだと思えば、たいして腹も立たないという（笑）。
ノブ 菊田の分身である横田一則、みのるの分身である北岡悟みたいな感じかな。
ガンツ パンクラスイズムvsグラバカイズム。いまさらそんな対抗戦にはべつに惹かれないけど、そのイズム同士のぶつかり合いは観たいかもしれない（笑）。パンクラスはなんだかゴタゴタしてるみたいですけど、パンクラスのイズムは死なない！ってことで。
チョロ シャキーン！ シャキーン!!
【08年8月25日／『kamipro』編集部にて収録】

練習仲間の青木真也が語る北岡悟

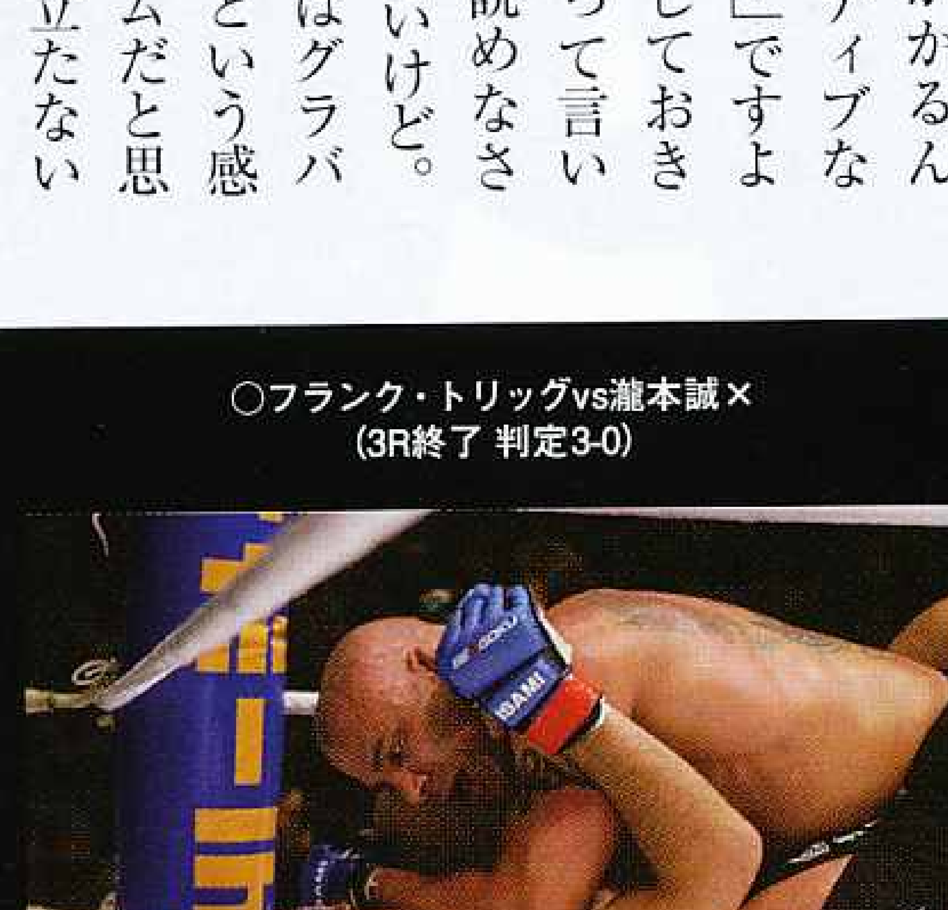


「北岡さんの気持ち悪さはあんなもんじゃない!」

北岡さんは普段から気持ち悪いですよ。でも、「気持ち悪い」って言われるのは嬉しがってますからね。「ウゼエなあ、嬉しいなあ！」って感じで（笑）。最初はマイクとかも気持ち悪くて、気持ち悪くて。でも、いまはだいぶなれましたし、あんまり「北岡さんのマイクは気持ち悪い」って言い続けたせいか、最近はボクを意識して抑えてる感じはします。え？ それでも凄いって？ いやあ、北岡さんの気持ち悪さはあんなもんじゃないですよ。まあ、ボクとちょっと似てる感じはしますね。ボクも北岡さんのことをファイターとして一番尊敬してるし、兄貴分だし、ライバルです。ちょっと目が離せません。だって、渋谷の大戸屋で「あ～ぁ、○○○○して～！」って大声で叫ぶんですよ？ 気持ち悪いですよっ！


休憩明けにはホジャー・グレイシーにも勝利している柔術界の超大物シャンジ・ヒベイロが登場。「ナカヌナラ、キメテミセヨウ、サブミッション！」と日本語でアピールし、歓声を浴びたシャンジ。その後、『第五陣』での杉浦貴との対戦が発表されたが、ノア戦士にガチで勝てんのか!?

○フランク・トリッグvs瀧本誠×
（3R終了 判定3-0）


かつて三崎にも勝利を収めているトリッグが瀧本と対戦。試合では打撃技術に自信をつけた瀧本がパンチでぐらつかせるシーンも見られたが、そのたびにトリッグは得意のタックルで瀧本をテイクダウンさせ判定勝ち。試合後、瀧本は「もう限界かも」と突如引退を示唆。まだまだやれるって！

ン
ロ選手にとって非常にリスキーな試合で



9.23『DREAM.6』で因縁の一戦が実現!

MIRKO CROCOP

ミルコ・クロコップ

アリスターへの返答

アリスター・オーフレイムによる、再三の挑発的な発言を受け、ついに9.23『DREAM.6』での対戦を受諾したかたちのミルコ・クロコップ。一線級の相手と闘うのは丸1年ぶりのミルコにとって、現在絶好調のアリスターはあまりに危険な相手に思えるが、ミルコはこの一戦をどう捉えているのか? 背水の陣に臨むミルコを国際電話で独占直撃した!

聞き手＆撮影／堀江ガンツ　写真(アリスター)／乾晋也

「ご指名ありがとう。発言に責任はとってもらうよ」

——ミルコ選手、試合前の忙しい時期にすみませんが、インタビューよろしくお願いします！

ミルコ　よろしく。

——DREAMでは2大会連続で、ホントは出るはずだったのが欠場になってしまったわけですけど、実際いまのコンディションはどうなんですか？

ミルコ　コンディションはいいよ。ただ、やっぱり100パーセントとは言えない。ヒジやヒザのケガのために、できなかったトレーニングもあるし、そのリハビリのために時間を費やしてしまったこともある。まだ少しいたわらなきゃいけない部分もあるしね。

——ルーキーである水野竜也と闘った3月の『DREAM・1』を除けば、ヘビー級の一線級との試合は、UFCでのチーク・コンゴ戦以来、1年ぶりになるわけですよね。

ミルコ　そうだね。

——しかも、いまの世界のMMAの流れを考えると凄く早いじゃないですか。その焦りとかっていうのはありませんでしたか？

ミルコ　それは「ない」と言ったらウソになるかな。ここ5年以上、MMAの世界において、常にスポットライトを浴びてきたのは自分だっていう自負があるからね。それがいまや、圧倒的に自分に向けられる注目というのが小さくなっているのは、自覚しているよ。ただ、この1年間、そういった喧噪から離れて、自分を見つめ直して、身体の気になる部分も治すことができた。そういった意味で、俺にとってはいい1年だったと思うし、貴重な時間だったと思っているよ。

——ただ、ここ数カ月、ヒザやヒジのケガを治すために、試合から離れているあいだ、今回対戦するアリスター・オーフレイムから「ミルコ、逃げるな！」といった挑発が繰り返し続いていましたよね。これについては、どう感じていましたか？

ミルコ　いいんじゃないかな、べつに。俺だって、PRIDE参戦から2試合終わったところで、「ヒョードル、ヒョードル」とマイクを渡されるたびに言っていたからね。そういった発言は、我々プロの世界では必要不可欠な要素でもあるからね。

——まあ、対戦機運を盛り上げる方法としては、常套手段ですよね。

ミルコ　ただ、プロであるなら、発言に責任はとってもらう。まあ、ヤツには一言「ご指名ありがとう。痛い思いをすることになるよ……」とだけは言っておこう。

——今回のアリスター戦は、ミルコ選手にとってはどんな意味合いがありますか？

ミルコ　向こうは自分の名前を上げるために、俺を踏み台にしようと思ってきてるんだろう。俺は純粋に次のステップのために、キッチリと仕留める、それだけさ。

——最近のアリスターの好調ぶりというのは、どう見ていますか？

ミルコ　いいんじゃないか？　でも、自信過剰になっているところには、いつも大きな落とし穴があったりするもんだからね。まあ、アリスターを甘く見てるわけじゃないけど、オレにとっては今回はパーフェクトな対戦相手だね。

——アリスターは打撃だけじゃなく、寝技も上達していると思いますが、その点は警戒してませんか？　このあいだは、マーク・ハントからも見事に一本勝ちを奪っていますし。

ミルコ　あれはハントがだらしないだけさ。オレには通じない。ディーン・リスターにクロアチアまで来てもらって、グラウンドのスパーリングはやりすぎと言われるくらいやったからね。恐れることはない！

——ただ、このアリスター戦というのは、ミルコ選手にとって非常にリスキーな試合でもあると思います。今回、万が一のことがあったら……といったことは考えませんか？

ミルコ　考えてない（キッパリ）。俺がいま考えているのは、しっかりと仕上げて、ヤツをKOする。それだけだ。

——ミルコ選手はいま、かつての自分を取り戻そうとしているんですか？　それとも、新しいミルコ・クロコップを作ろうとしているんですか？

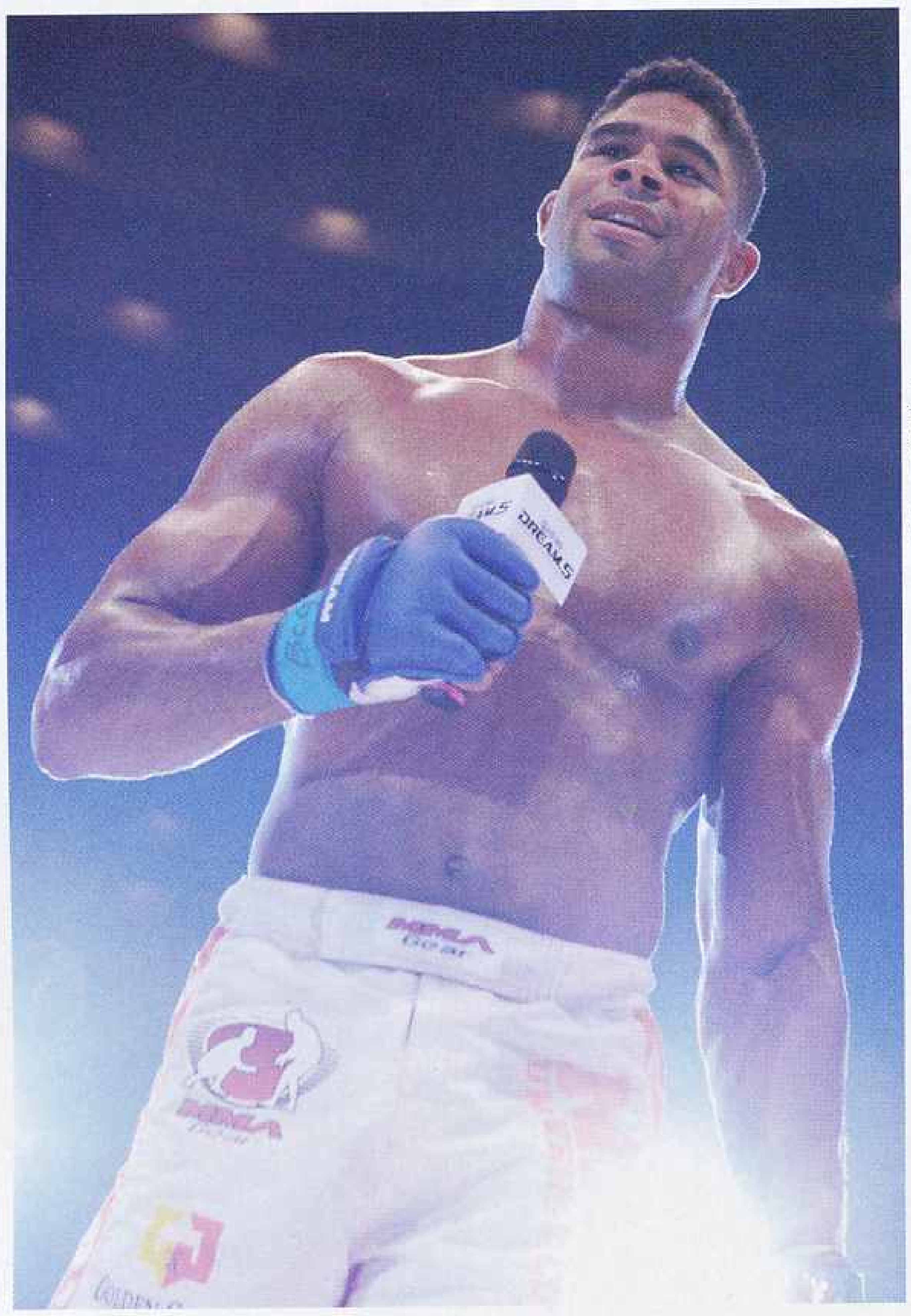
ミルコ　かつての自分を追ってはいないよ。そんな、昔に戻りたいと思っているんだったら、家でPRIDEのビデオでも観ていればいいことだ。それに、昔の俺がいまのMMAで通用するとも思っていない。あの頃の俺のスタイルは、あの時代だからこそできたことであって、いまはMMAの技術がさらに進化している。格闘家としては、あらゆる面でのレベルアップは絶対に必要だからね。ただ、マインドの部分、モチベーションの部分では以前のオレを取り戻す必要があるとも思っているよ。

——では、9・23『DREAM・6』では、どんなミルコ・クロコップをファンは期待したらいいでしょうか？

ミルコ　それは、皆さんが判断してくれることだと思う。バージョンアップしたミルコ・クロコップをお見せしたいし、結果には当然こだわるよ。とくに、どんな勝ち方を、いや倒し方をしたかっていう部分にね。楽しみにしていてください。

——わかりました。では、アリスター・オーフレイム戦に期待してます！

【08年9月3日／国際電話にて収録】



イ・テヒョン、マーク・ハントをともに秒殺で連破し、DREAM2連勝のアリスター。毎試合後に「ミルコ逃げるな!」とアピールしてきただけに、打倒ミルコには、かなりの自信をもっているのか？　勢いがあるだけに、ミルコにとっては厄介な相手だろう。

クロアチア、EU統合に向けミルコの周辺状況に異常あり!

全権代理人・今井賢一氏が激白

「『納得いく試合ができなかったらもうやめよう』そうミルコに伝えました」

8月下旬、クロアチアとオランダで最終調整中のミルコの様子を現地で視察した全権代理人の今井賢一氏。帰国後、ミルコの生の状況を聞くべくインタビューを申し込むと、驚くべき発言が飛び出した。激変するミルコの周辺状況。もしかしたら、これが最後の勇姿になってしまうのか……。今井氏の言葉にじっくりと耳を傾けてほしい。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也



――今井さん、長旅お疲れさまでした！　アリスター戦に向けた、ミルコの最終調整を視察してきたということで、現地での様子をうかがわせていただきたいと思います。

今井　いや、いいのかな、僕がここでインタビュー受けてて。本当のところは、今回は僕もオランダまで行くかどうか、凄く悩んだんですよ。まあ、本来ここで言うべきことではないんですが、この試合の前に、ある大切なことをミルコに面と向かって伝えなければいけないなとも思い、ひさしぶりにアムスに飛びました。

――この時期に、どんな伝えなければならないことがあったんですか？

今井　まあ、それはおいおいお話しできたらしますよ。

――わかりました。今回はクロアチアではなく、オランダに行かれていたんですよね？

今井　そうですね。ミルコがいまヒポ（イワン・ヒポリット）のコーチを受けてるんで、ひさしぶりにアムステルダムのボスジムに行ってきました。僕もK－1時代にそれこそ何度も行きましたが、ヨハン（・ボス）のいないヒポのボスジムに変わっていましたけど、空気とか匂いはそのままでしたね。

――ミルコは今回、ずっとオランダに滞在してるんですか？

今井　いや、月曜日の午前中にオランダに入って、午後にスパーリング。そして翌火曜日の午前中ミット打ちをやって、また午後スパーリングをして、水曜日にはクロアチアに帰るというスケジュールですね。これを数週間やってるんですよ。

――オランダとクロアチアを行き来しながら練習してる、ということですか？

今井　そうですね。去年の7月に、ミルコの慢心を叩き直さなくてはと思って、ヒポに頼んでレミーとアイブルにスパーリングパートナーとして加わってもらった経緯は、去年『kamipro』でもやりましたよね。でも、ミルコはいきなり自分のジムに加わった猛者二人に完全に気後れして、打撃で打ち合えない自信喪失状態のまま再びUFCで苦杯をなめた。あのときの判断、あの時点でミルコに重い負荷をかけるやり方は、はたして正しかったのか、僕も凄く責任を感じて悩みましたね。あれから一年、この途方もない回り道。その間、僕らが選んだ時間のすごし方。絶対に晴らさなければならない格闘家ミルコ・クロコップが背負った汚名……。そんないろいろな葛藤や直面した現実への答えが9月23日に出るということです。

――そうですね、僕も何年も『kamipro』のミルコと今井さん担当として、凄く至近距離からいろんな場面を見せてもらいましたが、3月の『DREAM・1』があくまで顔見せ的であった以上、ミルコにとっての本当の意味での試合はまさに一年ぶり。ここまで実戦の間隔が空いたのは初めてなんですよね。

今井　そういうことです。だからこそミルコには、できるだけアムステルダムの空気を吸わせたかった。挑発を繰り返す今回の対戦相手が生活している完全なアウェーの場所で、原点に戻ってタイボクシングをやらせたかったんですね。ミルコ・タイガー時代に、いまのようにきれいなホテルに泊まる金もなく、チャクリキの雑菌だらけの床で寝袋に入って寝てたことを思い出させたくてね。

――それが、さっき言っていた大切なことなんですか？

今井　いやいや、そんなシンプルなことは、言わなくてもミルコは肌で感じているはずですから、それはもう少しあとで、その気になったら話します。でも、今回はヒポとレミーには本当に感謝しています。ヒポとレミーにとっても、今度のK－1WORLD GP開幕戦の相手はポール・スロウィンスキー、そして彼のコーチであるホーストでしょう。ヨハン・ボスに育てられたヒポとホーストがセコンドとして相対するわけですし、レミーにとってもいまのK－1には非常に大切な試合。その直前のこの大事な仕上げの時期にオーソドックスなムエタイの対戦相手とはまったくタイプの違う、サウスポーで変則的なミルコとのスパーリングにこれだけ気合を入れて付き合ってくれたわけですからね。ここはきっちりとKOで勝って、レミーに報告をしなければ、レミーの友情に対して申し訳が立たない、男が廃るというものではないですかね。

ミルコにとってもう試合は生活のためじゃない 結果が残せないならもうやる意味がないでしょう

——いい話ですね。それで、実際のスパーリングはどうだったんですか？

今井　うーん、そうですねぇ……。TBSのカメラが入った日と入っていない日では、明らかに違うものがありましたとでも言っておきましょうか。やはり、二人ともトップを極めた者同士ですから、どうしてもカメラが入ると、カメラ映りを考えて、阿吽の呼吸みたいなスパーリングを見せるときがあるということです。カメラが入っていない日のスパーリングは、僕もヒポもただただ、「二人ともケガするなよ！」って、嫌な汗を脇の下にかきながら見てましたね。それだけ派手な音を響かせながら打ち合ってました。戦術的なことに関しては、ここでは話すつもりはありませんが、僕はひさしぶりに最後は正座をして見ていたくなるような、静かに、しかし熱いスパーリングでした。もちろんヘッドギアなしですからね。

——下世話な言い方ですが、どちらが押してたとかそういう表現は……？

今井　『kamipro』の読者はわかるでしょう、そのニュアンスが。当日、試合でミルコにこの打ち合うというメンタル面での開放があれば、アリスターは敵じゃないでしょう。一年経って、このチーム編成はミルコ、レミー双方に結果を出すだろうな、と実感させるものでした。お互いの意地とプライドが交錯するような、二人の高いモチベーションがあふれ出るような熱い打ち合いでしたから。

——では、UFCに行ってからのミルコから消えてしまっていた、純粋な格闘家としてのたたずまいが戻ってきてるということですね。

今井　UFCに行ってからはそういうオーラがなんとなくすべて$マークに見えてしまうようになりましたからね。そういうことでしょう、言いたいのは？

——いやいや、すみません。でも、まさにそういうことだった……んですよね？

今井　僕も何度も『kamipro』のインタビューで、そのあたりに関しては触れてきましたが、もうそれにも疲れた。今回ミルコに面と向かって伝えたかった大切なことっていうのも、そこにあるんですよ。どこから説明しようかなあ……。僕自身の本業というか、格闘技とは関係のないビジネスの中でのさまざまな方々とのお付き合いから派生したいくつものオファーが年月をかけて成熟してきていて。数年後にEUに加盟するクロアチアとのビジネス、またはクロアチアへの進出を狙う日本の錚々たる総合商社から自動車メーカーまで、「具体的にこんなことをやりたいのですがミルコさんと一緒に参入できませんか」という話が、もう待ったなしになってきているんです。

——そんな大きなビジネスの話が舞い込んできている、と。

今井　読者の皆さんも誰でも知っている会社ですから、ここではあえて匿名にしますが。これらのオファーは、非常に大きな資金の動くクロアチア側にとってもとても大切なプロジェクトで、受けるのであれば、100パーセントのエネルギーをつぎ込まなくては成功させられないでしょう。とてもじゃないけれどミルコがファイターをやりながら片手間でやるにはそぐわない大きな責任が、日本とクロアチアを結ぶ役割としての僕らに課せられる。僕とミルコはクロアチアのEU加盟に向けて発生するさまざまなビジネスチャンスに対応するために数年前にザグレブに会社を設立してあるのですが、前にも言ったかな、その会社の名前は「オモプラッタ」というんですけど(笑)。

——じつに素敵な会社名ですね(笑)。

今井　数ヵ月前にクロアチアのメシッチ大統領が来日をした際にも、僕はクロアチアにいるミルコの代わりに大統領の晩餐会でクロアチア大使とともに大統領といろんな話をしたのですが、やはりミルコのクロアチア議会での国会議員としての一期3年間は非常に有意義なものだったんですよ。クロアチアのEU加盟、日本企業のクロアチア進出がもたらす経済及び雇用効果、日本からのクロアチアへの投資の促進、あらゆる面でクロアチアの政府首脳がやはりミルコにその懸け橋となることを期待している。それがまさに待ったなしになってきているし、またそれが小泉首相を官邸に訪問してからのミルコの願いでもあったわけです。あのとき、ミルコが小泉首相に手渡した親書には、クロアチアのサナデル首相からの、「観光立国を目指すクロアチアの高速道路網復旧のための日本の銀行団からのクロアチア道路公団への融資に向けて、首相官邸からの後押しをよろしくお願いします」と書かれていたんです。ミルコはそのとき、ただのファイターだった自分が、日本の首相に会うということで祖国のためにできることの大切さを認識したんでしょうね。いまクロアチアのEU加盟に向けて、それはミルコも肌で感じている。だから僕は、今回初めてミルコに、「今回の試合でオレが昔のように感動できるような試合ができなかったら、もうやめよう。ビジネスはもう待ったなしになってくるぞ」と。ミルコにとって、もう試合は生活のためではないのです。自分が愛して、人生のすべてを懸けてきた格闘技で、自分がしっかり満足できる結果を残さないのであれば、もう試合をする意味がないでしょう。

——えっ⁉　もしかして負けたらもうやめるということですか？

今井　いえ、勝っても自分がすべてを出しきらないような惰性の判定勝ちだったら、同じですよね。ミルコ・クロコップの名誉に懸けて、ファンの人たちが「ああ、やっぱりミルコ、凄かったね！」と感動してもらえるような試合ができなければ、少なくとも僕は納得できない。それを伝えたんですよ。

——それを聞いて、本人はどんな反応だったんですか？

今井　うーん、驚いたような素振りはあえて見せなかったですね。鋭い男ですから一言言えば、わかるでしょう。ゴンザガやコンゴ戦のように、負けるわけない相手に負けるのは、闘うという根本的な部分に対するモチベーションを欠くというメンタル面の弊害でしかない。モチベーションを欠いたミルコの脆さを、ファンの皆さんはいやというほど見せられてきたわけですよね。それなら闘う意味がない。そんなことに時間を費やすのは、もう時間の無駄だということです。本当に、性根を入れ替えて、すべてを懸けてもう一度ヒョードルを追いかけるというモチベーションを持つということを、ミルコが僕にもそして応援し続けてくれたファンの皆さんにも証明しなくてはいけないのが9月23日です。それを激しく震えるようなKO勝ちというかたちで見せつけられたら、僕ももう一度本気になって付き合います。でも、そうでないなら……。

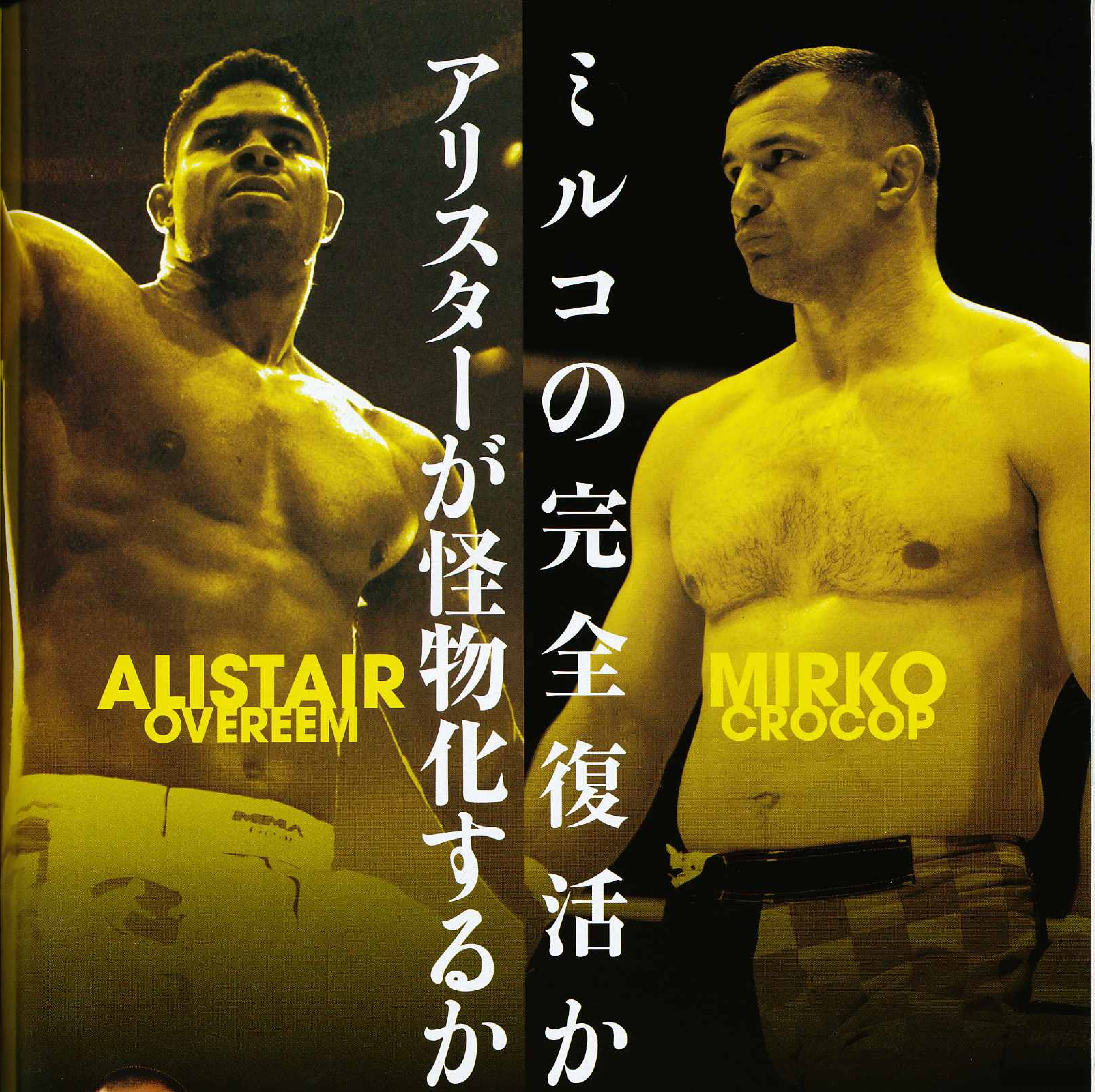
——ここまでの発言は掲載しても大丈夫ですか？

今井　マネージャーとして口にしてはいけないことかっていう意味？

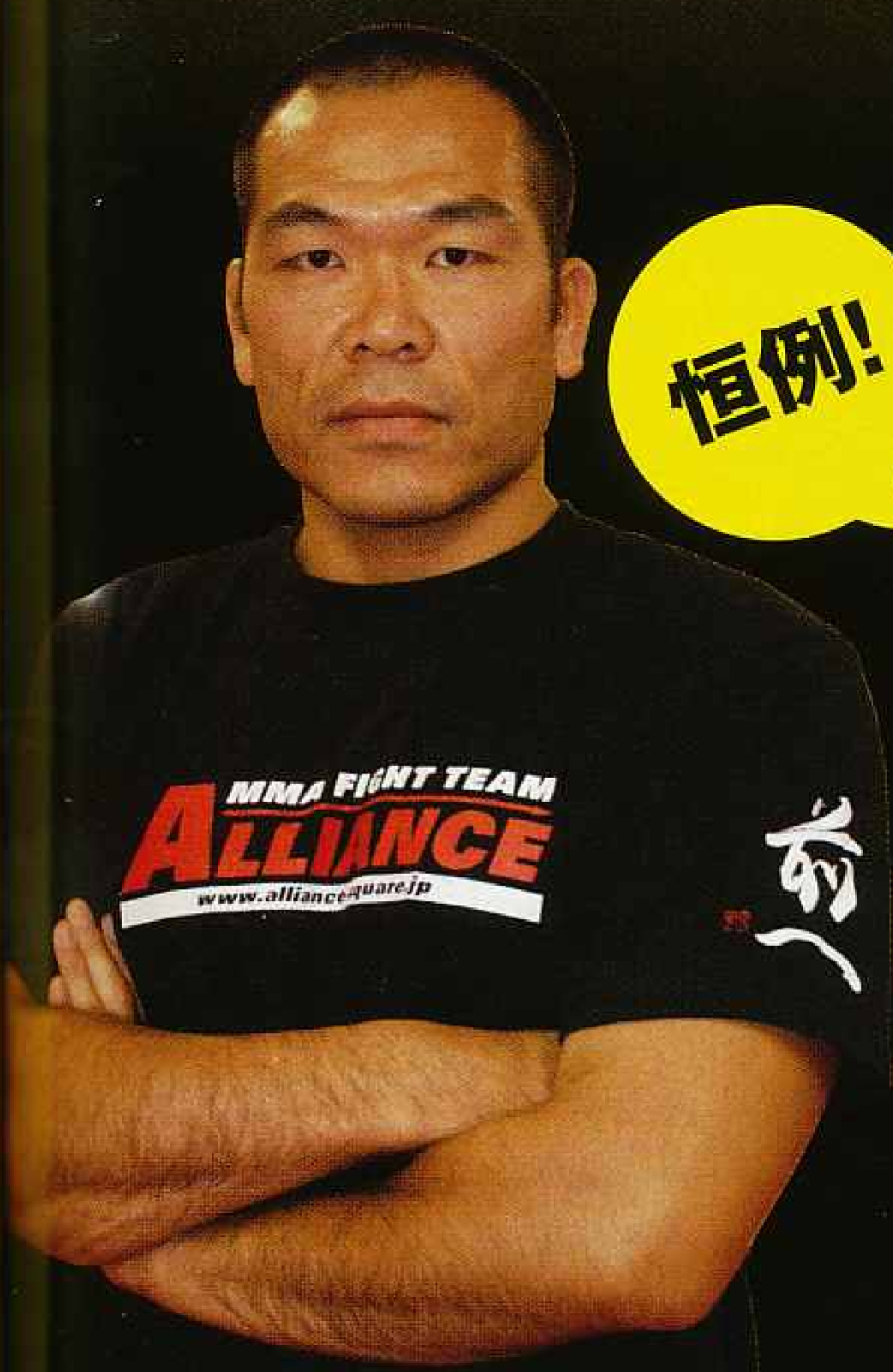
——いや、それはわかりませんが……。

今井　僕は、今回の試合に本当に何を期待しているかといったら、ミルコがボブチャンチンを失神させているのに、まだ殴りにいったあの感じ、五味君がルイス・アゼレードをKOしているのに、その後もレフェリーの制止を振り切って殴り続けた試合。あんなふうにほとばしるようなミルコの体内からの爆発ですかね。この一年半の鬱憤が爆発するような。それが見られるのであれば、もう少しだけミルコの格闘技の旅路に付き合ってもいいけど……。とにかく、ひさしぶりに楽しみですね。皆さん、応援してください。

【08年9月6日／都内某所にて収録】



ミルコの完全復活か アリスターが怪物化するか



恒例!

“世界のTK”髙阪剛の ミルコ・クロコップvsアリスター・オーフレイム プロフェッショナル見どころ解説

DREAM2連勝中のアリスターが、試合に勝つたびにアピールし、ついに実現した大一番、ミルコvsアリスター戦。これまでの実績でいえば、ミルコが圧倒的に上だが、現在の勢いはアリスターが上。勝負の行方がどちらに転ぶかわからなくなっている。この一戦をプロはどう見ているのか？　例によってTKに話をうかがってきました。教えて!　髙阪先生!

聞き手／堀江ガンツ　撮影（ミルコ、アリスター）／乾晋也

いまのアリスターの闘いぶりは〝俺が知っているミルコ〟だね

――今回も『DREAM・6』の直前解説、よろしくお願いします！

TK ちょっと、その前に聞いておきたいんやけど、（本誌前号を手に取りながら）これ、なんで俺にお呼びがかかってないの？

――ああ「アメリカ特集なら、俺の出番だろう」と（笑）。

TK 長いこと向こうで生活して、『kamipro』でもずいぶんUFCの話をしてたはずの男を、ないがしろにしてる意味がわからない（笑）。

――いやいや、髙阪さんはアメリカだけの男じゃないだろう、ということで（笑）。今回はアメリカと関係ない話をうかがいに来たんですよ。

TK まあ、ミルコvsアリスターに関しては、関係なくもないんやけどね。

――この試合もアメリカが関係ありますか。

TK もうヘビー級のトップは、アメリカを外して考えられないし、結局つながってるからね。たとえば、現在のミルコは「UFCでのミルコ」を外しては語れないだろうし。

――確かにそうですね。

TK で、ミルコってUFCで連敗して帰ってきたわけやけど、本来、身体的にも技術的にも、凄く高いものを持ってると思うんですよ。それがなぜ、スランプみたいな感じになってるかというと、これはべつに衰えたわけでもなんでもなく、メンタルの部分で萎えちゃった部分が大きいと思うんだよね。

――敗戦のショックを引きずっている、ということですか？

TK そう。ミルコはUFCデビュー戦こそ勝ったけど、最初からオクタゴンで闘うことに対して、凄くやりづらそうだなっていう感じがあった。だから、2戦目にゴンザガと闘ったときも、まだ地に足がついてないような状態で、しかもハイキックでKOされたわけだから、相当自信をなくしたと思うんだよね。

――実際、そのあとのチーク・コンゴ戦のときは、なんか自信なさげでしたよね。痩せちゃってたし。

TK うん、攻めなきゃいけないときに、攻めきれてなかったよね。PRIDEで強さを発揮してた頃のミルコは、小さなチャンスを見逃さず、迷いなくハイキックを出してたり、パンチのラッシュやローキックで攻めたりということができてたんだけど、それができてなかった。あれはゴンザガ戦に負けた衝撃というのが、彼の中でよほど大きかったんだろうな、というのが自分の考えですね。

――やはり、一つの負けで大きく崩れたりするもんですか？

TK もの凄く影響しますよ。逆にそれを消化するとまた強くなっていくんだけど、いまのミルコはあの敗戦をまだ消化しきれてないところがちょっとあるんじゃないかな。

――そんな状態だからこそ、アリスターもおいしいと思って執拗に対戦アピールをしてたんでしょうね（笑）。アリスターの昨今の調子のよさっていうのは、どう見ていますか？

TK あれはね、とくに調子がよくなってるとは思えないんですよ。

――あ、そうなんですか⁉

TK 昔からあれくらいのことはできていた。ただ、ヘビー級に転向して身体がデカくなったでしょ。だから、もともとパワーなり、一発の重さなりがある選手だけど、その重さが増してるんですよね。変わったのは、そこだけですよ。昔からコンビネーションや畳みかける攻撃はできていたし。おそらく〝カラータイマー〟が点滅するのも変わってないと思う。

――ダハハハハ！　スタミナのなさも変わってませんか（笑）。

TK いまんとこDREAMで2試合とも3分以内でしょ。アリスターは3分後が問題。ホント、突然あきらめて、バンザイしちゃうもんね。そういうのも含めて俺は好きなんだけど。だから、ミルコにしたら最初の3分をどう止めるかだろうね。でも、その3分間はメチャクチャ強いから、それをしのぐのが大変なんだけど。

――ましてやメンタル的に、いまはイケイケモードになってますよね。

TK しかも、アリスターは追いかける立場でしょ。対するミルコは追われる立場で、ちょっと完全復活したとは思えない状態だから、これはアリスターが有利なのは仕方がないよね。

――ほう、髙阪さんの分析ではアリスター有利ですか。

TK 自信があって気持ちがノッてるときって、それだけ力が発揮できるんですよ。このあいだのマーク・ハント戦のフィニッシュにしても、普通、あの体勢からV1アームロックは極まらないんだよね。ハントの処理が悪すぎたにしても、普通はあきらめて三角絞めか腕十字に切り替えるもんなんですよ。それをやり通して、実際に極めてるというのは、自信が加速させちゃってるんだと思うんだよね。

――躊躇せずに勝負をかけるという。

TK そうそう。迷いなく畳みかけるとことか、PRIDEで強さを発揮してたときのミルコとよく似てるよね。攻めるべきところで、非情なまでに相手を叩きのめすというところとか。いまのアリスターの闘いは、〝俺が知ってるミルコ〟だな、あれは。

――連勝してた頃のミルコと同じように、自信がさらなる力になっている、と。

TK もともとアリスターって、身長があってリーチも長くて、脚も異常に長い。しかも、あれだけの身体を持ちながら動けるわけだから、強いに決まってるんですよ。そのアリスターから〝カラータイマー〟が外れたら、とんでもないバケモノに成長する可能性もあるよね。

――タイプ的には〝ヘビー級のアンデウソン・シウバ〟というか。

TK アンデウソンは飛び抜けすぎてるから、あそこまではどうかと思うけど、タイプ的にはそうだよね。

――じゃあ、ミルコにとっては、相当な難敵ですね。

TK 脅威だと思うよ。いま日本に上がってるヘビー級選手の中で、一番嫌な相手なんじゃないかな。もちろんスタンドの細かいテクニックは、ミルコのほうが多彩だけど、勢いと圧力だったら、アリスターのほうがあるだろうからね。

――となると、相性的にも現時点ではアリスター有利ですか。

TK ただ、いかんせんアリスターにはカラータイマーがあるからね（笑）。その点、ミルコは後半まで自分で試合をコントロールできる能力を体力的にも技術的にも持ってる選手だから。ある意味、アリスターの猛攻をしのいだあとは、闘いながら本来の自分を取り戻すきっかけになるかもしれないね。

――なるほど、最初の3分が強いがゆえに、それさえしのげば自信もついて、どんどんミルコ本来の力を発揮するかもしれない、と。

TK だから、なるべく長くやってほしいね。そうしたら、ミルコ完全復活のきっかけになるかもしれないし、逆に長期戦でアリスターが勝つようなら、カラータイマーを克服して、怪物になるきっかけになるかもしれない。どっちに転んでも、これは重要な試合になるだろうね。

【08年9月1日／都内・A-スクエアにて収録】

TKオフィシャルジム、『ALLIANCE-SQUARE』成田支部では、設立一周年キャンペーンとして、9月は入会金が無料！　また、赤坂本部では女性に限り入会金無料とさせていただいています。詳細はwww.alliance-square.jpまで！

波紋を呼ぶ!

シリーズ ジャニー谷川の

非常ベルが止まらない

インタビュー第三弾!

FEG代表

谷川貞治

国内だけでなく、いまや海外でも"波紋"を呼んでいるサダハルンバインタビュー。今回は、マット界に新しい風を吹かせたK-1甲子園と、まだまだ非常ベルが鳴りやまないDREAM周辺の事情、さらには年末についても語ってもらった!

聞き手/ジャン斉藤　撮影/平工幸雄　試合写真/乾晋也



――ジャニー谷川校長、聞くところによると、ターザン山本！から夢香姫の就職先をお願いされてるそうじゃないですか。

谷川　ああ、頼まれた、頼まれた。半年くらい前に山本さんから「谷川、折り入って頼みがある。彼女が仕事を辞めるから、なんとかしてくれ。凄く優秀な子だから!!」って。

――はあ。

谷川　ボクはまだちゃんと会ったことないけど、その夢香さんという人はまだ就職してないの？

――なんと図々しいことに、いまでも谷川さんをアテにしてるんですよ。

谷川　ホント？　あれから電話がないから、もういいのかなって思ってたんだけど。

――どうですか、夢香姫をK―1甲子園のレポーター役に据えたりするなんて。

谷川　………それはK―1甲子園が汚れるなあ。

――『kamipro』のオードリー・ヘプバーンに向かって、なんてことを！

谷川　んあ～！　ボクは夢香さんのことはよく知らないんだけど、背後に山本さんがいるでしょ。それは汚れるなあって。

――そんなわけで、今日は汚れなきK―1甲子園のお話から。

谷川　どうだった？

――いや、凄くおもしろかったですね！

谷川　ホント？

――ホントです！　いままでの格闘技イベントにはないおもしろさがありました。佐藤大輔的演出の影響下にない新しいイベントとでも言いますか。

谷川　あの空間を演出するために、いろいろ考えたからね～。ホンモノの甲子園の雰囲気を作りたいなって。アナウンスもそれっぽくして、ラウンドガールも女子高生にして。あと応援グッズをたくさん買ってきて客席に置いたしね。

――それと、チアリーダーもちゃんと用意してて。

谷川　最初は高校ナンバーワンのチアリーダーを呼ぼうと思ったんですよ。そうしたら、文部科学省や教育委員会の後援がないと派遣できないんだよね。そのために文部科学大臣にも会いに行ったりして。

――いろいろやってるんですねぇ。

谷川　でも、そのためには公益法人じゃな

るのか?

れるかなあ～

こう見えてもボクの二つのコンセプトは「世界」と「アマチュア」だからね～

いとダメなんだって。結局、今年の甲子園に出場した関東第一高校に依頼したんだよ。（須藤）元気くんが関東第一の出身だから、彼を通してお願いしてね。まあまあ、演出に関しては、もっとプロフェッショナルがやるアマチュア大会にしたかったけどね。

――途中でワールドユース（K－1甲子園は18歳以下の高校生だが、20歳以下の試合）のワンマッチが何試合か挟まれてたじゃないですか。そっちのほうがレベルは高いですし、スネパッドを着けてないぶん迫力ありましたけど、K－1甲子園の世界には、彼らさえもそぐわない感じがしましたね。

谷川 そうなんだよ。ワールドユースですらK－1甲子園と分けたほうがいいってみんなが言ってる。それくらいK－1甲子園の雰囲気ができてたってことでしょ。だって、負けた選手全員が泣いてるんだもんね。「一生懸命練習して、もっと強くなって、また出ます！」って。でも、女性レポーターも取材しながらもらい泣きしたからね。あれにはビックリしたなあ。

――そこまで感情移入してますか（笑）。

谷川 おかげさまでチケットも完売でね。ディファ有明は1000人ぐらいしか入らない会場ということもあるんだけど。選手の身内だけで売れ切れちゃうんだよね。だから選手のおばあちゃんとかも来てたじゃない。初めてK－1に来たって感じで。

――あのファミリー感は素直に楽しめました。2分3Rインターバル2分のルールだから、格闘技のえげつなさがいい意味でなかったですよね。

谷川 一方で「もっとKOがあったほうがいい」という意見もありましたけど、やっぱり一般社会から見ると、高校生がハデに倒れてるシーンはどうなのかな？ っていうのはあるし。やっぱり成長過程だから、そこは過激にやる必要もないと思うよね。ただ、2回戦は10月1日のK－1MAXでやるから、3分3ラウンドでスネパットはなしなの。できれば、K－1MAXに混ぜたくないんだよなあ。



大会終了後、勝利で笑顔が弾けるHIROYA。しかし、その一方で、この日の試合で敗れた高校生ファイターは全員、そして女子アナまでもが感情移入して泣いていたというから、いかにこの舞台が"真剣勝負"の場であるかがわかる。

――あの空間だけで完結してほしいところはありますね。

谷川 K－1甲子園だけでずっとやりたいよねぇ。インターバル中にセコンドにインタビューした女子アナはどうかと思ったんだけど。

――あ、そうですか。あれはあれでおもしろかったですけど。

谷川 いや、おもしろいんだけど、突然のことだからビックリしちゃってさ。

――あ、谷川さんも聞いてなかった（笑）。

谷川 うん。最近のNBAなんかでは、試合中のコーチに話を聞いたりするのがけっこう受けてるらしいんですよね。HIROYAくんのお父さんなんか、「相手が思ったより強くてビックリです」とか言ってたね。

――親御さんの反応はどれもこれもおもしろかったですね。そこらのプロレスラーより、ちゃんとアピールがうまくって。

谷川 もう一家揃って熱心なんだよ。いまの格闘技界だと、DREAM、戦極、UFCがどうなるか？ とか言ってるじゃない。当然そこに目が行くのはあたりまえなんだけど、地方の道場に行くとさ、小学生や中学生がみんなK－1甲子園を目指してるよ、本当に。

――なんか、競技として普及してるんですね。

谷川 そうだよ。ボクが本当にやりたいのはアマチュアだから！

――は⁉ 谷川さんがアマチュアだなんて……、それこそアマチュアが汚れますよ！

谷川 んあ～！ ホントだって。アマチュアを本当にやりたい。こう見えてもね、ボクの二つのコンセプトはね「世界」と「アマチュア」だからね～。

――いいんですよ、高島学氏に気を使わなくたって。

谷川 （無視して）本当に地方の人って、K－1甲子園の話題をよくするんだよね。「ウ

08年大晦日へ向かういまこそ正念場!!

マット界再編はありえるの

世間は待ってく

チの息子も目指してるんですよ！」とか「ＨＩＲＯＹＡにも負けないと思うんですよね！」って。じつはみんながＫ－１甲子園に興味を持ってる。

――それは10年後のＫ－１にもつながってくる話ですね。

谷川　そうそう。それでね、このあいだ『コロコロコミック』（小学館。以下、『コロコロ』）の編集長とメシを食べたの。Ｋ－１甲子園を応援してほしいってお願いもあって。

――文部科学省から『コロコロ』まで。谷川さん、いろいろやってますねぇ。

谷川　地道なロビー活動をいろいろやってるんですよ、こう見えても。で、ボクらの子どもの頃とか、皆さんの子どもの頃とかって、憧れの人ベスト10とかって、たいていスポーツ選手だったじゃない。でもね、『コロコロ』の編集長が言うには、いまの子どもはお笑いタレントばっかりなんだって。

――へえ～。

谷川　しかも2ヵ月でその順位がコロっと変わるんだって。で、闘うというか、強烈な競い合いとか、いまの子どもたちは白黒ハッキリつけるのがイヤみたいだよね。イヤというか、そういう争いをするのは特別な人っていう意識がある。自分とは関係ない人間として見てるそうなんだよ。

――じゃあ、スポーツ選手に興味を持つわけがないですね。

谷川　うん。Ｋ－１甲子園なんかもさ、子どもより親が興味を持ってるからね。子どもたちは子どもたちで純粋に頑張ってるんだけど、じつは親の情熱が支えているところはある。だからね、魔裟斗を観た子どもたちが「オレも頑張りたい！」って自主的に興味を持ってくれるように、『コロコロ』に応援を頼んでるんだよ。もう『コロコロ』は小学生市場を独占してるから。

――自分も読んでましたよ、小学生の頃は。

谷川　あ、本当。あったの、斉藤くんの時代に？

――その時々の子ども文化を扱っていて。ミニ四駆がきたらミニ四駆、ファミコンがきたらファミコンみたいな。

谷川　ちょっとうれしかったんだけどさ、『コロコロ』の編集長が「ボクのところにこうして来てくれるのって、谷川さんか、トヨタの広報だけです」だって。要するに、トヨタからすれば、いまのうちから子どもに車というものを植えつけておかないと、将来的に車が売れなくなるんだって言うの。

――へえ～。いまから戦略的に仕掛けてるんですか。

谷川　で、いまの子どもって車に興味がないんだわ。ボクもあんまり興味がないけど、ミニカーとか集めたりとか、車の名前を全部言えるヤツとか、昔はけっこういたじゃない。そういう子どもがもの凄く少なくなってて。そのうち車に興味がなくて、動けばいいみたいになってるらしいから。それだとマーケットは育たないよね。

――車の嗜好がいらないってことですね。

谷川　うん。そういう危機感をもって、トヨタは『コロコロ』に相談してるみたい。Ｋ－１としてもさ、『コロコロ』でＫ－１甲子園のマンガをやってもらいたいんだよね。

――そうなったら、谷川さんにはかつての高橋名人みたいなポジションを築いてほしいですね。「練習は一日3時間まで！」。

谷川　「朝は走ろう！」とか「ＨＩＲＯＹＡくんは毎日こんなのを食べてるんだぞ」とかね。

――「ビジュアル優先！　視聴率も大事だぞ！」とか。

あの空間はボクでさえ場違いな会場にしたいんですよね



会場は、鳴りものあり、横断幕ありで大盛況。地方出身の選手も、必ず家族や友人などの応援団が駆けつけており、ときには会場が応援合戦の場と化すこともあり、白熱した雰囲気となった。



K-1甲子園の大会の中で度肝を抜かれたことの一つが、インターバル中の女子アナによる家族への突撃インタビュー。ときにはセコンドにまでマイクを向けるという掟破りな演出も!



K-1甲子園のオープニングには関東第一高校のチアガールが登場。しかし高校ナンバーワンチームを登場させようと、文部科学大臣にまで会いに行くサダハルンバの情熱は本物である。

谷川　んあ～！　まあ、Ｋ－１甲子園はボクみたいなオジサンが意見を言う場じゃなくて、若い人の感性を入れた舞台にしていきたいですよね。オジサンとか、格闘技好きの人がとやかく言う世界じゃなくて。

――キックボクシングを観る感性で、Ｋ－１甲子園を語られてもズレるだけでしょうね。

谷川　ボクでさえ場違いな会場にしたいんですよね。「うしろのほうで見たほうがいいかな？」みたいな。そこは凄い重要だなと思いますね。オジサンが従来の目線で語ってちゃダメでしょう。そういえば、このあいだＦＥＧ広報の渡辺がＧ１を観てとってもよかったって言ってた。

――渡辺さんって、元・新日本プロレスの方ですね。

谷川　いまのファンはまるで従来のプロレスの理屈を考えてないって。難しく見ようとする、考えようとする。それ自体がもうナンセンスだって言ってた。

――いまの新日本って、従来のプロレスが持っていたコンプレックスを感じさせないんですよね。

谷川　これからの格闘技もさ、そういうところが大事だよね。Ｋ－１甲子園にしても。

――話は変わって、『ＤＲＥＡＭ・6』はどうなりそうですか？

谷川　いやいや、いろいろ一生懸命やってますけども。『ＤＲＥＡＭ・6』っていうより、年末だよね。年末に向けての『ＤＲＥＡＭ・6』という位置づけ。

――年末はどういう座組みになりそうなんですか？　Ｋ－１とＤＲＥＡＭはどう分けるのか？　と。

谷川　いや、本当に何も決まってない。2部形式にするのか、別会場でやるのかさえも。番組タイトルは『Ｄｙｎａｍｉｔｅ

!!』でやることは確実。まだ公式発表はしてないけど、去年と同じ5時間半やるよ。
――もしボクシングの亀田興毅vs内藤大助戦をやるとすれば、大晦日という話も挙がってますけど。
谷川　いや、亀田vs内藤をやったとしても、大晦日じゃないですね。ボクらとバッティングすることは、ボクシング界はそうだし、TBSサイドも望んでない。ただ、一つだけ言えることは、今年の大晦日は格闘技界全体の正念場という意味での勝負になります。今年はどこのイベントも格闘技としてはおもしろいんだけど、格闘技に対する興味が世の中的に離れてるのは間違いなくて、ここで一発頑張らないと……。
――もう格闘技の灯は消えてしまいかねないでしょうね。
谷川　うん。その年末に向けての『DREAM・6』でもあるんだよ。
――海外ではDREAM危機説が流れてるらしいですけど。
谷川　あれ、『kamipro』のせいらしいよ。
――ウチですか？
谷川　ほら、ボクのインタビューが載ったじゃない。「今度、視聴率が獲れなかったら……」とか。
――ああ。じゃあ、谷川さんのせいじゃないですか！（笑）。
谷川　んあ〜！　でもさ、ボクの発言を気にするのはいいんだけど、べつにそういうことを言ってるわけじゃないのに。あの件で笹原くんたちに怒られたもん。「海外ではDREAMが終わることになってるんですけど」って。迂闊なことを言えないねぇ、とくに『kamipro』には。



実力とともに、個性的なキャラクターを期待され（?）主催者推薦によりK-1甲子園に出場した藤門嗶裟。しかし、結果はなんと中部地区3位の平塚大士に無念の判定負け……。試合後、サダハルンバは「何やってんだ門嗶裟（苦笑）。ダメすぎます!」と、門嗶裟くんに大バツ印をつけたのだった。

へんな話、ボクが新しい館長をプロデュースしたい

――じゃあ、ソフトな質問に切り替えますが、石井館長が帰ってきたことの影響ってありますか？
谷川　それ、ソフトな質問？　……いまはですね、まだ館長自体もどうしていくか具体的には定まってないと思います。へんな話、ボクが新しい館長をプロデュースしたいという感じだね。
――館長をプロデュース？
谷川　要するに、館長の立場とか、見え方とかを考えたい。館長もそれは考えてると思うし。普通に館長がK―1プロデューサーに復帰したり、テレビ解説をまた一緒にやるとか、そんな感じではないですよね。言葉の表現は適切じゃないかもしれないけど、館長の出番というか、館長にしかできない役割は凄くあると思うんだよね。
――出番はありますか。
谷川　凄くあると思う。やっぱり、ある意味いまは危機だし、K―1をここまで大きくしたのは館長だからさ。
――館長が戻ってきた初めての大会がK―1甲子園だったというのは、非常に感慨深いですねよね。で、『SRS』の終了が非公式ながらアナウンスされたタイミングで、K―1甲子園が始まったことにしても。
谷川　あ、アナウンスされたんだ。まあ、『SRS』はもう10年以上やってきたから、リニューアルするタイミングでもありますよね。なんて言うんですかね、格闘技界自体が仕切り直しですよ、本当に。いろんな意味で仕切り直しというか、格闘技のバブルが弾けたと思ってないヤツもまだいるけど。これまでの経験って、それはボクもそうだし、笹原くんたちもそうだし、みんな凄い経験値としてあると思うんだよね。凄く反省していることも多々あるじゃない、お互いに。だから、そこから仕切り直して、新しいものをどうやって作っていくかということが大切だからね。
――年末にかけて格闘技界が再編される可能性ってありますか？
谷川　再編かどうかはわからないけど、進むべき方向……。再編なんかもう出しつくして、よっぽどのことはないんじゃないの？　たとえば『戦極』とくっつくとか、そういうこと？
――そうですね。あとDREAMの体制が変わるとか。
谷川　ああ、そういうことはあんまり考えてないなあ。いまって、そこに労力をかけてもしょうがないような気がするなあ。
――いいかたちで何かが起こればいいですけど。たとえば、ちょっとでもネガティブな離散集合が起こったら、とうとうファンも完全に離れるでしょうね。
谷川　だから、新しいものを作っていくんだったら別だけど、いまあるものをいじくってどうにかしようとしたってしょうがないからね。だから、ボクとしても、アイツとアイツの仲が悪いとか、もうそんなところに立ち入りたくもないし、そんな時間もないから。何度も言うようだけど、いまはね、格闘技界の理由や事情で世の中が待ってくれないんですよね。一からやり直すほど余裕がないというか。だから、そこだけは自覚してやらないといけない。
――楽しみですね、大晦日。期待してます！
谷川　うん。いろんな意味で頑張らないと。という感じです。……ホントはK―1甲子園だけに専念したいんだよなあ（しみじみと）。
――ダッハッハッハッ。

【08年9月4日／都内・ウラク青山にて収録】



『DREAM.6』で対戦の所英男に宣戦布告!

KID戦? その前に俺がブッ潰す!!

KRAZY BEEのバウンサー

山本篤

Atsushi Yamamoto

KID欠場中のDREAMフェザー級戦線において顔的な存在なのが所英男である。
すでにフェザー級マッチに二度登場し、連勝中の所は復帰後のKIDの相手の最右翼と言えるかもしれない。
しかし、KID戦を熱望する所の前に「その前に俺がブッ潰す」と『DERAM.6』で立ちはだかるのが
山本KIDの愛弟子・山本篤だ。はたして、山本は所の野望を打ち砕けるのか?

聞き手/阿修羅チョロ　撮影/山口比佐夫　試合写真/乾普也

所英男の『DREAM・6』の対戦相手は、KRAZY BEE所属にして、学生時代は山梨学院大学でレスリングを学んだ、あの山本……KIDではなくて篤！

"ロード・トゥ・KID"を旗印にDREAMで新設されたのが山本"KID"徳郁の適正体重でもある62キロ未満のフェザー級。しかし、主役のはずの山本KIDはケガのため長期欠場を発表。

かねてから"打倒KID"を表明してきた所英男や今成正和といった日本人選手から、WEC王者のユライア・フェイバー、対戦が流れた格好のジョセフ・ベナビデスまで、復帰後のKIDの首を狙うファイターは国内外にわんさかいるのだ。

しかし、一説には"山本KID級"とまで言われているDREAMのフェザー級戦線において、主役のKIDが「やるしかないっしょ」と首を縦に振るぐらいの活躍&実績を残さなければKIDと対戦することはできないだろう。なぜかって？ それは"神の子"だから。

いまのところ、その最右翼にいると思われるのが、すでにDREAMでフェザー級マッチに二度登場し、どちらも勝利を収めている所英男だ。本人も「KIDさんと闘いたい」と、ことあるごとにアピールし、実際にKID不在のDREAMフェザー級をおおいに盛り上げている。

そんな所英男の前に現われ、「KIDさんとはやらせねえ！」と噛みついてきたのがKIDの愛弟子の山本篤だ。現在27歳で、山梨学院時代の先輩にあたるKIDに憧れ、大学卒業後はKILLER BEE（現・KRAZY BEE）に所属。04年にパンクラスでプロデビューすると、その後はケージフォース、『HERO'S』、修斗とさまざまなリングで活躍。選手層の厚いフェザー級戦線で戸井田カツヤや水垣偉弥といった強豪選手を下し、これまで11勝5敗1分の戦績を残しているフェザー級のトップファイターなのである。

所英男としては同門の山本を下し、KID戦へ向けてさらなるアピールをしたいところだろうが、こっちの山本も"神の子の愛弟子"だけに超ヤバイって！

――山本選手は初登場となるわけですが、『kamipro』ってご存知でした？

篤 はい、知ってます。ただ、あんまり格闘技の雑誌って見ないんですよ。（最新号をパラパラめくり）今月は所選手と所ジョージさんが表紙なんですね（笑）。



8月7日に行なわれた対戦発表会見では会見に出席した笹原イベントプロデューサーが、まだ未定の話としながらも「所選手が勝ちを重ねて、KID選手のケガの回復が間に合えば、大晦日の対戦もありえる」と発言。しかし、山本は「俺が倒すんで、それはない」とキッパリ。

仲間の離脱？ それはしょうがないですよね。それぞれが自分で決めた道なんで

――今度の『DREAM・6』では、その所さんとの対戦が決まりましたね。

篤 はい。まだ試合まで一ヵ月ぐらいありますけど、すでに絶好調ッス。

――あ、そうなんですか。ちょっと早いような気もしますが（笑）、それだけ充実した練習ができてるってことですね？

篤 これまでにないぐらい練習をしてて、すべてにおいて最高の状態ですね。

――ボクはこのジムには初めて来たんですけど、メチャクチャいい環境ですよね。リングやウェート器具はもちろん、金網を使った練習もできるみたいですし。

篤 練習環境的には最高ッスね。

――そのうえ、あちこち出稽古にも行かれてるんですよね？

篤 はい。キックは渡辺キックボクシングジム、ボクシングは戸高（秀樹）さんのところに行かせてもらっていて。あとグラップリングは植松（直哉）さんとかとやってるんで、かなり充実してますね。

――ほぉ、それは凄い。ただ、ここ最近、KRAZY BEEでは引退やらフリー宣言やらで、かなり多くの選手が抜けちゃったじゃないですか。浅野兄弟（倫久、篤司）の突然の引退、小路伸亮選手もフリー宣言をしたと思ったらタイトルマッチを前に引退と激動続きで。おまけにKIDさんも長期欠場中で、練習メンバーもかなり変わったんじゃないですか？

篤 そうですねぇ。確かに練習仲間が減って寂しいっていうのはありますよ。ただ、出稽古以外でもウチのジムで朴（光哲）さんや、修斗のプロに上がった田村一聖とかとガンガンやってるし、スタンドはムエタイの先生のシリチャイ（・クレイジービー）に教わったりしてるんで練習環境的には問題ないですけど。

――でも、これだけ一気に仲間の選手がやめてしまったというのは少なからずショックもあったんじゃないですか？

篤 まあ、確かにショックでしたね。詳しくはよくわかんないですけど、みんな、格闘技だけじゃなく、仕事とか人生的なものがいろいろと重なったみたいで。そのタイミングで抜けちゃったって感じなんで、それぱっかりはしょうがないですよね。それぞれが自分で決めた道なんで。

――たまたま、いろんなものが重なってしまっただけだと。

篤 そうだと思います。まあ、いまは所戦へ向けて充実した練習もできてるし、気持

パンクラス、『HERO'S』、ケージフォースから修斗まで
山本篤全戦績

[04.2.6 パンクラス PANCRASE 2004 BRAVE TOUR]
東京・後楽園ホール
○ vs REIJI
（2R終了 判定3-0）

[04.5.2 パンクラス PANCRASE 2004 BRAVE TOUR]
東京・ゴールドジムサウス東京アネックス
○ vs 築城実
（2R 1分57秒 TKO）

[04.7.25 パンクラス PANCRASE 2004 BRAVE TOUR]
東京・後楽園ホール
○ vs 田上洋平
（2R終了 判定3-0）

[04.7.25 パンクラス PANCRASE 2004 BRAVE TOUR]
東京・後楽園ホール
○ vs 藤本直治
（5分2R終了 判定3-0）

[04.12.21 パンクラス PANCRASE 2004 BRAVE TOUR]
東京・後楽園ホール
× vs 志田幹
（2R 4分36秒 KO）

[05.3.12 D.O.G]
東京・ディファ有明
△ vs 戸井田カツヤ
（3R終了 判定0-0）

[05.7.10 パンクラス PANCRASE 2005 SPIRAL TOUR]
神奈川・横浜文化体育館
○ vs のぶゆき
（1R 3分14秒 フロントチョーク）

[05.9.7 HERO'S 2005]
東京・有明コロシアム
○ vs 戸井田カツヤ
（2R終了 判定3-0）

[05.11.5 HERO'S 2005 in SEOUL]
韓国・ソウルオリンピック競技場第1体育館
× vs キム・ジョンマン
（2R 4分25秒 TKO）

[06.4.9 パンクラス PANCRASE 2006 BLOW TOUR]
東京・ディファ有明
○ vs 村田卓実
（2R 1分37秒 チョークスリーパー ）

[06.6.6 パンクラス PANCRASE 2006 BLOW TOUR]
東京・後楽園ホール
× vs 前田吉朗
（2R 4分36秒 KO）

[06.10.25 パンクラス PANCRASE 2006 BLOW TOUR]
東京・後楽園ホール
○ vs 柳澤雅樹
（2R終了 判定3-0）

[06.11.25 CAGE FORCE 01]
東京・ディファ有明
○ vs 田澤聡
（2R終了 判定2-0）

[07.2.17 修斗 BACK TO OUR ROOTS]
神奈川・パシフィコ横浜
○ vs 水垣偉弥
（3R終了 判定3-0）

[07.5.18 修斗 BACK TO OUR ROOTS 03]
東京・後楽園ホール
× vs 岡嵜康悦
（3R終了 判定0-2）

[07.9.22 修斗 BACK TO OUR ROOTS 05]
東京・後楽園ホール
○ vs 徹肌ィ郎
（3R終了 判定3-0）

[08.1.26 修斗 BACK TO OUR ROOTS 07]
東京・後楽園ホール
× vs 上田将勝
（3R終了 判定0-3）

ちを切り替えてトレーニングをしていくだけなんで。

—会見では「DREAMは憧れのリング」という言い方をしてましたけど、ほかにはどんなイメージがあります？

篤　やっぱ、DREAMっていうと、世界のトップどころが揃っていて、なおかつ華があって……、凄くいい選手がたくさん出ているイメージですね。

—プロデビューはパンクラスのリングで、それから1年半後ぐらいに『HERO'S』に参戦してますよね。これなんかはKIDさんの力も大きかったのかなって思うんですけど。

篤　そうですね。確かにそのとおりかもしれませんね（笑）。

—『HERO'S』にはどういった印象を持ちました？

篤　『HERO'S』も強い選手が上がっていて華やかなイメージですかね？

—DREAMと一緒ですね（笑）。

篤　いや、DREAMはやっぱ、『HERO'S』とPRIDEすべてが全部が重なった感じじゃないですか。だから、その舞台に上がれるのは凄く嬉しいですね。

—で、今回出場するDREAMのフェザー級は、それこそ〝山本KID級〟と言われるぐらいで、KIDさんがいたからできた階級とも言えると思うんですよ。

篤　実際そうですよね？

—そうだと思います。その階級に自分も参戦するっていうことに関しては？

篤　やっぱ、ノリさんが休んでいるあいだは自分に任せてくれって感じですね。

—それは頼もしい！

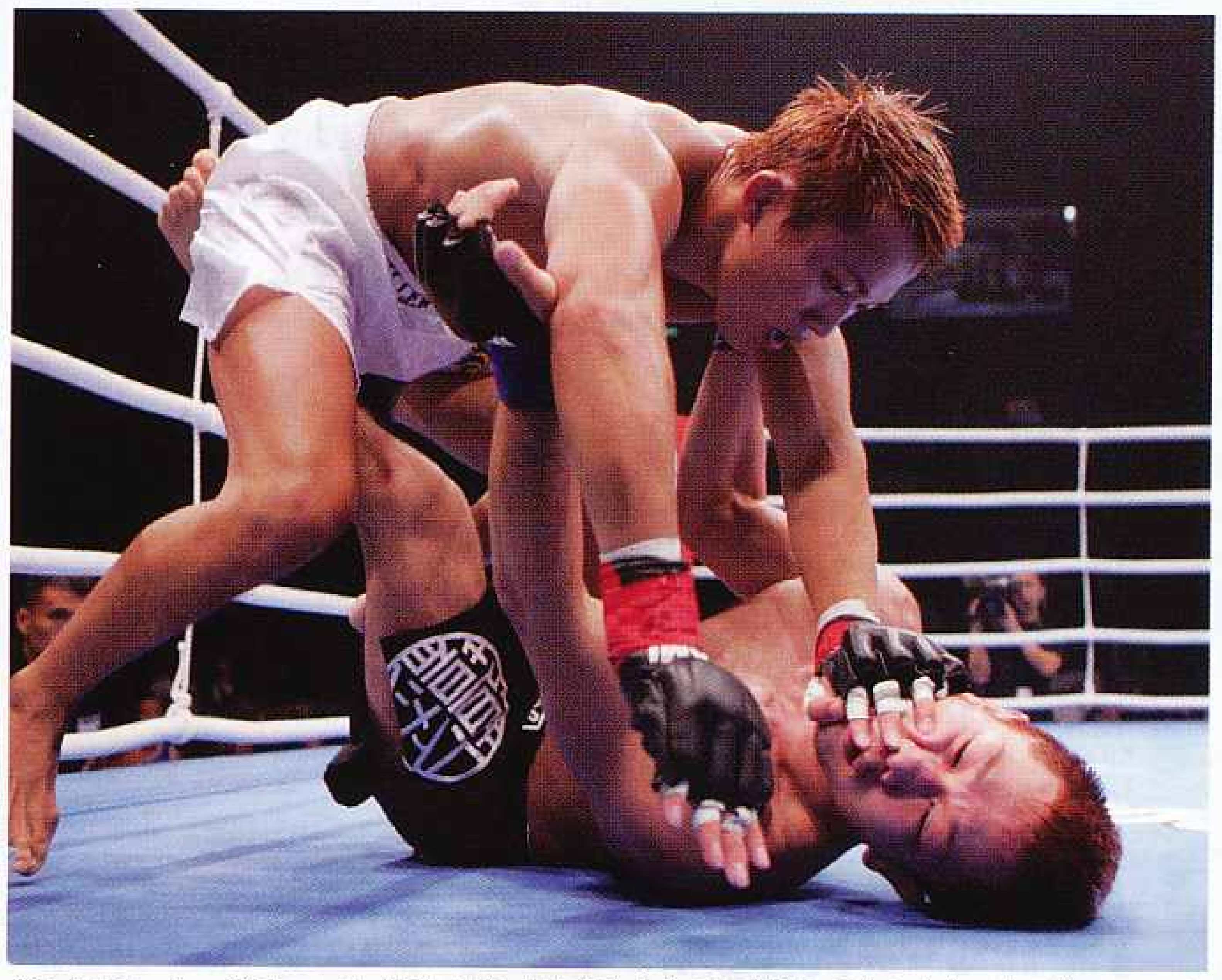
篤　まあでも、そんなことを言っても、DREAMは初めてなんで、目の前の敵の所選手に勝つことしかいまは考えられないですけど。だからいまは「DREAMでどうしたい」とか「フェザー級を盛り上げたい」とか抜きに、まずは「所選手に勝つ」ってことしか考えられなくて。

—対戦相手として所選手はどう評価されてます？

篤　動きがあって、極めるときにはキッチリ極めてるし、凄くいい選手ですよね。それに、いつかは闘うだろうなっていうのがあったんですよ。

—何か直感みたいなのがあったと？

篤　ビビっていうのがありましたね（笑）。自分はアマチュアのときZSTの試合を観に行ったら所選手が試合に出てて、体格も一緒ぐらいで、動きもあっておもしろい試合をしてたんで、「この人とやったらおもしろいだろうなぁ。いつか闘うことがあるかも」って感じてたんですよ。



Atsushi Yamamoto

パンクラス、ケージフォース、修斗など、さまざまな大会に出場してきた山本。ビッグイベントとしては05年に『HERO'S』に二度参戦。一発目の9月大会では慧舟會の実力者・戸井田カツヤに勝利。ここ最近は修斗を主戦場とし、徹肌ィ郎や水垣偉弥など強豪ファイターを下している。

—ズバリ言って自信はあるんですか？

篤　そうですね。自信というか、「やれる！」っていう、そんな感じですね。

—具体的にはどんな技で勝ちたいっていうのはあります？

篤　やっぱ、パンチですかね。極めとかもできるんですけど、殴って勝つっていうのが自分の理想なんで。

—そのへんは師匠譲りというか、まさにKRAZY BEEって感じですね（笑）。

篤　そうかもしれない（笑）。

—今回のDREAMで山本選手のことを初めて観るって人も多いと思うんですけど、試合スタイル的にはKIDさんと近い部分もありますよね？

篤　そうですね。やっぱ、ノリさんは自分が総合を始めたきっかけの人であり、目標の人でもあり、ファイトスタイルとかも凄い尊敬してるんで。でも……。

—「でも……」なんでしょうか？

篤　でも、あの人のマネはできない。マネしようと思うんですけど、やっぱできないッスね。それにノリさんはノリさんのスタイルがあるんで、自分は自分なりのスタイルを貫きたいっていうか。

—KIDさんに「これはマネできない」って感じる部分はどこですか？

篤　う〜ん、なんでしょうねぇ。やっぱ、一番は考え方かな。いや、考え方っていうか、すべてッスね（笑）。

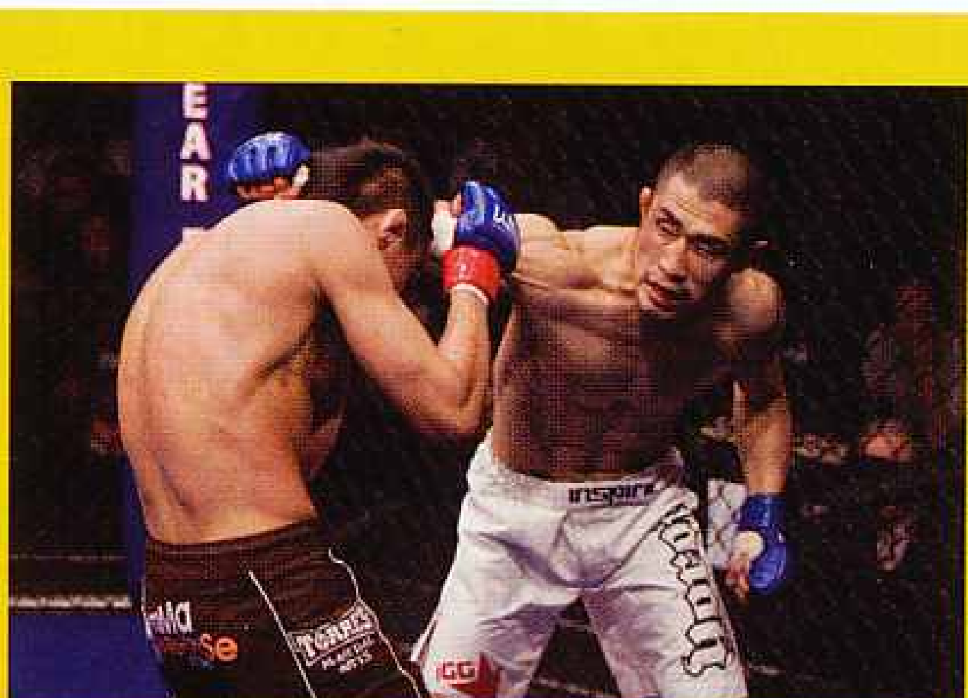
—すべてが違う（笑）。

篤　いや、ホントにそうッスよ。ファイターとして一つ挙げるとしたら、やっぱ気持ちッスかね。ハートはどのファイターとも全然違いますね。自分もノリさんと出会ってから、ハートはだいぶ強くなったと思うんですけど。

—KIDさんとは学年的には何年違う

“KID級”に新展開!

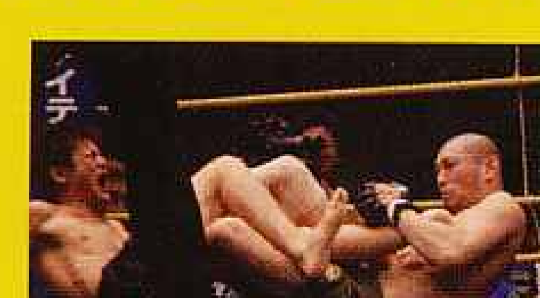
今成がDEEPバンタム級王者に! 前田はKIDと闘ったヤヒーラと激突!!



08.6.1『WEC34』でバンタム級王者のミゲール・トーレス相手に敗れはしたものの、名勝負を繰り広げた稲垣組の前田吉朗もKID戦が期待される日本人選手の一人だ。9.10『WEC36』ではKIDも闘ったハニ・ヤヒーラと対戦が決まっていた前田だったがハリケーンの影響で大会は11月に延期に。残念!



08.8.17『DEEP37』後楽園大会で新設されたバンタム級王座を梅村寛と争ったのが、DREAMフェザー級での活躍も期待される今成正和。得意の足関で秒殺し、CAGE RAGEフェザー級王座と合わせ2冠王となった今成は試合後はいつものように卑猥なポーズを作りながら、珍しく自らDREAM参戦をアピール。はたして、今成はKID戦までたどり着けるのか?



総合8連勝中の梅村相手に今成は開始からわずか29秒、得意のヒールホールドで勝利。足関十段ぶりを遺憾なく発揮して見せた。



んですか？

篤　ボクが1年生のときに、ノリさんは4年生で。

——じゃあ、上下関係的には一番厳しいんじゃないですか？

篤　厳しかったッスけど、ノリさんからはけっこう面倒見てもらったんですよ。

——じゃあ、それほど怖くはなかった？

篤　いや、怖かったですね（笑）。怖かったですけど、凄い面倒見もいい人で、いっぱいいる先輩の中でノリさんだけ浮いてたんですよ。

——ん？　KIDさんは浮いていた？

篤　浮いてたっていうか、練習が終わったら整列するんですよ。で、4年生が一番前で、1年生が一番うしろなんですけど、うしろからKIDさんの背中を見て、「カッコいいな」って思ってて。なんかほかの人とは違ってたというか。

——当時からオーラが出ていた、と。あれ、すでに背中にタトゥーが入ってたとかではないんですよね。

篤　いや、まだ入ってなかったです（笑）。

——そうですか（笑）。DREAMのフェザー級はまだ始まったばかりですけど、フェザー級の魅力を語ってもらえますか？

篤　やっぱ、スピーディでテクニックもあって、全部があるじゃないですか。うまく説明できないですけど（笑）。

所戦？　問題ないっしょ（KID）
はい、大丈夫だと思います！（篤）

やまもと・あつし■1980年10月2日、滋賀県出身。大学時代は名門・山梨学院大学レスリング部で活躍。卒業後は先輩でもある山本KIDを慕ってKRAZY BEE（当時KILLER BEE）に所属し、04年2月にパンクラスでプロデビュー。その後、パンクラスでは第10回ネオブラッドトーナメントを制覇。GCM主催のDOGやケージフォース、ここ最近は修斗のリングで活躍していた。169cm、62kg。

——総合格闘技の要素が全部詰まってるって感じですかね。

篤　そんな感じッスね。それに日本人が一番選手も多い階級じゃないですか。

——そうですよね。選手としては一番シンドイ階級なのかもしれませんけど。

篤　そうかもしれないですね。でも、フェザーやライト級って観てるほうもやっぱり自分と比べやすいじゃないですか？　それがいいんじゃないですか。

——自分の体格に近い選手が闘ってるので比べるってところはありますよね。

篤　だから、そういう人たちに「俺にはあんなことできねぇ」って思わせるような試合をしたいっていうのはありますね。

——あと、DREAMのフェザー級は"ロード・トゥ・KID"というテーマのようなものもありますけど、KIDさんと闘ってみたいという気持ちもあります？

篤　いや〜、自分はノリさんと闘うイメージはないですね（苦笑）。

——でも、将来的には師匠越えをはたしたいというのはあるんじゃないですか？

篤　う〜ん、どうなんですかねぇ（ここでタイミングよく？　KIDがリハビリのため姿を現わす）。

KID　ちぃ〜す！

——あ、お疲れさまです。山本選手、ちょっと気まずいですか（笑）。

篤　はい。しゃべりづらいッスね（苦笑）。

——KIDさん、所戦はいけますかね？

KID　（即座に）問題ないっしょ。

——問題ないですか。師匠の言葉を聞いていかがでしょう？

KID　全然、大丈夫だよな？

篤　はい、大丈夫だと思います！（笑）。そのあとのことは、とりあえず所戦をクリアしてから考えていこうと思います。

——自分が思うような試合をできたらお客さんを満足させる自信もあります？

篤　ありますね。自分の全部を出したらファンも絶対満足してくれると思うんで。

——期待してます。ベタではありますけど、DREAM初参戦ってことで、最後に山本選手の夢を聞かせてください！

篤　夢かぁ………なんだろ？

——ベルトがほしいとかはないですか？

篤　ベルトもほしいですけどね。いつも近くまでは行ってるんですけど、そこまではたどり着けないって感じなんで。夢はベルトかなぁ？　いや、まずはその前に所さんを倒さないと、そんな話も出てこないと思うし、夢ではないですけど、とりあえず、所さんをブッ倒します！

——夢をつかむために、まず目指すは所戦での勝利というわけですね。

篤　そんな感じッスね。アグレッシブにガンガン攻めまくってて、最後は自分が勝ちます！

【08年8月26日／都内・YSAにて収録】

"ロード・トゥ・KID"の近道!?
超スゲェ、KRAZY BEEでトレーニングしようぜ!!



今回取材を行なったのは山本篤が所属するKRAZY BEEも含んだYSA（ヤマモト・スポーツ・アカデミー）。ここでは柔術、打撃、レスリングといったプロフェッショナルトレーニングからフィットネスやチャイルドコースまでどなたでも学べますよ。

問／YSA　東京都大田区中馬込2-8-1日経エスプラナード1F
TEL.03-5742-2906　営業時間／10:00〜23:00



曙

そして『ハッスル』とはなんだ!?

曙、プロレスの難しさ悩む!?　これまでプロレスの舞台では、水を得た魚のようにイキイキと闘ってきた曙だが、今回話を聞いたところ、なんともエンタメプロレス、純プロレスなどなど、いろんなプロレスがある中で、なにやら悩みを抱えている様子。新たな悩みに直面した曙は、はたしてどのような打開策を見出そうとしているのか。本インタビューから探るべし!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫　試合写真／山口比佐夫、平工幸雄

ボノちゃんも、悩んでるんだよ



――曙さん、最近の調子はどうですか？

曙　……プロレスは難しいね（しみじみと）。

――あれ？『ハッスル』でのご活躍を見るかぎり、そんな感じはしませんけど。

曙　そんなことないですよ。最近はホントに悩んでるんですよ……。

――曙さんのプロレスってわかりやすくて万人受けするから、リング上の悩みとは無縁かと思ってました。

曙　まあ、自分の身体の特徴をね、頭の中に入れてやってるつもりではあるんですけど。

――なるほど。じゃあ、今日はその"悩み"に迫りたいと思いますが、曙さんがもともと持たれていたプロレスのイメージってどういうものですか？

曙　ま、簡単に言えば、自分は身体でかいから。もともと相撲出身だし、身体を活かすことは慣れてはいるんで、あとはもうどんな試合も一生懸命やる。結果を考えずに一生懸命やって、あとは観てるお客さんに判断してもらうってことですね。

――曙さんって、いままでいろんなリングに上がられてきたじゃないですか。リングによってというか、上がる団体のスタイルによって、「自分のスタイルを変えたほうがいいのかな」とか、そういうことは考えてこられたんですか？

曙　それはありますけどね。器用なプロレスラーじゃないから変えられないというのもありますけど。そんなに極端には変わらないですけど、やっぱりボノちゃんと曙では多少は変えないと。

――そうですか。そこは意識されてるんですね。

曙　それはもちろんありますよ。

――曙さんの中には、ボノちゃんになりきることへの戸惑いみたいものはありました？

曙　最初はありました。それはね、元・横綱ということで「こういうプロレスをやっていいのかな？」って。それはやっぱ自分のプライドもそうだし、周りの視線もそうだし。

エンタメプロレスか？　純プロか!?

産まれる直前まで悩んでました。そのとき天龍さんに相談したんです

――じゃあ、極端なことを言うと、タマゴからボノちゃんとして産まれたくなかった気持ちもあったんですかね？

曙　やっぱ産まれる直前まで悩んでましたよ。

――あ、産まれる直前まで！　それこそ「好きで生まれてきたんじゃない！」というか（笑）。

曙　そのとき天龍さんに相談したんですよ。天龍さんはもともと相撲取りでストロングスタイルをやってて、で、『ハッスル』に入った人ですよ。大先輩ですよ。その天龍さんに「どうもやりづらいんですけど」って話をして。

――それはずいぶんストレートな相談ですね（笑）。

曙　で、天龍さんが言ったことを素直に受けとめてね。「いままでの天龍のファンが50人いれば、その50人が『天龍は何をしてるんだ！』って言うかもしれないけど、『ハッスル』でまた新しい50人のファンを作れる」ってことを言われたんですよ。とにかくやるなら一生懸命やらなきゃというような内容だったんです。

――天龍さんのアドバイスが『ハッスル』で背中を押したんですね。

曙　それでタマゴから産まれる覚悟ができたんじゃないですかね（笑）。

――『ハッスル』で実際にボノちゃんをやってみて、吹っ切れた部分ってあります？

曙　でもね、これはどんな大会でもそうですけど、一番初めは団体のカラーとかはわからないんですよね。

――間近で見ただけじゃわからない、と？

曙　そうですね。そこは試合をしてみないとカラーはわからないし、いろんなことで緊張しましたね。

――ボノちゃんにはどんな反響がありました？

曙　反響って？

――周囲の声とか。

曙　もともと周りの声聞かないタイプなんで。新聞も読まないし。

――じゃあ、手応えは会場の反応だけですか。

曙　そうですね。それを一番大事にはしてます。もう何やったって文句言う人は文句言うし。

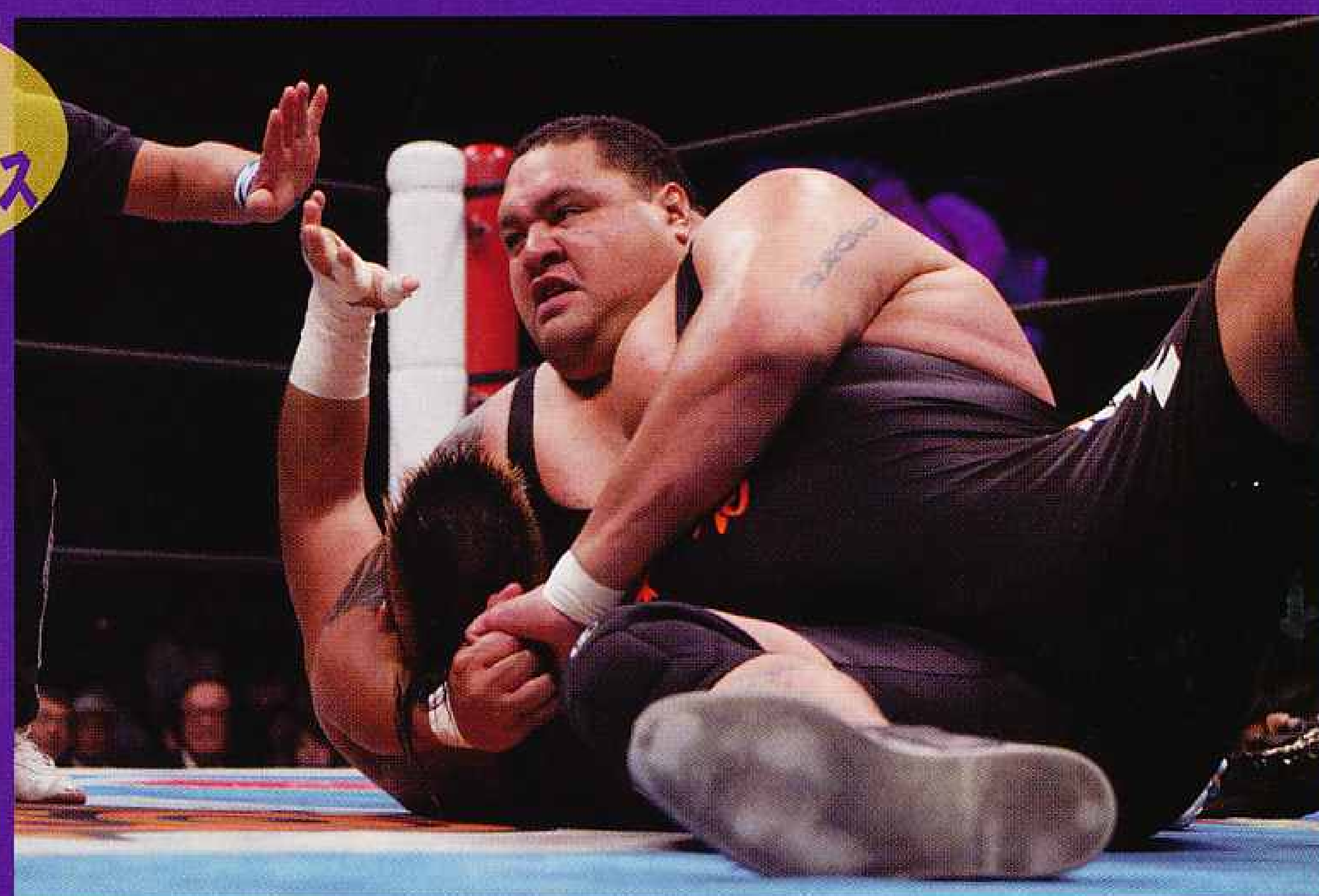
――まあ、そうですね（笑）。でも、いまのところボノちゃんには曙さんなりに手応えを感じているわけですよね。

曙　ま、多少ありますよね。
——多少ですか。手応えがあると言いきってしまうと、そこは慢心してしまうということですか。それとも本当にまだまだもの足りないんですか？
曙　まだまだ、もの足りないですね。
——それでは曙さんがイメージする、理想とするボノちゃんって、どんなレスラーなんですかね？
曙　うーん……。最初のボノちゃんは、何をやればいいのかはわかってたんですよ。お母さん（インリン様）がいて、お父さん（グレート・ムタ）を探して。そのうちケンカして、ボノちゃん部屋ができたから、ちょっと大変になってきましたね。
——それは、ボノちゃん部屋をどう見せていけばいいか苦労してるということですか？
曙　そうですね。なんか、ボノちゃん部屋できてから難しいですね。さっき言ったように周りの声を気にしないんですけど、自分がリングに上がっても、まだまだ満足感がないし、お客さんもそうなんじゃないの？「あれ？昔のボノちゃんと違うよ？」って。
——そういうムードは感じます？
曙　（同席した本ページ担当の松下ミワに向かって）見てみい、この子だって、もう目のキラキラさがなくなったよ。前はボノちゃん見る目がねぇ、もっとキラキラしてたよ。
松下　えぇ～!?　そんなことないですよ！（苦笑）。
曙　（聞かずに）もういまは全然キラキラしてないよ!!
——死んだ魚のような目というか（笑）。まあ、女子はそのへん正直ですからね。
曙　ホントにそうだよ。一番最初、ボノちゃんを取材に来たとき、キラキラしてたよ……（しみじみと）。
松下　す、すいません……。
——まあまあ（笑）、そこで冷静に自己評価できる感性は凄いですね。
曙　みんなそうなんじゃないの？
——いや、そこで勘違いしたままのプロレスラーって、凄く多いんですよね。そこはやっぱりお母さんのインリン様がいなくなったことが大きいんですかね？
曙　そうですね。お母さんがいたときは、ボノちゃんもやりやすかったと思うんですよね。だから、これからボノちゃん部屋をどう見せていくかですよね。
——そうですか。となるとですね、まずはその〝ボノちゃん部屋とは何か？〟を考えたほうがいいですね。
曙　そうだね。最初、一人ぼっちだから友だちを探しに行ったでしょ？
——はいはい。で、マー君（マーク・ハント）と友だちになったけど、すぐにどっかへ行ってしまった。
曙　……ホントにいなくなっちゃったね（笑）。
——ダッハッハッハッ。マー君は〝夢の国〟に引っ越したというか。で、よしえちゃんと出会い系サイトで知り合って。
曙　ふんふん。で、ボノちゃん部屋ができたんだよね。
——そこにあーちゃんが弟子入りして……。って、部屋開きが急すぎますよ！（笑）。確かに難しくなってる。
曙　うーん……。お友だちが増えたのはいいけど。



07年 G1 クライマックス

07年G1に堂々参戦した曙。勝敗こそ2勝2敗1分という結果に終わったものの、その試合内容は関係者・マスコミを驚かせるほど熱気あふれるものに！G1直後に収録した本誌No.115のインタビューでも、その満足ぶりがにじみ出ている。



試合内容にエンターテインメントを入れると、ボクは難しい

——たとえば、第三者のボクから観ると、いまのボノちゃん部屋からは何かしらの動機は見えづらいですね。ボノちゃんはハッスルGPで勝ち残ってますけど、それはボノちゃん部屋とはあまり関係ないですし。
曙　だから、部屋の目標をちゃんと作っていかないとダメですね。ボノちゃん部屋にしっかりとした路線を引かないといけないね。
——ちょっと話が変わるかもしれませんけど、曙さんがわかりやすさを求めるときに、エンターテインメントという手法はプロレスに合ってると思いますか？
曙　ボクはエンターテインメントはあってもいいと思うんだけど、試合はエンターテインメントじゃないほうがいいと思います。あまり試合自体がエンターテインメント路線に走ると、観るほうはともかく、やってるほうは難しいかなと思うんですよね。だから髙田総統の劇場とかがあるのはいいと思うんですよ。でも、試合をやるときはキチンとやらないと。
——たとえば歌合戦とか、かけ声マッチは？
曙　そういうものがあるんだったらあってもいいとは思う。エンターテインメントはエンターテインメントとしてやるべきだと思うんですけど、試合内容にエンターテインメントを入れるとボクは難しい。わかります？
——そんなに簡単なものじゃないってことですね。
曙　そう。この仕事をやってるかぎりは

どんな仕事でもベストをつくしてやらないといけないからこそ、難しいね。

――曙さんはこれまでの試合の中で、理想の試合ってどれですか？

曙　ボクですか。それは『ハッスル』の中で？

――いや、これまでの試合の中からでけっこうです。

曙　………（しばらく考える）。『ハッスル』の中ではまだですね。まだ完全に自分を出しきれていないです。

――インリン様との試合は毎回メチャクチャおもしろかったですけど、それでもまだまだ？

曙　まだまだですね。ボクから言わせると、偉そうな言い方をするわけじゃないんですけど、プロレスラーとしてここまで成長をしたというのはもの凄い嬉しいんですよ。ああやって芸能人を抱えて試合をしてケガをさせないとか、そこまで成長したのは嬉しいんですけど、内容的にはいままで一番よかったと思ってるのは、去年のG1（クライマックス）ですね。

――去年のG1!?

曙　試合内容はね。ジャイアント・バーナードとやった試合とか、永田（裕志）選手とやった試合とか。

――それが自分の中で完全燃焼できた、と。

曙　自分がプロレスラーとしてデビューしてまだ3年ぐらいだけど、それが内容的には一番完成してたんじゃないかと思うんですけど。

――それは意外なチョイスですね。お話を聞くと、曙さんはあまりエンターテインメント的なプロレスは合ってないんじゃないかって感じるんですけど。

曙　いや、そんなことはないですよ。

曙

ボノちゃん部屋



ボノちゃん、よしえちゃん、あーちゃんで形成される「ボノちゃん部屋」構想がある一方、ハッスルGPに単体で参戦しているボノちゃんは、お父さん（グレート・ムタ）との再開を夢見ている。この二つのストーリーは、今後どう転がっていくのか!?

with インリン様



G1とほぼ同時期に誕生したのがこのモンスター・ボノ。本人の不安な心境とは裏腹に、おしゃぶりをくわえてタマゴから産まれたボノちゃんに会場は惜しみない歓声を送った。その後のインリン様との親子劇場には、涙するファンも多数！

内容的にいままでで一番よかったと思ってるのは、去年のG1ですね

――ただ、エンタメとの融合は難しいということですね。

曙　そりゃ難しいですよ。ボク、『ハッスル』で2回歌ったんですけど、川田さんの凄さって、初めてわかりますよ！

――ハハハハ！

曙　で、1回目は後楽園ホールで歌ったから反応がめちゃくちゃよかったんですけど、2回目の横浜（文化体育館）で歌ったときにシーンとして……（残念そうに）。

――反応は厳しかったですか。

曙　「……なんや、これ!?」と思いましたもん。途中でやめようかと思いましたよ！

――なるほど（笑）。そこのハードルが高いですね。

曙　高いですよ〜。難しいね。

――だからこそ、『ハッスル』ではこれまで満足した試合というのがないんですね。

曙　ないですね。

――まさかプロレスラーになって歌で勝負しないといけないなんて思わないですよね。

曙　まさかね、産まれてチューチューしているとも思ってなかったですけど（笑）。

――そんなエンタメのハードルも高いとなると、ちょっとこの先のボノちゃんも不安ですね。

曙　いやあ、どうなるんですかね。ボノちゃん部屋もそうだけど、ボノちゃんはどうなるのよ？

――インリン様との物語で一区切りついたところがあるんで、今後が問われてきますよね。曙さん自身はどうしたいですか？

曙　やっぱりボノちゃんってせっかくできたものだから、成長させたいですね。それをちゃんとお客さんにわからせてあげたいですね。たとえば、ボノちゃんが東京で試合をして次に大阪に行ったとするでしょ。これ、気をつけないとストーリープロレスだから、ヘタしたら大阪のファンはボノちゃんのストーリーを知らなくて、「どうなってるの？」ってシーンとなっちゃうかもしれませんよ。東京には東京のストーリーがあってもいいと思うし、大阪には大阪の見せ方があってもいいと思うしね。

――そこは最初の話に出た、曙とボノちゃんを微妙に使い分けるということでもありますね。

曙　そうだね。そうやって頑張って、またキラキラした目で見てもらえるように頑張るよ。

松下　よ、よろしくお願いします（笑）。

【08年8月26日／都内・某ホテルにて収録】



『kamipro.com』好評連載
『週刊ワオ木真也』出張版

青木真也が書く UFC88

UFC88ですよ。『kamipro』編集部でネットPPV観戦。

まずはキム・ドンヒョン選手の試合から。ドンヒョン選手はDEEPで大活躍してUFCに乗り込んだ韓国初のUFCファイター。アオキの印象だと体力を武器に爆発的攻撃力で攻めるアグレッシブファイター♪

試合のほうはドンヒョン選手が序盤攻勢に出るのですが、相手選手（マット・ブラウン）がピンチをしのいでやり返す展開。ドンヒョン選手は良くも悪くも荒いし、粗い。もっと自慢の左ストレートを中心にアグレッシブなドンヒョン選手が見たかったなぁ。

試合はドンヒョン選手が判定勝ち。アジア人でもUFCでやっていけるというのを証明してくれて非常にうれしい。正直、力になりましたし、頑張る気になったな。ドンヒョン選手のガードからのヒジは、BJペン的なムーブでまたまた勉強になりましたよ。

相手のマット選手はさすがアメリカって感じ。基本の倒されても立つってのを忠実にやってるし、下からのBJ的なくぐりのムーブがこれまた成功。そして何よりもアメリカのファイターは首相撲のレベルが発達していますよ。

ケージで四つだと展開を作りにくいので首相撲はグッド。ネイサン・マーコート選手も首相撲がうまかったし、とにかくいまのMMAで首相撲は最先端の技術だと思うな。最先端志向な俺としては首相撲の先の展開をもう頭に入れてやってます。アメリカの選手はすべてをうまくこなす感じで、テスト対策がしっかりとできている印象を受けるな。俺も公文式で頑張りましょう！

アオキ的なメインはトキーニョ選手 vs ダンヘン選手。

トキーニョ選手は足関節がめちゃくちゃ強くてバックからの足関節というプロレス

撮影／ Josh Hedges（UFC）



○長南亮 vs
ホアン・"ジュカオン"・カルネイロ×
（3R終了判定2-1）

本誌携帯サイト『kamipro Hand』で毎日ブログを好評連載していた我らがピラニアがジュオカンを返り討ちに！ UFCのサバイバルレースを制した。長南は舞台を本誌ウェブサイト『kamipro.com』に移して、コラム連載を復活します。お楽しみに！



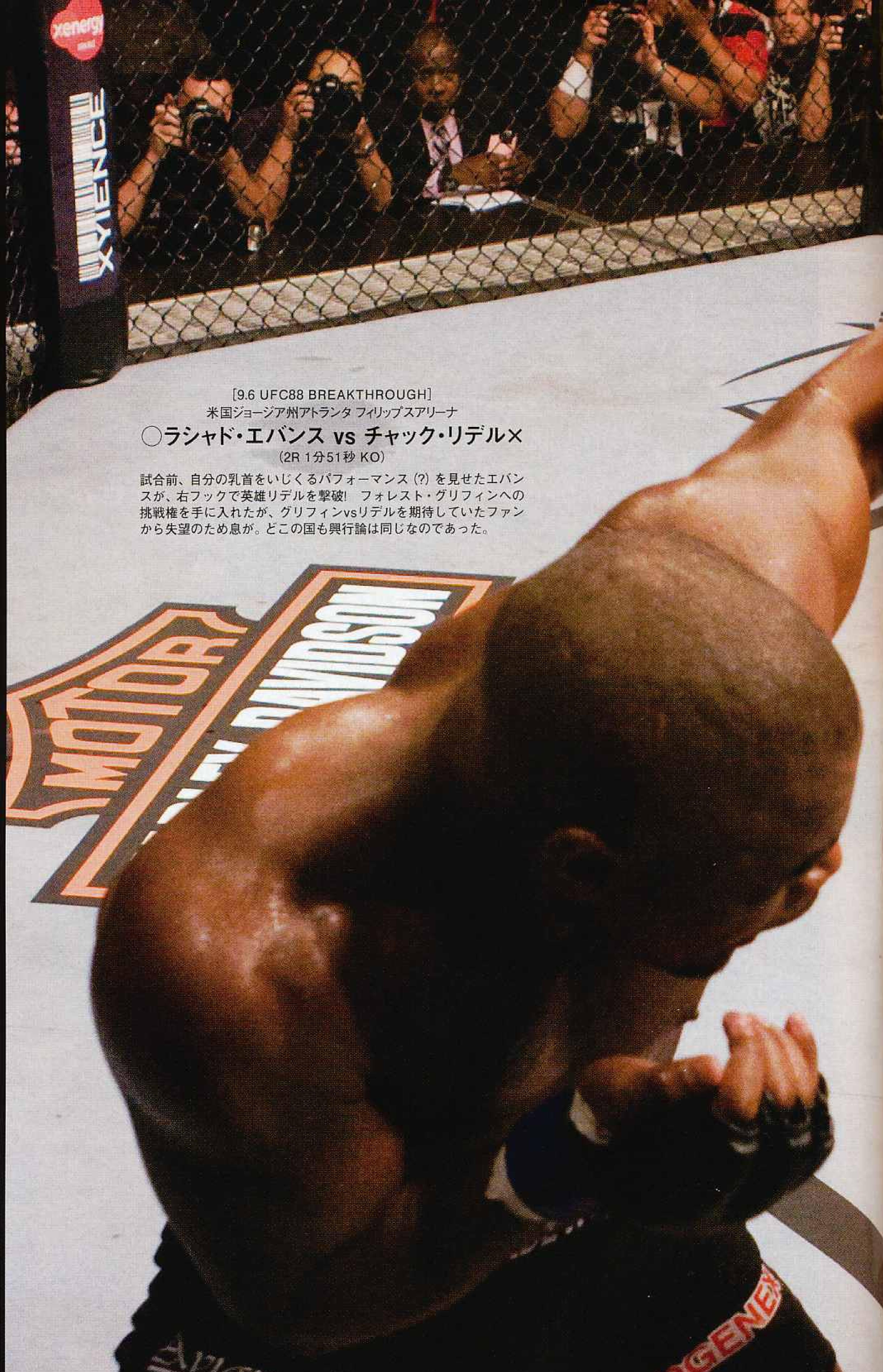
○キム・ドンヒョン vs
マット・ブラウン×
（3R終了判定2-1）

韓国人初のUFCファイターがこれにて2連勝！ 日本よりも韓国大会開催を狙っているという噂のUFCからすれば、ドンヒョンは貴重な人材。育成する気は満々だろう。なお、UFCはフィリピン大会も視野に入れているとか。日本はどうした。



○ダン・ヘンダーソン vs
ホジマー・"トキーニョ"・ハルハレス×
（3R終了判定3-0）

UFC2連敗中のダンヘンの前に立ち塞がったのは、BTTの秘密兵器!! ダンヘンはトキーニョの庭である寝技には一切付き合わず、主導権を終始握り、そのまま判定へ。ところで、トキーニョの不規則な蹴りは一見の価値ありですよ。



［9.6 UFC88 BREAKTHROUGH］
米国ジョージア州アトランタ フィリップスアリーナ
○ラシャド・エバンス vs チャック・リデル×
（2R 1分51秒 KO）

試合前、自分の乳首をいじくるパフォーマンス（?）を見せたエバンスが、右フックで英雄リデルを撃破！ フォレスト・グリフィンへの挑戦権を手に入れたが、グリフィンvsリデルを期待していたファンから失望のため息が。どこの国も興行論は同じなのであった。

的なムーブを繰り出すわで寝技が巨強！ そして身体が強い。ダンヘンはボクシング&レスリングの代表的な選手。

作戦としてはトキーニョ選手が下からの足関節をスイープに使って、上からの寝技での展開を作りたいところ。ダンヘン選手はスタンドでの闘いをキープして有利に進めたいところ。

実際、試合になるとダンヘン選手がワイドスタンスでテイクダウンに気をつけてスタンドで試合を有利に進める。そのまま試合は終了。トキーニョ選手は単発のタックルではなく連発で入りたかったな。ダンヘン選手はこれぞMMA!! アメリカ的な試合なのになぜか会場は……。非常に不思議だ！

メインとセミはアメリカ人のためのカードなのかな。まあ、UFCはアメリカのものだからあたりまえなんだろうけど、正直、よくわからなかったな。

やっぱり選手に感情移入できて、選手の背景が見えないと日本人は盛り上がれないんだろうな。UFCにPRIDEが理解できなかったのが凄くよく理解できました。試合だけを楽しむんではなくて、試合というドラマを楽しむ。これが日本的な格闘技ですよ。やっぱり俺は味噌汁で育った日本人!!

でも、リデルの相手の最後のパンチは大月晴明選手チックな動きで興奮したけどね。豪腕伝説！

そして日本人的なメインである長南選手の試合。

DEEPでぶっ飛ばしたジュカオン選手との再戦。ジュカオンはあのジョン・フィッチとも五分に試合する強豪！ それを敵地でぶっ飛ばす長南選手は凄まじい。そして何よりもかっこいい。筋が通っていますよ。

というわけで、いつかはUFCに出てみたいと思った青木真也、25歳！



“MMAの盟主”が世界を視野に大攻勢!

『UFC91』でクートゥアーvs レスナーのドリームマッチ実現!

UFC世界ヘビー級王者
元WWE世界ヘビー級王者

裁判闘争を続けていたUFCとランディ・クートゥアーが急転直下で和解!
そしてその復帰第一戦の相手はなんとあのブロック・レスナーに!
大きく動き始めたヘビー級戦線、UFCの勢い(とダナの高笑い)が止まらない!

文／鈴木佑　試合写真／Josh Hedges(UFC)

来たる11月15日（現地時間）、ラスベガスで開催される『UFC91』で〝鉄人〟ランディ・クートゥアーが約1年3ヵ月ぶりにUFCに電撃復帰。しかも自身の保持するUFC世界ヘビー級王座をかけ、挑戦者として『UFC87』のヒース・ヒーリング戦で驚異のポテンシャルを見せたブロック・レスナーを迎え撃つことが決定。〝オクタゴンの象徴〟と〝元WWE世界ヘビー級王者〟の激突とあれば、これはMMAファンならずとも見逃せない正真正銘のドリームマッチだ。

この一戦が決定するまでの経緯を振り返ってみよう。クートゥアーは昨年、「エメリヤーエンコ・ヒョードルとの対戦が実現しないこと」とギャラの低さを理由にまだ契約の残っていたUFCから離脱。その契約内容をめぐり裁判沙汰となっていた。さらにクートゥアーは『アフリクション』のCMに出演し、7月19日に開催された旗揚げ戦にも姿を現わすなど、ヒョードル戦実現に向けて動きを見せる。しかし、今年7月にテキサス州最高裁判所がクートゥアーの敗訴を言い渡したことから事態は一転。この判決がきっかけとなったのか、UFCとクートゥアーは恩讐を越えて和解へと至る。

ダナは「ランディはこのスポーツのレジェンド。最大の功労者がUFCに復活することをうれしく思う」と殊勝なコメントを残し、そして『アフリクション』に対しては「来年も存続していたら驚くね」と〝ジャイアン節〟を披露。さらにクートゥアーとのあいだで、2009年にヒョードルとの対戦実現に尽力することで合意していることも発表した。ダナにしてみれば、ヒョードルとともに『アフリクション』のアイコンになりかけていたクートゥアーを取り戻したかたちとなり、まさにしてやったりといったところか。そして一方のクートゥアーも「ヒョードル戦への最短ルートをチョイスした」と、今回の決断をベストのものと捉えている模様。クートゥアーは現在45歳、自身のキャリアの集大成としてオクタゴンに〝60億分の1の男〟との対戦実現を見据えていてもおかしくない。この和解は両者の思惑が一致したものといえよう。

ここ最近のUFCは中軽量級に比べ、ヘビー級戦線が手薄な感が否めなかった。さらに『アフリクション』がUFCファイターであったティム・シルビアやアンドレイ・アルロフスキーと契約したこともあり、手駒的に同団体の後塵を拝す格好となっていたのも事実。しかしここにきて、昨年10月にUFCと正式契約したレスナーが、その潜在能力を発揮して観客の支持を集め、一躍ヘビー級戦線のキーマンに躍り出た。さらにレスナーは昨年の『UFC74』に来場し、同じNCAA（全米大学体育協会）レスリング王者のキャリアを持つクートゥアーを祝福したという背景もあり、このドリームマッチ実現の裏づけとして充分なドラマ性もある。とはいえ、MMAでは3戦を消化しただけのレスナーは、言わばまだルーキーの域を出ないファイター。今回、クートゥアーへの挑戦を先取りされたかたちになるファブリシオ・ヴェウドゥムも、このタイトルマッチの実現に疑問を呈している。

しかし、そう言った声をはね返すだけのものをレスナーは持っている。その最たるものは抜群のネームバリュー。世界110ヵ国以上で放送されていたWWEのトップスターだったというキャリアは何よりも大きく、その認知度はレスナーの異名どおり〝世界標準〟。これが今回、ダナがレスナーを挑戦者に抜擢した決め手だろう。さらにレスナーなら、クートゥアーの老獪なケージテクニックも、その底知れぬラッシングパワーで正面突破してしまうのではないかという幻想すら抱かせる。

『アフリクション』もこの『UFC91』の1ヵ月前に同じラスベガスで大会を開催するが、このクートゥアーvsレスナーの実現は相当な牽制となっているはずだ。最大の収入源であるPPVの契約数も、今回は大幅に増加するとの見方も少なくない。その一方で、アメリカ経済を直撃したサブプライム問題の影響により、PPVの〝買い渋り〟が起こるのではないかとの意見があるのも事実。新興団体に対して巻き返しを図る〝MMAの盟主〟UFCが、このドリームマッチの実現によってアメリカ経済の現状を打破するかどうかも注目ポイントだ。

そもそもクートゥアーの相手は現在のヘビー級暫定王者であるアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラであるのが筋なのだが、ノゲイラはすでに12月27日のフランク・ミアとの王座防衛戦が決定していたため、今回クートゥアーvsレスナーが実現したという背景も押さえておきたい。そしてこの一戦の勝者は、ノゲイラvsミアの勝者と真の同ヘビー級王座をかけて来年にも激突する予定。ちなみにノゲイラvsミアは全米で大人気のUFCファイター育成番組『ジ・アルティメット・ファイター』の教官役同士の一戦であり、この一連のヘビー級タイトルをめぐる闘いは、マット界のみならず世間へ波及すること請け合いなのだ。

いまやMMAファンだけにとどまらぬカテゴリーの拡大を狙える勢力を持つUFC。ダナは「UFCはWWEを超える!」と高らかに断言したが、まさに今回のクートゥアーvsレスナーの一戦は、金網が新たなファン層を捕獲する大きな起爆剤となることは間違いないであろう。

WOWOW放送スケジュール

[HV]＝ハイビジョン放送

【UFC IS BACK! ～UFC名勝負選～】

9月22日（月）午後10:00［HV］
- UFC84 ヴァンダレイ・シウバ vs キース・ジャーディン
- UFC84 ティト・オーティズ vs LYOTO（リョウト）
- UFC84 BJ・ペン vs ショーン・シャーク

9月29日（月）午後10:00［HV］
- UFC86 クイントン・“ランペイジ”・ジャクソン vs フォレスト・グリフィン
- UFC87 ブロック・レスナー vs ヒース・ヒーリング
- UFC87 ジョルジュ・サンピエール vs ジョン・フィッチ

郷野聡寛のUFC第二戦も放送!
UFC ー究極格闘技ー UFC89 BISPING vs LEBEN
10月19日（日）深夜0:00／10月24日（金）深夜5:00

［お問い合わせ］WOWOW TEL.03-5414-8111
※放送内容の詳細はWOWOW公式サイトまで
http://www.wowow.co.jp/sports/ufc/

今月は1ページだけどプレゼントは凄いぞ!!

kamipro PRESENTS

応募要項

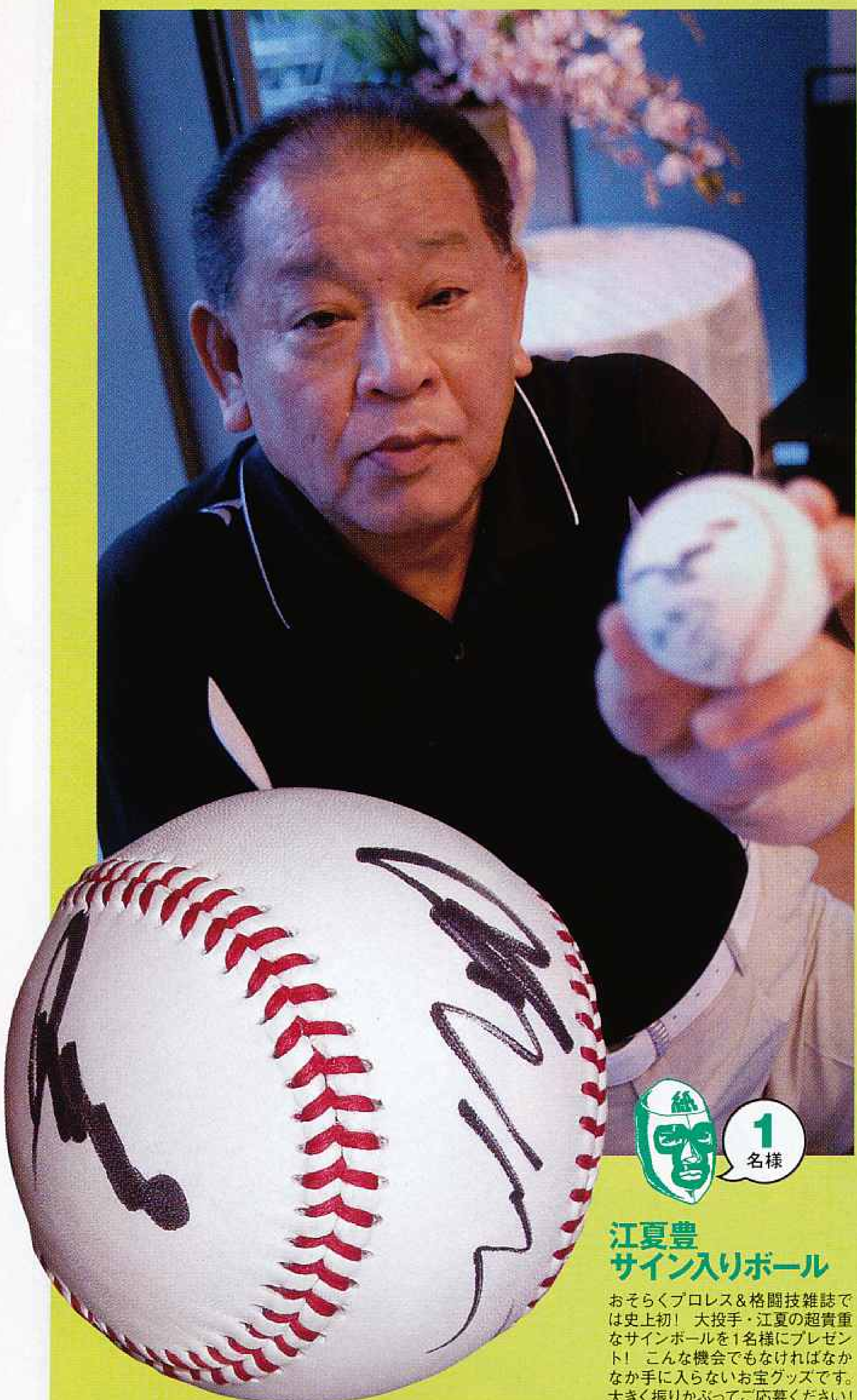
ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(商品は2008年10月25日以降発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦あなたが考えるヒールは誰ですか?⑧あなたが考えるベビーフェイスは誰ですか?

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス『kamipro』編集部「あなたとは違うんです」係まで

※締切は2008年10月15日(水)当日消印有効

PRESENT*01



1名様

江夏豊 サイン入りボール

おそらくプロレス&格闘技雑誌では史上初！ 大投手・江夏の超貴重なサインボールを1名様にプレゼント！ こんな機会でもなければなかなか手に入らないお宝グッズです。大きく振りかぶってご応募ください！

PRESENT*02



1名様

越中詩郎サイン入り サムライ・シローTシャツ

[ハッスル／ブラック／¥3,990(税込)]

かつてのライバル・髙田延彦の友人・髙田総統に噛みつきまくる越中詩郎のTシャツが発売！ カラーはホワイト／ブラックの二色ですが、今回はブラックのLサイズに、特別にサインを入れて1名様にプレゼント！

サイン入り

ハッスル■http://www.hustlehustle.com/

PRESENT*03



1名様

エルドラド×コアチョコ 2周年記念Tシャツ

[ハードコアチョコレート／ブラック／¥3,500]

エルドラド2周年記念Tシャツは大鷲透の顔がバックに巨大プリントされた逸品。サイズはL。9/29 El Dorado・新宿FACE大会(19:00開始)でGET!

El Dorado■http://sports.livedoor.com/battle/eldorado/

PRESENT*04



1名様

IGF×ART JUNKIEコラボTシャツ

[ゲノムブラック／¥4,000(税込)]

アゴの長いAJマスクが目印です！ IGFとアートジャンキーのコラボTシャツSサイズを1名にプレゼント！ バックプリントもあり。

ART JUNKIE■http://www.artjunkie.jp/

PRESENT*05



3名様

柔術魂 VOL.4

[晋遊舎／¥1,680(税込)]

デラヒーバやレオジーニョなどブラジリアン柔術のトップファイターのインタビューや技術論が満載。DVDには4時間もの映像を収録！

晋遊舎■http://www.shinyusha.co.jp/

kamipro127 応募券 キモい

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

こちらでも毎週プレゼント実施中!! http://kamipro.com/

kamipro 紙のプロレス
No.127
2008年10月4日 発行

発行人
浜村弘一
編集人
斉藤慎一
編集統括本部長
ジャン斉藤
編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
真下義之
大川義之
スズキィ
八木賢太郎（道場付き添いのため非番）
終身名誉バイザー
吉田 豪
助っ人
ジャイ子
能登“読者ペイジ”ジャクソン
編集次長（タイマー疑惑）
松林 貴
デザイン大将
出田さん（TwoThree）
デザイン司令長官
金井ヒサくん（TwoThree）
デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木みのる（以上、TwoThree）
トメさん
はなえちゃん（以上、さおとめの事務所）
カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
大甲邦喜
お勘定&衣料部
ニュー林様
少数派
入江もビビる!（TwoThree）
雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠
助っ人営業
上野宏樹
業務部
樽本“用紙銘柄変更”義之
編集庶務
原 正典
山内ユリコ
終身名誉編集庶務
高木由美子
編集チアガール
金川奈津子
宮沢美奈
編集チアマダム
廣橋久美子
発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）
印刷
図書印刷株式会社
協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport



NEXT ISSUE

9.23『DREAM.6』&9.28『戦極～第五陣～』速報します!

kamipro Special 2008 NOVEMBERは10月6日（月）発売予定!

特集主義・第3弾のテーマは……まだ内緒!

No.128は10月22日（水）発売予定!

※地域によっては多少発売が遅れるぞ。シャキーン!



取り扱いブランド：ATAMA / BADBOY / BRAZIL COMBAT / BRAZILIAN FIGHT WEAR / BRAZILIAN TOP TEAM / BULL TERRIER
CHUTEBOXE / WAND / CLINCH GEAR / DRAGAO / Evolution fight wear / GAMENESS / GRACIEBARRA / KEIKORACA / KF
KORAL / KRUGANS / MANTO / MMA GEAR / NAJA / NO GI / OTM / OUANO / 10th Planet / RAGS / PRIDE / Storm Strong
UNION / VENUM / Vitamins&Minerals / VULKAN / WAR / Warrior Wear / etc....

プロ格闘家になりたい、体力を付けたい、運動不足解消、シェイプアップ、楽しく格闘技を習いたい…
様々な目的の方が本場ブラジルの格闘技を学べる格闘技ジムが新オープン！

ブルテリア格闘技ジム

ブラジリアン柔術・総合格闘技・グラップリング
キックボクシング・その他

2008年10月オープン！

全くの初心者からプロを目指す方、若い方はもちろん子供や女性、ご年配の方まで格闘技の本場、ブラジルの最高技術を丁寧にやさしく指導を致します。

クラス種別：
ブラジリアン柔術一般/ブラジリアン柔術プロ/グラップリング一般/グラップリングプロ
総合格闘技一般/総合格闘技プロ/ブラジリアン柔術キッズ/フリー

お問い合わせはこちら **053-433-7971**

〒431-3114 静岡県浜松市東区積志町496-1-2F http://www.b-j-j.com/gym
営業時間：平日18時～23時、土曜日13時～20時 休館日：日曜、祝日

ka
No.127
2008年10月4

発行人
浜村弘一
編集人
斉藤慎一
編集統括本部長
ジャン斉藤
編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョ
松下ミワ
真下義之
大川義之
スズキィ
八木賢太郎
終身名誉バイザ
吉田 豪
助っ人
ジャイ子
能登"読者
編集次長(タイマ
松林 貴
デザイン大将
出田さん(Tw
デザイン司令長
金井ヒサくん
デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンち
野口ノグッチ
白木みのる
トメさん
はなえちゃん
カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
大甲邦喜
お勘定&衣料部
ニュー林様
少数派
入江もビビる
雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠
助っ人営業
上野宏樹
業務部
樽本"用紙
編集庶務
原 正典
山内ユリコ
終身名誉編集
高木由美子
編集チアガール
金川奈津子
宮沢美奈
編集チアマダム
廣橋久美子
発行所
株式会社エ
〒102-843
☎0570-06
印刷
図書印刷株
協力
BUSHIDO
FightSport

kamipro
2008 127
リニューアル第2弾のテーマはこれだ!
悪役はツライで!!



2008年10月4日
発行人/浜村弘一　編集人/斉藤慎一　発行・発売所/株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
印刷・製本/図書印刷株式会社 ©2008 ENTERBRAIN,INC. ©2008 DOUBLECROSS

enterbrain

特別定価:本体895円+税
雑誌 61956-54 Ⓗ2009.1
Printed in Japan 図書印刷

9784757744394
ISBN978-4-7577-4439-4
C9476 ¥895E
1929476008954



kamipro 2008 127

亀田興毅の胸の内・悪役はツライで!!

eb! enterbrain

kamipro 2008 127

リニューアル第2弾のテーマはこれだ!
悪役はツライで!!

2008年10月4日
発行人／浜村弘一　編集人／斉藤慎一　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
印刷・製本／図書印刷株式会社

eb! enterbrain



特別定価：本体895円＋税
雑誌 61956-54 Ⓗ2009.1
Printed in Japan 図書印刷